鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報
19

平成15年度

鹿児島大学埋蔵文化財調査室

2005年３月

C 地点南壁

D 地点 SD4 遺物出土状況
南上方から

D 地点 SD4 遺物出土状況
上部細片除去後　南西から

SD4 出土遺物

序

鹿児島大学埋蔵文化財調査室平成15年度の調査報告として,『鹿児島大学調査室年報Vol.19』を刊行いたします。平成15年度には郡元キャンパスで発掘調査２件，立会い調査24件，桜ヶ丘キャンパスでは，立会い調査１件が行われました。本年報には，それらの調査概要が掲載されています。

また，付編として平成５年度と平成７年度に実施した郡元団地K・L-5・6区（中央図書館増築地）の発掘調査報告も掲載しております。この地点は，古墳時代後半期の居住区で，住居跡と溝内に大量廃棄された土器群が発見されました。本書は古墳時代の研究に重要な，かつ良好な資料を提供できたものと思います。

キャンパス内では，年々，教育研究のための環境整備が進められ，それに先立って必要な埋蔵文化財の発掘調査が行われています。学内埋蔵文化財の調査事業の円滑な実施のため，また鹿児島大学の埋蔵文化財を大切にする姿勢を社会にアピールするため，関係の皆様方のご協力とご支援をお願い申し上げます。

平成17年３月

鹿児島大学埋蔵文化財調査室長　　新田　栄治

例　　言

1. 本年報は，鹿児島大学構内において，鹿児島大学埋蔵文化財調査室が2003（平成15）年度に行なった調査成果をまとめたものである。なお，1993・1995（平成5・7）年度に行った郡元団地K・L-5・6区（図書館増築地C・D・E地点）における発掘調査報告を付編として掲載した。

2. 本書に掲載している発掘調査及び立会調査は，鹿児島大学埋蔵文化財調査室が担当した。調査時における図面･写真の担当は以下の通りである。なお，付編の中央図書館D地点SD4遺物出土状況実測では，本田道輝氏（鹿児島大学法文学部）に多大なご協力をいただいた。
   2:　中村直子・新里貴之・青山奈緒・有村航平
   付編:　中村・古澤生・大西智和・峰山いずみ・本田道輝

3. 本書の作成にあたっては，埋蔵文化財調査室が行なった。担当者は以下の通りである。

   遺物実測　青山・有村
   写真　中村・新里
   製図　1：新里，2：新里，付編：中村・新里・青山・有村
   作表　1：新里・中村，付編：有村・青山・中村
   執筆　1：中村，2：新里，付編：中村（土器分類については，青山の観察・所見によるところが大きい）
   概要訳文 中村
   編集 中村

4.　郡元団地K・L-5・6区（中央図書館増築地C・D・E地点）の出土遺物について，土器について本田道輝氏（鹿児島大学法文学部），陶磁器は渡辺芳郎氏（鹿児島大学法文学部），石器は横手浩二郎氏（鹿児島県立埋蔵文化財センター），石材については大塚裕之氏（鹿児島大学理学部）のご教授をいただいた。

5.　本書で報告している遺物の保管は，埋蔵文化財調査室の管理のもと，学内の各部局が収蔵している。また，図面・写真などの資料は埋蔵文化財調査室に保管している。

凡　　例

1　昭和60年6月1日の埋蔵文化財調査室の設置を機として，鹿児島大学構内におけるこれからの埋蔵文化財調査室に便であるように，鹿児島大学構内座標を郡元団地と桜ヶ丘団地（旧宇宿団地）とに設定した。その設置基準は，以下の通りである。

(1) 郡元団地では，国土座標第2座標系(X=-158,200, Y=-42,400)を基点として一辺50mの方形地区割りを行なった(Fig.3参照)。

(2) 桜ヶ丘団地では，国土座標第2座標系(X=-161,600, Y=-44,400)を基点として一辺50mの方形地区割りを行なった（Fig.4参照)。

2 本年報において報告を行なった地点については，Fig.3～4にその位置を記してある。

3 本年報におけるレベル高は，すべて海抜を表し，方位は真北方向を示す。

4 本書で使用した遺構の表示記号は，以下の通りである。
　SK：土坑状遺構　SD：溝状遺構　P：ピット

5 土層の色調は『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）を使用した。

6 遺物に関しては観察表を作成した。その標記，表現については以下の通りである。

調整：調整名称の前の( )は，調整方向を表す。(—)；横位方向，(｜)；縦位，(＼)；左上がりの斜位，(／)；右上がりの斜位，(?)；方向不明，とした。→は，調整の新旧関係を表す。

色調：『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修）を使用し，この色調に当てはまらないものについては，「～に類似」と表記した。

胎土：粒子の大きさで，礫(2mm～)・粗砂粒(1～2mm)・砂粒(0.2～1mm)・細砂粒(0.2mm以下)に分けた。また，砂粒の種類については，特定できないものは，その色調で表記した。胎土中の砂粒の多さについては，便宜的に1～9の9段階に分けた。9：20%以上，8：15～20%，7：15%前後，6：10～15%，5：10%前後，4：5～10%未満，3：5%前後，2：1～5%未満1：1%以下，とした。

7 遺物実測図中，⟷はナデ方向を示し，一…一はスス付着の境界ラインを示す。←--はススの範囲を示す。

8 本文中の遺物番号は，挿図，図版，遺物観察表と一致している。

本　文　目　次

第１章　平成15年度の調査概要　1

第２章　平成15年度の立会調査　6

鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会規則　11
鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会規則　13
鹿児島大学埋蔵文化財調査室規則　13

付編　郡元団地K・L－5・6区（中央図書館C・D・E地点）における発掘調査報告-遺構と遺構出土遺物の報告-　15
1　調査の概要　15
1.1　調査に至る経過　15
1.2　調査の期間と体制　15
1.3　調査の経過　15
1）２次調査C地点　15
2）３次調査D・E地点　15
2　C地点　16
2.1　層位　16
2.2　Ⅴ層上面遺構　18
1）SK3　19
2）SK4　19
2.3　Ⅵ層上面遺構　20
1）SK5　20
2）SK6　22
3）SK7　24
4）SK8　25
5）SK9　25
6）SD4　26
3　D地点　30
3.1　層位　30
3.2　Ⅱ２層上面遺構　31
1）SK3　31
2）SD1　32
3）SD2　33
3.3　Ⅲ１層上面遺構　34
1）SK1　34
2）SK2　35
3）SK4　35
4）SK5　35
3.4　Ⅴ・Ⅵ層上面遺構　36
1）SD3　36
2）SD4　40
3）ピット　93
4　E地点　94
4.1　層位　94
4.2　2b層上面遺構　95
1)SD1　95
2)畝状遺構　101
4.3　3層上面遺構　102
1）SK1　102
2）SK2　102
3）SK3　103
4）SK10　103
5）SK11　103
6）SK12　103
7）SK13　103
8）SK16　103
9）SK17　103
10）SD2　104
11）SD3　105
12）畝状遺構　106
4.4　4層上面遺構　107
1）SK4　107
2）SK5　108
3）SK7　108
4）SK8　108
5）SK9　108
6）ピット群　109
7）足跡状遺構　110
4.5　5層上面検出遺構　110
1）ピット群　110
5　まとめ　113
5.1　遺構について　113
5.2　古墳時代の遺物について　114

挿 図 目 次

Fig.1 鹿児島市の位置 1
Fig.2 鹿児島大学構内遺跡の位置 3
Fig.3 郡元団地構内図 S=1/4000 4
Fig.4 桜ヶ丘団地構内図 S=1/4000 5
Fig.5 2003-B土層柱状図 6
Fig.6 2003-C土層柱状図 6
Fig.7 2003-E土層柱状図 7
Fig.8 2003-F土層柱状図 7
Fig.9 2003-J土層柱状図 7
Fig.10 2003-M土層柱状図 7
Fig.11 2003-O土層柱状図 8
Fig.12 2003-P土層柱状図 8
Fig.13 2003-Q土層柱状図 9
Fig.14 2003-R土層柱状図 9
Fig.15 2003-U土層柱状図 9
Fig.16 2003-V土層柱状図 10
Fig.17 2003-X土層柱状図 10
Fig.18 2003-Y土層柱状図 10
Fig.19 各地点の位置 16
Fig.20 C地点層位断面図 17
Fig.21 C地点Ⅴ層上面遺構検出状況 18
Fig.22 C地点SK3 19
Fig.23 C地点SK4 19
Fig.24 C地点Ⅵ層上面遺構検出状況 20
Fig.25 C地点SK5 21
Fig.26 C地点SK6 23
Fig.27 C地点SK7 24
Fig.28 C地点SK8 25
Fig.29 C地点SK9 25
Fig.30 C地点SD4 26
Fig.31 C地点SK5・SK6・SD4出土遺物 27
Fig.32 D地点層位断面図 30
Fig.33 D地点Ⅱ2層上面遺構検出状況 31
Fig.34 D地点SK3 32
Fig.35 D地点SD1 32
Fig.36 D地点SD2 33
Fig.37 D地点SD2出土遺物 33
Fig.38 D地点Ⅲ1層上面遺構検出状況 34
Fig.39 D地点SK1 34
Fig.40 D地点SK2 35
Fig.41 D地点SK4・5 35
Fig.42 D地点Ⅴ・Ⅵ層上面遺構検出状況 36
Fig.43 D地点SD3 36
Fig.44 D地点SD3出土遺物 37
Fig.45 D地点SD4 41
Fig.46 D地点SD4遺物出土状況(1) 42
Fig.47 D地点SD4遺物出土状況(2) 43
Fig.48 D地点SD4土器接合状況 44
Fig.49 D地点SD4出土遺物(1) 弥生土器 47
Fig.50 D地点SD4出土遺物(2) 古墳時代の甕 48
Fig.51 D地点SD4出土遺物(3) 古墳時代の甕 50
Fig.52 D地点SD4出土遺物(4) 古墳時代の甕 53
Fig.53 D地点SD4出土遺物(5) 古墳時代の甕 55
Fig.54 D地点SD4出土遺物(6) 古墳時代の甕 58
Fig.55 D地点SD4出土遺物(7) 古墳時代の甕 62
Fig.56 D地点SD4出土遺物(8) 古墳時代の鉢 65
Fig.57 D地点SD4出土遺物(9) 古墳時代の壺 69
Fig.58 D地点SD4出土遺物(10) 古墳時代の壺 71
Fig.59 D地点SD4出土遺物(11) 古墳時代の壺 73
Fig.60 D地点SD4出土遺物(12) 古墳時代の壺 75
Fig.61 D地点SD4出土遺物(13) 古墳時代の壺 77
Fig.62 D地点SD4出土遺物(14) 古墳時代の壺 79
Fig.63 D地点SD4出土遺物(15) 古墳時代の壺 81
Fig.64 D地点SD4出土遺物(16) 古墳時代の壺 84
Fig.65 D地点SD4出土遺物(17) 古墳時代の高杯 87
Fig.66 D地点SD4出土遺物(18) 須恵器と石器 91
Fig.67 D地点ピット 93
Fig.68 E地点層位断面図 94
Fig.69 E地点2b層上面検出遺構 95
Fig.70 E地点SD1 96
Fig.71 E地点SD1出土遺物 97
Fig.72 E地点3層上面遺構検出状況 102
Fig.73 E地点SK1 102

Fig.74　E地点SK2　102
Fig.75　E地点SK3　103
Fig.76　E地点SK10　103
Fig.77　E地点SK11　103
Fig.78　E地点SK12　103
Fig.79　E地点SK13　103
Fig.80　E地点SK16・SK17　103
Fig.81　E地点SD2　104
Fig.82　E地点SD3　105
Fig.83　E地点SD2・3出土遺物　106
Fig.84　E地点4層上面遺構検出状況　107
Fig.85　E地点SK4　107
Fig.86　E地点SK4出土遺物　107
Fig.87　E地点SK5　108
Fig.88　E地点SK7　108
Fig.89　E地点SK8　108
Fig.90　E地点SK9　108
Fig.91　E地点5層上面遺構検出状況　110
Fig.92　E地点P215出土遺物　112
Fig.93　古墳時代遺構の配置　113
Fig.94　鹿児島大学構内遺跡郡元団地の古墳時代の遺構配置状況　114
Fig.95　D地点SD4出土の主な土器　116
Fig.96　D地点SD4出土壺のサイズ　116
Fig.97　甕と壺と鉢に付着したススの位置　116

表　目　次

Tab.1　平成15年度の調査一覧　2
Tab.2　調査期間と体制　15
Tab.3　C地点SK5・SK6・SD4出土遺物観察表(1)　29
Tab.4　C地点SK5・SK6・SD4出土遺物観察表(2)　29
Tab.5　D地点SD2出土遺物観察表　33
Tab.6　D地点SD3出土遺物観察表　39
Tab.7　D地点SD3・SD4種類別遺物出土数　45
Tab.8　D地点SD4出土遺物観察表(1)　弥生土器　47
Tab.9　D地点SD4出土遺物観察表(2)　古墳時代の甕　52
Tab.10　D地点SD4出土遺物観察表(3)　古墳時代の甕　57
Tab.11　D地点SD4出土遺物観察表(4)　古墳時代の甕　61
Tab.12　D地点SD4出土遺物観察表(5)　古墳時代の甕　64
Tab.13　D地点SD4出土遺物観察表(6)　古墳時代の鉢　67
Tab.14　D地点SD4出土遺物観察表(7)　古墳時代の壺　70
Tab.15　D地点SD4出土遺物観察表(8)　古墳時代の壺　72
Tab.16　D地点SD4出土遺物観察表(9)　古墳時代の壺　76
Tab.17　D地点SD4出土遺物観察表(9)　古墳時代の壺　83
Tab.18　D地点SD4出土遺物観察表(10)　古墳時代の壺　86
Tab.19　D地点SD4出土遺物観察表(11)　古墳時代の高杯　90
Tab.20　D地点SD4出土遺物観察表(12)　石器　91
Tab.21　D地点ピット一覧表　93
Tab.22　E地点SD1出土遺物観察表(1)　100
Tab.23　E地点SD1出土遺物観察表(2)　101
Tab.24　E地点SD2・3出土遺物観察表　106
Tab.25　E地点SK4出土遺物観察表　108
Tab.26　E地点4b層上面検出ピット一覧　109
Tab.27　E地点5層上面検出ピット一覧　111
Tab.28　E地点P215出土遺物観察表　112

写 真 目 次

PL.1 C地点南壁層位 18
PL.2 C地点Ⅴ層上面検出状況 西側（南東から） 18
PL.3 C地点Ⅴ層上面検出状況 東側（南から） 18
PL.4 C地点SK3 19
PL.5 C地点SK4 埋土断面 19
PL.6 C地点SK3（上）とSK4（下）完掘 19
PL.7 C地点SK5（1） 21
PL.8 C地点SK 5（2） 完掘（南から） 22
PL.9 C地点SK6（1） 22
PL.10 C地点SK6(2) 24
PL.11 C地点SK7 24
PL.12 C地点SK8 25
PL.13 C地点SK9 26
PL.14 C地点SD4 26
PL.15 C地点SK5・SK6・SD4出土遺物 28
PL.16 作業の様子（西から） 31
PL.17 D地点Ⅱ2層検出状況（南西から） 31
PL.18 D地点SK3 32
PL.19 D地点SD1 32
PL.20 D地点SD2 33
PL.21 D地点SD2出土遺物 33
PL.22 D地点SK1 34
PL.23 D地点SK2完掘状況（西から） 35
PL.24 D地点SK4・5 35
PL.25 D地点SD3 37
PL.26 D地点SD3出土遺物 38
PL.27 D地点SD4(1) 40
PL.28 D地点SD4(2) 43
PL.29 D地点SD4出土遺物(1) 弥生土器 47
PL.30 D地点SD4出土遺物(2) 古墳時代の甕 49
PL.31 D地点SD4出土遺物(3) 古墳時代の甕 51
PL.32 D地点SD4出土遺物(4) 古墳時代の甕 54
PL.33 D地点SD4出土遺物(5) 古墳時代の甕 56
PL.34 D地点SD4出土遺物(6) 古墳時代の甕 59
PL.35 D地点SD4出土遺物(7) 古墳時代の甕 60
PL.36 D地点SD4出土遺物(8) 古墳時代の甕 63
PL.37 D地点SD4出土遺物(9) 古墳時代の鉢 66
PL.38 D地点SD4出土遺物(10)古墳時代の鉢 67
PL.39 D地点SD4出土遺物(11)古墳時代の壺 70
PL.40 D地点SD4出土遺物（12)古墳時代の壺 72
PL.41 D地点 SD4出土遺物(13) 古墳時代の壺 74
PL.42 D地点SD4出土遺物(14) 古墳時代の壺 76
PL.43 D地点SD4出土遺物(15) 古墳時代の壺 78
PL.44 D地点SD4出土遺物(16) 古墳時代の壺 80
PL.45 D地点SD4出土遺物(17) 古墳時代の壺 82
PL.46 D地点SD4出土遺物(18) 古墳時代の壺 85
PL.47 D地点SD4出土遺物(19) 古墳時代の高杯 88
PL.48 D地点SD4出土遺物(20) 古墳時代の高杯 89
PL.49 D地点D4出土遺物(21) 須恵器大甕 92
PL.50 D地点SD4出土遺物（22）須恵器と石器 93
PL.51 D地点ピット 93
PL.52 E地点SD1出土遺物（1） 98
PL.53 E地点SD1出土遺物（2） 99
PL.54 E地点SK1（北から） 102
PL.55 E地点SD2・3 105
PL.56 E地点SD2・3出土遺物 106
PL.57 E地点SK4 107
PL.58 E地点SK4出土遺物 107
PL.59 E地点4層上面検出状況 108
PL.60 E地点ピット完掘 109
PL.61 E地点4層上面検出ピット完掘状況（東から） 109
PL.62 E地点4a層中検出の足跡 110
PL.63 E地点5層上面検出ピット 112
PL.64 E地点P215出土遺物 112

報告書抄録

ふりがな	かごしまだいがくまいぞうぶんかざいちょうさしつねんぽうじゅうく
書名	鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報19
編著者名	中村直子・新里貴之
編集機関	鹿児島大学埋蔵文化財調査室
所在地	〒890-8580　鹿児島市郡元一丁目21番24号 Tel 099-285-7270　Fax 099-285-7271
発行年月日	2005年3月

所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積(㎡)	調査起因
		市町村	遺跡番号					
鹿児島大学構内遺跡郡元団地K・L-5・6区	鹿児島市郡元一丁目21番35号	4620	1-23-0	31°34′11″	130°32′48″	平成5年5月13日～9月10日，平成7年5月30日～8月30日	530㎡	校舎建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鹿児島大学構内遺跡郡元団地K・L-5・6区		近代	溝状遺構穂積み跡	陶磁器，青磁，笹貫式土器，弥生中期土器，砥石，打製石斧，敲石，軽石製品，石核，須恵器	
		近世	畝跡溝状遺構		
		中世	溝状遺構		
		古墳時代	住居跡，溝状遺構，ピット群		
		弥生時代			

第1章　平成15年度の調査概要

1　鹿児島大学構内遺跡の立地と環境

鹿児島大学構内遺跡が所在する鹿児島市は，薩摩半島の北東部に位置する。東側には鹿児島湾（錦江湾）が広がり，他の三方は姶良カルデラに由来するシラス台地に囲まれている。本書に掲載する調査地点は，鹿児島大学構内の郡元団地と桜ヶ丘団地で，それぞれを，「鹿児島大学構内遺跡郡元団地」，「同，桜ヶ丘団地」と呼んでいる。

Fig.1　鹿児島市の位置

郡元団地は沖積平野の南端部付近に位置し，標高約7mである。従来から周知の遺跡として知られており，校舎などの建設に伴う事前の発掘調査も多く行われている。昭和59年までは字名などが遺跡の名称として用いられており，県立医大遺跡，付属中学校敷地内遺跡，釘田遺跡，水町遺跡も郡元団地内の遺跡である[1]。郡元団地では古墳時代の住居跡群が多く発見され，現在，3つの集住地域が把握できている（Fig.94）。一つは郡元キャンパスのほぼ中央部，もう一つは南西部で，いずれも微高地上に形成されている。中央に位置する住居群のすぐ北側には河川流路が確認されている。河川の中からは弥生時代から古墳時代にかけての木製品や木杭が出土している。平成9年度の工学部における調査では，弥生時代の水田跡が検出されている。古墳時代の水田跡は現在のところ，構内ではまだ発見されていないが，古墳時代の包含層中には多量のイネのプラント・オパールが含まれており[2]，稲作が継続的に行われていたことがわかる。

桜ヶ丘団地は郡元団地から南に約2.5kmの亀ヶ原台地上に位置し，標高約70mを測る。昭和60年に埋蔵文化財調査室が設置されてからは，鹿児島大学構内遺跡宇宿団地と呼称していたが，キャンパス名の変更に伴い，桜ヶ丘団地となった。近隣の台地上には，旧石器時代から縄文時代早期にかけての遺跡が点在しており，桜ヶ丘団地でも同様の時期の遺物が出土している。また，縄文時代早期，弥生時代前期・終末期の住居跡も確認されている。

2　調査の概要

平成15(2003)年度は，発掘調査を郡元団地で2件，立会調査を郡元団地で24件，桜ヶ丘団地で1件実施した（Tab.1）。

2.1　2002-2　郡元団地H-12・13区(VBL[ベンチャー・ビジネス・　ラボラトリー]棟建設地)

郡元団地西側に位置するVBL棟建設工事に伴い，平成15年3月3日～8月29日まで発掘調査を実施した。周辺の過去の調査によって河川跡が確認されていたが，この地点も弥生時代から近代にかけての河川跡であると判明した。

中近世と考えられる第2層からは，検出幅の狭い河川跡（約3m程度）や，畑跡が確認された。4層以下には，切り合い関係から見て，数回の濁流を伴う河川跡が確認されたが，これらは5m以上の幅がある。最下位の泥炭層に突き刺さる形で，数条の木杭列が確認された。そのうちの1本の放射性炭素年代測定分析の結果，1860±50年BPとの年代が得られた。木杭列は泥炭層に刺さっている部分近くまでは残存しており，その配置と傾きから，合掌型堰である可能性がある。河川を利用した灌漑施設を設けていたと思われる。また，北側の川岸には古墳時代前期に位置づけられる東原式の甕を破砕し，埋めた遺構も確認された。河川に伴う祭祀行為である可能性が高い。遺物は，縄文時代前期末－中期初頭の深浦

Tab.1　平成15年度の調査一覧

調査コード	調査の種類	調査	地区	工事名称	調査者	プライマリーな層の有無	期間	備考
2002-2	発掘調査	郡元団地	H-12·13	VBL(ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー)棟建設	新里・青山・中村・有村	●	2003年3月3日-8月29日	
2003-1	発掘調査	郡元団地	R-9·10	鹿児島大学教育学部附属中学校体育館改修工事	中村・有村	●	2003年6月13日-7月22日	
2003-A	立会調査	郡元団地	J-4	鹿児島大学(理)校舎改修その他工事(その2)	有村	×	2003年4月2日	
2003-B	立会調査	郡元団地	K-9	鹿児島大学(理)校舎改修その他工事(その2)	有村	●	2003年4月10·17日	
2003-C	立会調査	郡元団地	K-9	鹿児島大学(理工系)総合研究棟新営電気設備工事	中村	●	2003年4月13日	
2003-D	立会調査	郡元団地	K-8·9	鹿児島大学(理)校舎改修その他工事(その2)	中村	×	2003年4月21·22日	
2003-E	立会調査	郡元団地	K-9	鹿児島大学(理工系)総合研究棟新営電気設備工事	有村	●	2003年5月15日	
2003-F	立会調査	郡元団地	R-10	鹿児島大学教育学部(附中)体育館改修その他工事	中村	●	2003年6月9日	
2003-G	立会調査	郡元団地	E-5	(掲示板移設工事:理学部⇒農学部)	有村	×	2003年6月13日	
2003-H	立会調査	桜ヶ丘団地	E-9	鹿児島大学(医病)診療棟(第3X線CT室等)改修工事	有村	×	2003年7月30日	
2003-I	立会調査	郡元団地	H-11·12	鹿児島大学ベンチャービジネスラボラトリー新営その他機械設備工事	新里	●	2003年8月5-7日	VBL棟報告で掲載予定
2003-J	立会調査	郡元団地	G·H-11·12	鹿児島大学ベンチャービジネスラボラトリー新営その他機械設備工事	中村・新里	●	2003年8月18·27日	
2003-K	立会調査	郡元団地	Q-10	鹿児島大学教育学部(附中)体育館改修電気設備工事	有村	×	2003年10月14日	
2003-L	立会調査	郡元団地	R-10	鹿児島大学教育学部(附中)体育館改修その他工事	中村	×	2003年9月26日	
2003-M	立会調査	桜ヶ丘団地	F-11	鹿児島大学医学部6KV予備電源供給工事	中村・青山	●	2003年11月1·5·8·9日	
2003-N	立会調査	郡元団地	R-9·10	鹿児島大学教育学部(附中)体育館改修その他工事	有村	×	2003年11月11日	
2003-O	立会調査	郡元団地	K-9	鹿児島大学(理工系)総合研究棟新営電気設備工事	中村	●	2003年11月13·20日	
2003-P	立会調査	郡元団地	H·I-11·12	鹿児島大学ベンチャービジネスラボラトリー新営その他機械設備工事	新里・中村	●	2003年12月22·25·26日	
2003-Q	立会調査	郡元団地	J-10	鹿児島大学(理工系)総合研究棟新営電気設備工事	中村	●	2004年1月15·16日	
2003-R	立会調査	郡元団地	F·G-3·4	鹿児島大学総合研究博物館改修工事	青山・中村	●	2004年1月21·22·27-29,2月3·5·9日	
2003-S	立会調査	郡元団地	H-11·12	鹿児島大学ベンチャービジネスラボラトリー新営その他工事・鹿児島大学ベンチャービジネスラボラトリー新営その他電気設備工事・鹿児島大学ベンチャービジネスラボラトリー新営その他機械設備工事	中村・有村・青山	●	2004年1月22·23·26·27日,2月2日	VBL棟報告で掲載予定
2003-T	立会調査	郡元団地	I·J-3·4	鹿児島大学郡元キャンパス環境整備(憩いの広場)工事	中村	×	2004年1月23日	
2003-U	立会調査	郡元団地	J-9·10	鹿児島大学(理工系)総合研究棟新営電気設備工事	中村	●	2004年2月5日	
2003-V	立会調査	郡元団地	X-6	教育学部幹線並木整備工事	有村	●	2004年2月10·12日	
2003-W	立会調査	郡元団地	F-5	鹿児島大学事務局庁舎改修機械設備工事	青山	×	2004年2月12日	
2003-X	立会調査	郡元団地	H-12·13	鹿児島大学工学部テニスコートネットポスト等工事	有村	●	2004年3月4·5日	
2003-Y	立会調査	郡元団地	I-8	鹿児島大学理学部中庭外灯修繕	新里	●	2004年3月31日	

式や晩期の黒川式，石匙なども確認されるが，これらはかなり摩滅しており，上流から流れてきたものであろうと考えられる。一方，刻目突帯文土器から古代の土器は完形品に近い形で出土することが多く，特に弥生時代後期から終末期の土器はその傾向が顕著であった。また，石鏃や三角形状の石庖丁も出土した。河川跡周辺の弥生時代前期～中期頃の土層からはプラント・オパール分析によってやイネやムギが検出されている。当時，この河川を利用した，生産体系が確立されていたと考えられる。

2.2　2003-1　郡元団地R-9・10区(教育学部付属中学校体育館)

付属中学校体育館南側入り口の改修工事に伴い、発掘調査を行った。工事による掘削が地表下1mまでであったため、調査もそれ以上を対象範囲としたが、4c層上面で古墳時代の遺構を検出した。調査区周辺は過去の調査によって、古墳時代の住居跡が密集しているのが確認されているが、その一部になるものと推定される。検出面以下の調査は行わなかったが、住居跡5基、土坑2基を確認した。

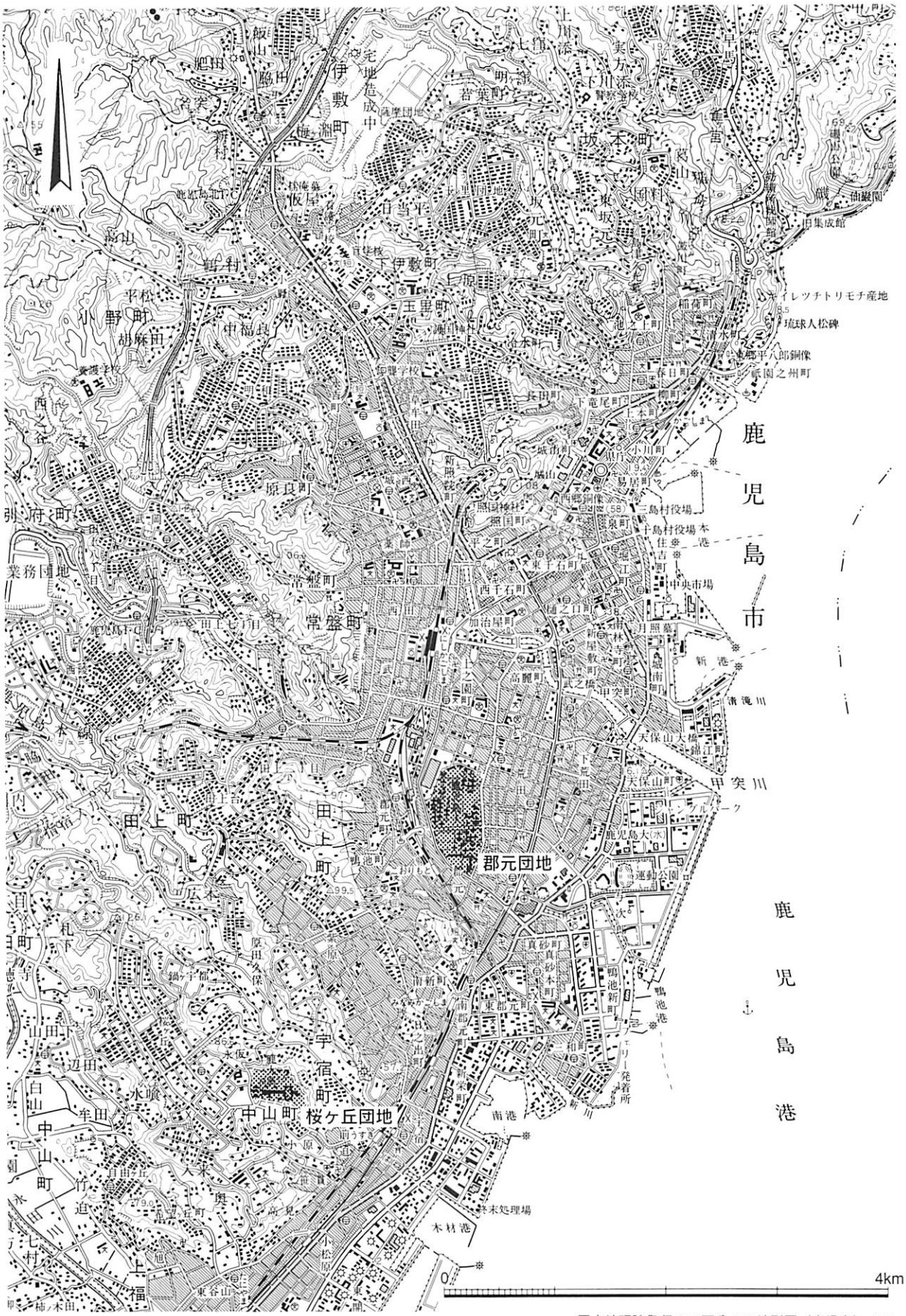
2.3　立会調査

立会調査はVBL棟建設工事に伴うものが多かった。発掘調査区の周辺部にあたるが，掘削深度の浅い立会調査でも，畑の畝跡と考えられる遺構が検出するなど，発掘調査で検出した遺構と関連するものが認められた。他の立会調査での埋蔵文化財に対する深刻な影響はあまりなかったが，25件の調査のうち，16件で過去の発掘調査によって遺物が包含されていたプライマリーな層が確認できた。

注

1)松永幸男1986「第Ⅱ章　鹿児島大学構内遺跡の位置と環 境」「鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報」Ⅰ　鹿児島大学埋蔵文化財調査室

2)藤原宏志2003「郡元団地L-6区(中央図書館増築地A地点北壁)におけるプラント・オパール分析結果報告」「鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報」18　鹿児島大学埋蔵文化財調査室　などによる。



国土地理院発行の５万分の１地形図（鹿児島）より

Fig.2　鹿児島大学構内遺跡の位置

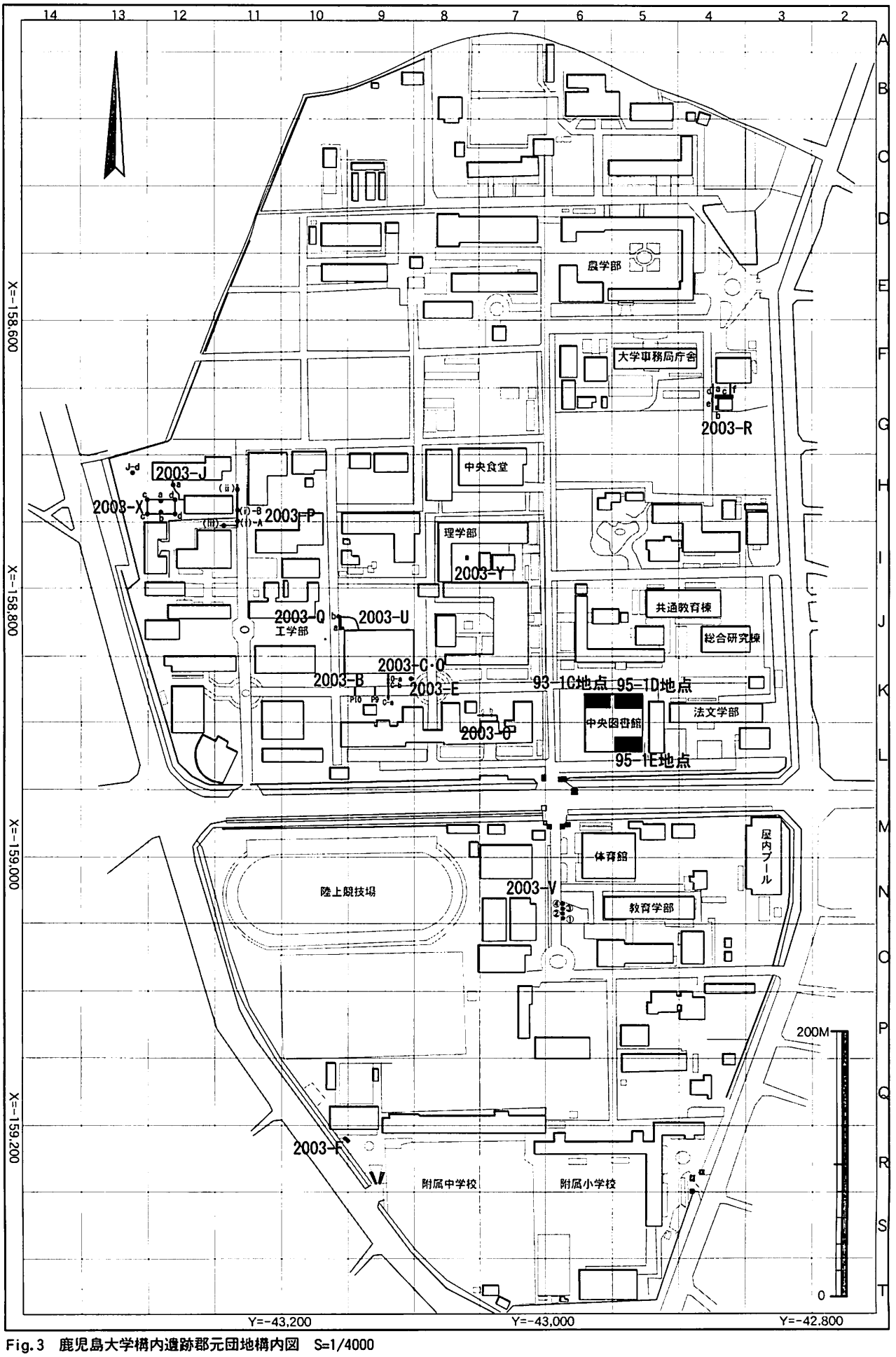


Fig. 3　鹿児島大学構内遺跡郡元団地構内図　S=1/4000

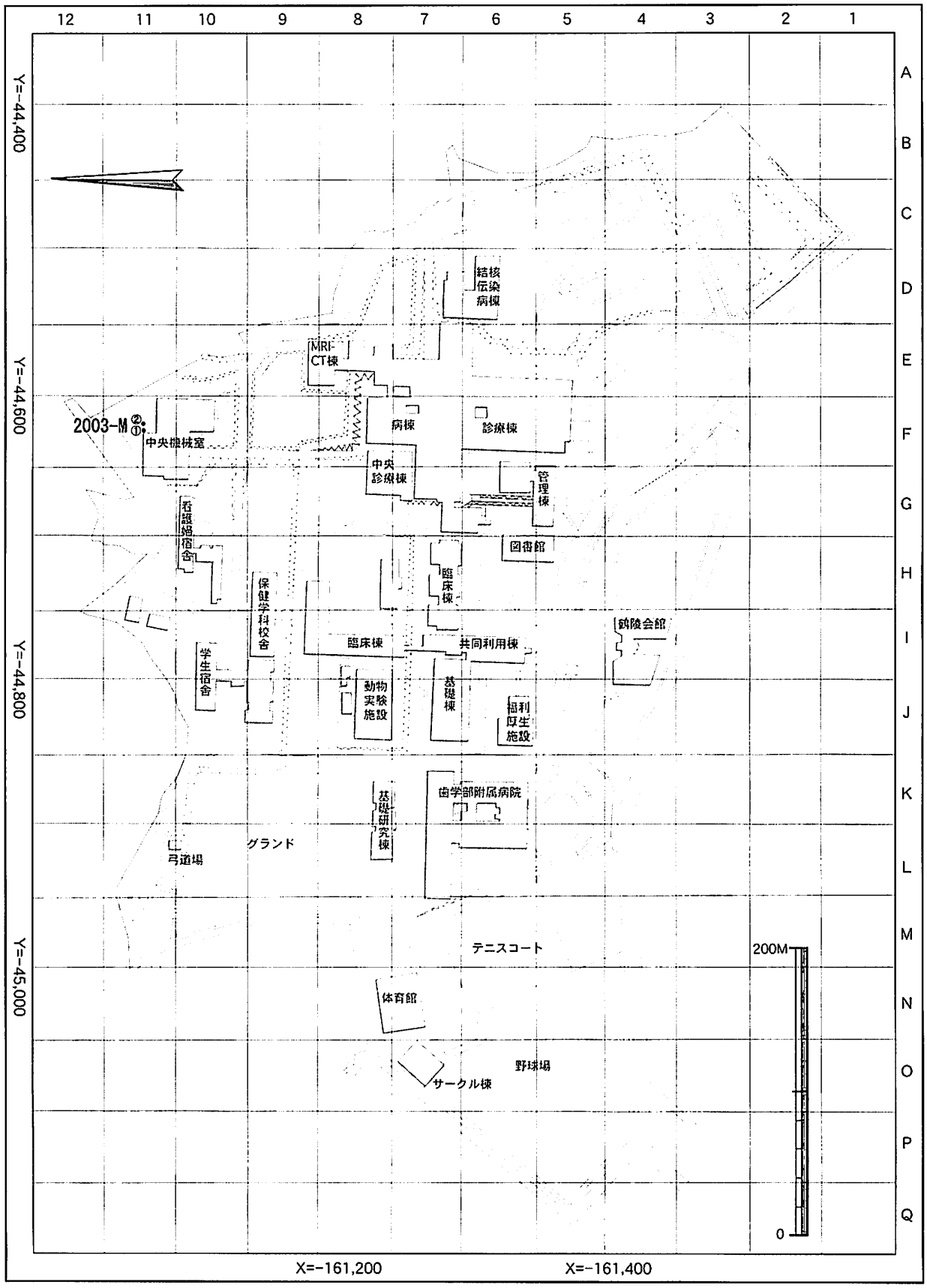


Fig.4　鹿児島大学構内遺跡桜ヶ丘団地構内図　S=1/4000

第2章　平成15年度の立会調査

第1章Tab.1にあるように，平成15年度は，25件の立会い調査を実施した。団地別では，郡元団地が23件，桜ヶ丘団地が2件で，今回は，前々年度の理学部校舎改修工事に伴うものと，前年度のVBL棟に関わる立会調査が多い。これらのうち，2003-A·D·G·H·K·L·N·T·W立会に関しては，掘削部が表土·撹乱層の範囲でおさまり，埋蔵文化財への影響がなかった。しかし，表土·撹乱層より遺物が出土した地点もある。2003-Aでは，弥生時代-古墳時代と考えられる3cm大の無文胴部片1点，2003-Kでも弥生時代-古墳時代と考えられる1-5cm大の無文胴部片4点が出土している。また，2002-F地点では，2層より弥生時代-古墳時代のものと考えられる1-2cm大の無文土器片が4点出土している。2003-I·Sについては，VBL棟近隣の地点であり，遺構なども検出されているので，VBL棟の発掘調査報告とともに掲載することとする。

以下，プライマリーな土層が確認されたものについて，立会調査ごとに説明する。なお，鹿児島大学の独立行政法人化に伴い，平成16年度以降の立会調査は，鹿児島市教育委員会が行う旨，鹿児島県より指導があった。平成16年度は，大学側にもそれに応じた対策をとるべく，周知徹底している段階である。

2003-B　鹿児島大学(理)校舎改修その他工事（Fig.5 構内図·Fig.3）

調査地点　理工系共通教育棟北隣の幹線道路（郡元K-9区）

調査期間　2003年4月10·17日

理工系共通教育棟北隣の幹線道路を横断するように，排水管設置のための掘削が11箇所で行われた。深さは55-80cmである。9箇所は表土・撹乱層であった。P3表土・撹乱層からは，1-2cm大の古墳時代土器小破片が3点出土している。プライマリーな土層は，P9·10で確認された。理工系総合研究棟の調査に対応し，2層は近世～近代，3層は中世以降，4·5層は古代以降に対応すると考えられる。

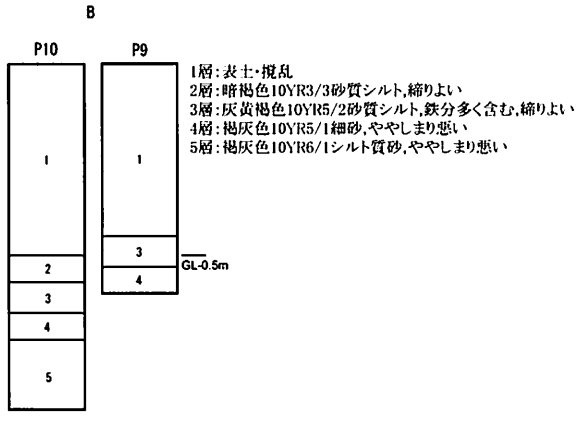


Fig.5　2003-B　土層柱状図

2003-C　鹿児島大学(理工系)総合研究棟新営電気設備工事（Fig.6 構内図·Fig.3）

調査地点　理工系共通教育棟北隣の幹線道路（郡元K-9区）

調査期間　2003年4月13日

理工系総合研究棟から理工系共通教育棟に配管するために，幹線道路を横断する形で，掘削が行われた。土層は，理工系総合研究棟に対応しており，A地点は深さ177cm，B地点は146cmである。2層は近世～近代，3層は中世以降，4·5層は古代以降，6層は弥生時代中期，7層が弥生時代前期以降，③層の泥炭層が縄文時代後期に対応するものと考えられる。

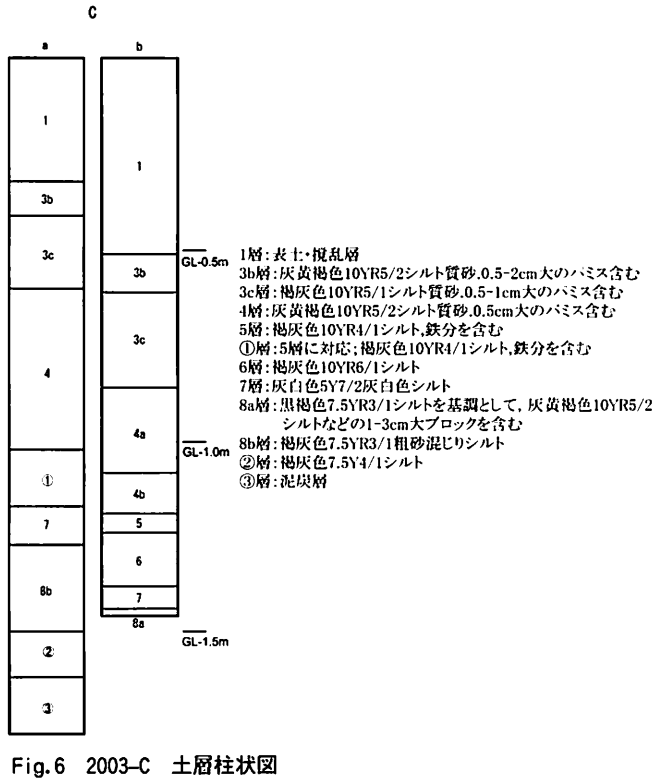


Fig.6　2003-C　土層柱状図

2003-E　鹿児島大学（理工系）総合研究棟新営電気設備工事（Fig.7 構内図・Fig.3）

調査地点　理工系総合研究棟入口付近（郡元K-9）

調査期間　2003年5月15日

理工系総合研究棟の玄関部にあるビロウの移植のため，深さ130cmの掘削が行われた。移植先において，2層のプライマリーな土層を確認したが，おそらく，2層は近世～近代，3層は中世以降に対応するものと考えられる。

2003-F　鹿児島大学教育学部（附中）体育館改修その他工事（Fig.8 構内図・Fig.3）

調査地点　附中体育館前（郡元R-10）

調査期間　2003年6月9日

附中体育館前の花壇に，ソテツとキンモクセイの移植を行うため掘削された。キンモクセイは既掘部であったが，ソテツの掘削坑は，2.5m，深さ60cm程度であり，プライマリーな2層が確認された。同層において無文土器小片が少量出土した。

2003-J　鹿児島大学ベンチャービジネスラボラトリー新営その他機械設備工事（Fig.9 構内図・Fig.3）

調査地点　VBL棟建設予定地南東部（郡元G・H-11・12）

調査期間　2003年8月18・27日

VBL棟建設予定地南東部に電気配管のため，深さ120cm程度の掘削が行われた。土層は，VBL棟に対応しており，3層上面が中世頃，4・5層は河の堆積物で構成されている。また，支線引き込み工事箇所（90×30cm，深さ80cm）のについても同様であると考えられる。

2003-M　鹿児島大学医学部6KV予備電源供給工事（Fig.10 構内図・Fig.4）

調査地点　（桜ヶ丘F-11）

調査期間　2003年11月1・5・8・9日

中央機械室屋外キュービクル設置に伴う掘削工事が行われた。深さは60～70cm前後。どの地点においても，チョコ層（後期旧石器時代～縄文時代草創期頃）以上の層は，削平されており，遺物などの出土もなかった。

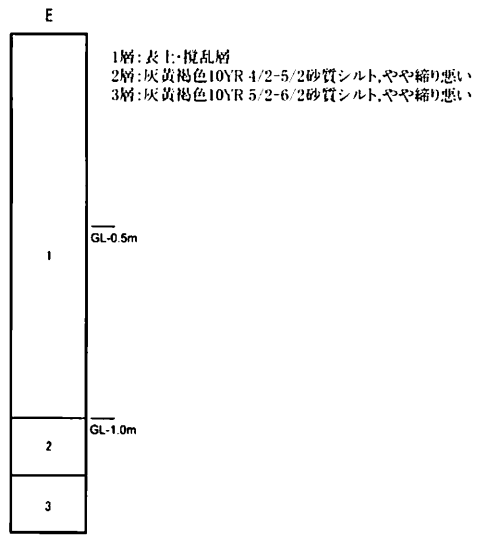


Fig.7　2003-E　土層柱状図

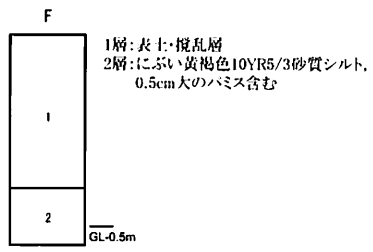


Fig.8　2003-F　土層柱状図

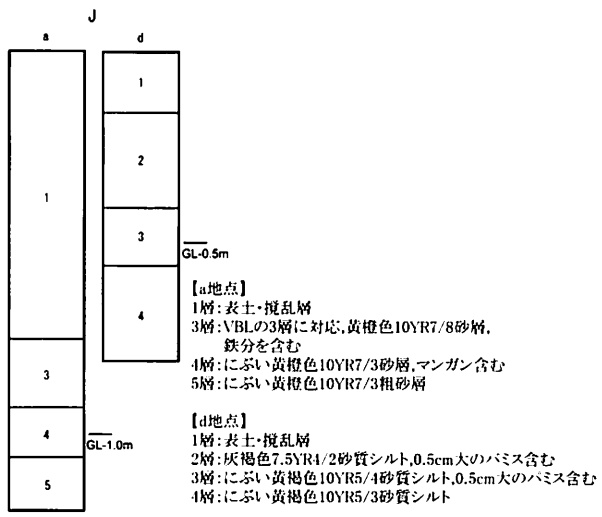


Fig.9　2003-J　土層柱状図

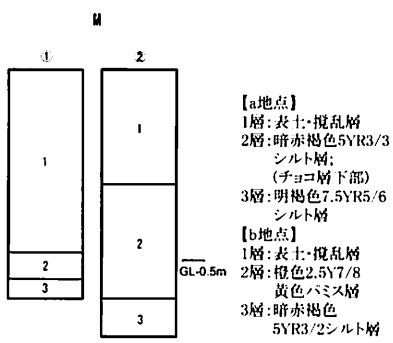


Fig.10　2003-M　土層柱状図

2003-O　鹿児島大学（理工系）総合研究棟新営電気設備工事（Fig.11 構内図・Fig.3）

調査地点　郡元（K-9）

調査期間　2003年11月13・20日

理工系総合研究棟の南側において，電気配管のための掘削が行われた。層の確認状況は，図11の通りであるが，異質な土層のため周辺地点との対応関係は不明である。

2003-P　鹿児島大学ベンチャービジネスラボラトリー新営その他機械設備工事（Fig.12　構内図・Fig.3）

調査地点　工学部情報工学科棟東側道路（郡元H・I-11・12）

調査期間　2003年12月22・25・26日

工学部情報工学科棟東側道路に配管工事のための掘削が行われた。道路地点をi-A・B地点・　地点とし，情報工学科棟と海洋土木棟の間を，　地点としている。どの地点もVBL棟の土層に対応していると考えられるが，i-A地点6層より，1-4cm大の弥生時代－古墳時代のものと考えられる無文胴部片3点，　地点3層より，弥生時代－古墳時代の無文胴部片2点，坩の底部付近と考えられる土器片1点，近世薩摩焼の擂鉢胴部片1点が出土した。したがって，　地点の3層は近世以降であると考えられる。

2003-Q　鹿児島大学（理工系）総合研究棟新営電気設備工事（Fig.13 構内図・Fig.3）

調査地点（郡元J-10）

調査期間2004年1月15・16日

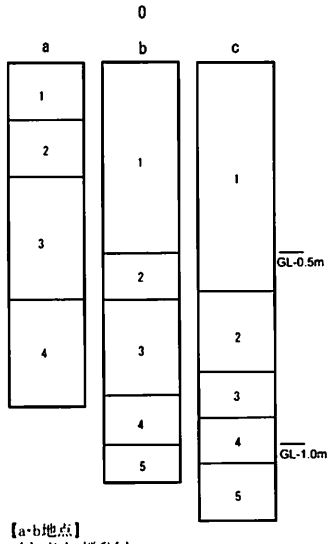
マンホールに接続する配管工事の掘削坑で，a地点が125cm，b地点が175cmの掘削坑である。a地点3層は古墳時代に対応し，4層は，河川の氾濫層であると考えられる。5層は弥生時代中期の層に対応する。b地点の3・4層は，弥生時代中期頃の水田層に対応する。

2003-R　鹿児島大学総合研究博物館改修工事（Fig.14 構内図・Fig.3）

調査地点　（郡元F・G-3・4）

調査期間2004年1月21・22・27-29，2月3・5・9日

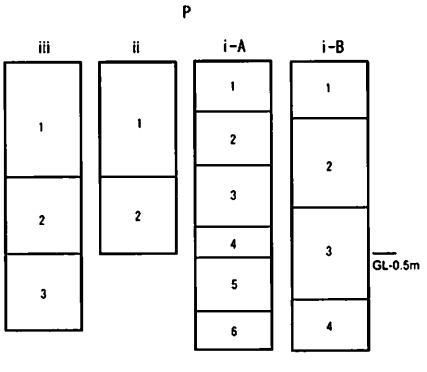
総合研究博物館の改修に伴う掘削工事である。a・d・e地点は70cm，b・c地点は，60cm，f地点は80cmの掘削坑である。土層の様子は，図14の通りであるが，他地点との対応関係は不明である。



【a・b地点】
1層：表土・撹乱層
2層：褐灰色10YR6/1シルト質砂，0.5-1cm大のパミスを含む，締まりよい
3層：褐灰色10YR6/1シルトシルト質砂と10YR6/4にぶい黄橙色の混土，0.5-3cm大のパミス含む
4層：灰黄褐色10YR4/2シルト質砂，0.5-3cm大のパミスを極少量含む
5層：灰黄褐色10YR5/2シルト質砂，鉄分を含む，0.5-3cm大のパミスを極少量含む
6層：灰黄褐色10YR6/2シルト質砂，マンガンを含む，0.5cm大のパミスを極少量含む

【c地点】
1層：表土・撹乱層
2層：にぶい黄褐色10YR4/3シルト質砂，鉄分を含む，0.5cm大のパミス極少量含む
3層：暗褐色10YR3/3シルト質砂，鉄分・マンガンを含む，0.5cm大のパミス極少量含む
4層：にぶい黄褐色10YR5/3シルト質砂，鉄分・マンガンを含む，0.5cm大のパミス極少量含む
5層：灰黄褐色10YR5/2シルト質砂，鉄分・マンガンを含む，0.5cm大のパミス極少量含む

Fig.11　2003-O　土層柱状図



【iii地点】
1層：表土・撹乱層
2層：黄褐色10YR5/6砂質シルト層，0.5-1cm大のパミスを含む，締りよい
3層：灰黄褐色10YR5/2シルト層，0.5-1cm大のパミスを含む，マンガンを含む，0.5-1cm大のパミスを含む，土器小片が出土

【ii地点】
1層：表土・撹乱層
2層：にぶい黄褐色10YR5/3シルト層，0.5-1cm大のパミスを含む，締りよい

【i-A地点】
1層：表土・撹乱層
2層：明黄褐色10YR7/6シルト質砂層，鉄分を含む
3層：灰黄褐色10YR5/2シルト質砂層
4層：明黄褐色10YR7/6砂層
5層：灰黄褐色10YR6/2砂層
6層：褐色10YR4/6砂質シルト層，締りよい，土器小片が出土

【i-B地点】
1層：表土・撹乱層
2層：褐灰色10YR6/1細砂層
3層：にぶい黄橙色10YR7/2細砂層
4層：明黄褐色10YR6/8細砂層，鉄分を含む

Fig.12　2003-P　土層柱状図

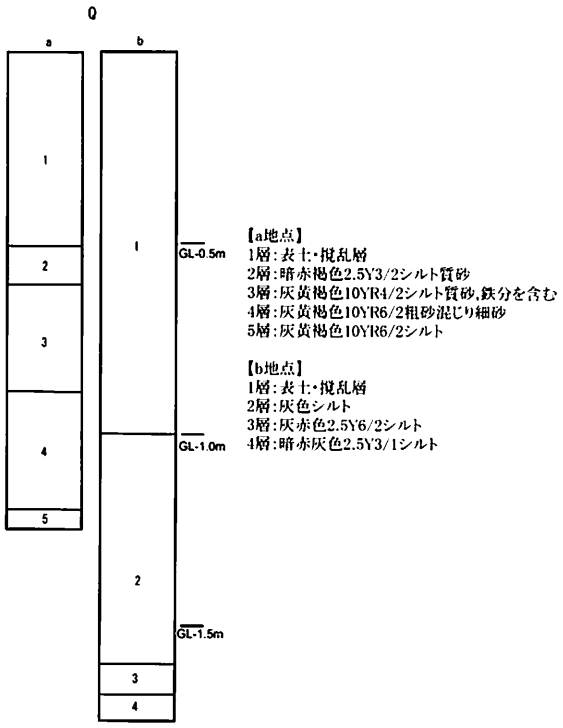


Fig.13　2003-Q　土層柱状図

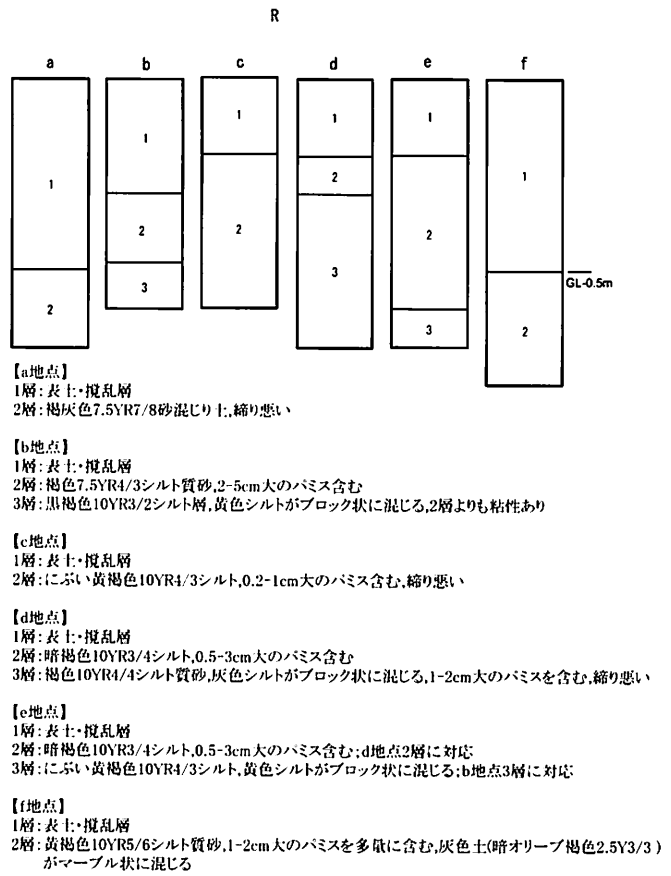


Fig.14　2003-R　土層柱状図

2003-U　鹿児島大学（理工系）総合研究棟新営電気設備工事（Fig.14 構内図・Fig.3）

調査地点　（郡元J-9・10）

調査期間　2004年2月5日

外灯用埋設配管のための掘削工事に伴う調査である。配管部は既掘部であったが，外灯基礎部分を120cm掘削している。理工系総合研究棟との明確な対応関係は不明である。

2003-V　教育学部幹線並木整備工事（Fig.15 構内図・Fig.3）

調査地点　（郡元N-6）

調査期間　2004年2月10・12日

樹木移植のための掘削工事に伴う調査である。5箇所を調査したが，1箇所は既掘部であった。100～120cm範囲の深さであり，黒色土層が弥生～古墳時代の層に対応すると考えられる。④地点では，3層から掘り込まれた遺構らしき落ち込みが認められた。

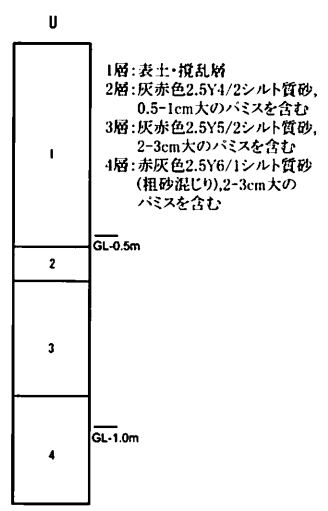
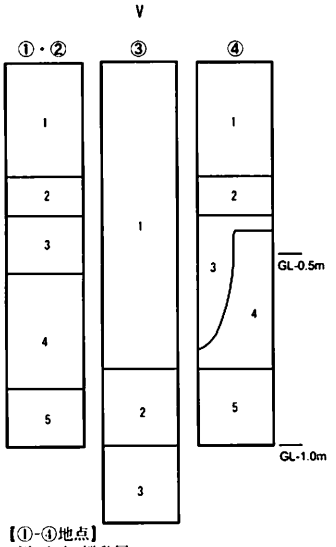


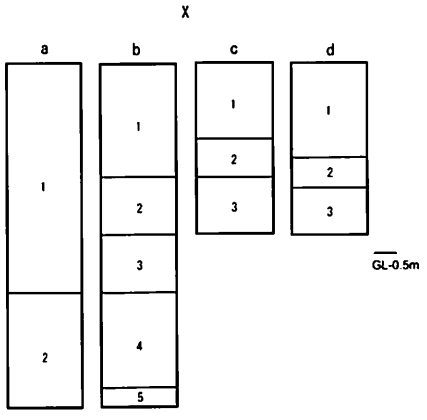
Fig.15　2003-U　土層柱状図



【①-④地点】
1層：表土・撹乱層
2層：褐灰色10YR6/1シルト，小パミスを含む
3層：黄橙色10YR7/8砂質シルト，小パミスを含む
4層：黒色10YR2/1砂質シルト，中-大パミスを含む，堅く締まる
5層：砂層

【④地点】
3層の落ち込み：遺構？

Fig.16　2003-V　土層柱状図



【a地点】
1層：表土・撹乱層
2層：灰黄褐色10YR5/2砂

【b地点】
1層：表土・撹乱層
2層：にぶい黄褐色10YR5/3砂質シルト
3層：黄褐色10YR7/2砂質シルト
4層：にぶい黄橙色10YR 7/2砂，締り悪い
5層：褐色10YR 4/6シルト質砂，締り悪い

【c地点】
1層：表土・撹乱層
2層：灰黄褐色10YR4/2砂質シルト
3層：黄褐色10YR 5/6砂質シルト

【d地点】
1層：表土・撹乱層
2層：にぶい黄褐色10YR4/3砂質シルト
3層：灰黄褐色10YR 4/2砂質シルト，マンガン含む

Fig.17　2003-X　土層柱状図

2003-X　鹿児島大学工学部テニスコートネットポスト等工事（Fig.16 構内図・Fig.3）

調査地点　（郡元H-12・13）

調査期間　2004年3月4・5日

VBL棟に南接した場所にテニスコートのネットポスト設営のための基礎工事が行われた。VBL棟に対応し，ほとんどが川砂で構成されている。

2003-Y　鹿児島大学理学部中庭外灯修繕（Fig.17 構内図・Fig.3）

調査地点　（郡元I-8）

調査期間　2004年3月31日

外灯の改修工事に伴う掘削である。125cmの深さで掘削され，2層以下は川砂で構成されている。理学部2号館の河の土層に対応するものと考えられる。

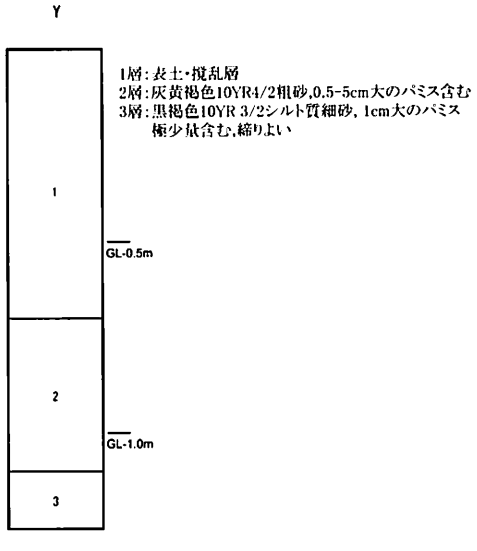


Fig.18　2003-Y　土層柱状図

鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会規則

（設置）

第 1 条　本学に，鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議）

第 2 条　委員会は，本学の施設計画を円滑に行うため埋蔵文化財に関する次の事項を審議する。

（ 1 ）基本計画の策定に関すること。

（ 2 ）調査結果に基づく対策に関すること。

（組織）

第 3 条　委員会は，次に掲げる委員をもって組織する。

（ 1 ）学長

（ 2 ）各学部長，附属図書館長，医学部附属病院長および歯学部附属病院長

（ 3 ）事務局長

（ 4 ）学生部長

（委員長）

第 4 条　委員会に委員長を置き，学長をもって充てる。

2　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。

（議事）

第 5 条　委員会は，委員の 3 分の 2 以上の出席をもって成立し，議事は出席委員の 3 分の 2 以上をもって　決する。

（委員以外の者の出席）

第 6 条　委員会が必要と認めるときは，委員以外の者を出席させ，意見を聴くことが出来る。

（調査委員会）

第 7　条　委員会は，本学の埋蔵文化財の調査を行なうため，埋蔵文化財調査委員会（以下「調査委員会」という。）を置く。

第 8 条　調査委員会は次の事項を審議する。

（ 1 ）調査実施計画に関すること。

（ 2 ）第 1 3 条に規定する調査室の室長等の選任に関すること。

（ 3 ）第 1 3 条に規定する調査室の予算に関すること。

（ 4 ）その他埋蔵文化財及び第 1 3 条に規定する調査室の業務に関すること。

第 9 条　調査委員会は，次に掲げる委員をもって組織し，学長が任命する。

（ 1 ）各学部の教授，助教授，講師の中から選任された者各 1 名

（ 2 ）第 15 条 2 項に規定する調査室長

2　前項第 1 号の委員の任期は 2 年とし，委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は，前任者の残任期　間とする。

第 10 条　調査委員会に委員長を置き，前項第 1 項第 1 号の委員の中から互選により選出する。

2　委員長は委員会を招集し，その議長となる。

第 11 条　調査委員会は，委員の過半数の出席をもって成立し，議事は，出席委員の過半数をもって決する。

第 12 条　調査委員会が必要と認めるときは，委員以外の者を出席させ，意見を聴くことができる。

（調査室）

第 13 条　調査委員会に，本学の埋蔵文化財の調査に関する業務を行うための埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）を置く。

第 14 条　調査室は，次の業務を行なう。

（ 1 ）調査実施計画の立案

（ 2 ）発掘調査，分布調査及び確認調査

（ 3 ）調査報告書の作成

（ 4 ）その他必要な事項

第 15 条　調査室に，室長，主任及びその他必要な職員を置く。

2　室長は，本学の考古学に関する教官の中から委員会が推薦し，学長が任命する。

3　室長は，調査委員会の定める方針に基づき調査室の業務を掌理する。

4　室長の任期は 2 年とする。ただし，再任を妨げない。

5　主任は，調査室の職員の中から，特に埋蔵文化財に関する専門知識を有する者を調査委員会が推薦し，学長が任命する。

6　主任は，室長の命を受けて調査室の業務を処理する。

7　職員は，調査室の業務に従事する。

（その他）

第 16 条　埋蔵文化財に関する事務は，事務局施設部において行なう。

付　　則

1　この規則は，昭和 60 年 4 月 18 日から施行する。

2　この規則の施行後最初に任命される委員及び室長の任期は，第 9 条第 2 項及び第 15 条第 4 項の規定に　かかわらず，昭和 62 年 3 月 31 日までとする。

3　鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会規則（昭和 51 年 1 月 22 日制定）は，廃止する。

付則

この規則は、平成９年４月１日から施行する。

・鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会（平成 15年 4 月 1 日現在）

委員長　永田行博（鹿児島大学学長）
委　員　辰村吉康（法文学部長）
　　中山右尚（教育学部長）
　　面高俊宏（理学部長）
　　吉田浩己（医学部長）
　　愛甲　孝（医学部付属病院長）
　　西川殷維（歯学部長）
　　三村　保（歯学部附属病院長）
　　長澤庸二（工学部長）
　　下川悦郎（農学部長）
　　上田耕平　（水産学部長）
　　荒井　啓（連合農学研究科長）
　　谷口政敏（事務局長）
　　岩本義男（学生部長）
　　石田尚治　（附属図書館長）

・鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会委員（平成 15年 4 月 1 日現在）

委員長　佐々木修（農学部）
委員　　本田道輝（法文学部）
　　日隈正守（教育学部）
　　井村隆介（理学部）
　　岩橋法雄（医学部）
　　山﨑要一（歯学部）
　　八野知博（工学部）
　　佐野雅昭（水産学部）
　　山﨑要一（大学院医歯学総合研究科）
　　新田栄治（埋蔵文化財調査室長）

・鹿児島大学埋蔵文化財調査室

室長（併）　法文学部教授　新田栄治
主任（併）　法文学部助教授　中村直子
　　（併）　法文学部助手　新里貴之
技術補佐員　青山奈緒
　　有村航平

鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会規則

（趣旨）

第１条　この規則は、国立大学法人鹿児島大学常置委員会規則（平成 16 年 4 月 1 日制定）第 3 条第 3 項に基づき、国立大学法人鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

（組織）

第２条　委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

（１）　鹿児島大学埋蔵文化財調査室長（以下「調査室長」という。）

（２）　各学部の教授、助教授又は講師のうちから選出された者　各１名

２　前項第２号の委員の任期は、２年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員を生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（審議事項）

第3条　委員会は、次に掲げる事項について審議する。

（１）　調査実施計画に関すること。

（２）埋蔵文化財調査室の予算に関すること。

（３）その他埋蔵文化財の業務に関すること。

（委員長）

第4条　委員会に委員長を置き、第２条第１項第１号をもって充てる。

２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

３　委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

（議事）

第５条　委員長は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

（委員以外の者の出席）

第６条　委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

（事務）

第７条　委員会に関する事務は、施設部企画課において処理する。

（雑則）

第８条　この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附則

１　この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

鹿児島大学埋蔵文化財調査室規則

（趣旨）

第1条　この規則は、鹿児島大学学則（平成 16 年 4 月 1 日制定）第 7 条第 2 項の規定に基づき、鹿児島大学埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）に関し、必要な事項を定める。

（目的）

第２条?　調査室は、鹿児島大学（以下「本学」という。）の埋蔵文化財の調査に関する業務を行い、本学内に存在する埋蔵文化財の保護対策を講ずることを目的とする。

（業務）

第３条 調査室は、次の業務を行う。

（１）　調査実施計画の立案

（２）　発掘調査、分布調査および確認調査

（３）調査報告書の作成

（４）その他必要な事項

（職員）

第４条 調査室に、次の職員を置く。

（１）　調査室長（以下、「室長」という。）

（２）主任

（３）その他必要な職員

第５条　室長は、本学の考古学に関連する教員の中から国立大学法人鹿児島大学学内共同研究施設等人事委員会（以下「委員会」という。）が推薦し、学長が選考する。

２　室長は、調査室の業務を掌理する。

３　室長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

４　室長に欠員を生じた場合の補欠の室長の任期は、前任者の残任期間とする。

（主任等）

第６条　主任は、調査室の職員の中から、特に埋蔵文化財に関する専門知識を有する者を委員会が推薦し、学長が選考する。

２ 主任は、室長の命を受けて調査室の業務を処理する。

３ 職員は、調査室の業務に従事する。

（事務）

第７条　調査室に関する事務は、施設部企画課において処理する。

（雑則）

第８条　この規則に定めるもののほか、調査室

に関し必要な事項は、別に定める。

附則

1　この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

2　この規則施行後、最初の室長は学長が指名した者をこの規則により選考したものとみなす。

・鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会委員（平成16年 4 月 1 日現在）

委員長　新田栄治（埋蔵文化財調査室　室長）
委員　　本田道輝（法文学部）
　　日隈正守（教育学部）
　　井村隆介（理学部）
　　岩橋法雄（医学部）
　　山﨑要一　（歯学部）
　　八野知博（工学部）
　　佐々木修（農学部）
　　佐野雅昭（水産学部）
　　山﨑要一（大学院医歯学総合研究科）

・鹿児島大学埋蔵文化財調査室

室長（併）　法文学部教授　新田栄治
主任 助教授　中村直子
　　助手　　新里貴之
技術補佐員　青山奈緒
　　有村航平

付編　郡元団地K・L－5・6区（中央図書館C・D・E地点）における発掘調査報告　-遺構と遺構出土遺物の報告-

1　調査の概要

1.1　調査に至る経過

鹿児島大学では，平成3年に中央図書館の建て替えが計画され，旧中央図書館建物の周辺が掘削工事範囲となったため，埋蔵文化財発掘調査を実施することになった。調査は，平成4年・平成5年・平成7年に3回に分けて実施した（Fig.19)。1次調査ではA地点を，2次調査ではB・C地点を，3次調査ではD・E地点の発掘調査行った。

A・B地点の発掘調査については，すでに『鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報18』で報告している。本稿では，2次調査C地点と，3次調査のD・E地点の遺構と遺構出土遺物についての報告を行い，各地点の包含層出土遺物については次号の年報に掲載する予定である。

1.2　調査の期間と体制

調査は，鹿児島大学埋蔵文化財調査室が行った。2次・3次調査それぞれの詳細な調査期間と体制については，以下のTab.2のとおりである。なお，3次調査では遺物出土状況実測において，法文学部本田道輝氏にご協力いただいた。

Tab.2　調査期間と体制

2次調査		3次調査
所在地	鹿児島市郡元一丁目21-25	
期間	平成5年5月13日～9月10日	平成7年5月30日～8月30日
面積	C地点180㎡	D地点220㎡ E地点310㎡
主体者	埋蔵文化財調査室長　上村俊雄	埋蔵文化財調査室長　上村俊雄
担当	埋蔵文化財調査室室員 中村直子　峰山いづみ　大西智和　前幸男	埋蔵文化財調査室室員 中村直子　大西智和　峰山いづみ　古澤生
作業員	鮎川章子，池口洋人，上地浩，小八重睦子，小原愛，今村知子，袋谷ミエ子，甲斐光代，国分リカ，坂口ミエ子，坂本裕子，中村由美子，名越ヒデ子，西庄司，西谷彰，西中川泉，福永花江，福永シノブ，古澤生，星野恵美，松島恵子，盛満アイ子，柳田キミ子，柳田二三子，横手浩二郎	安倍松伊都子，鮎川章子，池口洋人，石谷トキエ，袋谷ミエ子，岩戸エミ子，岩戸トシ子，岩戸ミツ子，上原文代，請園アキエ，請園チリ，臼田和吉，上床久美子，坂口ミエ子，寺光ミツ子，新海ミツ子，末吉サチ子，末吉ミヤ，諏訪田ミツ子，田村和裕，谷口ノリ，床次考子，永里幸子，名越ヒデ子，中村いつ子，新原和子，西庄司，西村チエコ，野下ヨシエ，藤田紀子，福永シノブ，福永花江，松下郁美，松下ミチ，松村恵子，盛満アイ子，矢住純子，柳田二三子，柳本照子，横山アヤ子，横山真由美，吉永幸子，脇カズ子，脇トキエ，脇チリ子，脇ツルエ

1.3　調査の経過

1）　2次調査C地点

C地点の調査は，B地点で設定した5mのグリッド枠を基準として西から4-6，南北方向が南からh-jと設定した。表土を重機で掘削した後，Ⅱ層以下は手堀による掘削を行った。各層の上面で遺構確認を行ったが，Ⅴ層上面とⅥ層上面でそれぞれ遺構が検出された。特に，Ⅵ層上面からは古墳時代の住居跡を2基確認した。それ以下は無遺物層であるⅦ層上面までを掘削し，層位断面図を作成して調査を終了した。

2）　3次調査D・E地点

D地点とE地点は旧図書館校舎をはさんで位置する。調査は，並行して作業を行ったが，層位が異なっていたので混同を避けるため，それぞれの地点で遺構や層の名称を付した。表土は重機によって掘削を行い，それ以下は手作業による掘削を行った。

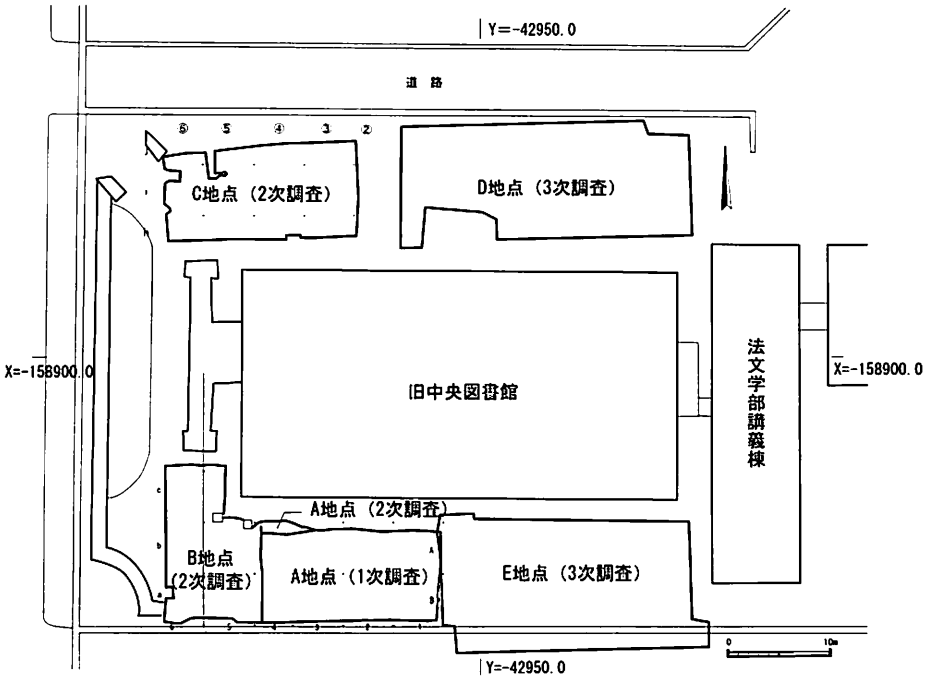


Fig.19　各地点の位置　S=1/750

工事の都合上，両地点とも調査区の西側から先に掘削を行った。C地点と同じく，各層の上面で遺構の確認を行った。

D地点では，Ⅱ～Ⅵ層までを確認したが，Ⅱ2層・Ⅲ層・Ⅵ層上面でそれぞれ遺構を確認した。Ⅵ層上面では，溝状遺構SD3とSD4を検出した。これらは，平面的に重なり合っている。SD4はその埋土中から多量の土器片が出土した。SD3からも小片の土器が多く出土したが，遺物は同時期のもので，遺構の重なり具合から，SD3は，SD4が埋まった後のくぼ地であると判断した。したがって，SD3はSD4埋土の最上部にあたる可能性が高い。本稿では，調査時に取り上げた状況を踏襲し，SD3・SD4と別に分けて報告している。

SD4埋土中からは多量の土器が出土した。小さなの胴部片は50cm間隔で設定したグリッドごとに取り上げ，部位や器種が判別できるものはポイント測量をして取り上げた。グリッドは，D地点の基準点4（X=-158888.850，Y=-42926.929）を基準とした調査区北東隅を基点として，南へa～p，西へ1～27と設置した。埋土上部の土器は小片であったが，それを取り上げると，ある程度まとまった破片が重なり合っていたため，10分の1の縮尺で平面図を作成し，取り上げ作業を行った。

E地点では，1～5層までを確認した。遺構は，2b・3・4・5層の上面で確認した。それぞれ，近代～弥生時代までの遺物が出土した。

両地点とも，無遺物層である砂層の上面までの掘削を行い，層位断面図を作成して調査を終了した。

2　C地点

2.1　層位（Fig.20，PL.1）

C地点では，基本層位としてⅠ～Ⅶ層までを確認した。このうち，Ⅰ～Ⅵ層までが遺物包含層で，Ⅴ層上面，Ⅵ層上面で遺構を検出した。各層は，以下のとおりである。

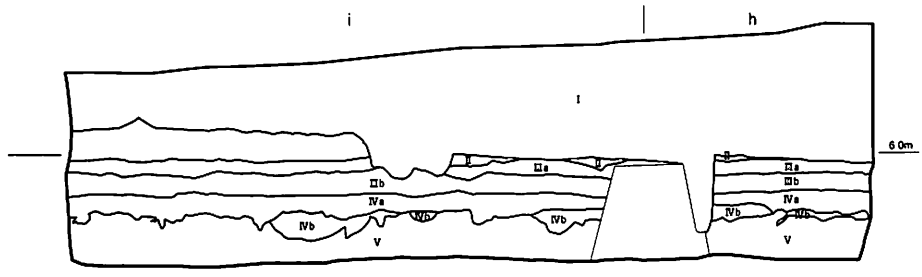
Ⅰ層　表土。

Ⅱ層　灰色（5Y5/1）砂混じりシルト質砂。1cm大の軽石を含む。

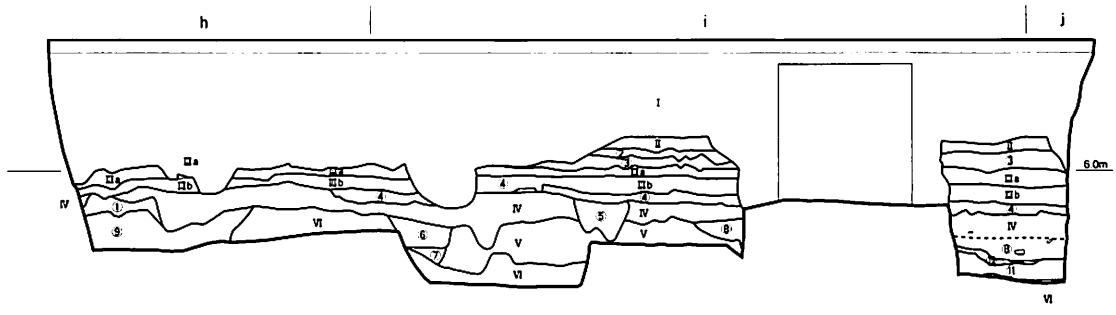
Ⅲa層　明褐色(10YR6/8)シルトと黄灰色(2.5Y6/1)の混土。

Ⅲb層　上部が灰白色(5Y7/1)の砂とⅢa層土との混土。下部は，灰オリーブ色(5Y6/2)。上下層の境界ははっきりしない。

Ⅳa層　黄灰色(2.5Y4/1)砂質シルト。鉄分の浸透あり。西壁付近褐灰色(10YR 4/1)粘質のシルトに鉄分浸

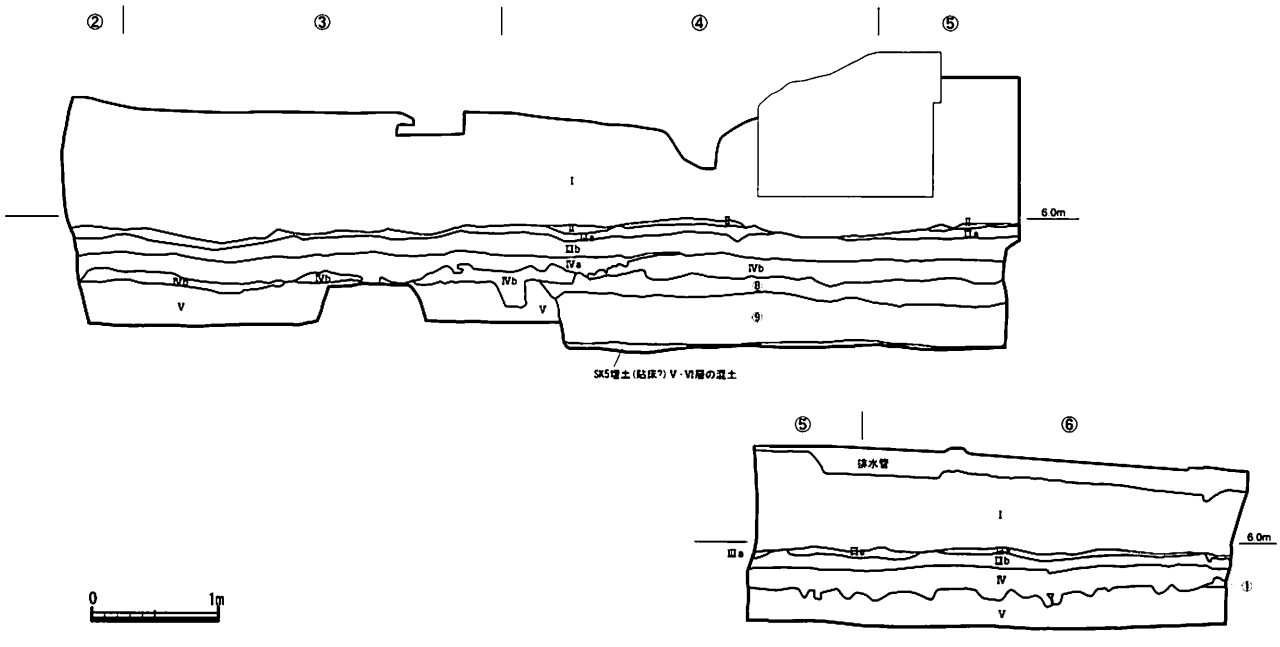


東　壁



西　壁

1　シルト質砂 黒色5Y2/1褐灰色7.5YR4/1灰白色2.5Y7/1黄褐色10YR5/6とが混在
2　シルト質砂 にぶい黄褐色10YR6/4
3　シルト質砂 黄褐色2.5Y5/3
4　砂質シルト 灰黄色2.5Y7/2と明黄褐色10YR6/8の混土 粘質
5　砂質シルト 褐灰色10YR4/1に鉄分(黄褐色10YR5/6)を多く含む 粘質
6　SD4埋土 Ⅳ層に近似するが、Ⅴ層ブロックを少量含む
7　SD4埋土 Ⅴ層を基調とするが、Ⅵ層との混土 砂質
8　SK5埋土①：褐灰色10YR5/1、鉄分(褐色7.5YR4/4)の浸透が見られる
9　SK5埋土②：褐灰色7.5YR4/1、粒々に黒色(10YR2/1)の1cm大のブロックが見られる
10　Ⅳ層に鉄分(黄褐色10YR5/6)を多く含む
11　黄褐色2.5Y4/1にⅤ層を含む



北　壁

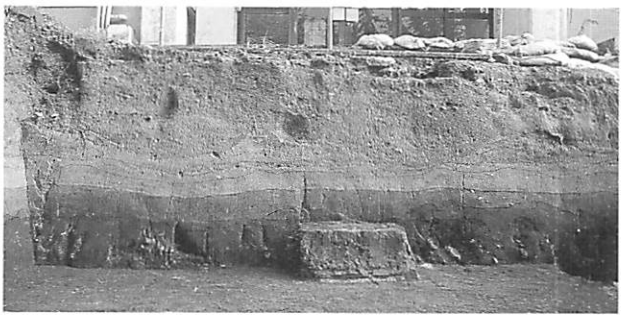
Fig.20　C地点層位断面図　S=1/60

透。

Ⅳb層　褐灰色(10YR4/1)砂質シルト。

Ⅴ層　オリーブ黒(5Y3/1)砂混じりシルト質砂。黒色(7.5YR1.7/1)シルト。

Ⅵ層　上部　暗灰黄色(2.5Y4/1)砂，下部　黄褐色(2.5Y5/4)砂。



PL.1　C地点南壁層位

2.2　Ⅴ層上面遺構

Ⅴ層上面では，調査区南東部でSK3・4を検出した（Fig.21・PL.2・3）。これらは細長い土坑で，並行している。南側は，撹乱によって削平されている。どちらも浅く，上面を削平されている。

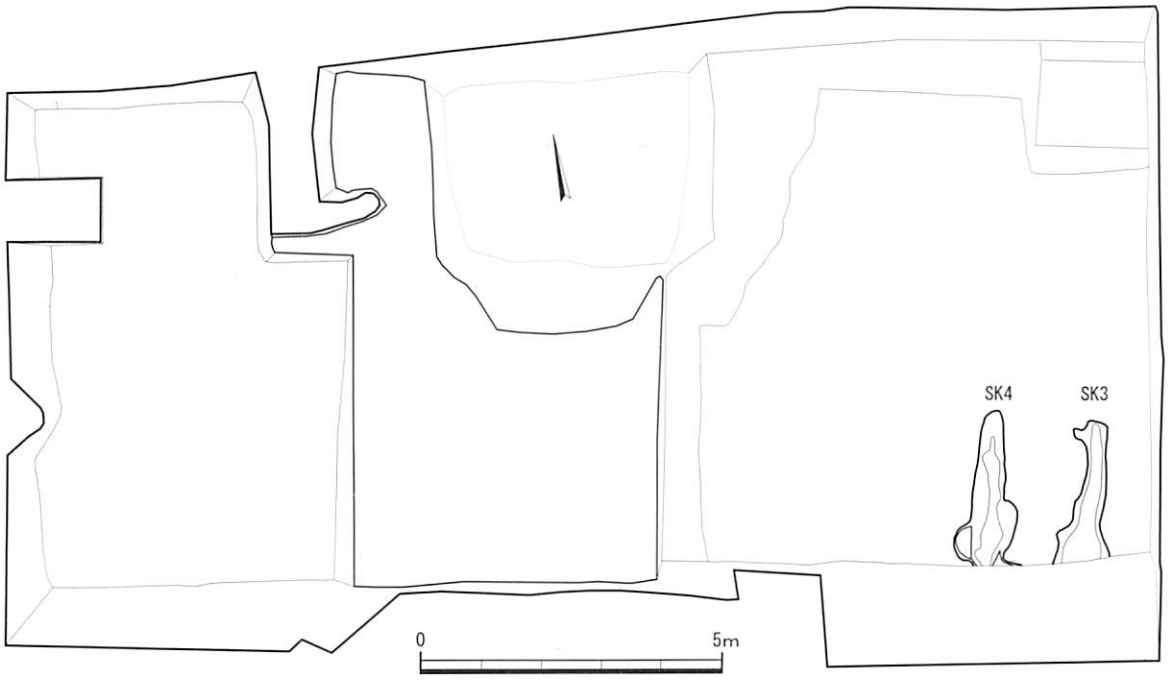


Fig.21 C地点 Ⅴ層上面遺構検出状況　S=1/125

PL.2　C地点Ⅴ層上面検出状況　西側（南東から）

PL.3　C地点Ⅴ層上面検出状況　東側（南から）

1)　SK3（Fig.22・PL.4）

現状での長さは2.62m，幅0.5mで，南側の突出している部分は0.8mほどである。南側は調査区外に伸び，溝状を呈するが，北側で収束している。深さは，最深部で5cm前後と浅いため，上部がかなり掘削されたものと推定できる。埋土は上層のⅣ層土である。SK4に隣接し，並行している。

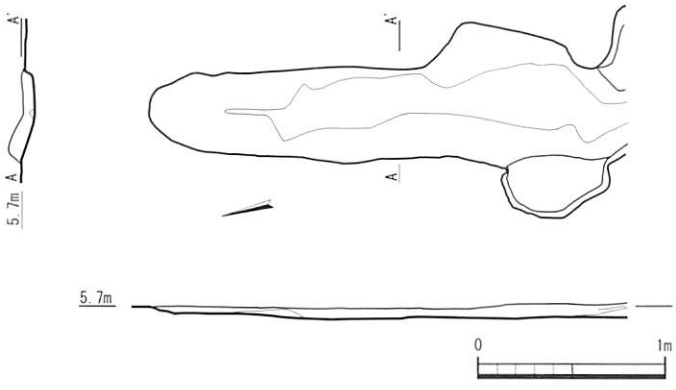
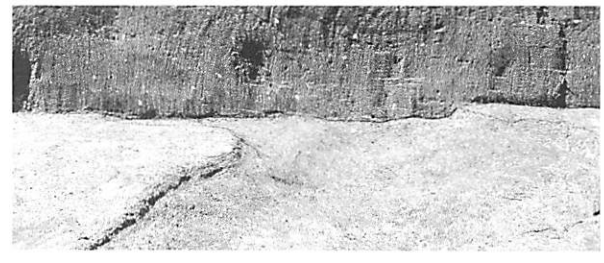


Fig.22　C地点SK3　S=1/40



PL.4　C地点SK3
上：検出状況，下：埋土断面

2)　SK4（Fig.23・PL.5・6）

現状での長さは2.3m，幅0.4mだが南側が太く0.9mほどである。南側は調査区外に伸び，溝状を呈するが，北側で収束している。深さは，5cm前後で浅い。埋土は上層のⅣ層土である。SK3に隣接し，並行している。

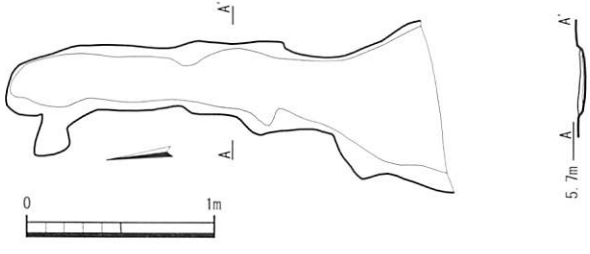


Fig.23　C地点SK4　S=1/40

PL.5　C地点SK4埋土断面

PL.6　C地点SK3（上）とSK4（下）完掘

2.3　Ⅵ層上面遺構

Ⅵ層上面では，SK5～10とSD4を検出した（Fig.24）。C地点は，中央部が攪乱のため遺物包含層が残存している部分は東西に分かれていたが，両地点とも遺構が確認できた。

このうち，SK5・6は住居跡である。これら住居跡と，SD4の遺構の向きはおおよそ同じ方向で配置されている。SK7・8・10はSK6・SD4に切られている。C地点東側の層の残存状況が良好なのに関わらず，SK5以外に遺構は確認できなかった。

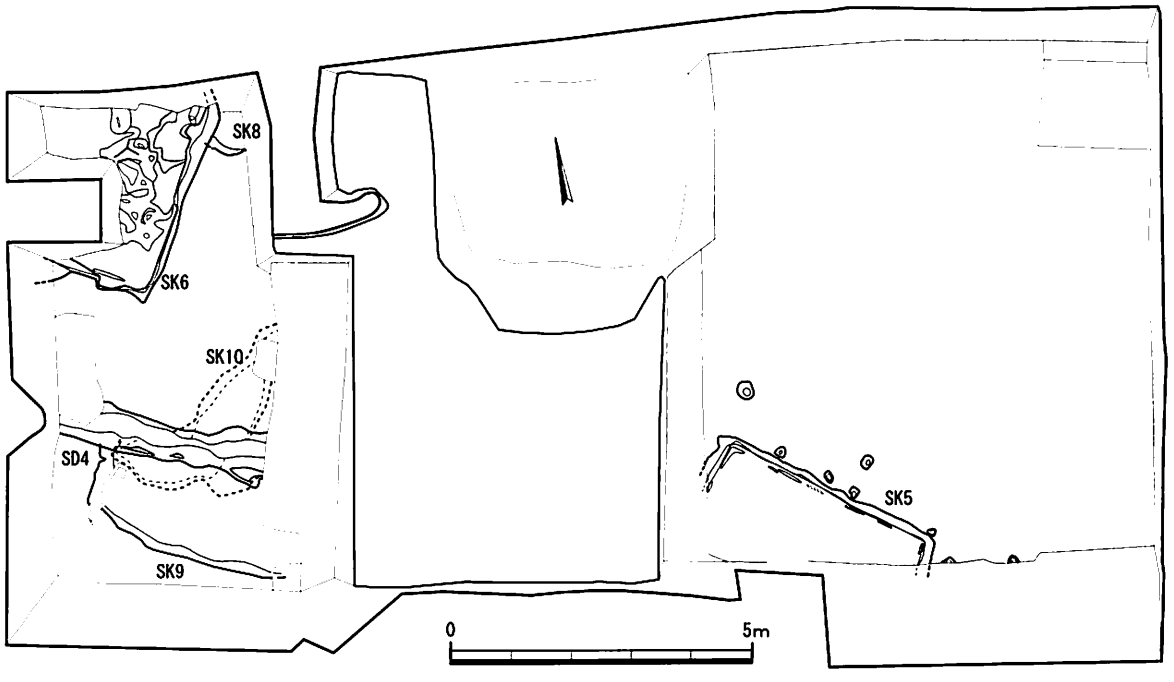


Fig.24　C地点Ⅵ層上面遺構検出状況　S=1/125

1)　SK5（Fig.25，PL.7・8）

C地点の東側，南壁に接して位置する。遺構の南半分は調査区外に広がり，未検出である。平面形は方形を呈する竪穴住居跡である。現状で，一辺が4m，検出面から床面までの深さは50cmである。床面中央部と考えられる位置に，炭が広がっており，炉跡であると推定される。

Ⅴ層とⅥ層土の混土である埋土の貼床を持ち，その深さは10cmほどである。床面の壁際に幅5cm前後の浅い溝が廻る。長さは40cm前後である。床面には柱穴がなく，竪穴外にピットが7基確認できた。ピットは直径20cm前後，深さは5～20cmと浅いが，これらが柱穴であろう。

床面以上の埋土は，褐灰色(10YR4/1)砂質シルトを基調とする。鉄分を少量含む。Ⅴ層土に類似し，Ⅵ層土とⅦ層土の2～3cm大のブロックを含む。

遺構出土遺物（Fig.31，PL.15，Tab.3）

SK5からは，弥生土器，古墳時代の土器，軽石製品が出土している。軽石製品以外は，小片である。ほとんどが床面より上位で出土している。このうち，実測できるものは11点であった。1は，弥生時代中期の壺胴部片である。2～5は古墳時代の甕の口縁部だが，小片のため詳細な時期が判別しがたいが，4は古墳時代後半期だと考えられる。18は薄手で比較的丁寧なつくりで，色調が白っぽいという特徴があり，坩の口縁部と推定できる。

10・11は軽石製品である。10は外形はあまり丁寧に調整していないが，くぼみ部分とその面は，意図的に磨ったような面が認められる。11の外面は滑らかである。

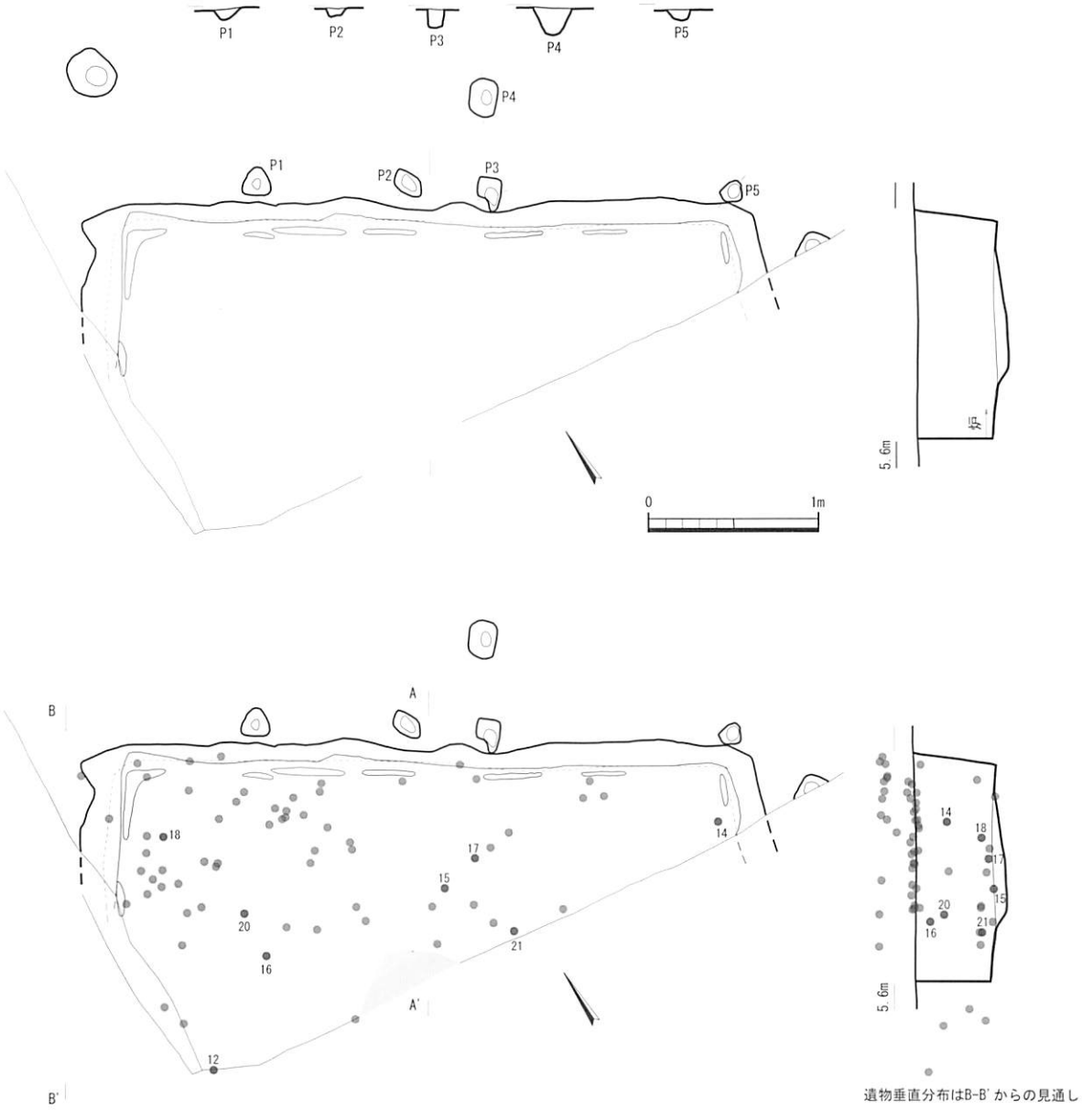


Fig.25　C地点SK5　　S=1/40

PL.7　C地点SK5
左：床面検出状況（南から），右：埋土断面（東から）

PL.8　C地点SK5完掘（南から）

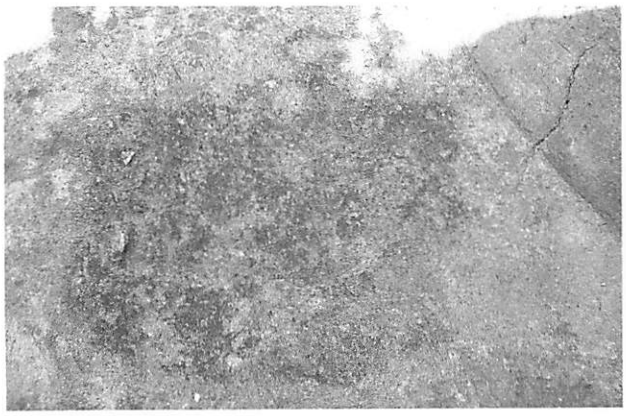
2) SK6（Fig.26, PL.9）

SK6は，C地点の北西すみで検出した。西側半分は調査区外に広がり，未検出である。現状から，平面形が一辺3.5m以上の方形を呈する竪穴住居跡であると考えられる。床面の遺構北側に炭の広がりが認められる。検出面から床面までの深さは約20cmで，深さ10～20cmの貼床を持つ。床面壁際に，長さ60cm，幅5cmほどの浅い溝が認められる。埋土は，以下のとおり上下2層に分かれる。

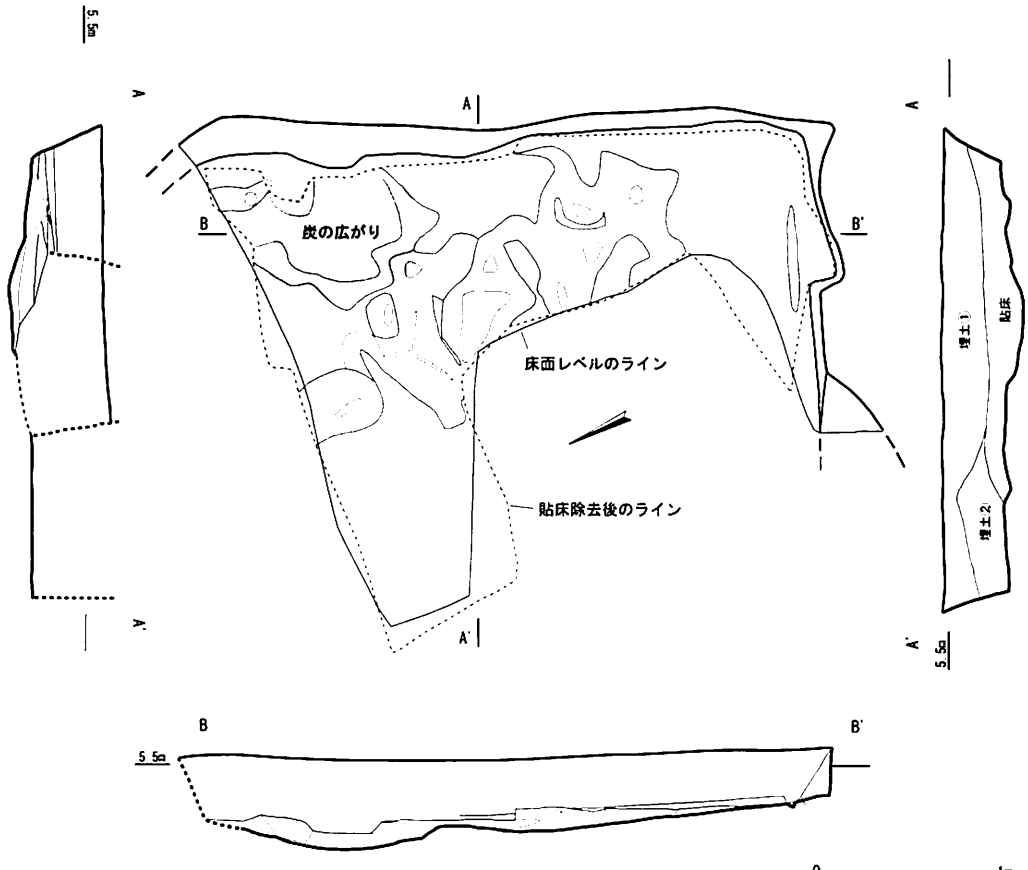
遺構出土遺物（Fig.31, PL.15, Tab.3）

埋土中より古墳時代の土器，黒曜石の石核が出土しているが，いずれも埋土上部から出土している。土器は，12以外は古墳時代後半期に位置付けられるものである。SK5と同じく小片が多いが，15や20などある程度まとまった形のものも出土している。15は甕の下半部で低い脚台を持つが，一部が脚台接合部で欠損している。20は鉢で，丁寧なつくりのものである。広口で，少し上げ底気味の平底を持ち，外面は赤色顔料が塗布され，主に横方向の細かいミガキが施されている。

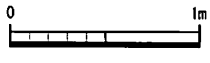
21の石核は，縄文時代の遺物であろうと考えられる。本調査区付近では，稀に縄文時代の遺物が出土することから，住居埋土中に混入したものと推察する。

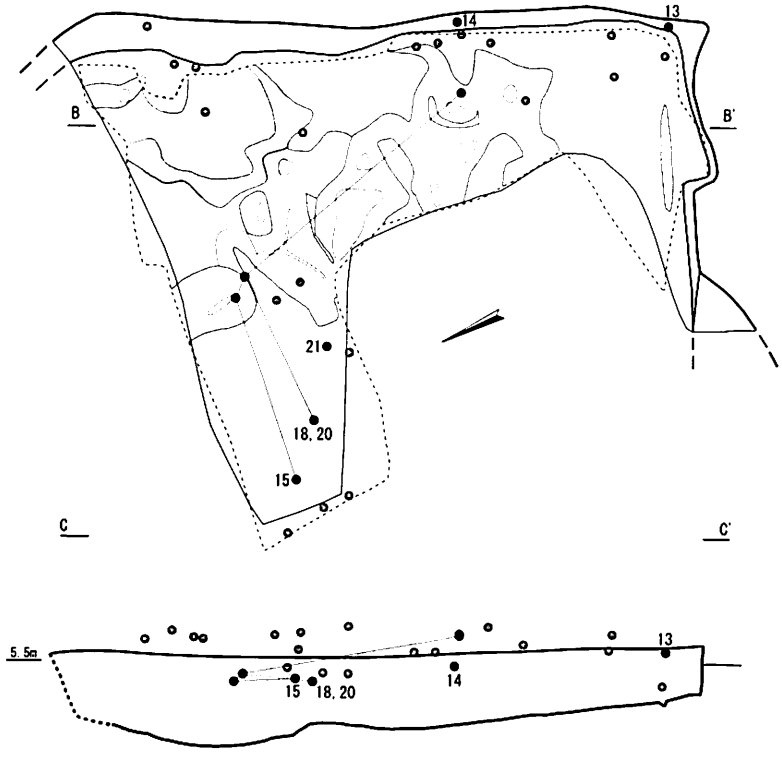


PL.9　C地点SK6(1)
左：床面検出炭，右上：検出状況（南東から），右下：床面検出状況（東から）



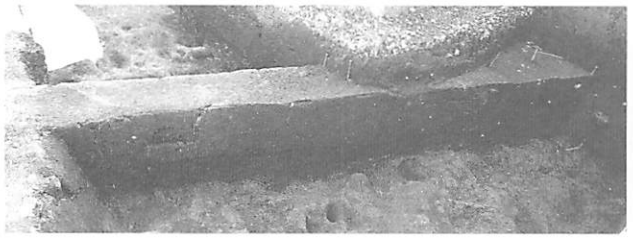
埋土①：灰褐色（10YR4/1）シルト質砂．1cm大弱のパミスを含む．下部に炭粒を含む．締りよい．
埋土②：褐灰色（10YR4/1）シルト質砂．パミス，炭粒を少量含む．締りよい．
貼床：Ⅵ層とⅦ層の混土．灰黄褐色（10YR6/2）シルトをブロック状に含む．





遺物出土状況　　遺物の垂直分布は、C-C'からの見通し

Fig.26　C地点SK6　S=1/40



PL.10　C地点SK6
左：埋土断面（北東から）、右：完掘状況（南東から）

3) SK7（Fig.27, PL.11）

調査区西側に位置する。SD4に切られている。北側は幅約1mだが，南側は幅が広がり，立ち上がりも緩やかである。深さは最深部で35cmである。

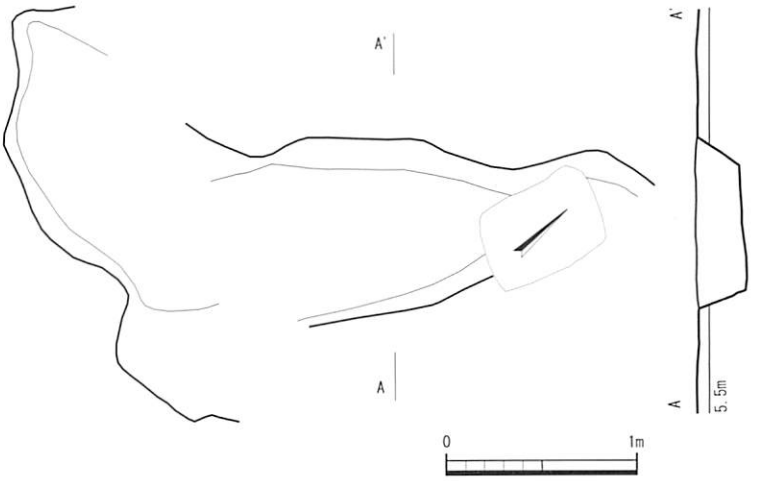


Fig.27　C地点SK7　S=1/40

PL.11　C地点SK7
左：検出状況（北から），右：完掘状況（北から）

4) SK8（Fig.28, PL.12）

調査区西側，北壁に接して位置している。遺構北側は調査区外に広がり，西側はSK6に切られているので，全形は判然としない。深さは約20cmで，埋土は黒色シルト（＝V層土）である。

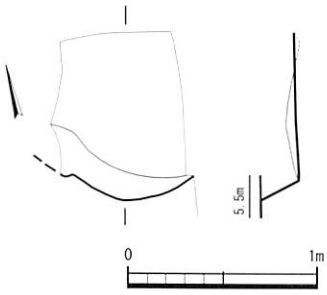


Fig.28　C地点SK8　S=1/40

PL.12　C地点SK8
上：検出状況（西から），下：完掘状況（北から）

5) SK9（Fig.29, PL.13）

調査区西側に位置する。遺構北側はSD4に切られ，東側は撹乱によって削平されている。現状では，長さ3.6m，幅1.6mを測る。平面形は長方形を呈すると推定される。。深さは約15cmで黒色シルト（＝V層土）が埋土となっている。

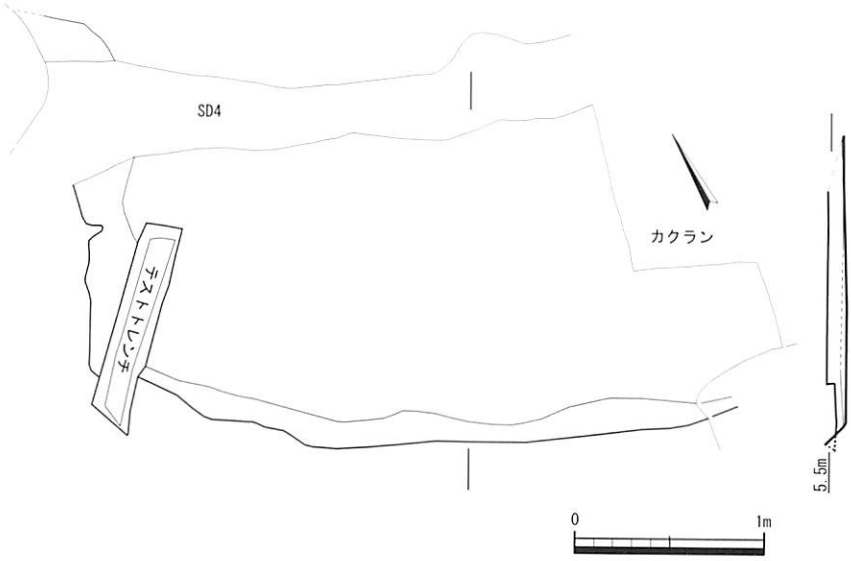


Fig.29　C地点SK9　S=1/40

PL.13　C地点SK 9
左：検出状況（北から），右：完掘状況（北から）

6)　SD4（Fig.30，PL.14）

調査区西側に位置する。幅60～90cmを測る。断面は南側が緩やかに立ち上がる，台形もしくはレンズ状を呈し，深さは約30cmである。埋土は2つに分層できる。埋土①は，Ⅳ層土に類似するが，Ⅴ層土のブロックを含む。埋土②は，Ⅴ層土とⅥ層土との混土。

遺構出土遺物（Fig.31，PL.15，Tab.3）

出土遺物は，埋土中より古墳時代の土器が出土している。いずれも小片だが，24・28から古墳時代後半期のものであるとわかる。23～26は甕の口縁部付近で，27は坩の口縁部である。

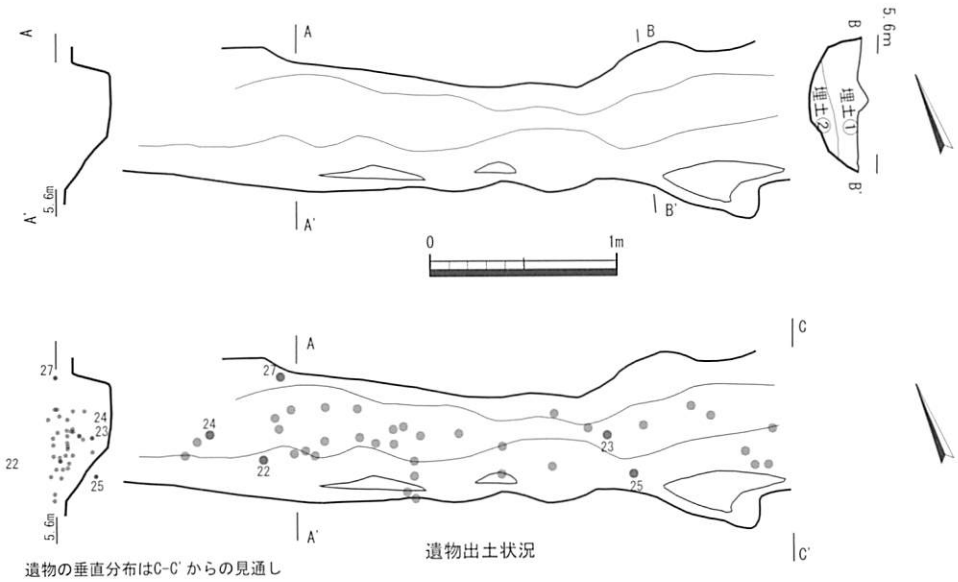


Fig.30　C地点SD4　S=1/40

PL.14　C地点SD 4
左：検出状況（北から），中：埋土断面（北から），右：完掘状況（北から）

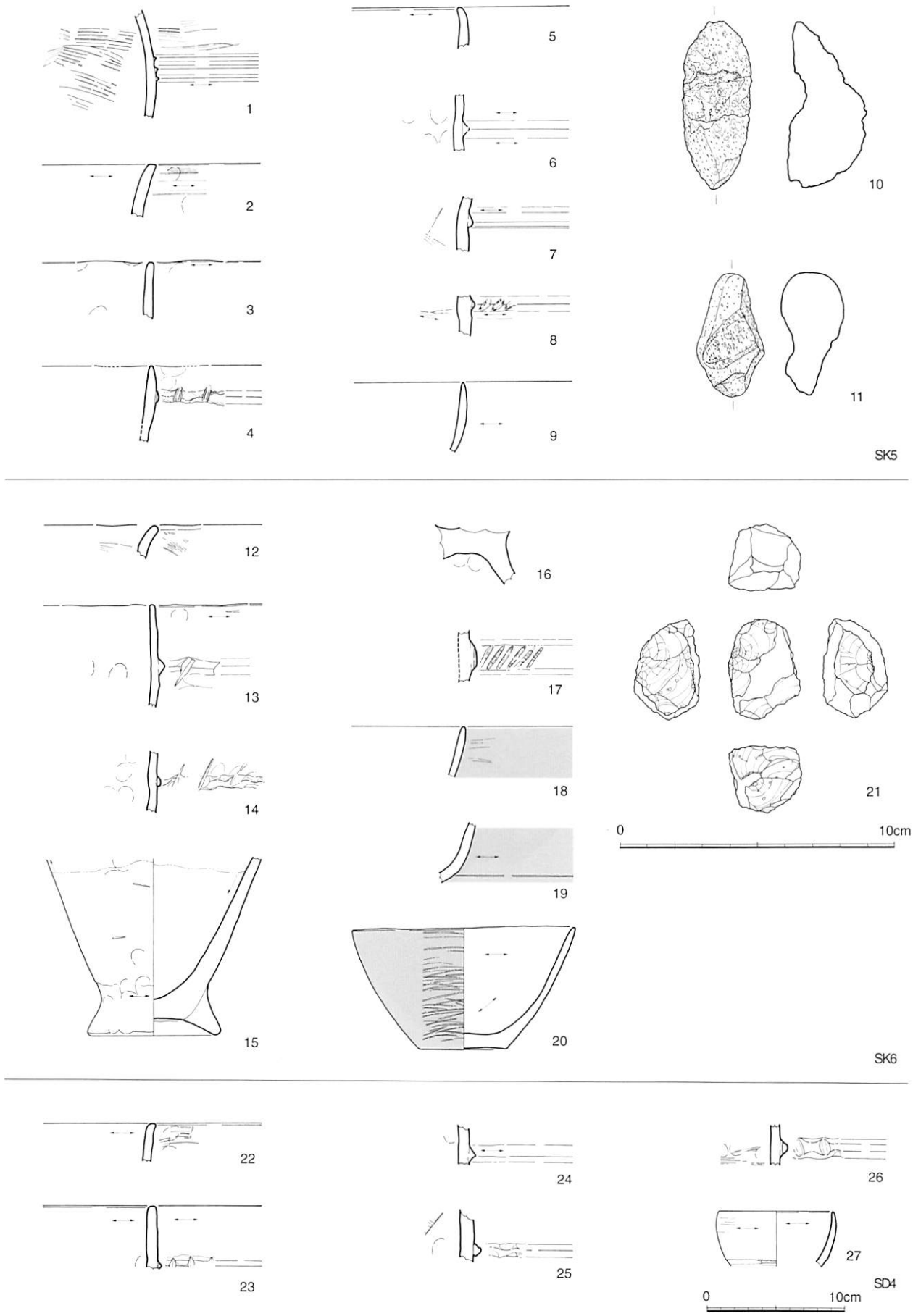
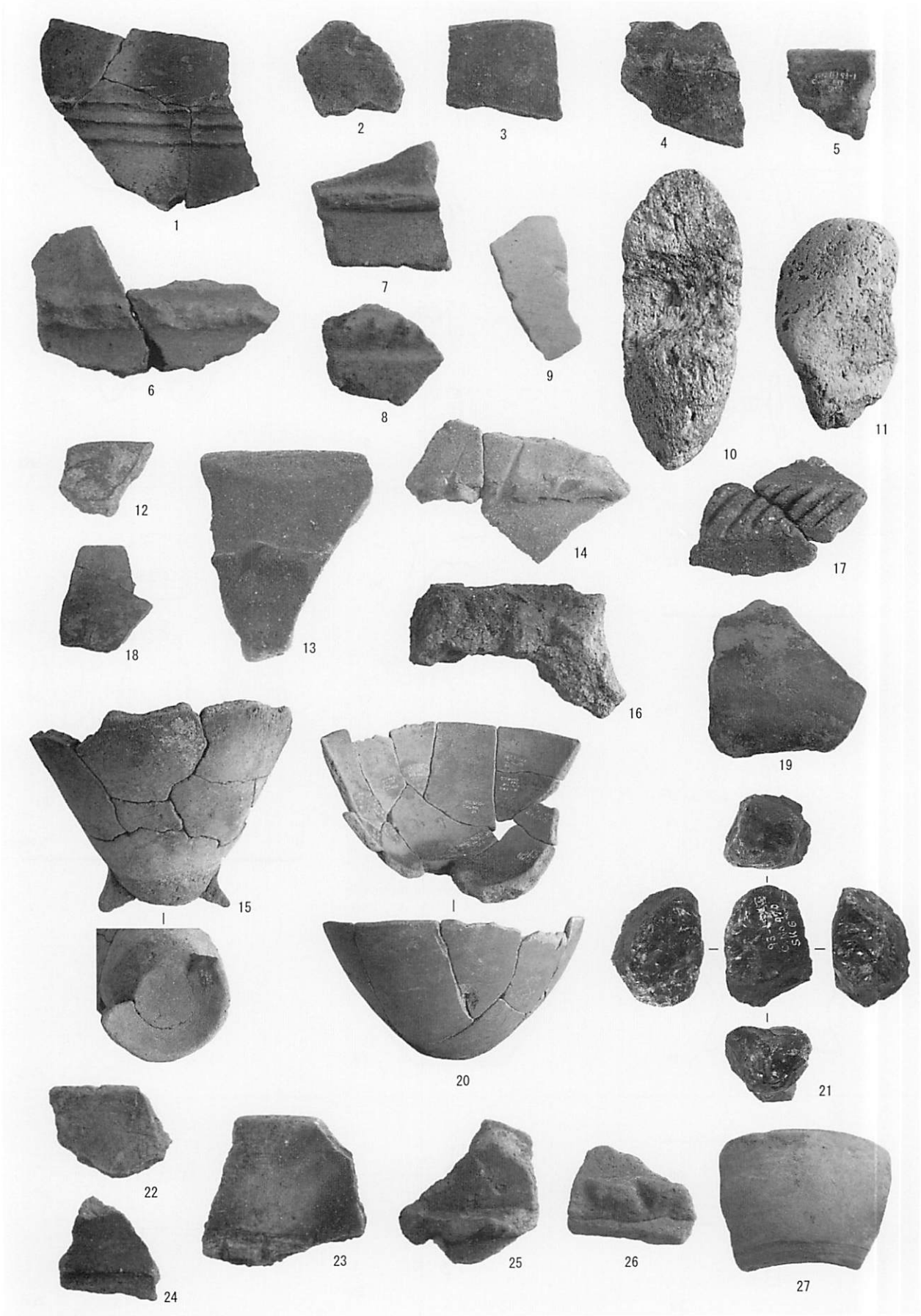


Fig. 31　C地点SK5・SK6・SD4出土遺物　S=1/4，21のみ1/2



PL.15　C地点SK5・SK6・SD4出土遺物

Tab. 3　C地点SK5・SK6・SD4出土遺物観察表

No.	層	種別	器種	部位	色調	胎土 混和材	胎土 砂粒の多さ	調整	備考
1	SK5	弥生	壺	胴部	外面:浅黄橙10YR8/3, 内面:灰白10YR7/1, 器肉:黄灰2.5Y6/1	細砂:角閃石, 石英, 白色粒	2	外面:ハケ(—)→ナデ, ヨコナデ, 内面:ハケ(—)(＼)→ナデ	貼付突帯3条.
2	SK5	古墳	甕	口縁部	外面:にぶい橙7.5YR6/4, 内面:灰白10YR8/2, 器肉:灰白7.5YR8/1	粗砂:石英, 赤色粒, 細砂:石英, 赤色粒, 角閃石	4	外面:ナデ, ヨコナデ, 内面:ナデ(—)	外面スス付着.
3	SK5	古墳	甕	口縁部	外面:灰黄褐10YR4/2, 内面:灰黄褐10YR5/2, 器肉:褐灰10YR6/1	粗砂:石英, 細砂:石英, 白色粒, 赤色粒, 角閃石	3	外面:ナデ(—), 内面:ナデ	外面スス付着.
4	SK5	古墳	甕	口縁部	外面:灰黄褐10YR4/2, 内面:にぶい黄褐10YR4/3, 器肉:灰黄褐10YR6/2	粗砂:石英, 角閃石, 細砂:石英, 白色粒	4	外面:ナデ, 内面:磨滅のため不明	刻目突帯1条. 外面スス付着.
5	SK5	古墳	甕	口縁部	外面:灰黄褐10YR6/2, 内面:浅黄橙10YR8/3, 器肉:にぶい黄橙10YR7/2	粗砂:角閃石, 細砂:角閃石, 石英, 白色粒	3	外面:ナデ, 内面:ヨコナデ	外面スス付着.
6	SK5	古墳	甕	胴部	外面:橙2.5YR6/8, 内面:橙2.5YR6/8, 器肉:褐灰10YR5/1	細砂:角閃石, 白色粒, 石英	3	外面:ヨコナデ, 内面:ナデ	三角突帯1条.
7	SK5	古墳	甕	胴部	外面:にぶい橙7.5YR6/4に類似, 内面:橙5YR7/6, 器肉:浅黄橙7.5YR8/3	粗砂:白色粒, 細砂:白色粒, 角閃石, 石英	4	外面:ナデ, ヨコナデ, 内面:ハケ(＼)→ナデ	貼付突帯1条
8	SK5	古墳	甕?	胴部	外面:にぶい褐7.5YR6/3, 内面:にぶい褐7.5YR6/3, 器肉:浅黄橙7.5YR8/4	粗砂:白色粒, 石英, 細砂:石英, 角閃石, 赤色粒	4	外面:ナデ, ヨコナデ, 内面:ナデ	刻目突帯1条. 刻目中に布目圧痕.
9	SK5	古墳	坩?	口縁部	外面:浅黄橙10YR8/4, 内面:浅黄橙10YR8/4, 器肉:灰白10YR7/1	細砂:石英, 角閃石	1	外面:ナデ(—), 内面:ナデ	
12	SK6	古墳	甕	口縁部	外面:にぶい褐に類似7.5YR5/3, 内面:にぶい橙に類似7.5YR6/4, 器肉:浅黄橙に類似10YR8/3.	礫:黒色粒, 白色粒. 粗砂:赤色粒, 白色粒. 砂:角閃石, 石英, 白色粒. 細砂:黒色粒, 透明粒.	3	外面:ナデ(—)・ユビオサエ. 内面:丁寧なナデ.	刻目突帯1条.
13	SK6	古墳	甕	口縁部	外面:にぶい黄褐に類似10YR7/3, 内面:にぶい橙7.5YR6/4, 器肉:にぶい黄褐に類似10YR5/3.	砂:黒色粒. 細砂:黒色粒, 透明粒.	3	外面:ハケ(＼). 内面:ナデ(—)(｜).	
14	SK6	古墳	甕	胴部	外面:橙5YR6/6, 内面:橙7.5YR6/6, 器肉:橙5YR7/6	粗砂:白色粒, 細砂:白色粒, 赤色粒, 角閃石, 石英	3	外面:ナデ, 内面:ナデ	刻目突帯1条. 外面スス付着.
15	SK6	古墳	甕	胴下部～底部	外面:浅黄橙10YR8/3, 内面:にぶい橙7.5YR6/4, 器肉:明赤褐2.5YR5/6	礫:白色粒, 粗砂:白色粒, 石英, 角閃石, 細砂:白色粒, 石英, 角閃石	4	外面:ハケ(？)→ナデ, 内面:ナデ	内底面および外面上部にスス付着. 底径9.6cm
16	SK6	古墳	甕	底部	外面:浅黄橙10YR8/4, 内面:浅黄橙7.5YR8/4, 器肉:淡橙5YR8/4	粗砂:赤色粒, 細砂:白色粒, 赤色粒, 角閃石, 石英	5	外面:ナデ, 内面:ナデ	
17	SK6	古墳	壺	胴部	外面:にぶい橙7.5YR6/4, 内面:にぶい橙7.5YR7/4, 器肉:にぶい橙7.5YR7/4	粗砂:白色粒, 細砂:白色粒, 角閃石, 石英	4	外面:ヨコナデ, 内面:剥落のため不明	幅広突帯, ハケ工具による斜め平行文を施す.
18	SK6	古墳	高坏	口縁部	外面:にぶい赤褐5YR4/4, 内面:にぶい橙7.5YR7/4, 器肉:浅黄橙7.5YR8/6	粗砂:赤色粒, 細砂:赤色粒, 石英	1	外面:ミガキ(—), 内面:ナデ	外面, 赤色顔料塗布
19	SK6	古墳	高坏	杯部	外面:暗赤褐2.5YR3/4, 内面:にぶい橙7.5YR6/4, 器肉:にぶい橙7.5YR6/4	粗砂:赤色粒, 細砂:石英, 白色粒	1	外面:ミガキ(磨滅のため不明瞭), 内面:ナデ(磨滅のため不明瞭)	外面, 赤色顔料塗布
20	SK6	古墳	鉢	完形	外面:橙7.5YR6/6, 内面:橙5YR6/6, 器肉:橙5YR7/6	粗砂:赤色粒, 細砂:角閃石, 白色粒, 石英	1	外面:ミガキ(—)(／), 内面:ナデ(—)	外面, 赤色顔料塗布. 口径16.2cm 底径6.4cm, 器高8.4cm
22	SD4	古墳	甕	口縁部	外面:にぶい黄橙10YR7/4, 内面:オリーブ黒5Y3/1, 器肉:浅黄橙10YR8/3	粗砂:石英, 細砂:石英, 角閃石, 赤色粒	4	外面:ハケ→ナデ(—), 内面:ナデ(—)	外面スス付着.
23	SD4	古墳	甕	口縁部	外面:にぶい黄橙10YR7/2, 内面:にぶい黄橙10YR7/2, 器肉:黄灰2.5Y4/1	粗砂:石英, 白色粒, 細砂:石英, 白色粒, 角閃石, 赤色粒	4	外面:ナデ(—), 内面:ハケ(—)→ナデ	刻目突帯1条. 外面スス付着.
24	SD4	古墳	甕	胴部	外面:黒褐7.5YR3/1, 内面:にぶい橙7.5YR6/4 器肉:橙7.5YR6/6	粗砂:赤色粒, 白色粒, 細砂:赤色粒, 白色粒, 角閃石, 石英	4	外面:ナデ, ヨコナデ, 内面:ナデ	三角突帯1条, 外面スス付着.
25	SD4	古墳	甕	胴部	外面:灰黄褐10YR4/2, 内面:浅黄橙7.5YR8/4, 器肉:黄灰2.5Y5/1	礫:白色粒, 粗砂:白色粒, 石英, 角閃石, 細砂:白色粒, 石英, 角閃石	4	外面:ナデ, 内面:ハケ(＼)→ナデ	格縄突帯1条, 外面スス付着.
26	SD4	古墳	甕?	胴部	外面:橙7.5YR6/6, 内面:にぶい黄橙10YR7/4, 器肉:褐灰10YR5/1	粗砂:石英, 細砂:石英, 角閃石, 白色粒	4	外面:ナデ, 内面:細かいハケ(—)→ナデ	刻目突帯1条.
27	SD4	古墳	坩	口縁部～頸部	外面:にぶい黄橙10YR7/3, 内面:にぶい黄橙に類似10YR7/2, 器肉:灰白に類似10YR8/2	細砂:黒色粒, 透明粒	1	外面:丁寧なナデ, 内面:ナデ(—)・(｜)	口径8.3cm

Tab. 4　C地点SK5・SK6・SD4出土遺物観察表

No.	層	材質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
10	SK5	軽石	12.0	4.9	5.5	61.3	中央部にくぼみがある. 使用痕か.
11	SK5	軽石	8.8	4.9	4.5	28.3	表面に擦ったような加工面をもつ.
21	SK6	黒曜石	2.5	3.5	2.3	23.2	石核. 気泡が多い. 三船産か？

3　D地点

3.1　層位（Fig.32）

D地点の南側と西側は近年のカクランを受けており，プライマリーな遺物包含層が確認できたのは北側約2/3の部分である。基本土層として，1～Ⅵ層まで確認した。遺物はⅠ層からⅤ層まで出土している。

Ⅰ層　盛土。シラスと砂利。

Ⅱ1層　暗灰黄色（2.5YR5/2）砂混じりシルト。0.5cm大のパミスを含む。

Ⅱ2層　にぶい黄褐色（10YR5/3）砂混じりシルト。0.5cm大のパミスを含む。西側：灰褐色（7.5YR4/2）シルト。東壁：暗灰黄色（2.5YR5/2）砂混じりシルト。0.5cm大のパミスを含む。

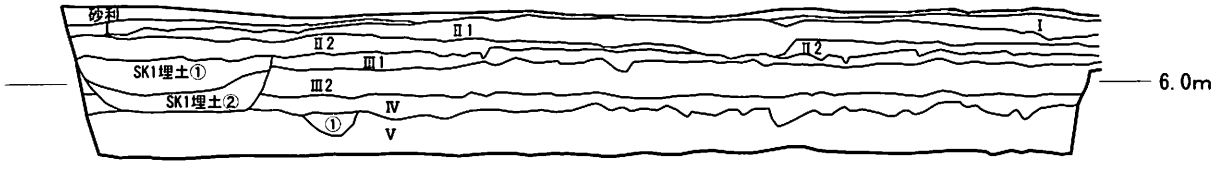
Ⅲ1層　黄褐色（2.5Y5/3）砂混じりシルト。0.5cm大のパミスを含む。西側：にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト。

Ⅲ2層　灰黄褐色（10YR5/2）砂質シルト。0.5cm大のパミスを含む。西側：褐灰色（10YR5/1）シルト。

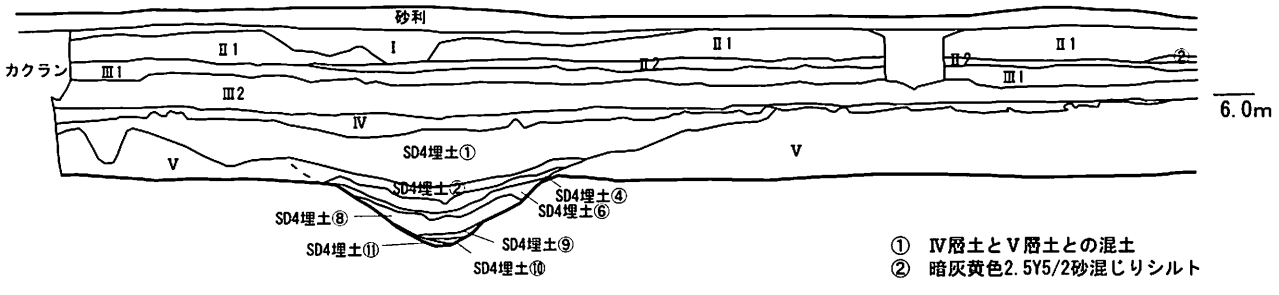
Ⅳ層　黒褐色（10YR2/3）シルト，粘性ややあり。2cm大以下のパミスを含む。東壁：褐灰色（7.5YR4/1）シルト。

Ⅴ層　黒（2.5Y2/1）シルト。粘性ややあり。2cm大以下のパミスを含む。東壁：黒（7.5Y2/1）シルト。

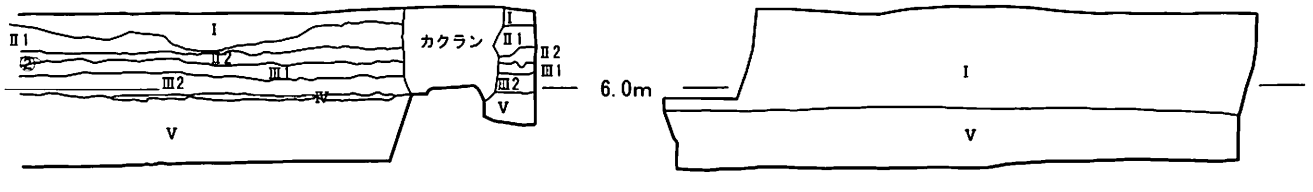
Ⅵ層　黒褐色（2.5Y3/2）砂層。5cm大以下のパミスを含む。東壁：暗褐色（10YR3/4）粗砂層。



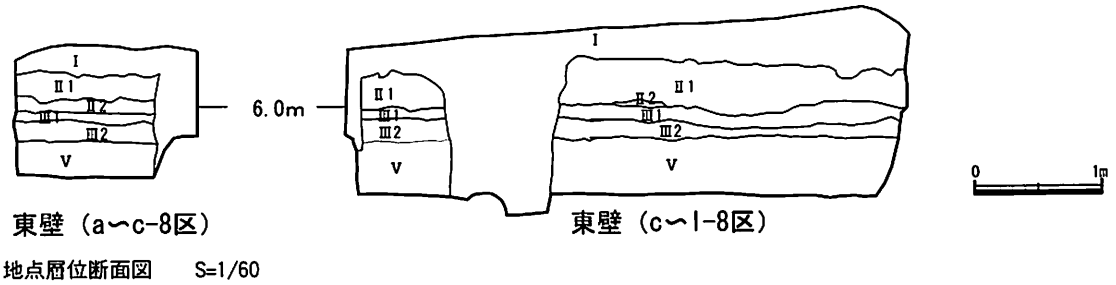
北壁（東側）



北壁（中央部）



北壁（西側）



東壁（a～c-8区）　　東壁（c～l-8区）

Fig.32　D地点層位断面図　　S=1/60

3.2　Ⅱ2層上面遺構

Ⅱ2層上面では，SK3とSD1・2を検出した（Fig.33）。SD1とSD2は途切れていはいるが，それぞれの延長上に位置し，幅や形状が似ていることから，同一遺構である可能性もある。

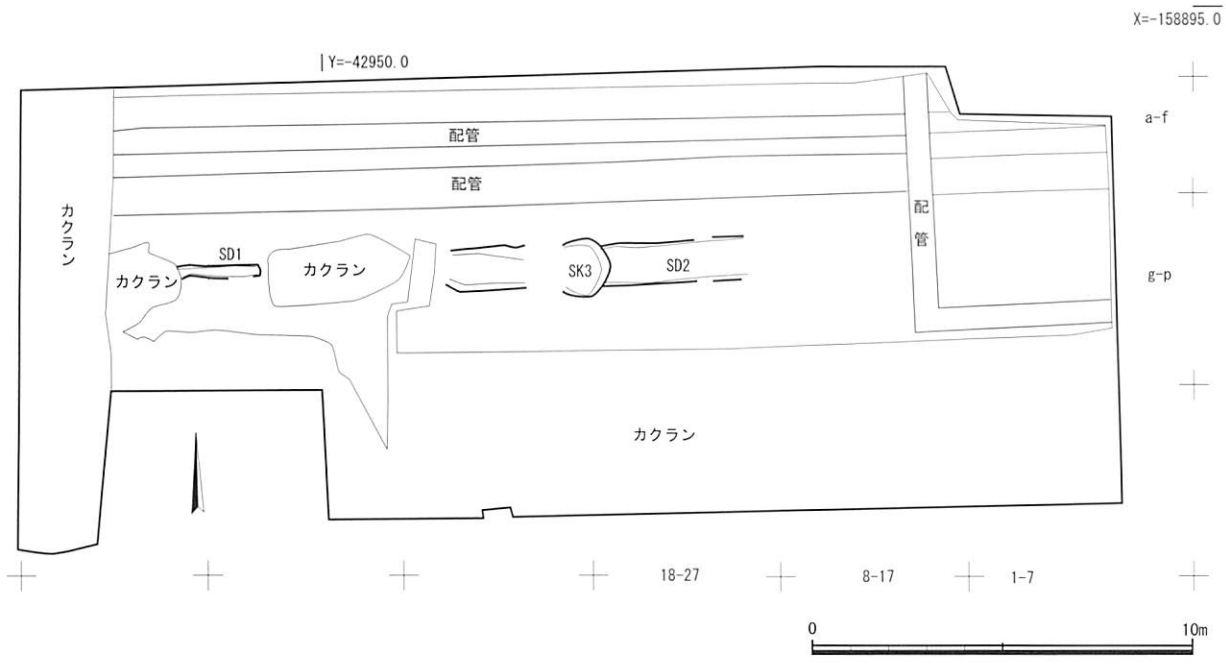
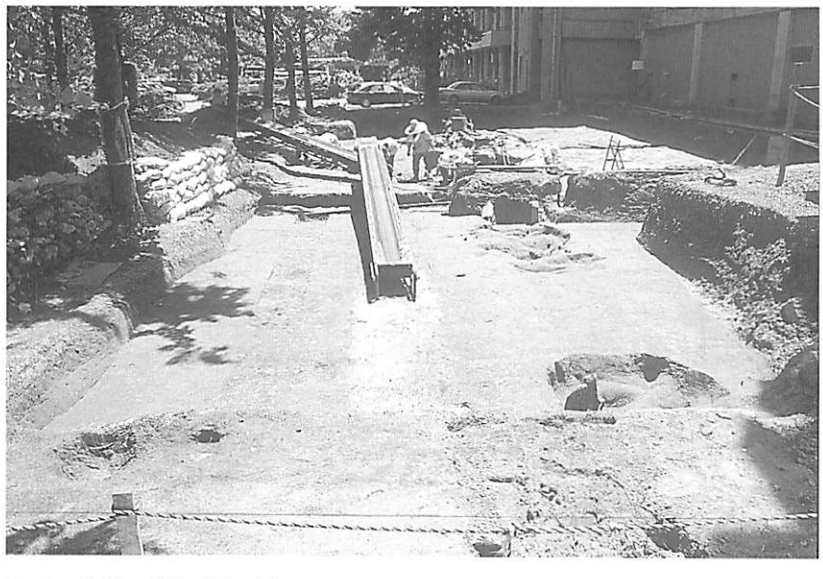


Fig.33　D地点Ⅱ2層上面遺構検出状況　S=1/200



PL.16　作業の様子（西から）

PL.17　D地点Ⅱ2層検出状況（南西から）

1)　SK3（Fig.34，PL.18）

調査区のほぼ中央に位置する。西側が攪乱によって削平されているが，平面形は円形を呈する。直径が約1.6m，深さは40cmである。埋土は，Ⅱ1層土である。

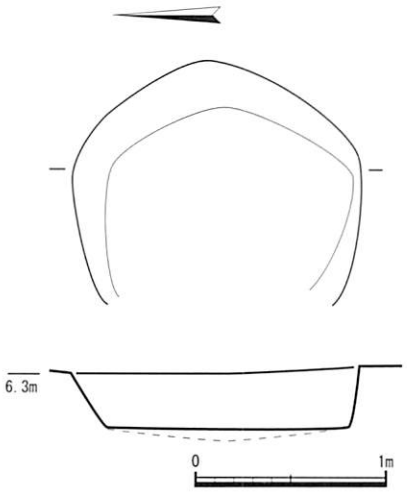


Fig.34　D地点SK3　S=1/40

PL.18　D地点SK3
上：検出状況（南東から），下：完掘状況（南東から）

2）SD1（Fig.35，PL.19）

調査区西側に位置し，東西方向に伸びる。幅約30cmで，深さは4cmと浅い。遺構西側はカクラン土坑によって掘削され，上面もかなり削平されているようである。埋土は，黄褐色（2.5Y5/3）砂質シルトで，軟らかくぱさぱさしている。

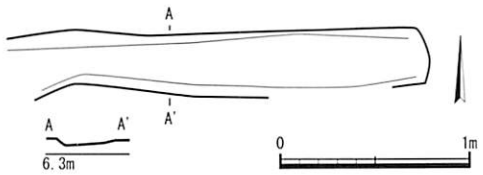


Fig.35　D地点SD1　S＝1/40

PL.19　D地点SD1
右上：検出状況（南西から），左：埋土（西から），右下：完掘状況（南から）

3) SD2（Fig.36, PL.20）

調査区中央部に東西方向に横断するように位置する。幅約54cmで，深さは8cmと浅い。上面がかなり削平されているようである。SD1の延長上にあることから，SD1と同一の遺構の可能性も高い。埋土は，(2.5Y4/2) シルト質砂である。

遺構出土遺物（Fig.37, PL.21, Tab.5）

埋土中からはガラス瓶の破片や針金などが出土し，その中に土器が混入していた。そのうち，実測可能なものは1点である。28は古墳時代土器の高杯脚部で，かなり摩滅している。

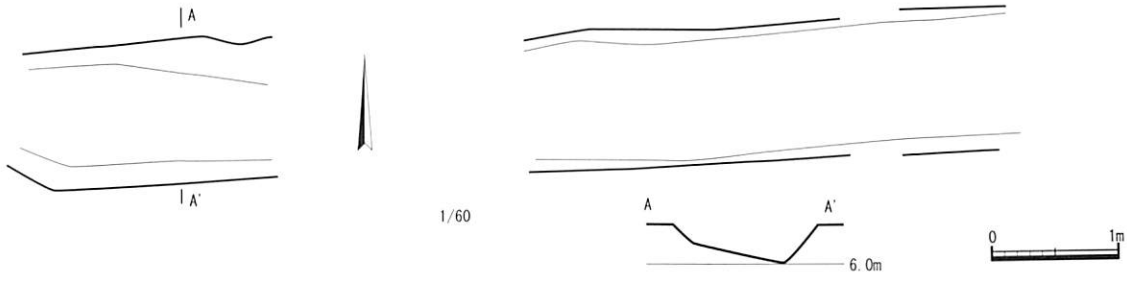


Fig.36　D地点SD2　S=1/60

PL.20　D地点SD2
上：埋土断面（東から），下：完掘状況（西から）

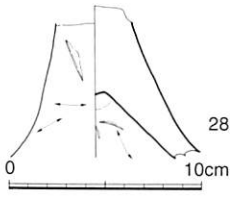


Fig.37　D地点SD2出土遺物　S=1/4

28

PL.21　D地点SD2出土遺物

Tab.5　D地点SD2出土遺物観察表

No.	層	種別	器種	部位	色調	胎土 混和材	胎土 砂粒の多さ	調整	備考
28	SD2	古墳	高坏	脚部	外面:にぶい黄橙10YR7/4, 内面:にぶい黄橙10YR7/3に類似, 器肉:にぶい黄橙10YR7/4に類似	粗砂:黒色粒, 砂:石英, 角閃石, 赤色粒, 細砂:黒色粒, 透明粒	3	外面:ハケ(＼)・打ち込み痕あり→ナデ(—)(／). 内面:ハケ(—)・打ち込み痕あり・ナデ(｜).	杯部との接合痕あり.

3.3　Ⅲ1層上面遺構

Ⅲ1層上面からは，SK1・2・4・5を検出した（Fig.38）。SK2・4・5は大きさや形状が類似しており，穂積み跡ではないかと考えられる。

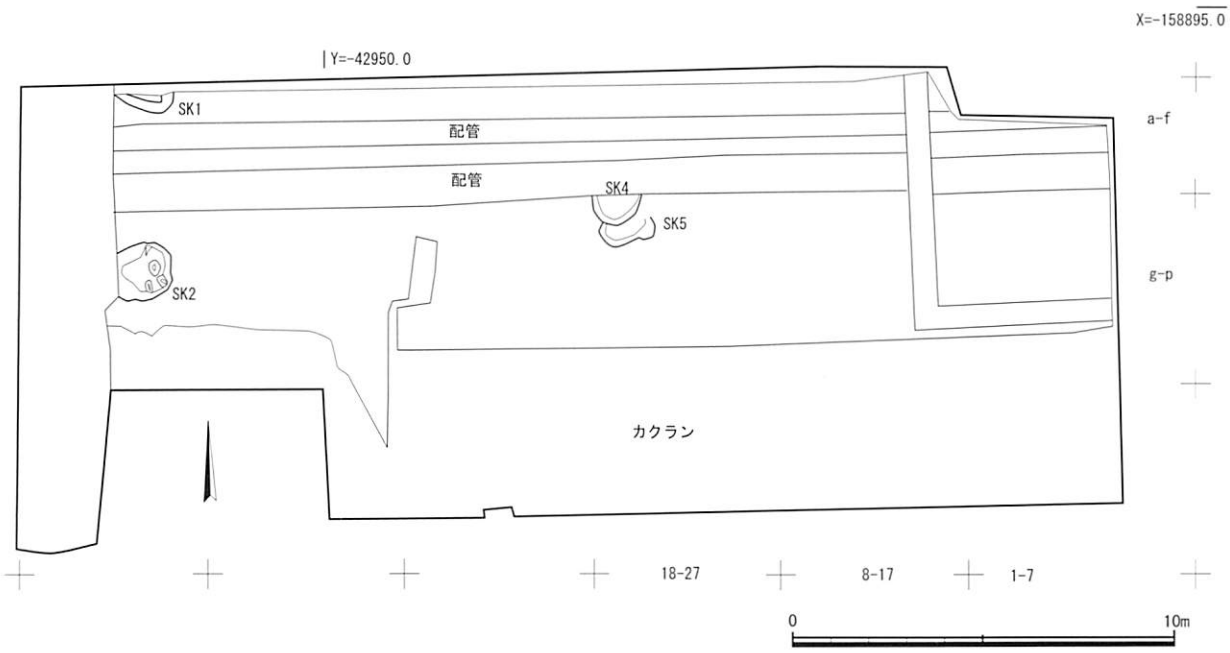


Fig.38　D地点Ⅲ1層上面遺構検出状況　S=1/200

1）SK1（Fig.39・PL.22）

SK1は，調査区西すみに位置する。遺構西側は調査区外に広がっているので，未検出である。現状から，平面形は円形を呈する土坑であると考えられる。現状で，直径156cm，深さ42cmを測る。埋土は2層に分層できる（層位断面図Fig.32北壁参照）。

埋土①　にぶい黄褐色（10YR 5/4）シルト質砂と灰黄褐色（10YR 5/2）シルト質砂の混土。

埋土②　埋土①と暗褐色（10YR 3/3）シルト質砂との混土

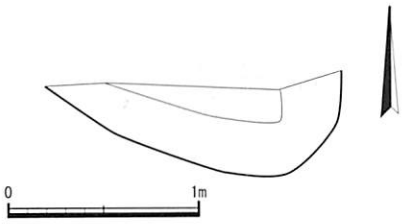


Fig.39　D地点SK1　S=1/40

PL.22　D地点SK1
上：検出状況（北から），下：完掘状況（北から）

2) SK2（Fig.40, PL.23）

SK2は調査区北西すみに位置する。遺構北側は調査区外に広がっているので，未検出である。現状から，平面形は円形を呈する土坑であると考えられる。現状で，直径157cm，深さ32cmを測る。底面に，小ピットが4個あり，底面からの深さは約10cmである。断面形は，底面がほぼ平らで，直線的に立ち上がる形状である。。埋土は，にぶい黄褐色（10YR 5/4）シルト質砂と灰黄褐色（10YR 5/2）シルト質砂と暗褐色（10YR 3/3）シルト質砂との混土である。

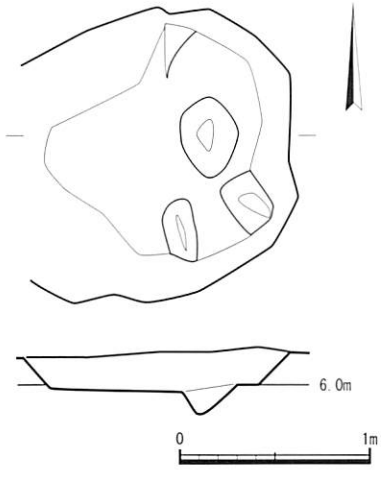


Fig.40　D地点SK2　S=1/40

PL.23　D地点SK2完掘状況（西から）

3) SK4（Fig.41, PL.24）

SK4は調査区中央部に位置する。遺構北側は，配管による撹乱によって削平されているが，平面形は円形を呈すると考えられる。直径132cm，深さ12cmを測る。断面形は底面はほぼ平らで，緩やかに立ち上がる。埋土は灰黄褐色（10YR4/2）シルト質砂である。

4) SK5（Fig.41, PL.24）

SK5は，調査区中央部に位置し，遺構北側をSK4に切られている。平面形は，東側が少し飛び出る楕円形を呈する。径は150cm，深さ10cmを測る。断面形は底面はほぼ平らで，緩やかに立ち上がる。埋土はⅡb層土である。

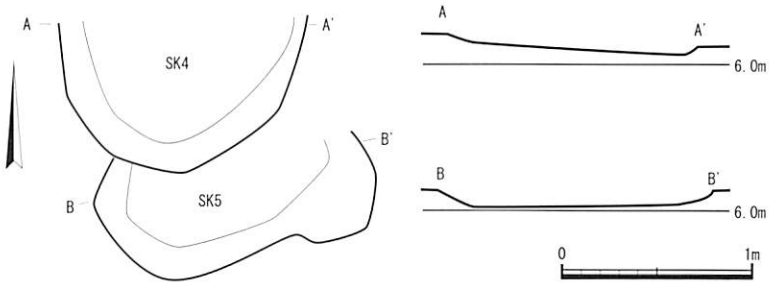


Fig.41　D地点SK4・5　S=1/40

PL.24　D地点SK4・5
左：検出状況（南から），中：SK 4完掘状況（東から），右：SK5完掘状況（北から）

3.4　V・Ⅵ層上面遺構

V層とⅥ層上面では，SD3・4とピット20基検出した（Fig.42）。調査時には，V層上面でSD3を検出し，SD3完掘後にその下から多量の土器がまとまって出土した。また，土器群の平面分布とⅥ層上面で検出されたSD4の位置が重なった。壁面での土層観察から，SD4はV層中から掘り込まれていることが判明した。また，SD3はSD4 が埋没した後，くぼ地となった場所に異なる土が堆積したと考えられ，SD4埋土最上部にあたる可能性が高い。これらの状況から，SD3・SD4は同一の遺構と捉え，Ⅵ層上面で検出されたピット群も含めて，同一層検出遺構としてまとめて扱う。

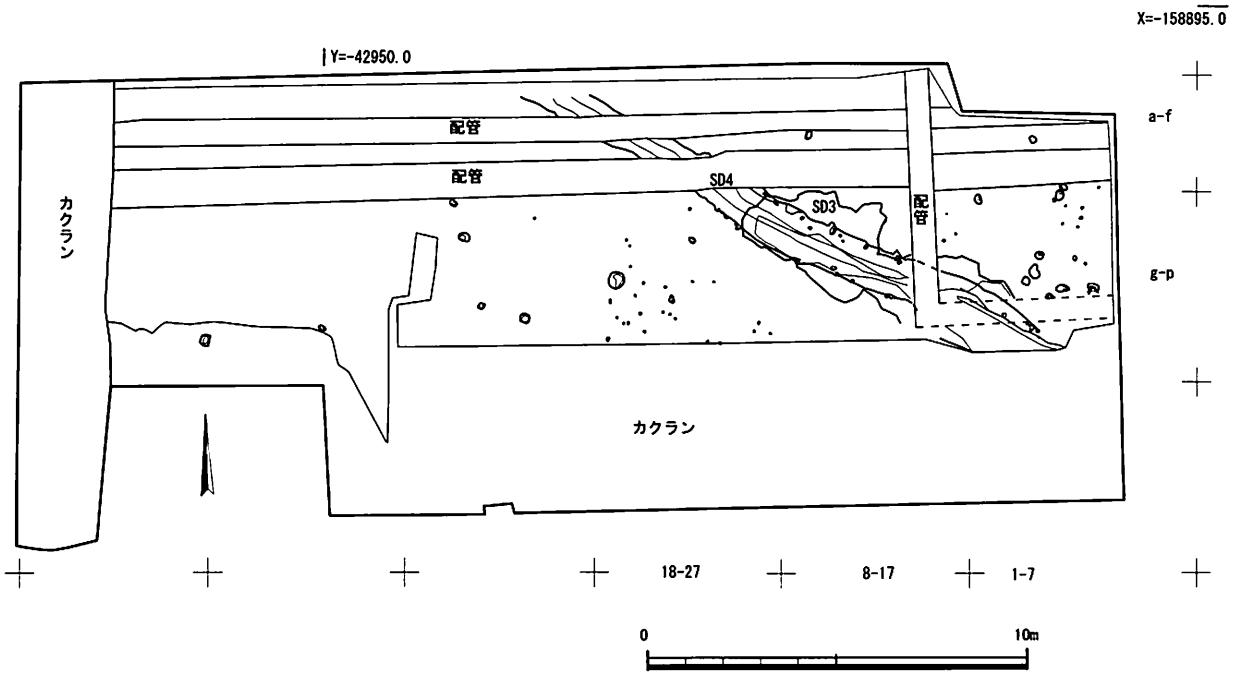


Fig.42　D地点V・Ⅵ層上面遺構検出状況　S=1/200

1)　SD3（Fig.43，PL.25）

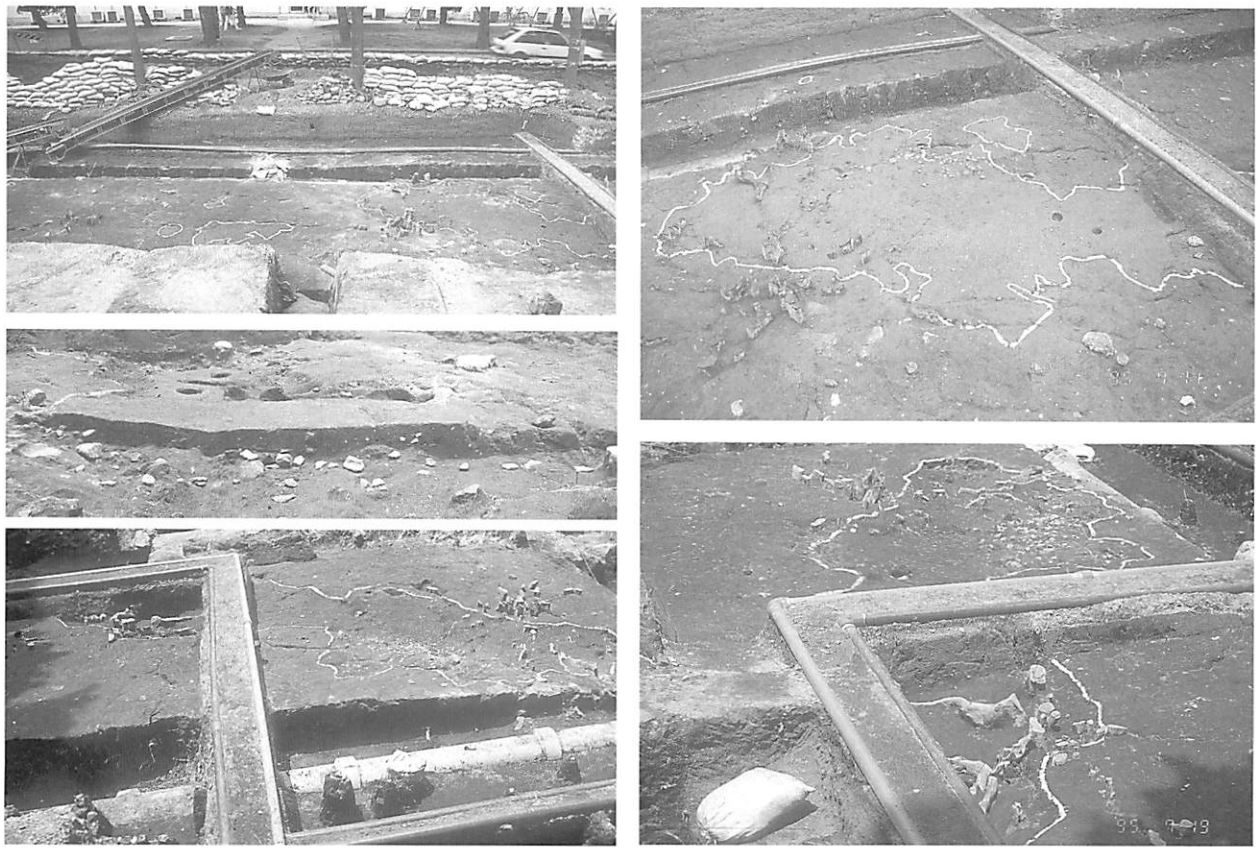
SD3は，調査区東側に位置する。北西から南東方向に伸びるが，平面形は不定形で，最大幅276cm，深さ12cmを測る。断面はなだらかなレンズ状である。SD4と位置がほぼ重なることから，SD4の埋土の窪みに溜まったものである可能性が高いが，検出時のまま，SD3として取り上げた。

埋土は，褐灰色（7.5YR4/1）粗砂混じりシルト。1～2cm大のパミス含む。

出土遺物（Fig.44，PL.26，Tab.6）

遺物は，古墳時代の土器片が埋土中より出土したが，いずれも小片である。そのうち，実測可能なものは25点であった。このうち，29～47は甕，49～51が壺，52～54が高杯であるが，圧倒的

Fig.43　D地点SD3　S=1/40



PL.25　D地点SD3
左上：検出状況（南から），右上：検出状況（南から），左中：埋土断面（西から），右下：完掘状況（北から），左下：完掘（東から）

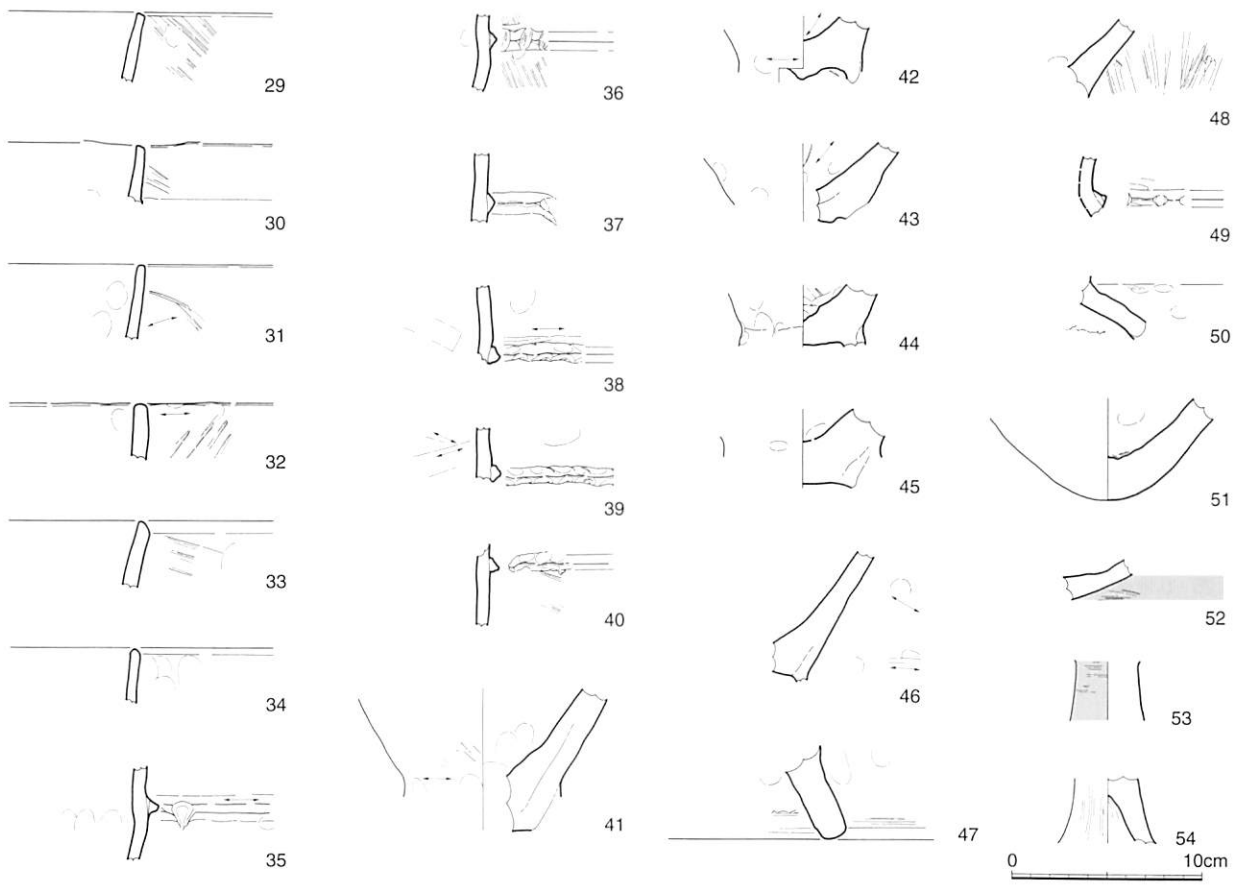
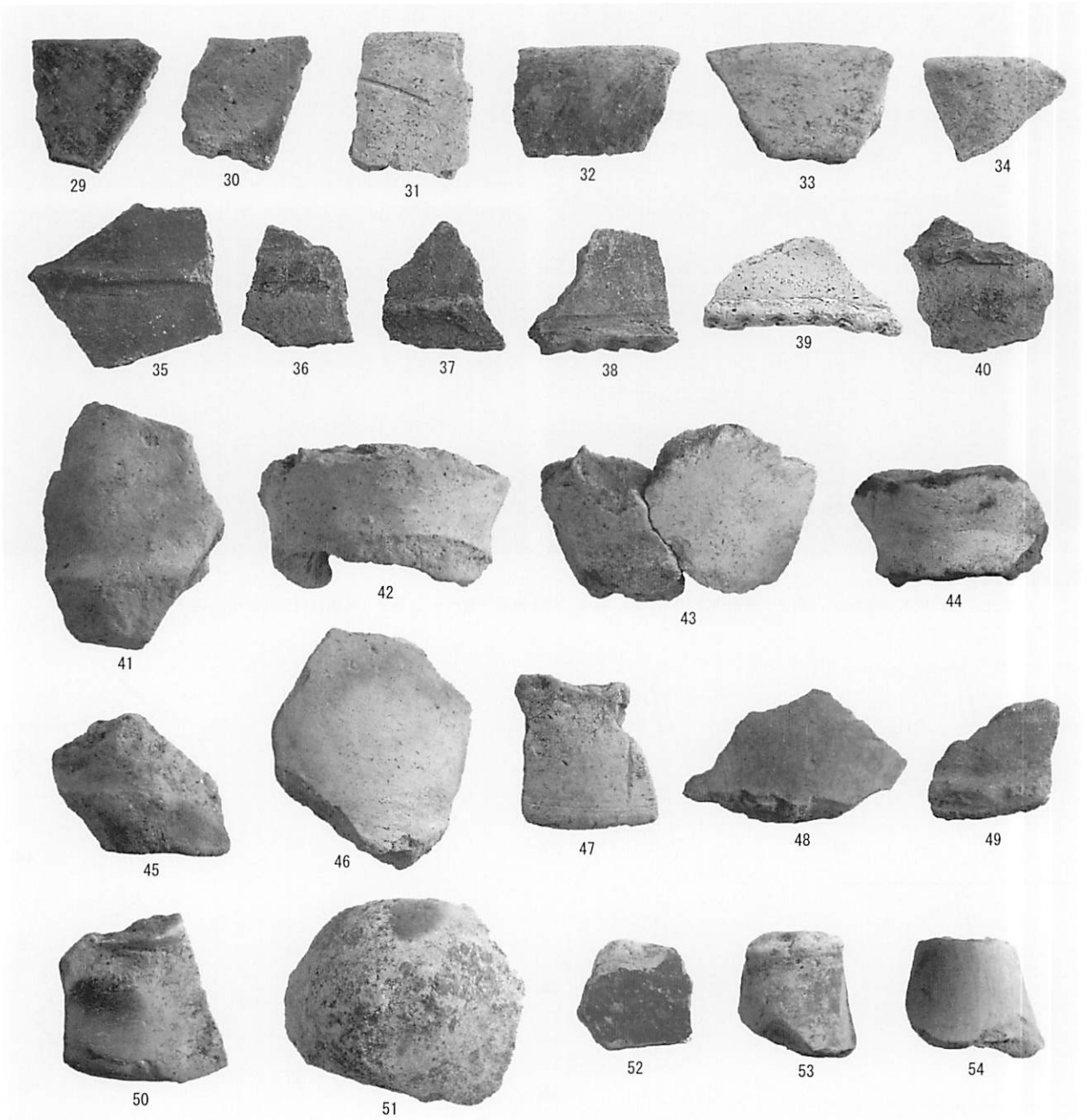


Fig.44　D地点SD3出土遺物　S=1/4

に甕の破片が多い。遺物が小片のため，詳細な時期は判断しづらいが，甕は口唇部が指押さえによって波打っていたり，絡状突帯で粗雑つくりであるという特徴が多いこと，高杯は外面に赤色顔料が塗布されていることなどから，古墳時代の後半期の時期のものがほとんどであると考えられる。



PL.26　D地点SD3出土遺物

Tab. 6　D地点SD3出土遺物観察表

No.	層	種別	器種	部位	色調	胎土 混和材	胎土 砂粒の多さ	調整	備考
29	SD3	古墳	甕	口縁部	外面:にぶい黄橙10YR5/4, にぶい黄橙10YR 7/3, 器肉:にぶい黄橙10YR7/3	粗砂:石英, 細砂:石英, 角閃石, 白色粒	4	外面:ハケ(＼)→ナデ, 内面:ナデ	外面スス付着.
30	SD3	古墳	甕	口縁部	外面:灰黄2. 5Y7/2, 内面:灰白2. 5Y8/1, 器肉:にぶい黄橙10YR7/3	粗砂:石英, 白色粒, 角閃石, 細砂:石英, 角閃石, 赤色粒	4	外面:ハケ(＼)→ナデ, 内面:ナデ	突帯あり.
31	SD3	古墳	甕	口縁部	外面:灰白10YR8/2, 内面:橙2. 5YR6/6, 器肉:灰白10YR8/2,	礫:白色粒, 粗砂:角閃石, 石英, 細砂:角閃石, 石英	4	外面:ハケ(＼)→ナデ(／), 内面:ナデ	
32	SD3	古墳	甕	口縁部	外面:浅黄橙10YR8/3, 内面:浅黄橙10YR8/4, 器肉:褐灰10YR6/1	粗砂:角閃石, 石英, 細砂:石英, 角閃石, 白色粒	4	外面:ハケ(／)→ナデ・ヨコナデ, 内面:ハケナデ	外面スス付着.
33	SD3	古墳	甕	口縁部	外面:にぶい黄橙10YR7/4, 内面:浅黄橙10YR 8/3, 器肉:褐灰10YR5/1	粗砂:赤色粒, 石英, 細砂:石英, 角閃石	4	外面:ハケ(＼)→ナデ, 内面:ナデ	
34	SD3	古墳	甕	口縁部	外面:浅黄橙10YR8/4, 内面:浅黄橙10YR8/4, 器肉:浅黄橙10YR8/4	粗砂:赤色粒, 角閃石, 白色粒, 細砂:角閃石, 石英	4	外面:？のちナデ, 内面:ナデ	
35	SD3	古墳	甕	胴部	外面:灰黄褐10YR4/2, 内面:にぶい黄橙10YR 7/3, 器肉:褐灰10YR6/1	粗砂:石英, 角閃石, 白色粒, 細砂:石英, 角閃石, 白色粒	4	外面:ナデ, ヨコナデ, 内面:ナデ	貼付突帯1条, 外面スス付着.
36	SD3	古墳	甕	胴部	外面:にぶい黄橙10YR7/2, 内面:灰黄褐10YR 6/2, 器肉:灰白10YR7/1	礫:白色粒, 粗砂:角閃石, 石英, 細砂:角閃石, 石英	3	外面:ハケ(＼)→ナデ, 内面:ナデ	刻目突帯1条, 刻目中に布目圧痕
37	SD3	古墳	甕	胴部	外面:にぶい黄褐10YR5/3, 内面:浅黄橙10YR 8/4, 器肉:褐灰10YR6/1	粗砂:角閃石, 石英, 白色粒, 細砂:角閃石, 石英, 白色粒	4	外面:？のちナデ, 内面:ナデ	三角突帯1条, 外面スス付着.
38	SD3	古墳	甕	胴部	外面:灰黄褐10YR5/2, 内面:灰白10YR8/2, 器肉:褐灰10YR5/1	粗砂:石英, 白色粒, 細砂:石英, 角閃石	4	外面:ハケ→ナデ・ヨコナデ, 内面:ハケ(＼)→ナデ	縒縄突帯1条, 外面スス付着.
39	SD3	古墳	甕	胴部	外面:灰白10YR8/2, 内面:灰白10YR8/2, 器肉:灰白10YR8/2	粗砂:角閃石, 石英, 赤色粒, 細砂:角閃石, 石英, 赤色粒	4	外面:ナデ, 内面:ハケ(？)→ナデ(＼)	縒縄突帯1条.
40	SD3	古墳	甕	胴部	外面:にぶい黄橙10YR6/3, 内面:浅黄橙10YR 8/4, 器肉:浅黄橙10YR8/3	粗砂:石英, 細砂:石英, 角閃石	4	外面:ハケ(＼)→ナデ, 内面:ナデ	縒縄突帯1条, 外面スス付着.
41	SD3	古墳	甕	底部	外面:浅黄橙7. 5YR8/3, 内面:浅黄橙10YR8/4に類似, 器肉:灰白10YR8/2	礫:黒色粒, 粗砂:石英, 角閃石, 白色粒, 赤色粒, 細砂:角閃石, 石英, 白色粒, 赤色粒	4	外面:ハケ(＼)→ナデ, 内面:ナデ	
42	SD3	古墳	甕	底部	外面:橙5YR7/6, 内面:浅黄橙10YR8/3, 器肉:褐灰10YR6/1	粗砂:黒色粒, 赤色粒, 白色粒, 砂:黒色粒, 赤色粒, 角閃石, 石英, 細砂:黒色粒, 透明粒	5	外面:ナデ(—), 内面:ナデ(｜).	外面:脚台への接合痕明瞭. 脚台内面の中心部が盛り上がる.
43	SD3	古墳	甕	底部	外面:浅黄橙10YR8/3, 内面:にぶい黄橙10YR 7/2, 器肉:１０YR5/1	粗砂:石英, 細砂:石英, 角閃石	3	外面:ナデ(＼), 内面:ナデ(／)	
44	SD3	古墳	甕	底部	外面:浅黄橙10YR8/8, 内面:灰白10YR8/2, 器肉:黄灰2. 5Y6/1	粗砂:角閃石, 石英, 細砂:石英, 角閃石, 白色粒	3	外面:？のちナデ, 内面:ハケ(＼)→ナデ	脚台天井部に爪痕が顕著に残る.
45	SD3	古墳	甕	底部	外面:灰白2. 5Y8/1, 内面:にぶい橙5YR6/4, 器肉:橙5YR7/6	礫:白色粒, 粗砂:白色粒, 細砂:角閃石, 石英	4	外面:ナデ, 内面:ナデ	内面スス付着.
46	SD3	古墳	甕	底部	外面:浅黄橙10YR8/3, 内面:灰黄褐10YR5/2, 器肉:灰白10YR8/2	粗砂:角閃石, 石英, 黒色粒, 細砂:角閃石, 石英, 黒色粒	4	外面:ナデ, 内面:ナデ	内面スス付着.
47	SD3	古墳	甕	脚部	外面:にぶい黄橙10YR7/3, 内面:にぶい黄橙10YR7/3, 器肉:橙2. 5YR7/6	粗砂:石英, 細砂:石英, 角閃石	3	外面:ナデ, ヨコナデ, 内面:ナデ・ヨコナデ	
48	SD3	古墳	甕？	底部	外面:橙7. 5YR6/6, 内面:灰白10YR8/2, 器肉:にぶい黄橙10YR7/2	粗砂:石英, 白色粒, 赤色粒, 細砂:石英, 角閃石	3	外面:ハケ？→ヘラによるナデ, 内面:ナデ	
49	SD3	古墳	壺	頸部	外面:橙5YR6/6, 内面:橙5YR6/6, 器肉:橙5YR6/6	粗砂:白色粒, 細砂:白色粒, 角閃石, 石英	3	外面:ナデ, 内面:剥落のため不明	刻目突帯1条
50	SD3	古墳	壺	頸部	外面:浅黄橙10YR8/3, 内面:浅黄橙10YR8/4, 器肉:褐灰10YR5/1	細砂:白色粒, 角閃石, 石英	2	外面:ナデ, 内面:ナデ	
51	SD3	古墳	壺	底部	外面:浅黄橙10YR8/4, 内面:淡黄2. 5Y8/4, 器肉:灰白2. 5Y7/1	礫:白色粒, 粗砂:白色粒, 石英, 角閃石, 細砂:白色粒, 石英, 角閃石	3	外面:ナデ, 内面:ナデ	
52	SD3	古墳	高坏	杯部	外面:明赤褐2. 5YR5/6, 内面:にぶい黄橙10YR 7/2, 器肉:灰白10YR8/2	粗砂:白色粒, 細砂:角閃石, 赤色粒	2	外面:ミガキ(—), 内面:ナデ	外面赤色顔料塗布
53	SD3	古墳	高坏	脚部	外面:赤10R4/8, 器肉:灰白:10YR7/1	粗砂:赤色粒, 細砂:角閃石, 石英	2	外面:ミガキ(—)	外面赤色顔料塗布
54	SD3	古墳	高坏	脚部	外面:にぶい橙7. 5YR7/4, 内面:にぶい黄橙10YR7/2, 器肉:黄橙10YR8/6	粗砂:赤色粒, 細砂:角閃石, 石英	2	外面:ミガキ(｜), 内面:ナデ	外面赤色顔料塗布

2)SD4（Fig.45～48，PL.26～28）

SD4は，調査区東側に位置する。SD4上場ラインはⅥ層上面で検出したが，壁面層位（Fig.45 B-B'）観察の結果，Ⅴ層中から掘り込まれていることが判明した。

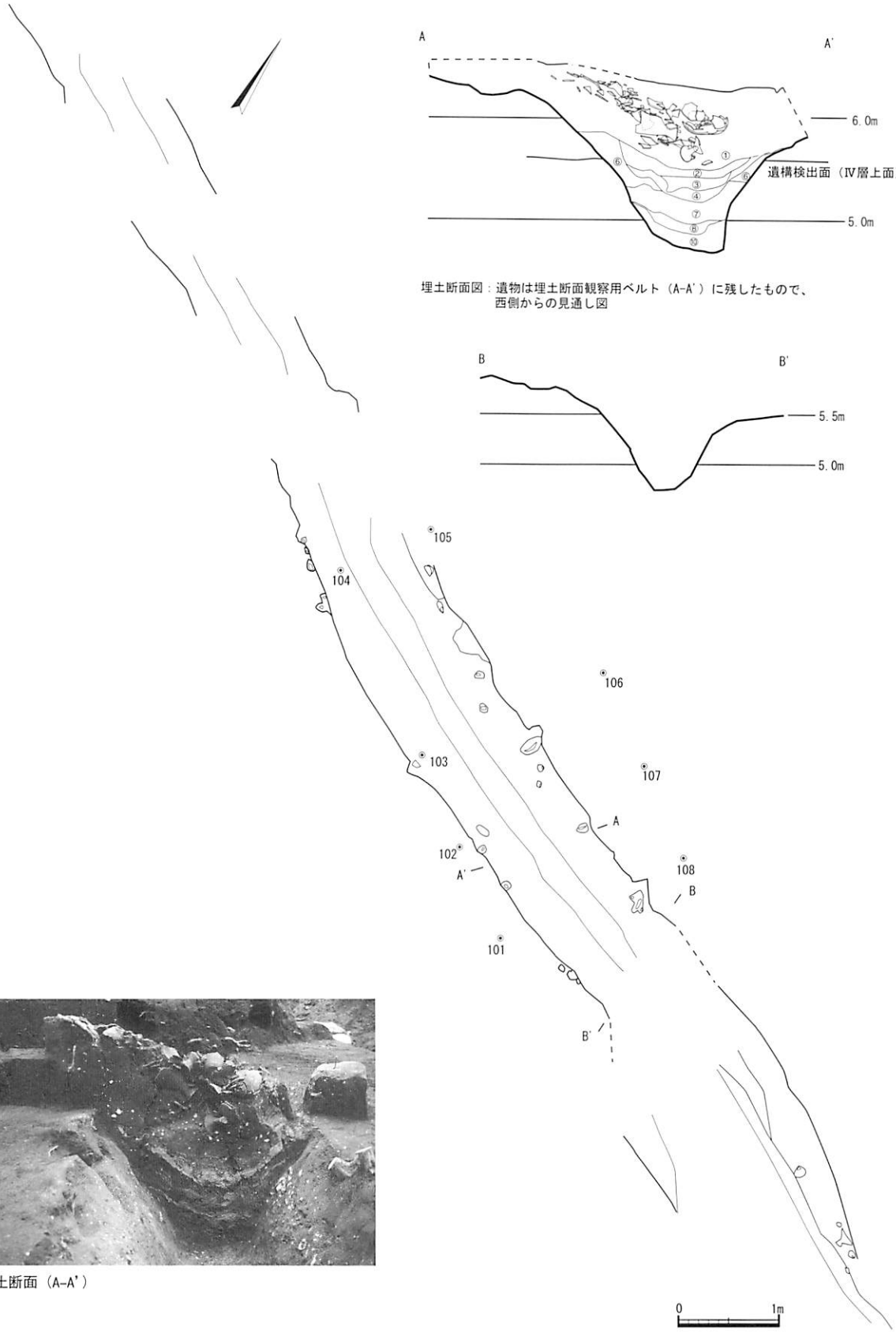
北西から南東方向に伸びるが，南側は撹乱によって削平され，北側は調査区外に伸びているため未検出である。検出面での幅は1～1.2mだが，配管のため残していたベルト部分での層位観察によって，SD4の幅は2m以上に及ぶことが判明した。深さは検出面から70cm，ベルト部分では最深部で1.2mである。

埋土は，以下のように11に分層できた。断面形はV字状を呈する。また，溝壁面上部に，小ピットを検出した。ピットが多く検出した地点は，遺物がまとまっている範囲であり，関連するものの可能性もある。

埋土中上部から間層を挟むことなく多量の土器がまとまって出土した。北側から南側へ傾斜しており，長さ3.3mの範囲にまとまっている。土器は破損しており，上層は小片が多く，下ほど大きな破片が多い傾向にある。中には，甕など広口のものは複数個重ねているものもある。

埋土①：黒褐色10YR7/1シルト。1～3cm大のシルト含む。埋土②：褐灰色7.5YR4/1シルト。1～2cm大のパミス含む。③と④が斑点状に混ざる。埋土③：①+③の混土。埋土④：10YR7/3にぶい黄橙色シルト。埋土⑤：にぶい黄橙色10YR 7/3シルト。埋土⑥：黒10YR2/1シルト。埋土⑦：灰黄褐色10YR6/2細砂層。埋土⑧：シラス2次堆積　灰黄色2.5YR6/2細砂と灰黄褐色10YR6/2細砂が0.5～1cm厚さの縞状に交互に堆積。埋土⑨：褐灰色10YR 4/1細砂まじりシルト。埋土⑩：シラス2次堆積　灰黄色2.5YR6/2細砂。埋土⑪：埋土⑨に同じ。

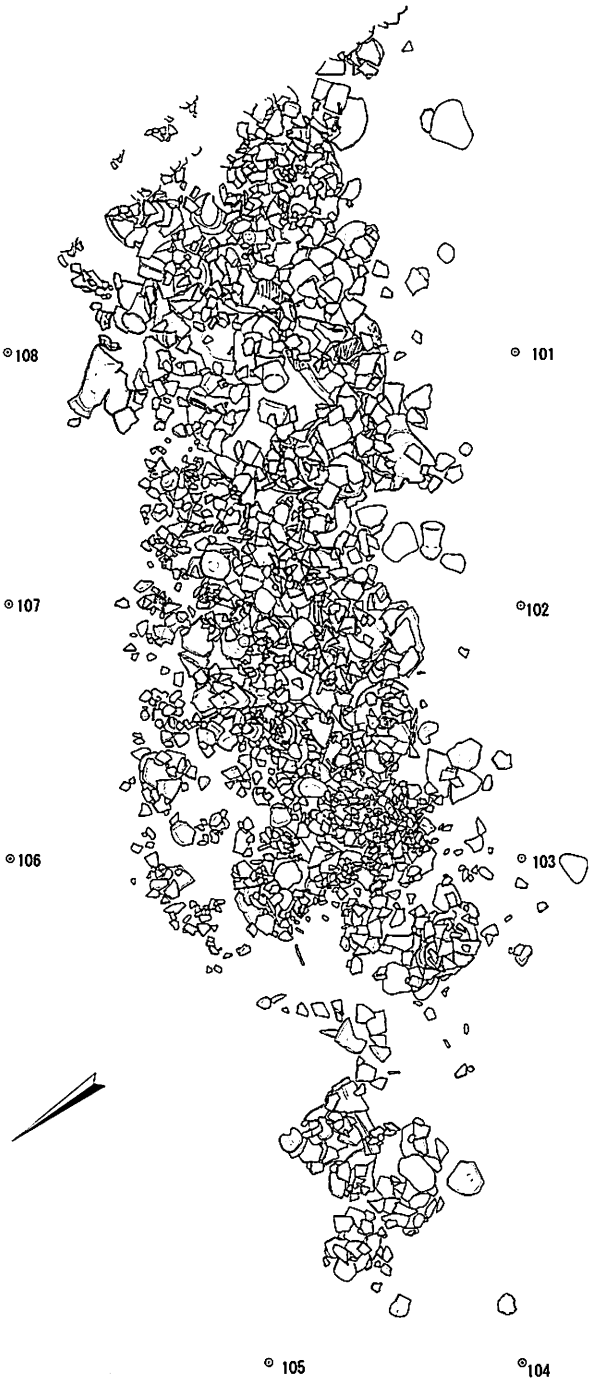
PL.27　D地点SD4
左：遺物出土状況（上面），右上：埋土①～③除去後，埋土④検出状況，右下：完掘状況



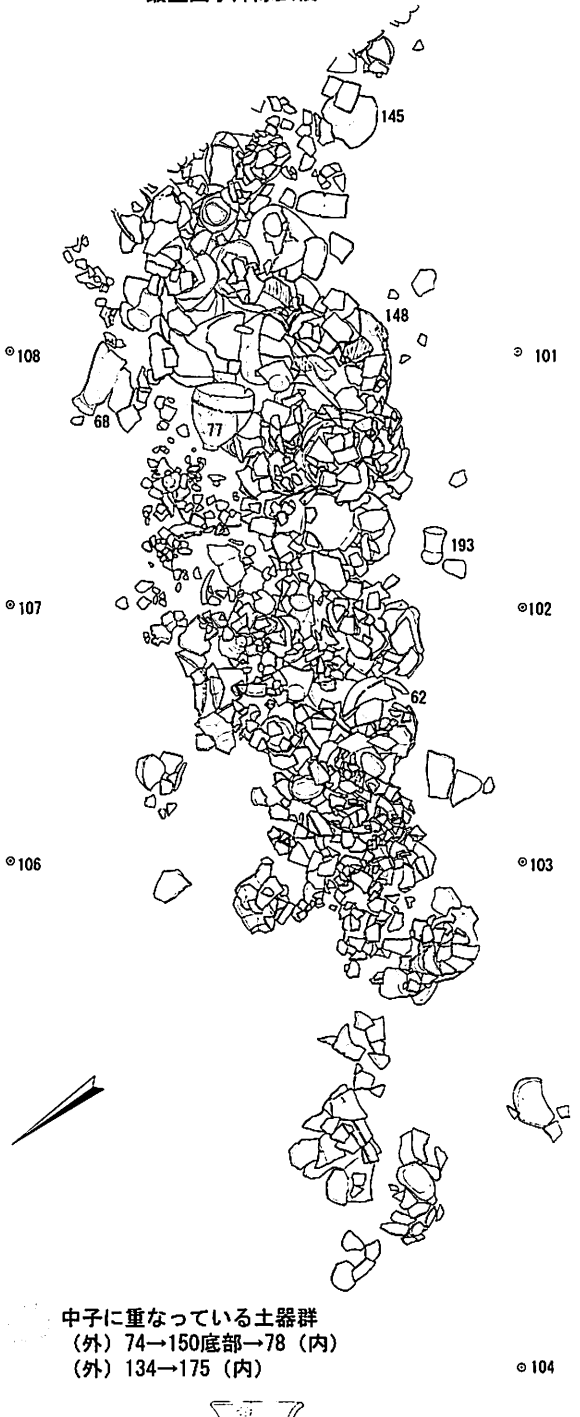
埋土断面（A-A'）

Fig.45　D地点SD4　　S=1/60

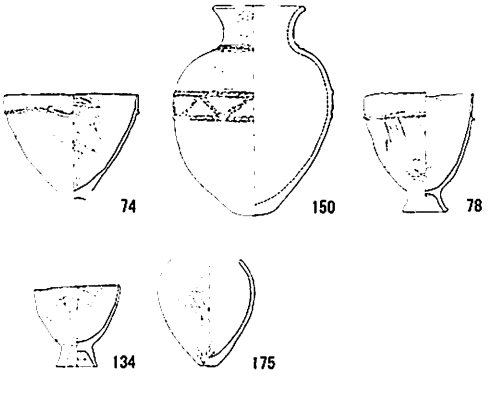
最上面



最上面小片除去後

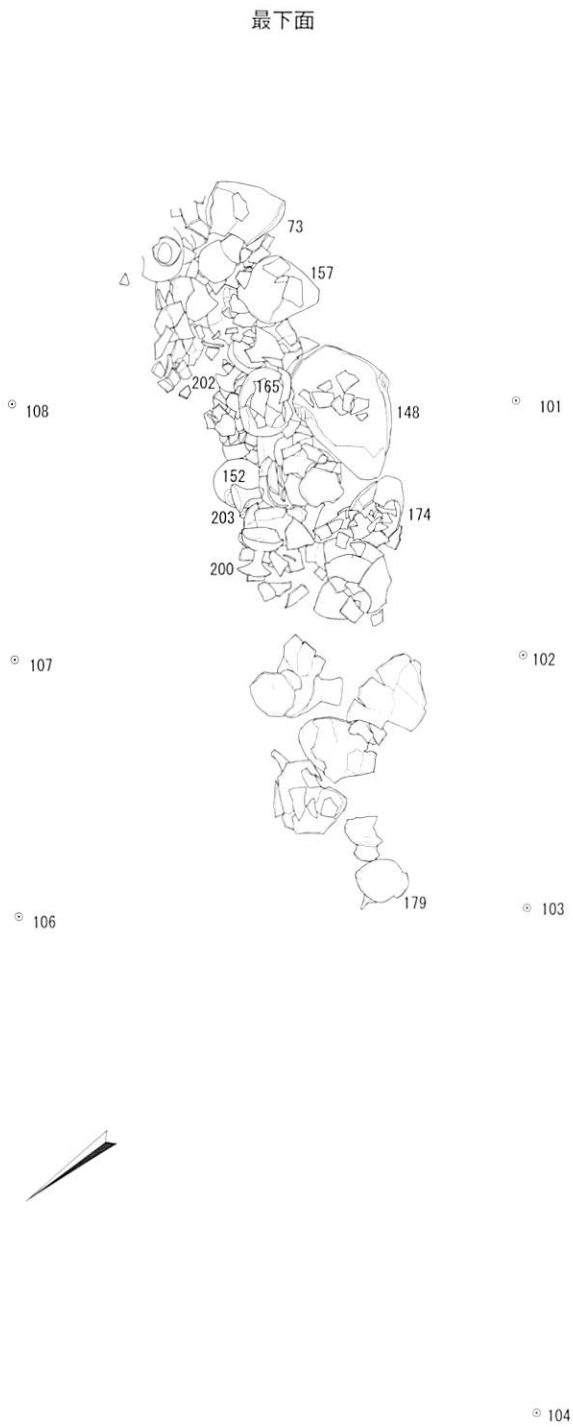


中子に重なっている土器群
（外）74→150底部→78（内）
（外）134→175（内）



図中ポイントは、Fig.45と一致．図中数値は、遺物番号に一致．

Fig.46　D地点SD4遺物出土状況(1)　S=1/30



図中ポイントは，Fig.45と一致．図中数値は，遺物番号に一致．上部の遺物（Fig.46）に比べて破片が大きい．壺や高杯が目立つ．

Fig.47　D地点SD4遺物出土状況(2)　S=1/30

PL.28　D地点SD4

上：遺物出土状況　上面（南から），2段目：遺物出土状況（南西から），3段目：遺物出土状況西側，下：上層の土器除去後の遺物出土状況　東側（南から）

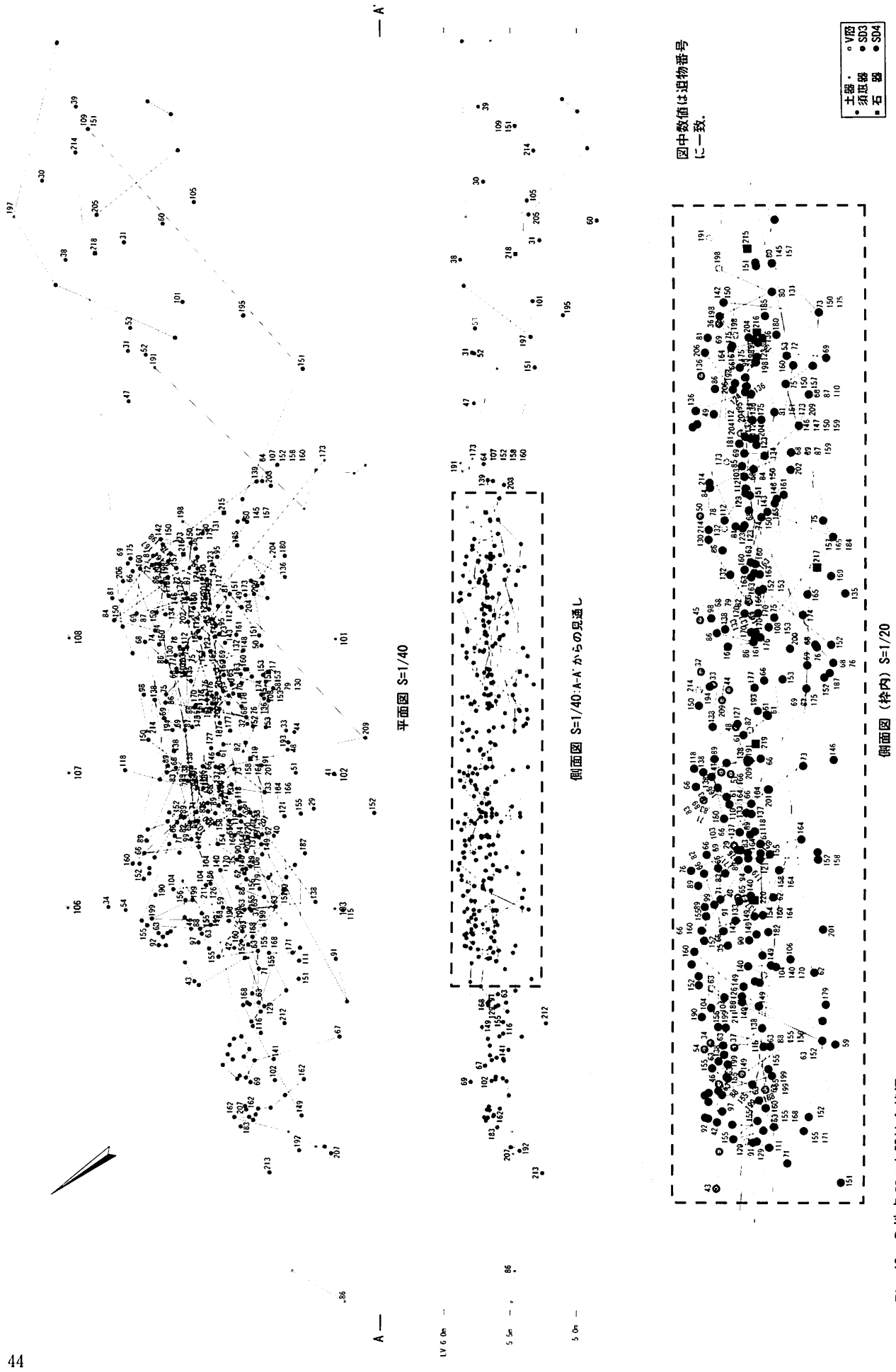


Fig.48　D地点SD4土器接合状況　S=1/40

出土遺物

SD4から出土した遺物のうち，時期や器種などがわかる遺物数はTab.7のとおりである。遺物は，弥生土器，古墳時代の土器，須恵器，叩き石，剥片石器，砥石，軽石製品などが出土している。

① 弥生土器（Fig49，PL.29，Tab.8）

弥生時代中期の遺物が出土している。55～59は甕で，60は壺である。いずれも小片である。55～57は口唇部がくぼんだ特徴があり，入来Ⅱ式の甕の口縁部である。58は口唇部は丸いが，入来Ⅱ式と同時期で，黒髪式土器の影響を受けたものだろうと考えられる。59は口縁部下の絡縄突帯である。60は壺の肩部付近の突帯部である。比較的シャープな断面三角形状を呈する。

② 甕（Fig50～55，PL.30～36，Tab.9～12）

SD4の出土遺物の中でも，甕の破片数は多量だったので，特徴的なものを抜粋して掲載した。甕は，いずれも口縁部が広口で脚台を持つタイプで，ほとんど1条の絡縄突帯を持つ。笹貫式である。

61～67は口径が30cm前後で，体部がやや横方向に膨らみながら口縁部に向かって立ち上がる形態を呈するものである。61～65は口縁部が比較的外に開くタイプである。61は，体部の大きさに比べると，脚台がやや小さい。口唇部の一部が肥厚している。内面には，外面突帯部よりやや上のラインから下の器壁が摩滅している。このような特徴は，他の甕にも見られた（66・69・70）。61・63・64は他の土器に比べて器厚が薄い。66・67は口縁部が直立するタイプである。66は口唇部から外面突帯部までの長さが，やや長い。67は器高が約37cmと他の甕に比べると高いタイプに属する。口縁部外面に，破裂痕のような不定形の剥落が横方向に並んでいる。

68～73は，口径が30cm前後で，胴部から口縁部に直線的に開く形態を呈するものである。68は脚台部内面天井部に，細長い一文字の突起が認められる。非常に粗雑な作りで，体部下半がゆがんでいる。脚台の調整も粗雑で，外面に指で縦方向になでつけた痕が顕著である。体部外面に2か所，内面に1か所，脚台内面に1か所，細長い楕円形の粘土を貼り付けた部分があり，ひびを直した補修痕と考えられる。このような粘土貼り付けによる補修の痕は71・108・163・166・169・201と各器種にわたって認められた。69は，口縁部が直線的に開く形態を呈するが，一部ゆがんで内湾している部分がある。外面には，輪積みの痕が顕著で，器面の凹凸が著しい。72は比較的薄手作りだが，器厚が一定せず，内面の器壁が特に波打っている。73は，口縁部外面の突帯より上部の器厚が少し肥厚している。

Tab.7　D地点SD3・SD4種類別遺物出土数

	弥生	古墳																						計
		甕					壺					高坏				坩	赤色顔料土器片	鉢		須恵器	石器	軽石		
		完形	体部	口縁	胴部	底部	完形	肩～底部	口縁	胴部	底部	完形	口縁	胴部	脚部			台付	平底			加工品	未加工品	
SD4	6	8	3	151	195	113	13	7	6	29	18	5	5	9	33	4	123	4	8	2	4	2	36	784
SD3				17	32	22				6	1			4	4		11						1	98
計	6	8	3	168	227	135	13	7	6	35	19	5	5	13	37	4	134	4	8	2	4	2	37	882

74～79は口径が約25cm以下で，小型のタイプである。74は口径は28cmと大きいが，器高が低い。75・76は外面に突帯を持たないタイプだが，本来突帯を付ける位置ぐらいに，粘土帯の接合痕明瞭が残っているものである。76はそれ以上が少し肥厚しており，ゆるやかな段を有する。どちらも器面調整は粗雑である。75は脚部を欠損しており，その接合部のユビオサエ痕が明瞭に残っている。77は低脚の底部を持つタイプである。78は体部のプロポーションが少し膨らみ，底が広いタイプである。脚部も幅広い。79は，口縁部が内湾するタイプである。これも，全体的に作りが粗雑である。外面の縦半分が剥落している。

80～84は口縁部片である。84は器壁が5㎜以下と薄く，胎土も甕によくある砂粒が多いものではなく，高杯などの胎土のように，精緻なものである。

85は口縁部下の突帯部分で，1条の絡縄突帯の両端を著しくずらしたものである。これほど突帯の端がずれているものは少ないが，66・67・74・82などのように甕によく見られるものである。

94～132は脚台もしくは脚部である。94～105は脚台内面天井部が飛び出しているタイプである。丸底を呈する体部の外側に脚部を付けた結果であることと，脚部との接合部を強く指で押さえて脚台内面の中心部が飛び出す形態を呈するようである。107～126は天井部が平坦なもので，平底を呈する体部の外側に脚を貼り付けたもの，さらに脚部との接合部に粘土を足して，天井部をドーム状に仕上げたものがある。これには，低脚のタイプ（117・121～123・126）と，細長いタイプ（124・125）のものも含まれる。

127から132は脚部だが，ほとんど体部との接合部やその付近で欠損したものと思われる。131・132は薄い作りで，端部の仕上げもシャープなことから，鉢などの甕とは機能の異なる器種の可能性も考えられる。

③　鉢（Fig.56，PL.37・38，Tab.13）

鉢には様々なバリエーションが認められる。ススが付着するものがあるなど，用途も一様ではないと推定できる。133は甕に類似した形態のもので，外面にススが付着していることから，小型の煮沸具として使用されていたと考えられる。134・135は，少し内湾気味の口縁部で，脚台がつくものと上げ底状のものである。どちらも，外面口縁部下に粘土帯を貼り付けた名残を残す。ちょうど，甕では突帯の位置であることから，意図的に残したものと考えられる。137も同様な特徴を持つが，非常に広口で浅い形態を呈する。底部は端部を細くつまんで，脚部のように仕上げている。外面の一部に縦方向の細い工具による粗いミガキ状のナデ痕があり，その裏側にも同様な調整を施している。内面は縦にひびが認められることから，これも焼成前に入ったヒビを工具でなでつける事によって補修した痕であると考えられる。

136は若干外湾する口縁部と脚台を持つ。外面の一部に赤色顔料の付着が認められるが，これが意図的に付けられたものかどうかは判別できない。138・139は胴部が膨らみながら立ち上がる広口プロポーションで，底部は端部をつまんでわずかに張り出させ，脚台状を呈する。140は直線的に開く口縁部を持つものである。

141～143は，平底で直線的に開く口縁部のものである。143はやや粗雑なつくりで，サイズも少し小さめである。

144はいわゆる「手づくね土器」で，ユビオサエ痕が明瞭で粗雑なつくりのものである。器壁も厚く，底面もユビオサエによる凹凸が著しい。

④　壺（Fig.57～64，PL.39～46，Tab.14～18）

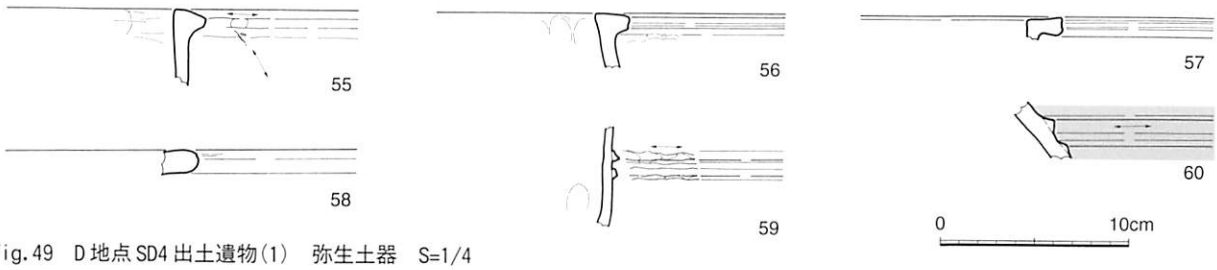
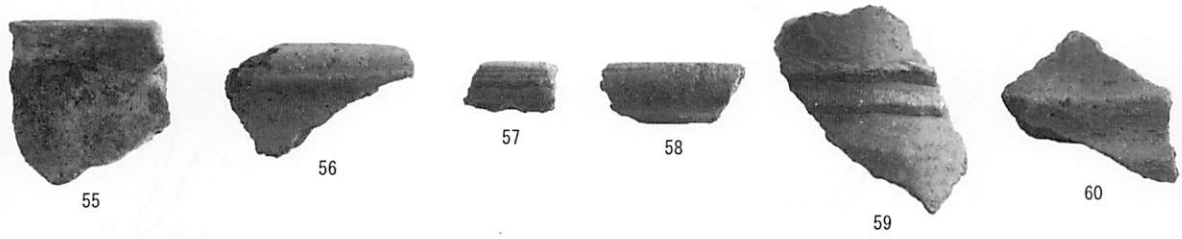


Fig.49　D地点SD4出土遺物(1)　弥生土器　S=1/4



PL.29　D地点SD4出土遺物（1）　弥生土器

Tab.8　D地点SD4出土遺物観察表（1）　弥生土器

No.	層	種別	器種	部位	色調	胎土 混和材	胎土 砂粒の多さ	調整	備考
55	SD4	弥生	甕	口縁部	外面:にぶい橙7.5YR7/6,内面:にぶい橙7.5YR7/4,器肉:褐灰7.5YR6/1	細砂:石英,角閃石	3	外面:ナデ,口唇部ヨコナデ,内面:ハケ(＼)→ナデ(—)	
56	SD4	弥生	甕	口縁部	外面:橙5YR7/6,内面:橙5YR7/6,器肉:褐灰7.5YR6/1	粗砂:石英,角閃石,赤色粒,細砂:石英,角閃石,赤色粒	4	外面:ナデ・ヨコナデ,内面:ナデ	
57	SD4	弥生	甕	口縁部	外面:灰黄褐10YR6/2,内面:にぶい橙7.5YR7/4,器肉:灰褐7.5YR6/2	粗砂:石英,赤色粒,細砂:石英,角閃石,赤色粒	3	外面:ナデ・ヨコナデ,内面:ナデ	外面スス付着.
58	SD4	弥生	甕	口縁部	外面:灰黄褐10YR4/2,内面:灰黄褐10YR4/2,器肉:黄褐10YR5/6	粗砂:角閃石,石英,白色粒,細砂:角閃石,石英	4	外面:ヨコナデ	
59	SD4	弥生？	甕？	胴部	外面:にぶい橙7.5YR7/4,内面:褐灰10YR4/1,器肉:にぶい黄橙10YR7/2	粗砂:白色粒,石英,細砂:石英,角閃石	3	外面:ナデ・ヨコナデ,内面:ナデ	三角突帯2条,外面スス付着.
60	SD4	弥生	壺？	胴上部？	外面:橙5YR6/6,内面:にぶい橙7.5YR7/3,器肉:黄灰2.5Y4/1	礫:白色粒,粗砂:石英,角閃石,白色粒,細砂:石英,赤色粒	4	外面:ナデ・ヨコナデ,内面:ナデ	三角突帯2条,赤色顔料塗布か.

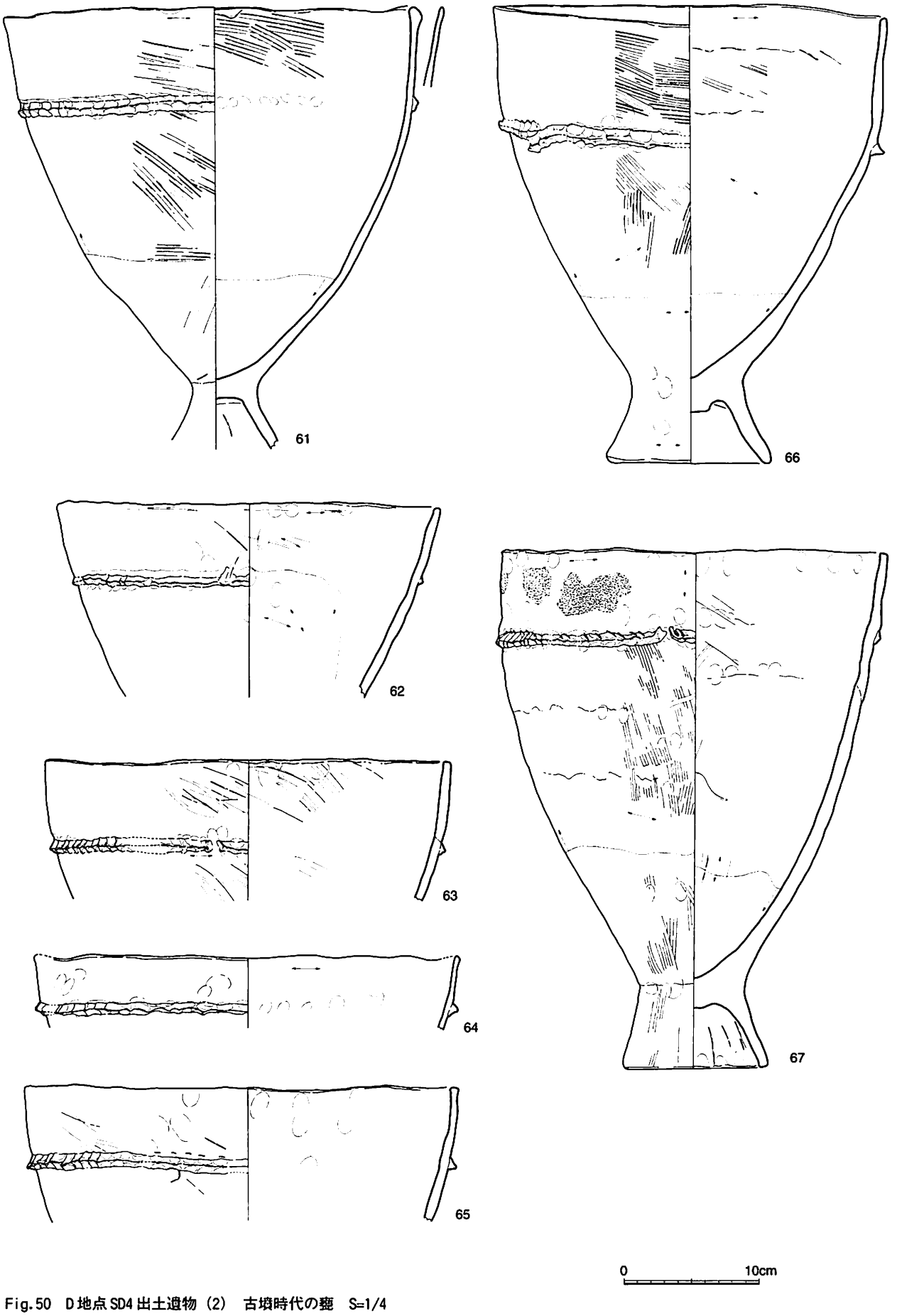
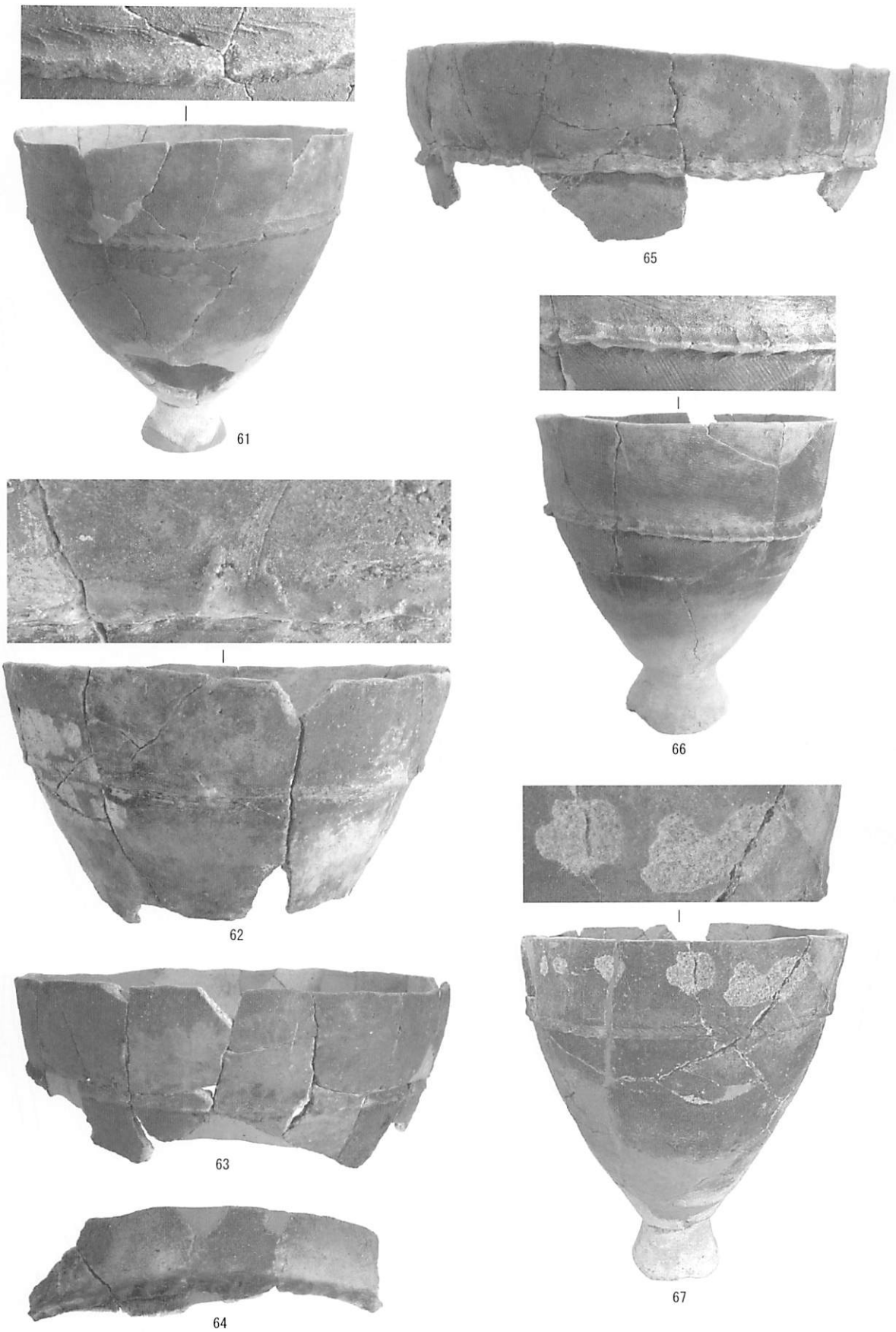


Fig.50　D地点SD4出土遺物（2）　古墳時代の甕　S=1/4



PL.30　D地点SD4出土遺物（2）　古墳時代の甕

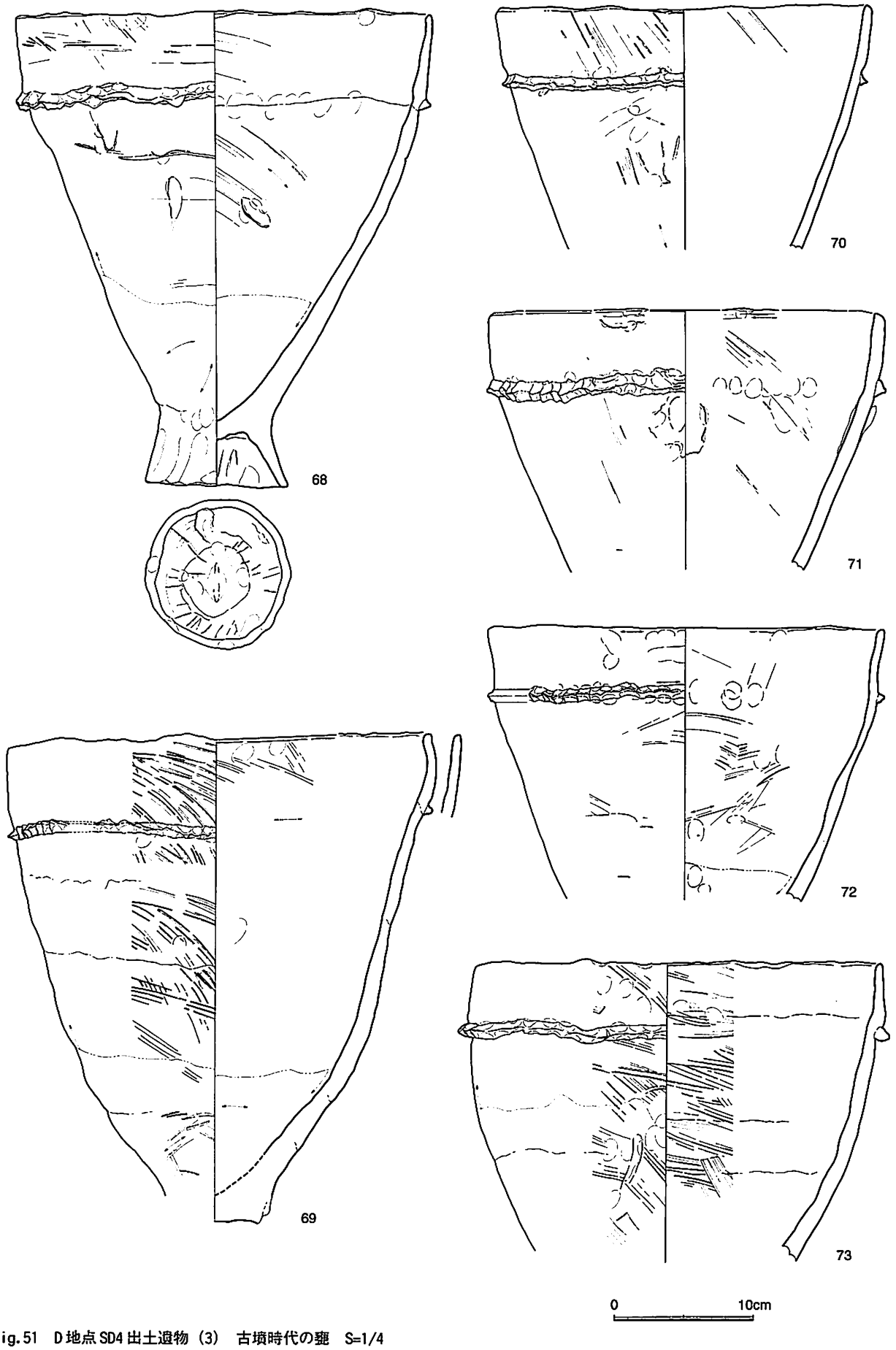
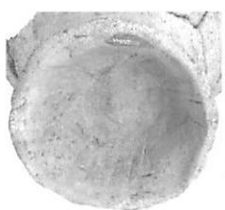
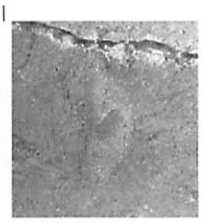


Fig.51　D地点SD4出土遺物（3）　古墳時代の甕　S=1/4

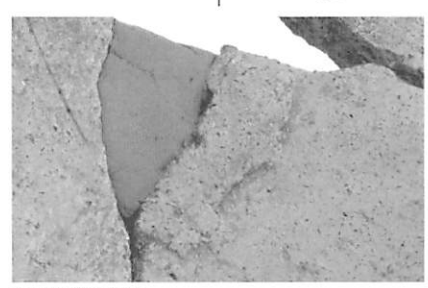
68





粘土貼付補修痕（外面）

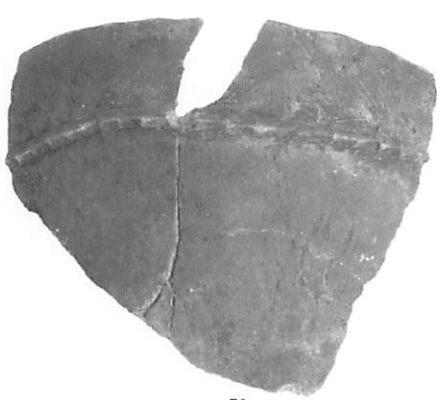
71



粘土貼付補修痕（内面）

69

72



70

73

PL.31　D地点SD4出土遺物（3）　古墳時代の甕

Tab.9　D地点SD4出土遺物観察表（2）　古墳時代の甕

No.	層	種別	器種	部位	色調	胎土 混和材	胎土 砂粒の多さ	調整	備考
61	SD4	古墳	甕	完形	外面:にぶい橙7.5YR7/4,内面にぶい黄橙10YR 7/3.器肉:褐灰10YR6/1	粗砂:白色粒,赤色粒,灰色粒,石英.砂:石英,角閃石,赤色粒,白色粒,黒色粒.細砂:白色粒,黒色粒	5	外面:口縁部ハケ(—)→ナデ(—),胴部ハケ(—)(＼)→ナデ(—)(＼),脚台ハケ(／).　内面:口縁部ハケ(—)(＼)→ナデ,　胴部ユビオサエ,脚台内部ハケ(＼).	絡縄突帯1条.内底面,および外面上半部にスス付着.　口径30.8cm.推定器高34cm.
62	SD4	古墳	甕	口縁部～胴部	外面:褐灰10YR4/1,内面:浅黄橙10YR8/3,器肉:灰白10YR8/1	礫:黒色粒.粗砂:石英,白色粒細砂:石英,角閃石,白色粒,赤色粒,黒色粒.	4	外面:口唇部ヨコナデ,胴部ハケ→ナデ,内面:口唇部ヨコナデ,胴部ハケ→ナデ(＼).突帯は絡縄に整形のち上面ヨコナデのため,三角突帯状.	絡縄突帯1条.内外面ともにスス付着.外面,1/2は表面剥落.内面は胴下半部が剥落.口径(短径28.0cm,長径:29.2cm)
63	SD4	古墳	甕	口縁部～胴上部	外面:灰黄褐10YR4/2に類似,内面:にぶい橙7.5YR6/4,器肉:褐灰10YR5/1	礫:白色粒,黒色粒,粗砂:石英白色粒,赤色粒,細砂:石英,角閃石,白色粒,赤色粒.	4	外面:ハケ(？)のちナデ・ヨコナデ内面:ハケ(＼)→ナデ	絡縄突帯1条,内面下部および外面にスス付着.　口径(短径:28.8cm,長径29.7cm),
64	SD4	古墳	甕	口縁部～胴上部	外面:にぶい黄橙10YR7/3に類似,内面:にぶい黄橙10YR7/3,器肉:褐灰10YR5/1	砂:角閃石,石英,赤色粒,細砂:黒色粒	4	外面:ユビオサエ.内面:ユビオサエ・ナデ(—).	絡縄突帯1条.外面:スス付着.口径:31.2cm.
65	SD4	古墳	甕	口縁部～胴上部	外面:灰黄褐10YR4/2に類似,内面:にぶい黄橙10YR7/2に類似.器肉:黄灰2.5Y5/1	礫:石英,黒色粒,赤色粒,粗砂:石英,角閃石,黒色粒,白色粒細砂:石英,角閃石,黒色粒	5	外面:ハケ(＼)→ナデ,内面:ナデ	絡縄突帯1条,外面スス付着,内面全体剥落.口径29.9cm
66	SD4	古墳	甕	完形	外面:浅黄橙10YR8/3,内面:浅黄橙10YR8/3,器肉:褐灰10YR5/1	粗砂:石英,白色粒,赤色粒,細砂:石英,角閃石	3	外面:口縁部太めのハケ(／)(—),胴部ハケ(｜)→ナデ,脚部ナデ(—),内面:口縁部ナデ(—),胴部ハケ(＼)・ナデ	絡縄突帯1条,内底面,および外面上半部にスス付着.内面,口縁部下約5cmの部位から表面剥落.口径29.0cm,底径12.2cm,器高33.0cm
67	SD4	古墳	甕	完形	外面:にぶい黄褐10YR3/2.内面:浅黄橙7.5YR 8/4.器肉:浅黄橙7.5YR8/4.	礫:白色粒.粗砂:石英,白色粒,黒色粒,赤色粒,細砂:角閃石,白色粒,黒色粒	5	外面:口唇部ユビオサエ・ヨコナデ.胴部:ハケ(＼)→ナデ(／)・ヨコナデ.脚部:ハケ(｜)→ナデ	絡縄突帯1条.内底面,および外面上半部にスス付着.口縁直下に不定形の剥落が並ぶ.口径28.3cm,底径10.6cm 器高37.3cm
68	SD4	古墳	甕	完形	外面:浅黄橙7.5YR8/4に類似.内面:黄橙10YR 2/2.器肉:灰黄褐10YR5/2	粗砂:白色粒,角閃石　細砂:角閃石,石英,赤色粒	5	外面:口唇部ナデ(—),ユビオサエ.胴部ナデ・ヨコナデ.脚部ナデ(｜),脚台内部ハケ打ち込み(同心円状に)	絡縄突帯1条.内底面,および外面上半部にスス付着.補修用の素地貼り付けあり.口径29.6cm,底径10.2cm,器高33.7cm
69	SD4	古墳	甕	口縁部～底部	外面:淡橙5YR8/4,内面:灰黄褐10YR6/2に類似,器肉:褐灰10YR6/1に類似	礫:軽石,粗砂:軽石,角閃石,白色粒,細砂:角閃石,石英,赤色粒	3	外面:粗いハケ(＼)→ナデ(＼),内面:ハケ(＼)のちナデ(—)	絡縄突帯1条,内面下部および外面にスス付着.内面,口縁下約4cmから全面,表面剥落.口径(短径:29.0cm,長径30.3cm)
70	SD4	古墳	甕	口縁部～胴部	外面:灰黄褐10YR4/2,内面:浅黄橙10YR8/3器肉:黄灰2.5Y6/1	粗砂:角閃石,石英,赤色粒.砂:角閃石,石英,白色粒,細砂:黒色粒	5	外面:口縁部ハケ(＼)・ユビオサエ.胴部ハケ(＼).内面:口縁部ハケ(＼).	絡縄突帯1条.　外面:スス付着.内面:口縁部以下剥落.口径26.1cm.
71	SD4	古墳	甕	口縁部～胴部	外面:黒褐10YR3/2に類似,内面:灰白10YR8/2器肉:灰白10YR8/2	礫:石英,黒色粒,粗砂:石英,角閃石,黒色粒,赤色粒,細砂:石英,角閃石	4	外面:口唇部ヨコナデ,胴部ハケ(＼)→ナデ,内面:ハケ(＼)→ナデ	絡縄突帯1条.外面にスス付着内外面に補修用の素地貼り付けあり.約1/3残存.推定口径28.2cm
72	SD4	古墳	甕	口縁部～胴下部	外面:褐灰10YR4/1,内面:浅黄橙10YR8/4,器肉褐灰10YR6/1に類似	粗砂:石英,細砂:石英,角閃石,白色粒,赤色粒.	4	外面:ハケ(／)→ナデ,内面:ハケ(／)→ナデ(—)	絡縄突帯1条,内面下部および外面にスス付着.約1/4残存.推定口径28.2cm
73	SD4	古墳	甕	完形	外面:にぶい黄橙10YR7/3に類似.内面:にぶい橙7.5YR7/4.器肉:7.5YR7/4に類似.	礫:白色粒,粗砂:白色粒,黒色粒,石英,角閃石.砂:灰色粒,黒色粒細砂:黒色粒	5	外面:口縁部ハケ(—)(＼)・ユビオサエ→ナデ,胴部ハケ(—)(＼)・ユビオサエ→ナデ(＼).内面:口縁部ハケ(—)(＼)→ナデ,　胴部ハケ(—)(＼)・ユビオサエ→ナデ.	絡縄突帯1条.外面にスス付着.口径31.4cm.

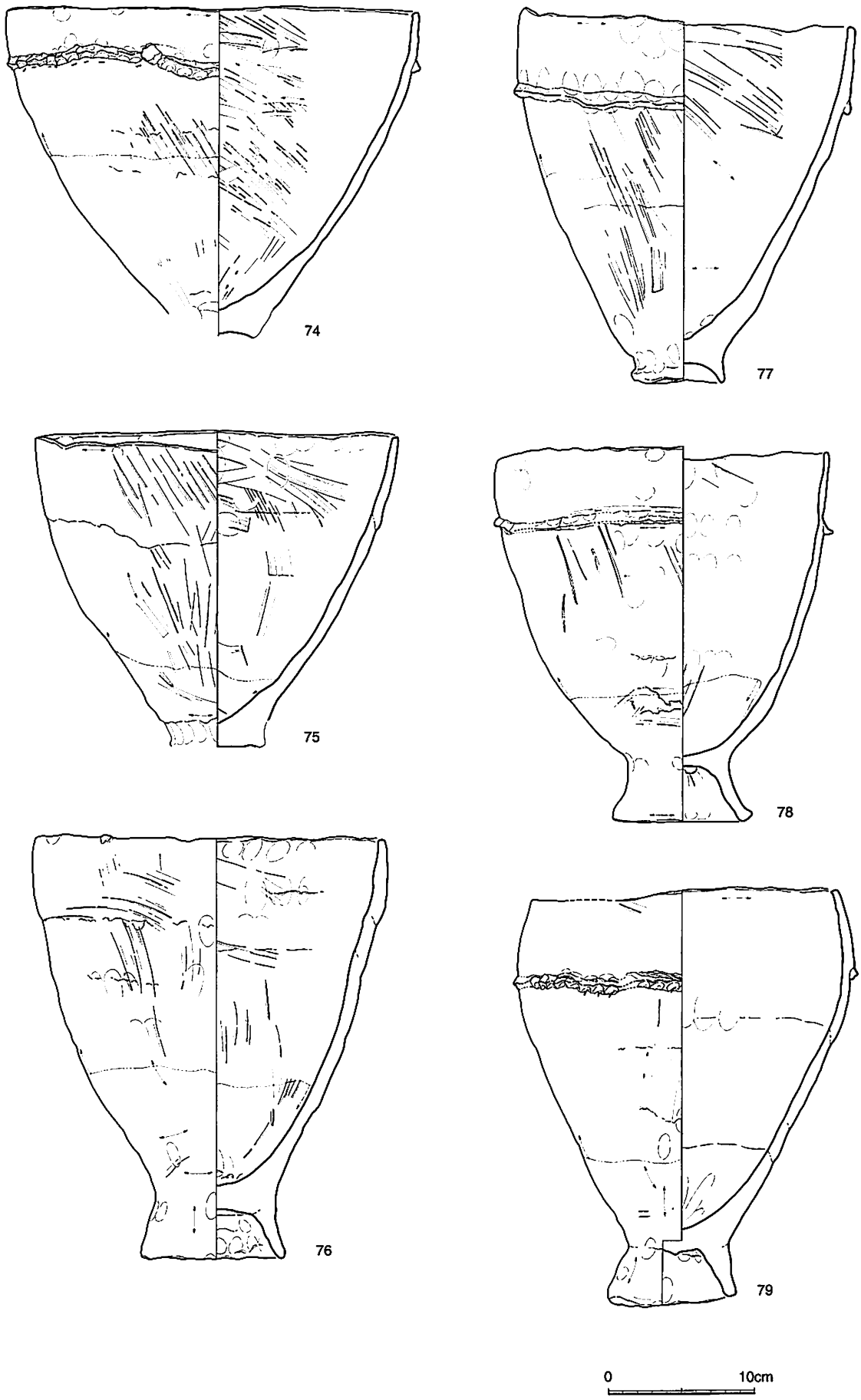
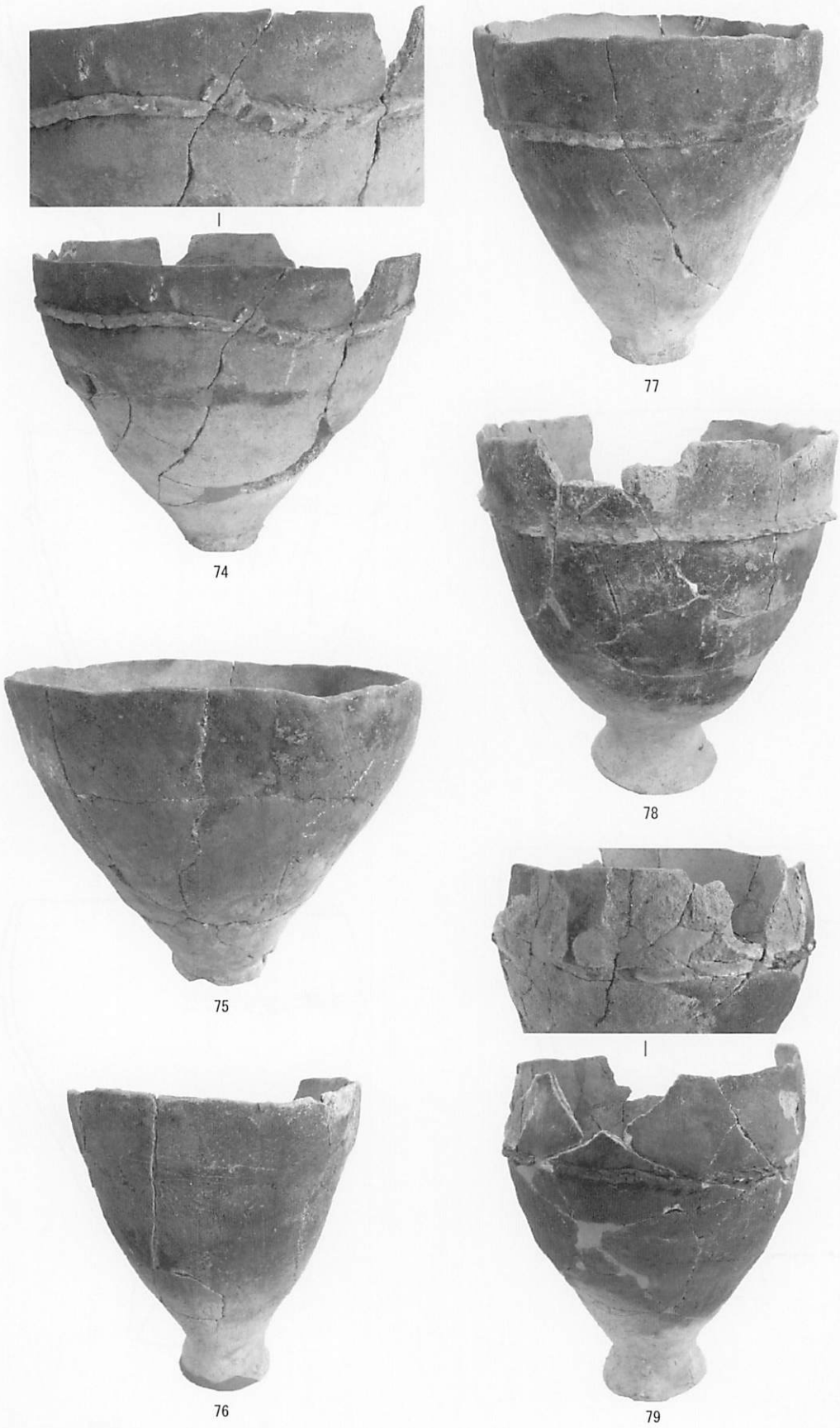


Fig.52　D地点SD4出土遺物（4）　古墳時代の甕　S=1/4



PL.32　D地点SD4出土遺物（4）　古墳時代の甕

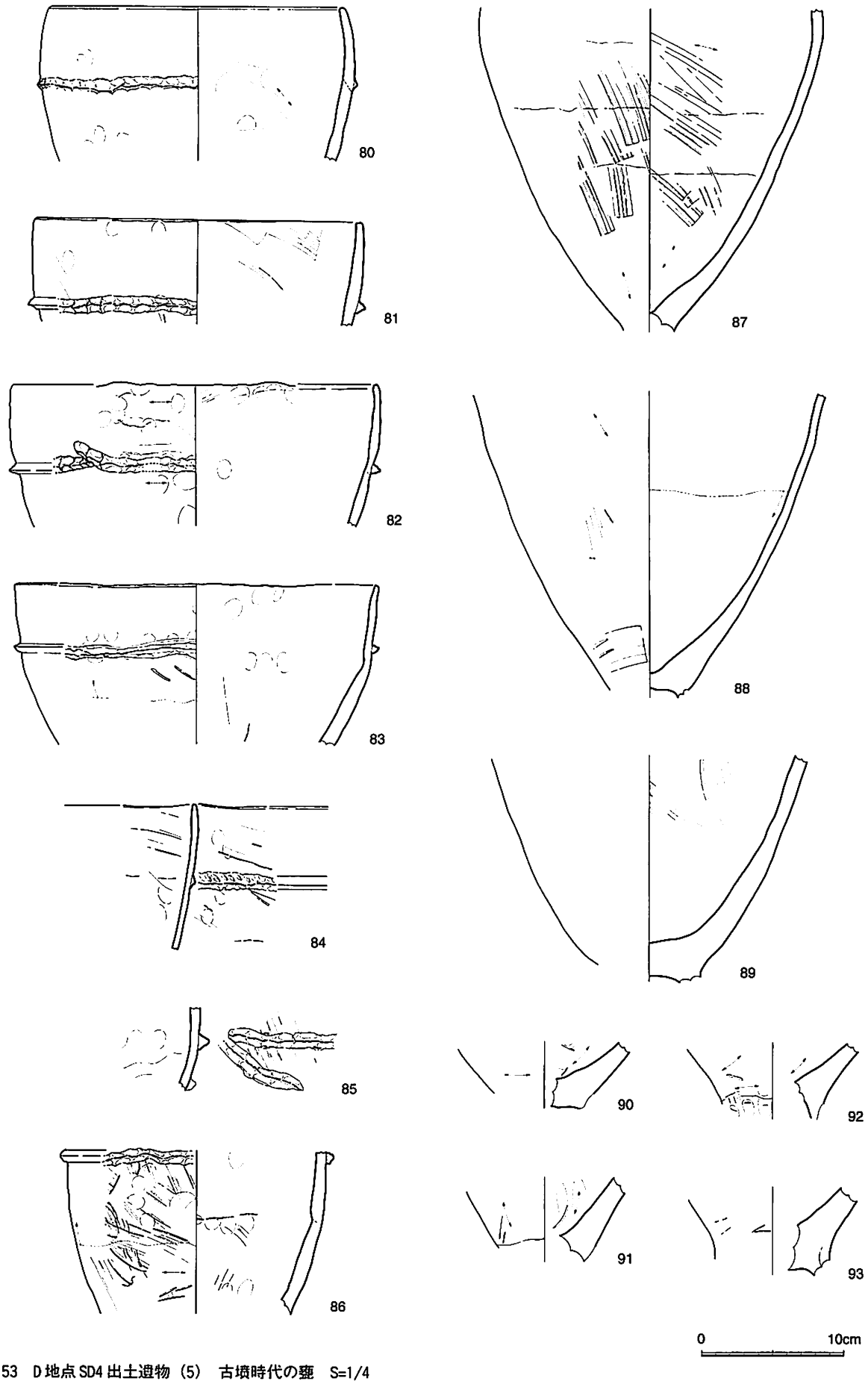
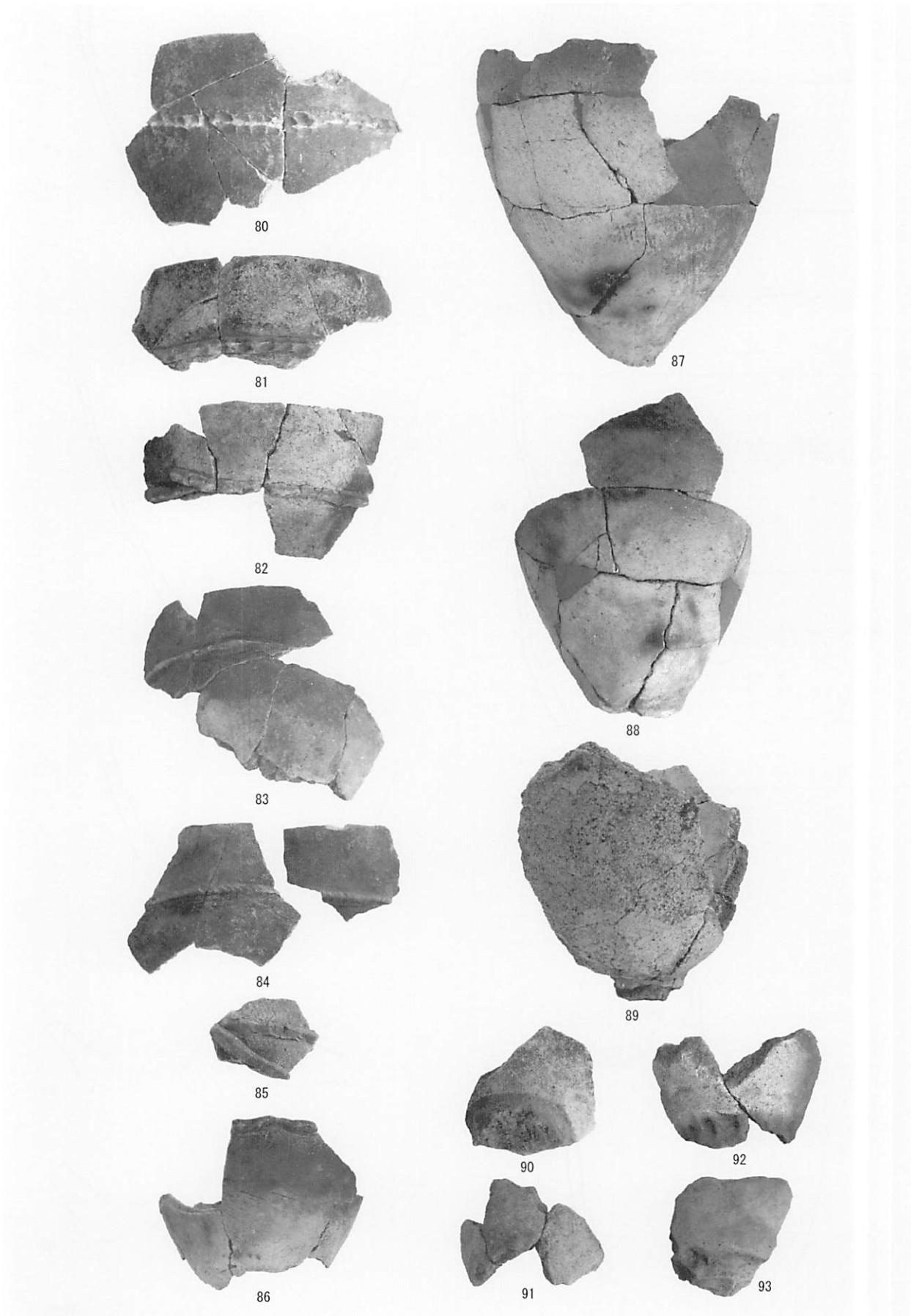


Fig.53　D地点SD4出土遺物（5）　古墳時代の甕　S=1/4



PL.33　D地点SD4出土遺物（5）　古墳時代の甕

Tab. 10　D地点SD4出土遺物観察表（3）　古墳時代の甕

No.	層	種別	器種	部位	色調	胎土 混和材	胎土 砂粒の多さ	調整	備考
74	SD4	古墳	甕	口縁部～底部	外面:黄橙10YR8/6, 内面:にぶい橙10YR6/4, 器肉:褐灰10YR6/1	礫:石英, 粗砂:角閃石, 白色粒, 赤色粒, 細砂:石英, 角閃石, 白色粒, 赤色粒	4	外面:口唇部ヨコナデ, 胴部ケズリ(＼), ハケ→ナデ, 底部ハケ→ナデ(＼). 内面:口縁部ハケ(＼)(／)→ナデ, 胴～底部ケズリ(＼)(／)→ナデ	縄突帯1条, 外面スス付着. ナデ調整は粗く, ケズリが顕著に残る. 口径28.0cm
75	SD4	古墳	甕	口縁部～底部	外面:灰黄7.5YR4/2, 内面:灰黄褐10YR5/2, 器肉:にぶい橙5YR6/4	礫:軽石, 粗砂:角閃石, 石英, 白色粒, 細砂:角閃石, 石英,	4	外面:口唇部ナデ(—), ハケ(＼)→ナデ 胴部ハケ(｜)→ナデ, 底部ナデ(—) 内面:上部ハケ(—), 下部ハケ(｜)→ナデ	脚台のみ欠損, 脚台接合部の指頭痕顕著. 口径(長径25.5cm, 短径24cm)底径6.0cm.
76	SD4	古墳	甕	完形	外面:浅黄橙7.5YR8/6, 内面:明黄褐10YR7/6に類似. 器肉:浅黄橙10YR8/4に類似.	粗砂:角閃石, 石英, 白色粒, 赤色粒, 細砂:角閃石, 石英	3	外面:口縁部ハケ(＼)→ナデ, 胴部ハケ(｜)→ナデ, ケズリ状のハケ？内面:口縁部ハケ(＼)→ナデ, 胴部:ケズリ状のハケ(｜)→ナデ	内底面および外面上半部にスス付着. 口径23.8cm, 底径9.8cm, 器高28.1cm
77	SD4	古墳	甕	完形	外面:浅黄橙10YR8/4, 内面:にぶい黄橙10YR7/3, 器肉:褐灰10YR5/1	礫:灰色粒, 粗砂:白色粒, 黒色粒, 石英, 砂:石英, 角閃石, 白色粒, 細砂:白色粒, 黒色粒, 透明粒	5	外面:口縁部ユビオサエ, 胴部ハケ(＼), 内面:口縁～胴部ハケ(＼)・ユビオサエ	縄突帯1条. 胴部上半にスス付着. 内面に黒斑あり. 口径23.4cm, 器高25.1cm
78	SD4	古墳	甕	完形	外面:灰白7.5YR8/2. 内面:浅黄橙10YR8/3に類似. 器肉:灰白10YR8/2	粗砂:赤色粒, 灰色粒, 角閃石, 白色粒. 砂:石英, 角閃石, 白色粒 細砂:白色粒, 黒色粒	3	外面:口縁部ハケ(｜)→ナデ(｜), 胴部ハケ(＼)・ユビオサエ・ナデ(—). 脚台ナデ(—). 内面:口縁部ナデ, 胴部ユビオサエ・ナデ(＼), 底部ハケ(｜), 脚台内部ハケ(＼).	縄突帯1条. 内底面, および外面上半部にスス付着. 口径23cm, 底径9.4cm, 器高25.2cm.
79	SD4	古墳	甕	完形	外面:浅黄2.5Y7/3に類似, 内面:にぶい黄橙に類似, 器肉:褐灰10YR5/1に類似	粗砂:角閃石, 石英, 白色粒, 赤色粒. 細砂:角閃石, 白色粒	4	外面:胴部ナデ(｜), 脚部ナデ(｜), (—). 内面:口唇部ヨコナデ	縄突帯1条. 外面上半部のみスス付着. 突帯部1/4のみ残存. 外面上半部は1/4全面剥落. 口径21.2cm, 底径8.6cm, 器高27.6cm
80	SD4	古墳	甕	口縁部～胴上	外面:灰黄褐10YR4/2, 内面:灰白2.5Y8/2, 器肉:灰白2.5Y7/1	礫:白色粒, 粗砂:角閃石, 石英, 細砂:角閃石	3	外面:ナデ, 内面:ハケ(？)→ナデ(＼)	縄突帯1条, 外面スス付着, 推定口径20.6cm
81	SD4	古墳	甕	口縁部	外面:にぶい黄橙10YR7/3, 内面にぶい黄橙10YR7/4, 器肉:褐灰10YR6/1に類似	礫:白色粒, 石英, 赤色粒, 粗砂:石英, 角閃石, 白色粒. 細砂:角閃石, 黒色粒	3	外面:ハケ(＼)→ナデ, 内面:ハケ(＼)→丁寧なナデ	縄突帯1条, 外面スス付着. 推定口径23.0cm
82	SD4	古墳	甕	口縁部	外面:浅黄橙10YR8/3に類似, 内面:浅黄橙10YR8/3に類似, 器肉:黄灰2.5Y4/1	礫:軽石, 石英, 白色粒, 粗砂:石英, 角閃石, 白色粒, 赤色粒 細砂:石英, 白色粒	5	外面:(？)→ナデ, 突帯部周囲ヨコナデ, 工具によるナデ, 内面:口唇部ヨコナデ, 全体ナデ	縄突帯1条, 約1/4残存. 推定口径25.8cm
83	SD4	古墳	甕	口縁部～胴上部	外面:にぶい黄橙10YR7/2に類似, 内面:灰白10YR8/2に類似, 器肉:灰白10YR8/2に類似	粗砂:白色粒, 砂:石英, 角閃石 細砂:黒色粒	5	外面:胴部ハケ(＼)・ナデ. 内面:口縁部ユビオサエ・ナデ.	三角突帯1条. 外面:スス付着. 口径:25.5cm.
84	SD4	古墳	甕	口縁部～胴上部	外面:褐灰10YR5/1, 内面:橙7.5YR7/6, 器肉:灰白10YR8/2	粗砂:赤色粒, 石英, 角閃石	2	外面:ハケ(＼)→ナデ, 内面:ハケ(＼)→ナデ(＼)	縄突帯1条, 外面スス付着. 素地は薄手で精製されている.
85	SD4	古墳	甕	胴部	外面:灰黄褐10YR5/2, 内面:灰白10YR8/2 器肉:褐灰10YR4/1	粗砂:白色粒, 角閃石, 細砂:石英, 角閃石	4	外面:ハケ(＼)→ナデ, 内面:ナデ	縄突帯1条, 外面スス付着.
86	SD4	古墳	甕	胴上部～下部	外面:淡赤橙2.5Y7/3, 内面:にぶい橙7.5YR7/3に類似. 器肉:褐灰10YR5/1	礫:黒色粒, 白色粒, 粗砂:石英, 角閃石, 白色粒, 赤色粒, 細砂:角閃石, 白色粒	4	外面:ハケ(＼)(｜)→ナデ(＼), 工具痕顕著. 内面:ハケ→丁寧なナデ	縄突帯1条, 外面スス付着.
87	SD4	古墳	甕	胴部～底部	外面:灰白10YR8/2, 内面:にぶい黄橙10YR7/3 器肉:灰白10YR8/2	粗砂:白色粒, 砂:角閃石, 石英, 白色粒, 細砂:黒色粒	6	外面:胴部ハケ(＼). 内面:ハケ(＼)・ユビオサエ.	外面:胴部下半が剥落. 胴部径24.0cm.
88	SD4	古墳	甕	胴上部～底部	外面:浅黄橙10YR8/4, 内面:灰黄褐10YR4/2, 器肉:にぶい黄橙10YR7/4	礫:石英, 粗砂:石英, 角閃石, 白色粒, 砂:石英, 角閃石, 白色粒, 灰色粒, 細砂:白色粒, 黒色粒	5	外面:ハケ(｜)→ナデ(＼)	内面:剥落が著しい. 胴部下半スス付着.
89	SD4	古墳	甕	胴上部～底部	外面:にぶい黄橙10YR7/3に類似, 内面:灰白10YR8/2, 器肉:橙2.5YR7/6	粗砂:白色粒, 灰色粒, 石英, 角閃石, 砂:角閃石, 石英, 細砂:黒色粒	5	内面:ハケ(｜)(＼).	外面:剥落が著しい. 内面:胴部下半剥落.
90	SD4	古墳	甕	底部	外面:灰白2.5Y7/1, 内面:灰白10YR8/2, 器肉:灰白10YR8/2	砂:角閃石, 石英, 白色粒, 細砂:黒色粒, 白色粒, 透明粒	4	外面:ナデ(—). 内面:ハケ(／)・打ち込み痕あり・ナデ(／).	脚台への接合痕明瞭.
91	SD4	古墳	甕	底部	外面:橙2.5YR6/6, 内面:褐灰10YR4/1, 器肉:黄灰2.5Y5/1	礫:石英, 粗砂:石英, 角閃石, 白色粒, 黒色粒, 砂:石英, 角閃石, 細砂:黒色粒, 透明粒	6	外面:ハケ(—)・打ち込み痕あり・ナデ(｜). 内面:ナデ(／).	外面:脚部への接合痕あり. 内面:全面にスス付着.
92	SD4	古墳	甕	底部	外面:灰白10YR8/2, 内面:灰白10YR8/2, 器肉:灰白10YR8/2	礫:白色粒, 灰色粒, 砂:角閃石, 赤色粒, 石英, 白色粒, 細砂:黒色粒, 透明粒	2	外面:ユビオサエ・ナデ(—). 内面:ナデ(＼).	脚部への接合痕明瞭.
93	SD4	古墳	甕	底部	外面:浅黄橙7.5YR8/4, 内面:浅黄橙10YR8/3, 器肉:浅黄橙10YR8/3	粗砂:角閃石, 石英, 赤色粒, 細砂:角閃石, 石英	3	外面:ハケ(｜)→ナデ, 内面:ナデ	

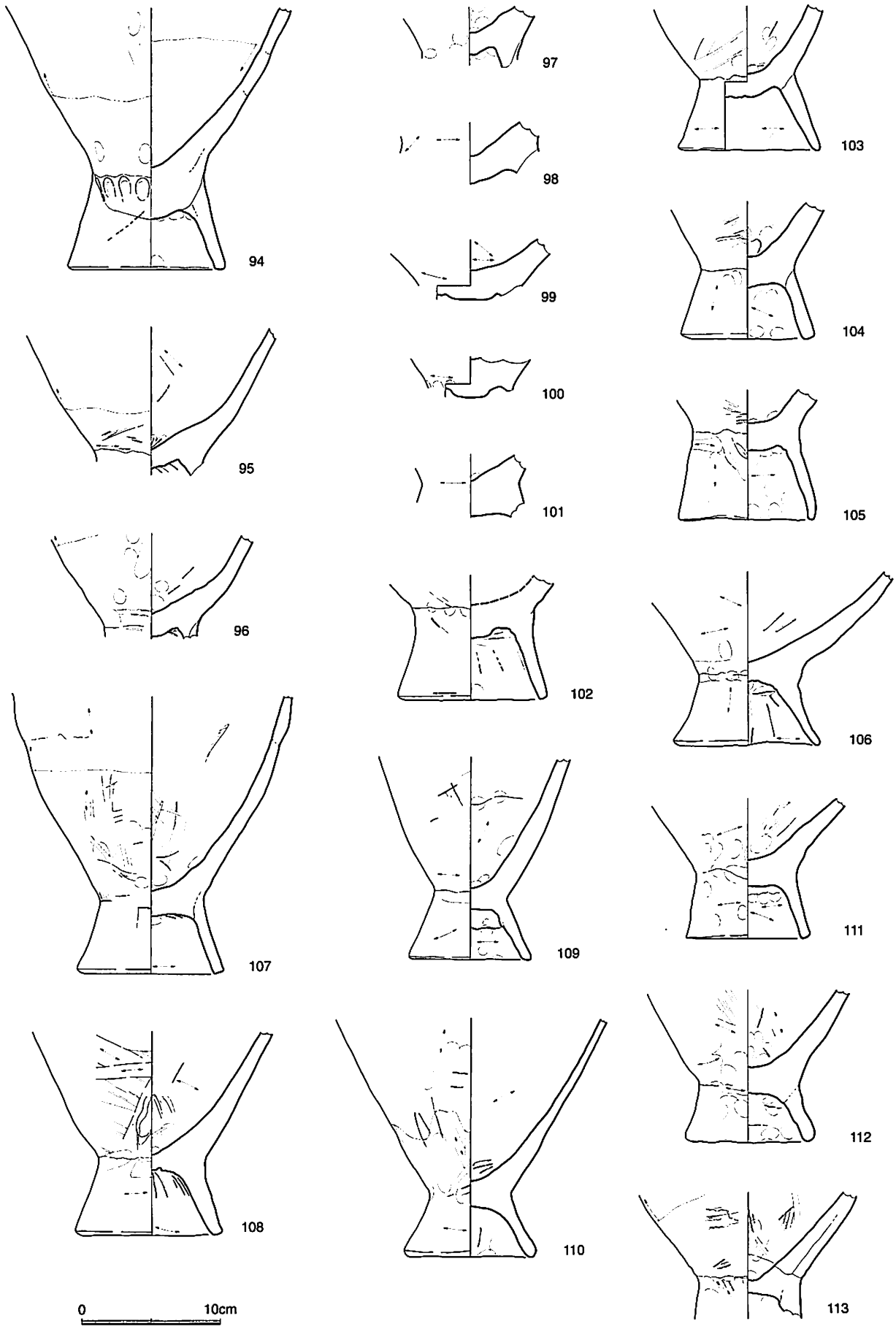
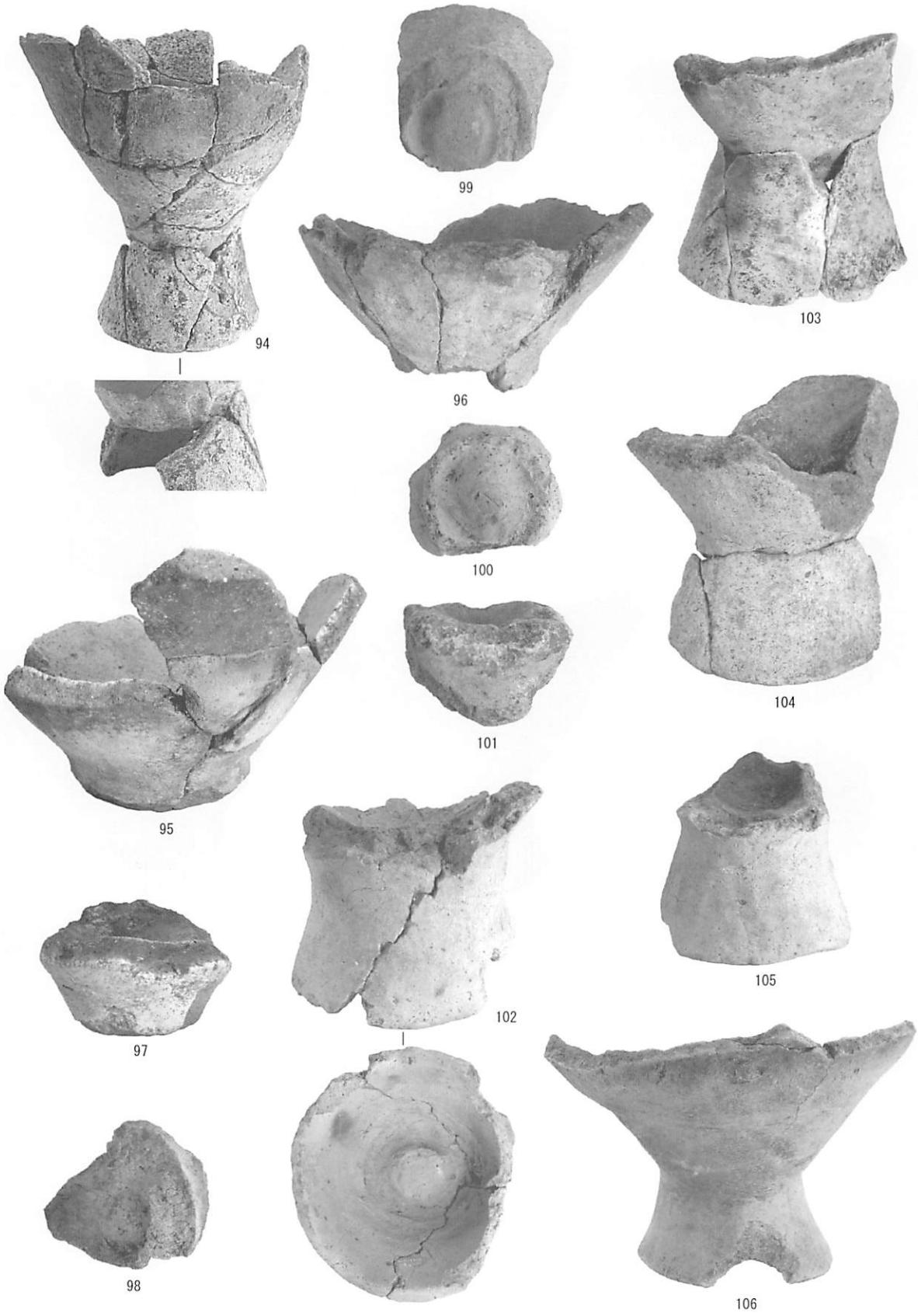
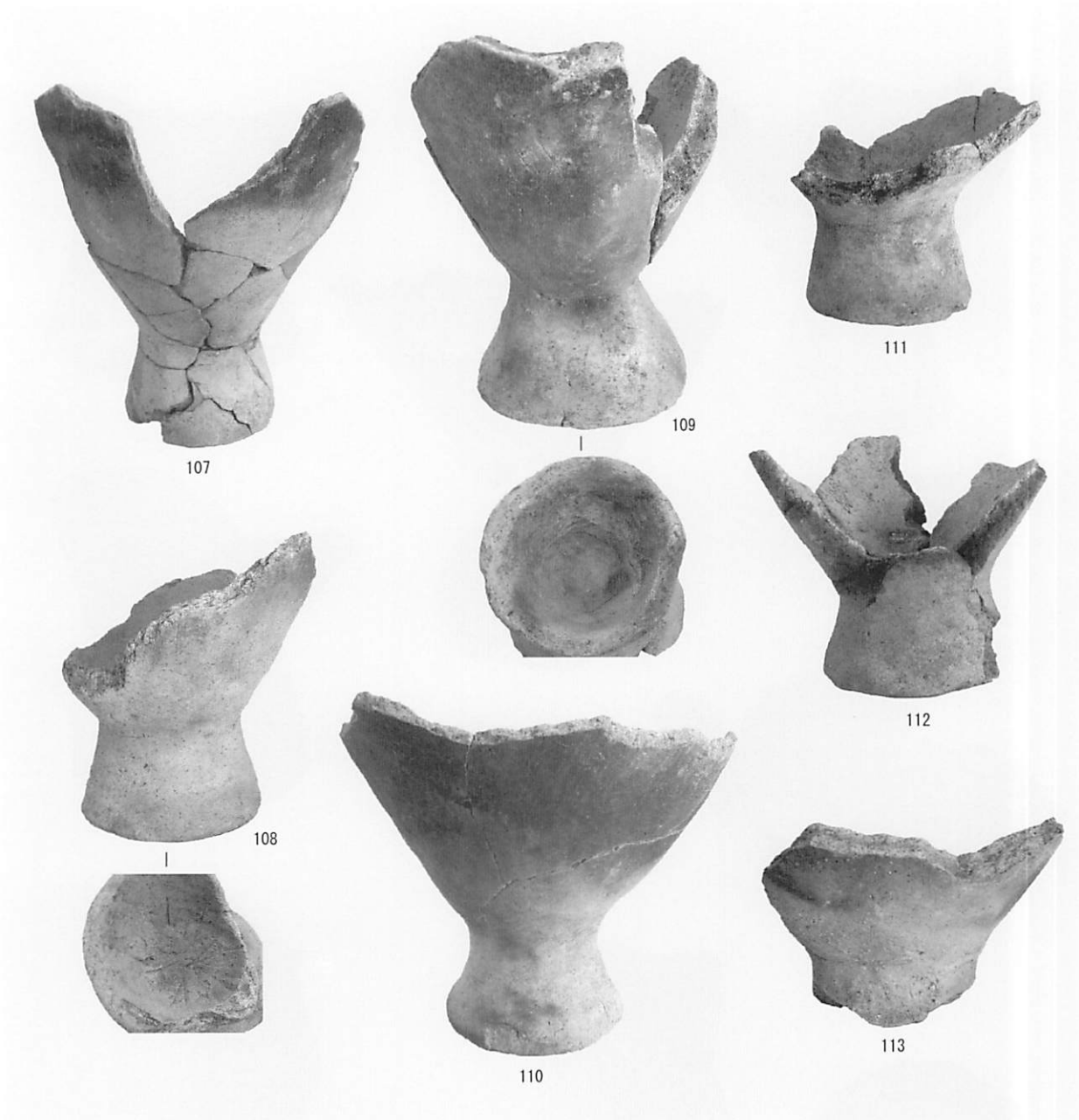


Fig.54　D地点SD4出土遺物（6）　古墳時代の甕　S=1/4



PL.34　D地点SD4出土遺物写真（6）　古墳時代の甕



PL.35　D地点SD4出土遺物写真（7）　古墳時代の甕

Tab.11　D地点SD4出土遺物観察表（4）　古墳時代の甕

No.	層	種別	器種	部位	色調	胎土 混和材	胎土 砂粒の多さ	調整	備考
94	SD4	古墳	甕	胴部～脚部	外面:浅黄橙10YR8/3, 内面:灰白10YR8/2, 器肉:灰白10YR8/2	礫:白色粒, 粗砂:石英, 角閃石, 黒色粒, 赤色粒. 細砂:角閃石, 白色粒	4	外面:ハケ(?)→ナデ(｜) 内面:磨滅のため不明瞭, 底面ナデ	内外面ともにスス付着 底径11.2cm
95	SD4	古墳	甕	胴下部～底部	外面:灰白2.5Y8/2に類似, 内面:灰白10YR8/2に類似, 器肉:2.5Y5/1に類似	粗砂:白色粒, 赤色粒, 砂:石英, 角閃石, 白色粒, 細砂:黒色粒, 白色粒, 透明粒	3	外面:ハケの打ち込み痕あり・ナデ(—)(｜). 内面:ハケ(＼)・打ち込み痕あり・ナデ(＼).	外面:一部赤変している. 脚台との接合痕明瞭. 脚台内面の中心が盛り上がる.
96	SD4	古墳	甕	胴下部～脚部	外面:浅黄橙10YR8/3, 内面:灰黄褐10YR5/2, 器肉:にぶい黄橙10YR7/2	粗砂:角閃石, 石英, 赤色粒, 細砂:角閃石, 石英, 赤色粒	4	外面:ハケ→ナデ(／)(—), 内面:ハケ(—)→ナデ	内面, および外面上部スス付着.
97	SD4	古墳	甕	底部	外面:灰白10YR8/2, 内面:灰白10YR8/1, 器肉:黄灰2.5Y5/1	礫:黒色粒, 粗砂:角閃石, 石英, 赤色粒, 細砂:角閃石	4	外面:ナデ(—), 内面:ナデ	
98	SD4	古墳	甕	脚部	外面:灰白2.5Y8/2, 内面:灰白10YR8/2, 器肉:橙2.5YR7/6	粗砂:角閃石, 砂:角閃石, 石英, 細砂:黒色粒	4	外面:ナデ(—)(／). 内面:剥落.	脚台内面の中心が突出する.
99	SD4	古墳	甕	底部	外面:灰白10YR8/2, 内面:浅黄橙10YR8/3, 器肉:橙2.5YR7/6	粗砂:石英, 砂:石英, 角閃石, 赤色粒, 白色粒, 細砂:黒色粒, 透明粒	2	外面:ナデ(＼). 内面:ナデ(—)(＼).	脚台への接合痕明瞭. 脚台内面の中心が盛り上がる.
100	SD4	古墳	甕	底部	外面:灰白2.5Y8/2, 内面:灰白2.5Y7/1, 器肉:黄灰2.5Y6/1	礫:白色粒, 粗砂:白色粒, 石英, 角閃石, 灰色粒, 砂:石英, 角閃石, 赤色粒, 細砂:黒色粒, 透明粒	3	外面:ナデ(—).	脚台内面の中心が盛り上がる. 脚部への接合痕あり.
101	SD4	古墳	甕	底部	外面:浅黄橙7.5YR8/4, 内面:灰白10YR8/2, 器肉:灰白2.5Y8/2	礫:白色粒, 粗砂:角閃石, 石英, 白色粒, 細砂:角閃石, 石英, 赤色粒	3	外面:ナデ(—), 内面:ナデ	
102	SD4	古墳	甕	胴下部～脚部	外面:浅黄橙10YR8/4, 浅黄橙7.5YR8/4, 器肉:褐灰7.5YR6/1	礫:白色粒, 粗砂:角閃石, 白色粒, 赤色粒, 細砂:角閃石, 石英	3	外面:ハケ→ナデ(＼), ヨコナデ, 脚台内部:ハケ(—)→ナデ	底径10.8cm
103	SD4	古墳	甕	底部	外面:灰白10YR8/2, 内面:にぶい黄橙10YR7/4 器肉:褐灰10YR6/1	礫:白色粒, 粗砂:石英, 砂:石英 角閃石, 細砂:黒色粒, 透明粒	1	外面:ナデ(—). 内面:ハケ(＼)・打ち込み痕あり・ナデ(—).	外面:黒斑あり. 脚台への接合痕明瞭. 脚台内面の中心が盛り上がる.
104	SD4	古墳	甕	胴下部～脚部	外面:浅黄橙10YR8/3, 内面:灰黄褐10YR5/2, 器肉:橙2.5YR7/6	粗砂:石英, 角閃石, 細砂:石英, 角閃石	4	外面:ハケ(｜)→ナデ(｜)(—), 内面:ナデ	内面スス付着. 底径9.5cm
105	SD4	古墳	甕	胴下部～脚部	外面:灰白10YR8/2, 内面:浅黄橙7.5YR8/3, 器肉:褐灰7.5YR6/1	粗砂:角閃石, 石英, 白色粒, 細砂:角閃石, 石英, 白色粒	4	外面:ハケ(｜)(＼)→ナデ(—)(｜). 内面:ナデ	内面スス付着. 底径9.7cm
106	SD4	古墳	甕	胴下部～脚部	外面:浅黄橙10YR8/4, 内面:灰黄褐10YR6/2に類似, 器肉:灰白10YR8/1	砂:石英, 角閃石, 白色粒, 細砂:黒色粒	3	外面:胴部下半ナデ(｜)(—)(／). 脚台ケズリ(｜). 内面:胴部下半ハケ(｜)→ナデ. 脚台内部ハケ(｜).	胴部と脚台との接合痕が明瞭. 底径:10.2cm.
107	SD4	古墳	甕	胴～脚部	外面:橙2.5YR7/6, 内面:浅黄橙10YR8/3, 器肉:黄灰2.5Y4/1に類似	粗砂:石英, 白色粒. 細砂:石英, 角閃石, 白色粒.	3	外面:ハケ(｜)→ナデ(｜), 内面:ハケ(＼)→丁寧なナデ, 脚台内部:ハケ→ヨコナデ, 天井部はハケ打ち込み痕明瞭.	外面スス付着, 脚台接合部で破損. 底径10.4cm
108	SD4	古墳	甕	胴下部～脚部	外面:浅黄橙10YR8/3, 内面:浅黄橙10YR8/4, 器肉:灰白10YR8/1	粗砂:角閃石, 石英, 白色粒, 赤色粒, 細砂:角閃石, 石英, 白色粒	4	外面:ハケ(＼)→ナデ(—)(＼), 内面:ハケ→ナデ(＼), 脚台内部ハケ→ナデ(＼)	外面に補修用の素地貼り付け痕あり. 底径10.4cm
109	SD4	古墳	甕	胴下部～脚部	外面:にぶい橙7.5YR7/4, 内面:浅黄橙10YR8/3, 器肉:褐灰10YR8/1	砂:角閃石, 石英, 細砂:黒色粒	1	外面:ハケ(＼)・ナデ(—)(＼)(／). 内面:ユビオサエ・ナデ(｜)(—).	外面:黒斑あり. 胴部内面:接合痕あり. 底径:8.9cm.
110	SD4	古墳	甕	胴部～脚部	外面:灰白10YR8/2, 内面:灰白10YR8/3, 器肉:浅黄橙10YR8/1	粗砂:黒色粒, 砂:角閃石, 石英 細砂:黒色粒	5	外面:胴部ハケ(｜)→ナデ. 脚台ユビオサエ・ナデ. 内面:胴部ハケ(｜)(／)・ナデ・ユビオサエ. 脚台内部ハケ(—).	外面:胴下部以上にスス付着. 底径:9.5cm.
111	SD4	古墳	甕	胴下部～脚部	外面:浅黄橙10YR8/3, 内面:浅黄橙10YR8/4, 器肉:10YR8/2	礫:白色粒, 粗砂:角閃石, 石英, 細砂:角閃石, 石英	4	外面:ハケ(?)→ナデ(／), 内面:ヘラ状工具による?ナデ(｜)	底径8.8cm
112	SD4	古墳	甕	胴下部～脚部	外面:外面:淡橙5YR8/4, 内面:灰白10YR8/2, 器肉:褐灰10YR5/1	礫:軽石, 黒色粒, 粗砂:角閃石, 石英, 黒色粒, 白色粒, 細砂:角閃石, 石英	4	外面:ハケ→ナデ(／)(—), 内面:ハケ(＼)→ナデ(—)(＼)	底径10.3cm
113	SD4	古墳	甕	胴下部～脚部	外面:浅黄橙10YR8/3, 内面:にぶい黄橙10YR8/3, 器肉:浅黄橙7.5YR8/4	礫:白色粒, 粗砂:角閃石, 石英, 白色粒, 細砂:角閃石, 石英	3	外面:ハケ(｜)→ナデ(—)(｜), 内面:ハケ(＼)→ナデ(＼)	内面, および外面上部スス付着.

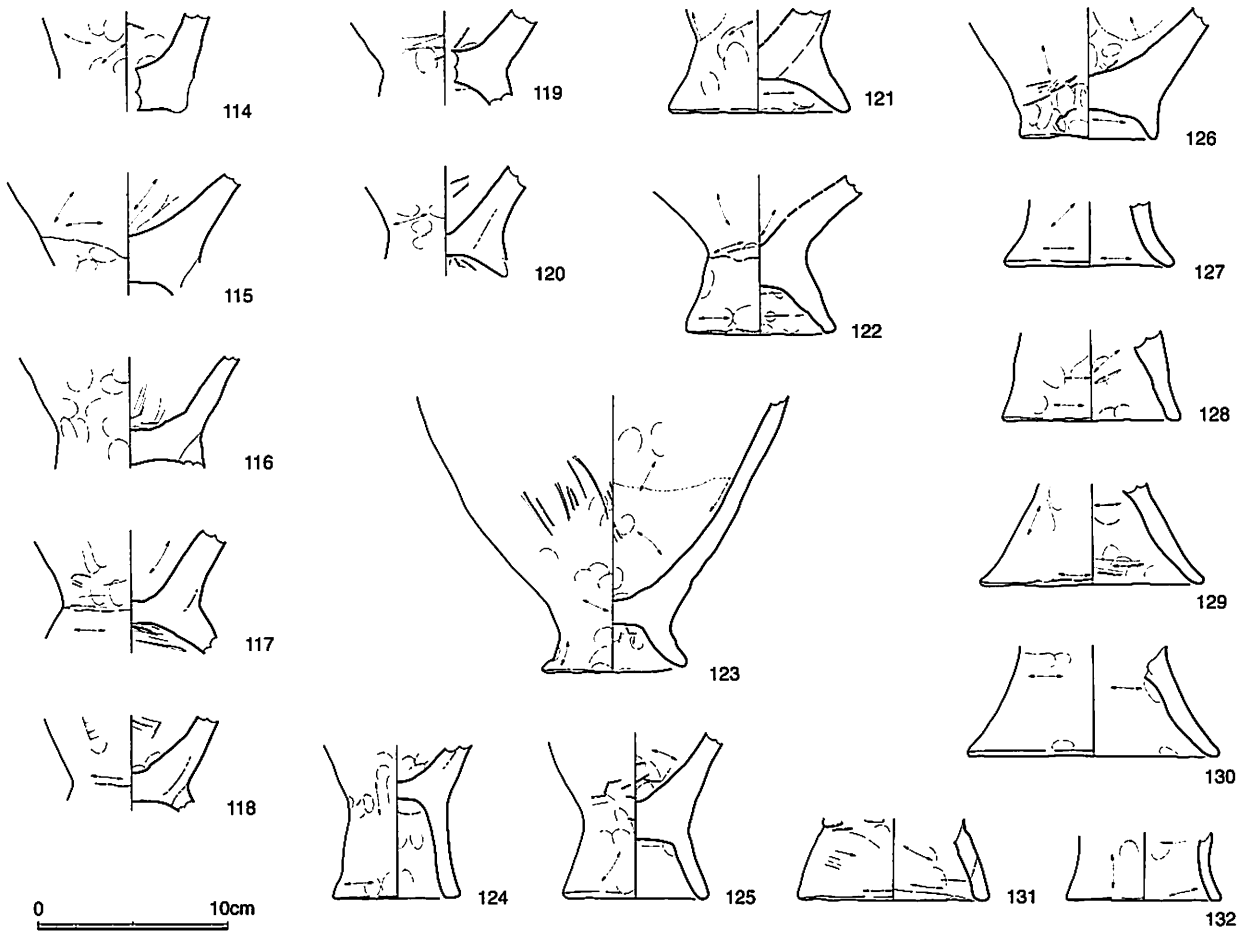
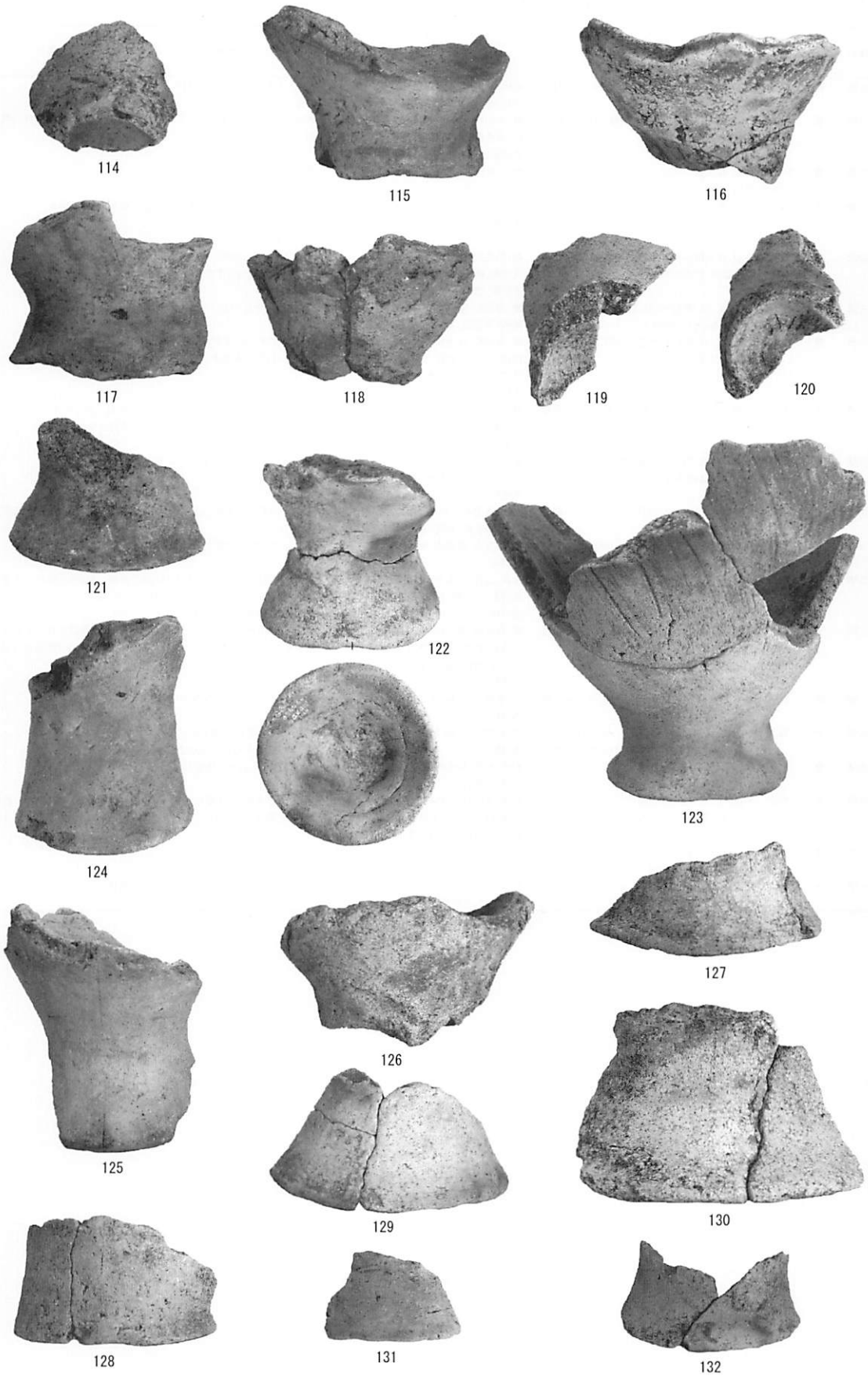


Fig.55　D地点SD4出土遺物（7）　古墳時代の甕　S=1/4



PL.36　D地点SD4出土遺物写真（8）　古墳時代の甕

Tab.12　D地点SD4出土遺物観察表（5）　古墳時代の甕

No.	層	種別	器種	部位	色調	胎土 混和材	胎土 砂粒の多さ	調整	備考
114	SD4	古墳	甕	底部	外面:灰白10YR8/2,内面:浅黄橙7.5YR8/4,器肉:褐灰10YR6/1	粗砂:角閃石,石英,白色粒,細砂:角閃石,石英,白色粒	4	外面:ハケ(?)→ナデ(／)(＼)内面:ハケ→ナデ	
115	SD4	古墳	甕	底部	外面:灰白10YR8/2,内面:黒褐10YR3/1,器肉:灰白10YR7/1	礫:灰色粒,赤色粒,粗砂:灰色粒,赤色粒,角閃石,砂:石英,角閃石,細砂:黒色粒,透明粒	4	外面:ユビオサエ・ナデ(—)(／). 内面:ユビオサエ・ナデ(／).	外面:脚部への接合痕明瞭. 内面:スス付着.
116	SD4	古墳	甕	胴下部～脚部	外面:浅黄橙7.5YR8/3,内面:浅黄橙10YR8/3,器肉:黄灰2.5Y5/1	粗砂:角閃石,赤色粒,細砂:角閃石,石英	3	外面:ナデ,内面:ハケ(?)→ナデ	
117	SD4	古墳	甕	底部	外面:橙7.5YR6/6,内面:橙7.5YR6/6,器肉:灰白10YR8/2	粗砂:赤色粒,砂:白色粒,石英,黒色粒,細砂:黒色粒,透明粒	2	外面:ナデ(|)(—)・ユビオサエ. 内面:ナデ(／)・ハケ(|)・打ち込み痕あり.	推定底径:9.0cm.
118	SD4	古墳	甕	底部	外面:浅黄橙10YR8/3に類似,内面:浅黄2.5Y7/3,器肉:灰白10YR8/2	礫:白色粒,灰色粒,粗砂:石英,灰色粒,砂:石英,角閃石,細砂:黒色粒,透明粒	4	外面:ハケ(／)・ナデ(／). 内面:ハケ(／)・ユビオサエ・ナデ(＼).	脚台への接合痕明瞭.
119	SD4	古墳	甕	底部	外面:にぶい黄橙10YR7/3,内面:浅黄橙10YR8/4,器肉:灰白10YR8/2	礫:黒色粒,粗砂:角閃石,石英,細砂:角閃石,石英,赤色粒	5	外面:ナデ(—),内面:ハケ(＼)→ナデ	内面スス付着.
120	SD4	古墳	甕	脚部	外面:灰白10YR8/2,内面:灰黄2.5Y6/2に類似,器肉:灰白2.5Y8/2	礫:赤色粒,灰色粒,白色粒,粗砂:石英,灰色粒,白色粒,砂:角閃石,石英,白色粒,細砂:黒色粒	2	外面:ユビオサエ・ナデ(—). 内面:ハケ(|)・打ち込み痕あり.	推定底径:6.6cm.
121	SD4	古墳	甕	脚部	外面:にぶい黄橙10YR6/3,内面:にぶい黄橙10YR6/3,器肉:灰褐7.5YR6/2	礫:白色粒,赤色粒,粗砂:石英,黒色粒,白色粒,細砂:角閃石,石英	3	外面:ハケ(?)→ナデ(／)(|),内面:ナデ	外面上部にスス付着. 底径9.6cm
122	SD4	古墳	甕	胴下部～脚部	外面:灰白2.5Y8/2,内面:褐灰10YR6/1,器肉:褐灰10YR6/1	粗砂:角閃石,石英,砂:角閃石,石英,赤色粒,白色粒,細砂:黒色粒	3	外面:ナデ(—)(＼)(／)・ユビオサエ. 内面:ナデ(|).	底径:7.9cm
123	SD4	古墳	甕か鉢	胴部～脚部	外面:灰白10YR8/2,内面:灰白10YR8/2,器肉:褐灰10YR6/1	粗砂:角閃石,白色粒,細砂:角閃石,白色粒,石英,赤色粒	4	外面:ハケ(?)→ナデ(＼)(／),内面:ナデ(＼)(／)	内面下部スス付着.底径7.7cm
124	SD4	古墳	甕	胴下部～脚部	外面:橙2.5YR7/6,内面:灰白10YR8/2,器肉:褐灰10YR5/1	粗砂:石英,角閃石,細砂:石英,角閃石	4	外面:ハケ(?)→ナデ(|)(—),内面:ナデ	底径6.7cm
125	SD4	古墳	甕	脚部	外面:にぶい橙5YR7/4,内面:浅黄橙7.5YR8/4器肉:黄灰2.5Y6/1	粗砂:白色粒,赤色粒,砂:石英,角閃石,白色粒,細砂:黒色粒,透明粒	2	外面:ユビオサエ・ハケの打ち込み痕あり・ナデ(—). 内面:ハケ(＼)・打ち込み痕あり・ユビオサエ・ナデ(—).	外面:一部赤色顔料が付着. 底径:7.7cm.
126	SD4	古墳	甕	底部	外面:浅黄橙10YR8/3,内面:にぶい黄橙10YR7/3,器肉:2.5Y5/1	礫:赤色粒,黒色粒,粗砂:石英,白色粒,角閃石,砂:角閃石,石英,白色粒,細砂:黒色粒,透明粒	3	外面:ユビオサエ・ナデ(|). 内面:ユビオサエ・ナデ(—).	外面:ヘラ状工具による刺突痕あり. 内面:コゲ部分あり.底径7.1cm.
127	SD4	古墳	甕	脚部	外面:灰白2.5Y8/2,内面:橙5YR7/6,器肉:橙5YR7/6	砂:角閃石,石英,細砂:黒色粒,透明粒	3	外面:ナデ(—)(／). 内面:ナデ(—).	底径:8.8cm.
128	SD4	古墳	甕	脚部	外面:浅黄橙10YR8/4に類似,内面:浅黄橙10YR8/4に類似,器肉:浅黄橙10YR8/4に類似	砂:角閃石,石英,細砂:黒色粒,透明粒	3	外面:ユビオサエ・ナデ(—)(＼). 内面:ユビオサエ・ハケ(＼)・ナデ(／).	底径:9.2cm.
129	SD4	古墳	甕	脚部	外面:灰白2.5Y8/2,内面:10YR8/1,器肉:灰白10YR8/1	粗砂:石英,黒色粒,白色粒,細砂:角閃石	4	外面:ナデ(|)(—),内面:ナデ(—)	底径11.6cm
130	SD4	古墳	甕	底部	外面:灰白10YR8/2,内面:にぶい黄橙10YR7/4に類似,器肉:橙2.5YR6/6	粗砂:灰色粒,白色粒,角閃石,石英,砂:角閃石,石英,白色粒,細砂:黒色粒,白色粒,透明粒	4	外面:ユビオサエ・丁寧なナデ(—). 内面:丁寧なナデ(—)(|).	胴部への接合痕明瞭. 底径:13cm.
131	SD4	古墳	甕	脚部	外面:にぶい黄橙10YR7/3,内面:灰白10YR8/2器肉:浅黄橙7.5YR8/6	粗砂:石英,角閃石,細砂:石英,角閃石,白色粒	3	外面:ハケ(|)→ナデ(＼)(—),内面:ナデ(—)(＼)	底径10.0cm
132	SD4	古墳	甕	脚部	外面:にぶい黄橙10YR7/3,内面:浅黄橙10YR8/4,器肉:橙2.5YR6/6	粗砂:角閃石,白色粒,細砂:角閃石,白色粒,石英	4	外面:ハケ→ナデ(|),内面:ナデ(—)	底径8.0cm

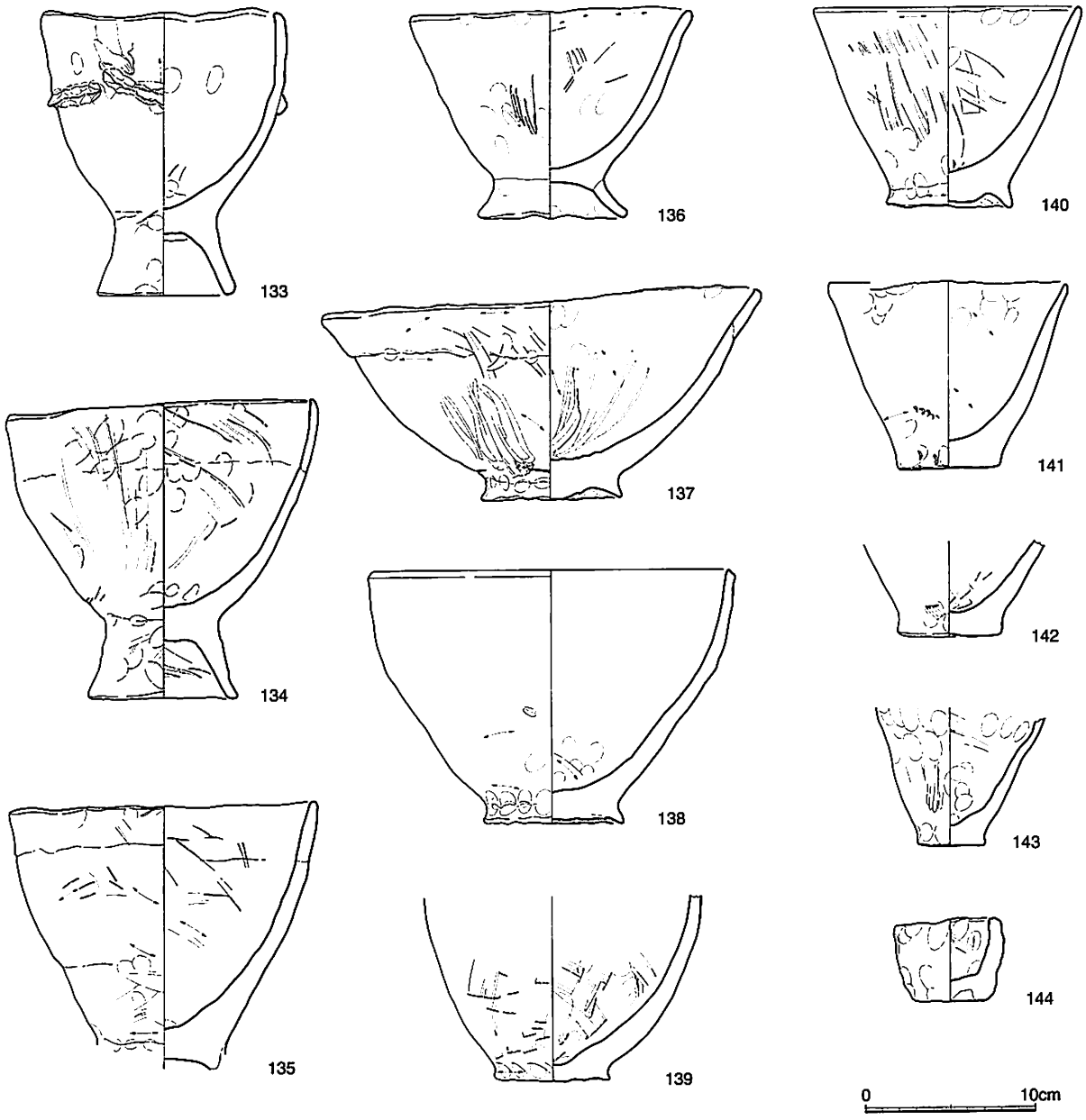
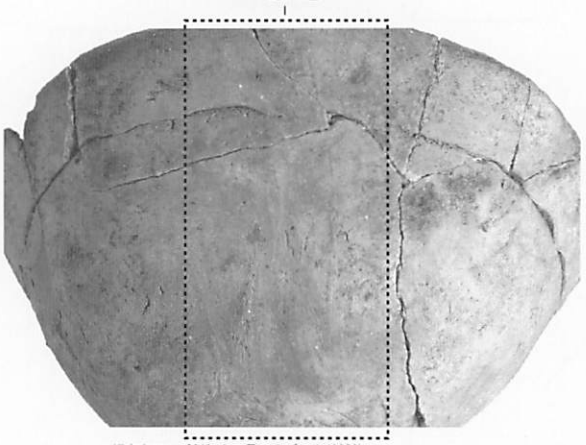


Fig.56　D地点SD4出土遺物（8）　古墳時代の鉢　　S=1/4

133

137

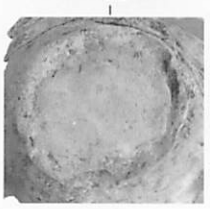
134



縦方向のひび割れを工具のナデにより補修

135

138



136

139

PL.37　D地点SD4出土遺物（9）　古墳時代の鉢

PL.38　D地点SD4出土遺物（10）　古墳時代の鉢

Tab.13　D地点SD4出土遺物観察表（6）　古墳時代の鉢

No.	層	種別	器種	部位	色調	胎土 混和材	胎土 砂粒の多さ	調整	備考
133	SD4	古墳	台付鉢	完形	外面:浅黄橙7.5YR8/4,内面:浅黄橙10YR8/4,器肉:にぶい黄橙10YR7/3	礫:黒色粒,石英,赤色粒,粗砂:黒色粒,石英,赤色粒,角閃石,細砂:角閃石,石英	5	外面:ナデ・ヨコナデ,内面:ナデ(／)脚台内部ハケ→ナデ	絡縄突帯1条,外面,突帯より上部にスス付着.口径14.0cm,底径8.0cm,器高16.2cm
134	SD4	古墳	台付鉢	完形	外面:浅黄橙10YR8/4,内面:浅黄橙:10YR8/3,器肉:灰白10YR8/2	粗砂:角閃石,白色粒,細砂:角閃石,白色粒,石英,赤色粒	5	外面:胴部ハケ(｜)→ナデ(｜),脚部ハケ(／)→ナデ(／)(—),内面:ハケ→ナデ(／)(＼),脚台内部ナデ	口径18.2cm,底径8.7cm,器高16.8cm
135	SD4	古墳	鉢	口縁部～底部	外面:橙7.5YR7/6,内面:橙7.5YR7/6,器肉:浅黄橙7.5YR8/3,	礫:赤色粒,粗砂:白色粒,石英,細砂:白色粒,赤色粒,角閃石	3	外面:ハケ(／)(＼)→ナデ(—),内面:ハケ(＼)→ナデ	口径17.9cm
136	SD4	古墳	台付鉢	完形	外面:浅黄橙7.5YR8/3,内面:浅黄橙:7.5YR8/4器肉:灰白7.5YR8/2	粗砂:赤色粒,細砂:角閃石,赤色粒,石英	2	外面:ナデ,一部にヘラミガキ,内面:ケズリ状のハケ(?)→ヨコナデ・ミガキ(?)もしくは丁寧なナデ	赤色顔料塗布.剥落のため一部にのみ残存.口径16.5cm,底径8.8cm,器高11.8cm
137	SD4	古墳	台付鉢	完形	外面:にぶい黄橙10YR6/3,内面:にぶい黄橙10YR7/4,器肉:褐灰10YR5/1	粗砂:角閃石,石英,白色粒,細砂:角閃石,石英,赤色粒	3	外面:ナデ(＼):ヨコナデ,ヘラ工具によるナデ,内面:ナデ(＼),ヘラ工具によるナデ,脚台接合部は指頭痕が顕著.	ヒビ補修のため,ヘラ状の工具によるナデが集中する部分あり.内面にヒビ割れが残る.口径25.6cm,底径8.3cm,器高11.4cm
138	SD4	古墳	鉢	完形	外面:橙5YR7/6,内面:橙5YR6/6,器肉:浅黄橙7.5YR8/3	粗砂:石英,細砂:石英,角閃石,白色粒	2	外面:ナデ(＼),内面:ナデ(＼)	底部は整形時に粘土を貼付け,平坦に仕上げている。口径21.4cm,底径8.2cm,器高14.5cm 胴部に籾痕(?)あり.
139	SD4	古墳	鉢	胴部～底部	外面:浅黄橙10YR8/3,内面:灰白10YR8/2,器肉:褐灰10YR6/1	粗砂:赤色粒,細砂:角閃石,石英	3	外面:ハケ(｜)→ナデ,底部はナデ・ヨコナデ,内面:ハケ(／)→ナデ	底径6.8cm
140	SD4	古墳	台付鉢	完形	外面:浅黄橙10YR8/3,内面:浅黄橙10YR8/3,器肉:褐灰10YR5/1	粗砂:石英,赤色粒,黒色粒細砂:角閃石,石英,赤色粒	5	外面:ハケ(＼)→ナデ・ヨコナデ,内面:ハケ(＼)→ナデ(＼)	口径14.6cm,底径7.3cm,器高11.3cm
141	SD4	古墳	鉢	完形	外面:浅黄橙10YR8/4,内面:灰白10YR8/1,器肉:にぶい黄橙10YR7/2	粗砂:角閃石,石英,赤色粒,細砂:角閃石,石英,赤色粒	3	外面:ナデ,内面:ナデ(＼)	外面に刺突痕あり.口径13.9cm,底径5.9cm,器高10.7cm
142	SD4	古墳	鉢	胴部～底部	外面:灰黄褐10YR6/2,内面:浅黄橙10YR8/3,器肉:褐灰10YR5/1	粗砂:角閃石,白色粒,赤色粒,細砂:角閃石,石英,白色粒	4	外面:ハケ(＼)→ナデ,内面:ハケ(＼)→ナデ	底径6.1cm
143	SD4	古墳	鉢	胴上部～底部	外面:黄灰2.5Y6/1,内面:黄灰2.5Y6/1,器肉:黄灰2.5Y6/1	粗砂:角閃石,石英,細砂:石英角閃石,白色粒	3	外面:ナデ・ヘラ(?)によるナデ,内面:ハケ(?)→ナデ(＼)	底径4.0cm
144	SD4	古墳	手捏ね土器	完形	外面:灰白10YR8/1,内面:灰白2.5Y7/1,器肉:褐灰10YR6/1	礫:白色粒,粗砂:石英,白色粒,赤色粒,細砂:石英,角閃石	4	外面:ナデ:ユビオサエ,内面:ナデ(＼),ユビオサエ	口径(短径5.8cm,長径6.4cm),底径4.5cm,器高4.8cm

壺は，有文と無文のものがある。有文のタイプは，大型品が多い。145～147は同一個体であると推定される。口縁部は湾曲しながら開き，頚部に2条の刻目突帯を施す。刻みには，布目圧痕が認められる。146は胴部片で，幅広突帯を1条めぐらす。突帯には，斜めの沈線文が施されている。147は胴部下半だが，レンズ状に膨らむ底部を有する。148は口縁部が欠損しているが，頚部突帯が1条である以外は，サイズやプロポーションが145～147に類似する。

149から152は胴部が丸いプロポーションのものである。149・150は突帯の種類は異なるが，口縁部形態は口縁端部が少し太い特徴など，よく類似している。149の突帯の施文は指による刻み目，151は竹管文によるもの，152はヘラ描きによる斜格子文，150は刻目に布目圧痕が認められ，それぞれに異なっている。

153は1条の絡縄突帯を施し，甕と同様に端部をずらしている。179は頚部に絡縄突帯を1条施す。43・46は胴部最大径付近に，ヘラ描きによって大きな×文を横方向に並べている。153～156は最大径が25cm以下で，中型タイプといってよい。

無文のものは，有文の大型品に比べると，口縁部が短く，細長いプロポーションを呈するものが多い。サイズによって，器高が40cm弱のもの（157～166）と30cm前後のもの（169～176），25cm前後のもの（177～179）に分けることができる。前二者は，プロポーションや器面調整が大変類似している。また，調整はあまり丁寧ではなく，粘土接合線や補修痕が認められるほか，口縁部端部もゆがんでいたり，外面にケズリ痕が明瞭に残っているものもある。このタイプの中で，167は口縁部のみの破片だが，頚部内面にススが付着している。肩部接合部で欠損したと考えられ，破片はドーナツ状の形態を呈しているので，割れた後，転用した結果，付着したものと考えられる。159・161・166には，胴部外面にはススが付着しており，161は底部付近外面が赤変していることからも，煮沸具として使用されたことがわかる。

177～179は無文だが，球状の胴部形態を呈し，底部は上げ底気味の平底である。178は外面に赤色顔料が塗布され，細かいミガキが施されている。他の土器も，つくりは比較的丁寧である。177と178は，底部が欠損しているが，177は内面から力を加えたと考えられる割れ方で，両者とも意図的に穿孔されたと思われる。

180～192は壺の底部である。181は，平底の底面に植物の圧痕が認められる。

⑤　坩（Fig.64，PL.46，Tab.18）

193～197は坩である。193は完形品で，外面には赤色顔料が塗布され，主に横方向のミガキが施されてた精緻なつくりのものである。195は底部が厚く，立ち上がりの傾斜も弱いので，若干大きいサイズものと推定される。197は，胴部最大径付近に5条の並行細沈線によって，鋸歯文が施されている。

⑥高杯（Fig.65，PL.47・48，Tab.19）

高杯は，口径20cm前後で，外面に赤色顔料が塗布され，ミガキが施されているものがほとんどである。杯部形態は，屈曲部から直線的に開くもの（198～201）と内湾気味に立ち上がる形態（202～205）の2つに分けることができるが，それぞれの差異はあまり明瞭ではない。202は，杯部内面全面に赤色顔料が塗布されているが，ミガキは施されていない。なお，内面に顔料滴がはねて付着した痕跡が認められる。

脚部は，上半部は棒状で，下半部がスカート状に広がる形態を呈する。脚部のミガキの方向は，横方向のものが多い（201・204・207・208・210・212）。213は，端部は欠損しているが，広がり部分が4つに分岐する形態を呈する。須恵器高杯の模倣とも考えられる。脚部は，杯部との接合痕で欠損したものが多く，接合面を明瞭に残している（206～210・212・213）。

203は，唯一赤色顔料が塗布されていないもので，器壁も厚く，粗雑なつくりのものである。

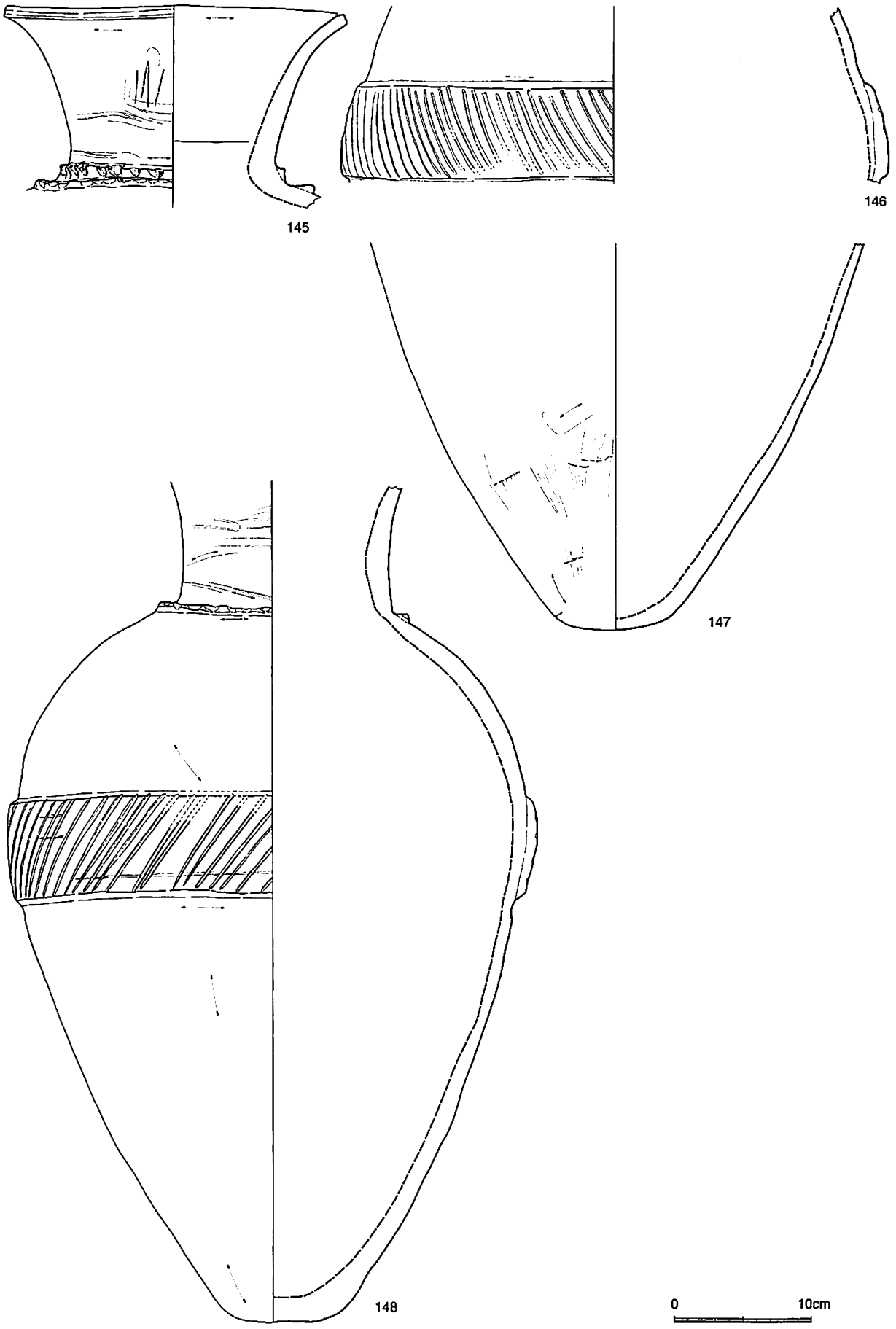
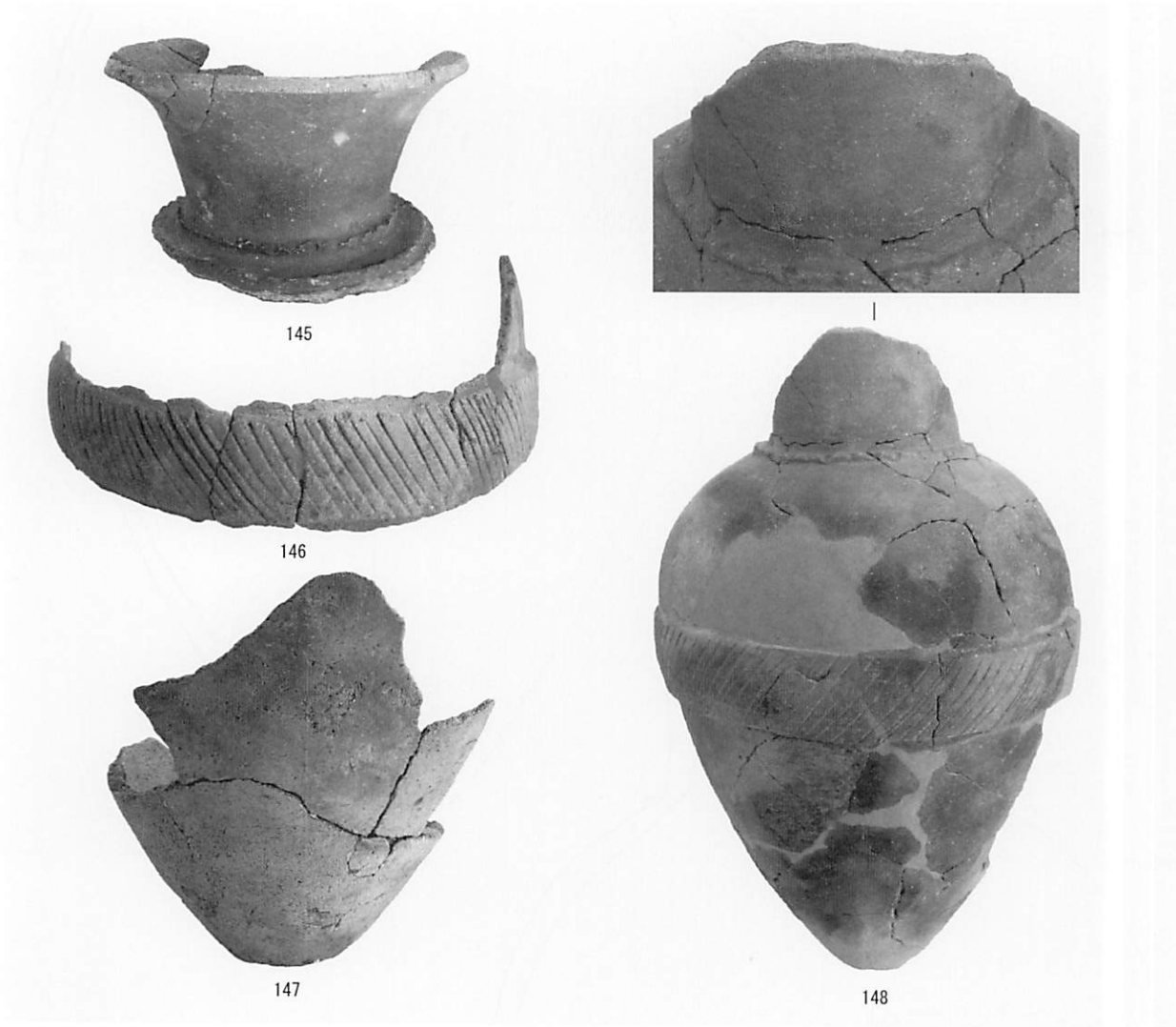


Fig.57　D地点SD4出土遺物（9）　古墳時代の壺　S=1/4



PL.39　D地点SD4出土遺物(11)　古墳時代の壺

Tab.14　D地点SD4出土遺物観察表(7)　古墳時代の壺

No.	層	種別	器種	部位	色調	胎土 混和材	胎土 砂粒の多さ	調整	備考
145	SD4	古墳	壺	口縁部～頸部	外面:明赤褐2.5Y5/6,内面:橙5YR6/6,器肉:黄灰2.5Y5/1	礫:白色粒,赤色粒,粗砂:白色粒,赤色粒,石英,灰色粒,砂:白色粒,石英,角閃石,細砂:白色粒,黒色粒	3	外面:ナデ(｜)(—). 内面:ナデ(—).	頸部に刻目突帯2条,数箇所に布目圧痕が残る. 口径:24.4cm
146	SD4	古墳	壺	胴部	外面:橙7.5YR7/6,内面:灰白10YR8/2,器肉:灰白10YR8/2	礫:白色粒,粗砂:角閃石,石英,白色粒,黒色粒,細砂:白色粒,石英,赤色粒	4	外面:ナデ・ヨコナデ,内面:全面剥落のため調整不明.	幅広突帯1条,斜め平行文を施す 145と同一個体か,胴部最大径39.2cm.
147	SD4	古墳	壺	胴部～底部	外面:橙5YR6/6,内面:灰白10YR8/2,器肉:灰白10YR8/2	礫:白色粒,粗砂:角閃石,石英,白色粒,赤色粒,細砂:角閃石,石英,白色粒,赤色粒	4	外面:ハケ(＼)→ナデ(／),内面:全面剥落のため調整不明	145と同一個体か.
148	SD4	古墳	壺	完形	外面:明赤褐2.5YR5/6,内面:明赤褐2.5YR5/6,器肉:明赤褐2.5YR5/6	礫:白色粒,黒色粒,灰色粒,粗砂:白色粒,黒色粒,石英,角閃石,砂:白色粒,黒色粒,石英,角閃石,細砂:白色粒,黒色粒	2	外面:ナデ(—)(＼)(｜). 黒斑あり. 内面:剥落.	頸部:刻目突帯1条. 胴部:幅広突帯. ヘラ状工具により斜め平行文を施す(／). 胴部径:38cm, 頸部径:19.7cm, 器高(残存):60cm

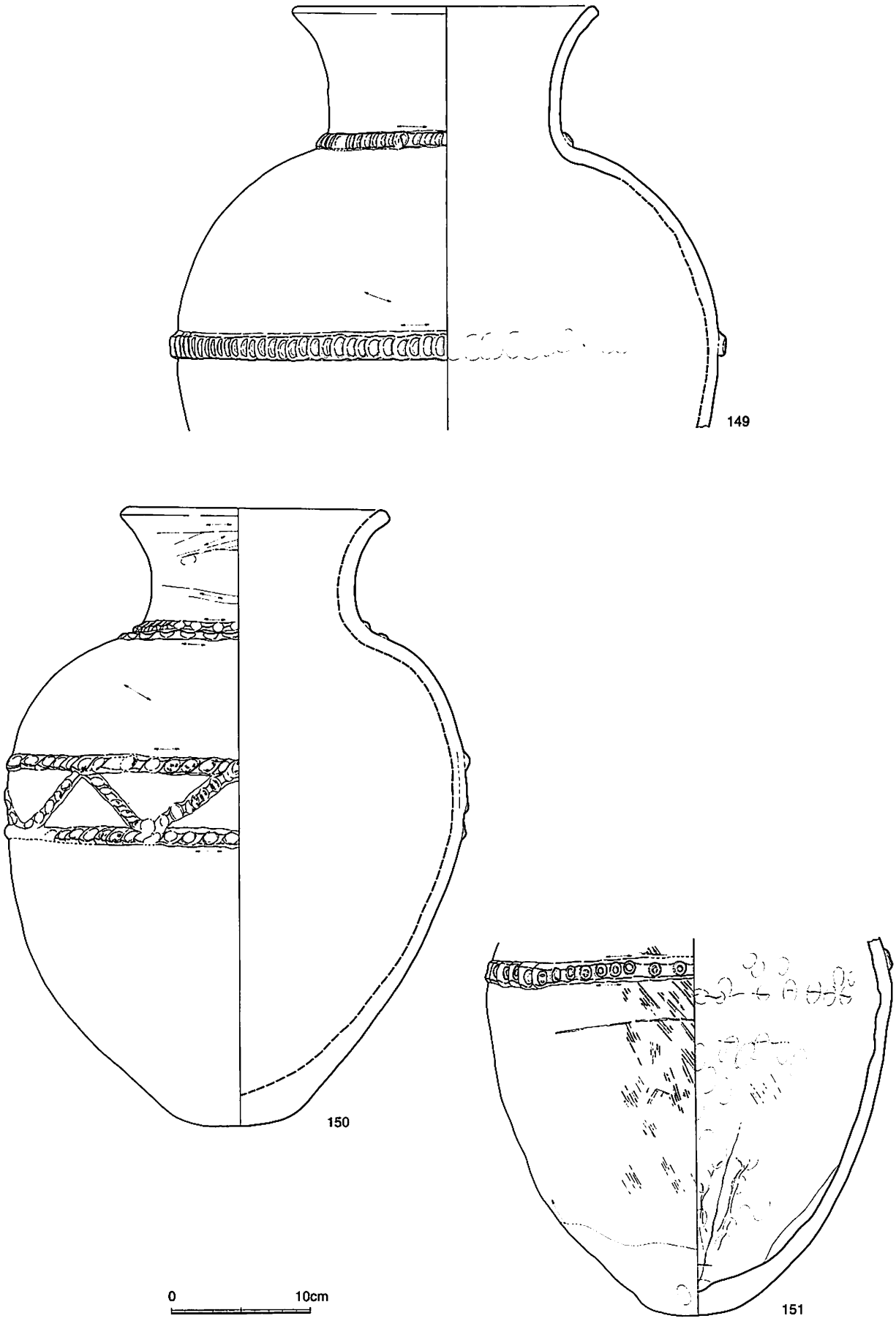
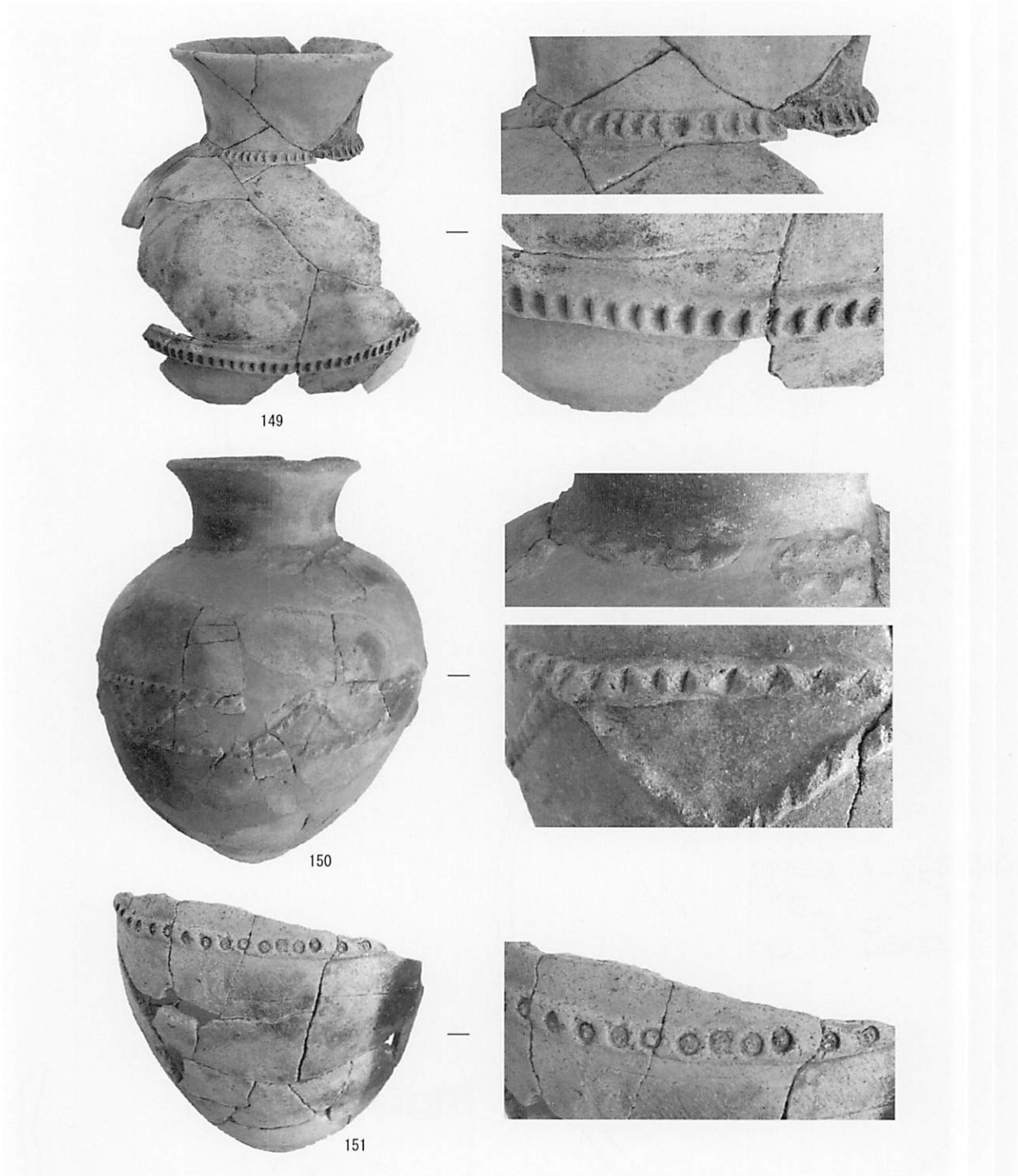


Fig.58　D地点SD4出土遺物(10)　古墳時代の壺　S=1/4



PL.40　D地点SD4出土遺物(12)　古墳時代の壺

Tab.15　D地点SD4出土遺物観察表(8)　古墳時代の壺

No.	層	種別	器種	部位	色調	胎土 混和材	胎土 砂粒の多さ	調整	備考
149	SD4	古墳	壷	口縁部～胴部	外面:橙5YR7/6,内面:淡橙5YR8/4,器肉:淡橙5YR8/4	礫:軽石,白色粒,粗砂:石英,白色粒,角閃石,細砂:角閃石,白色粒. 胴部最大径39.6cm.	3	外面:ナデ(＼)・ヨコナデ,内面:ナデ	頸部に突帯1条,胴部に突帯1条ともに指頭幅の文様を施す. 口径22.0cm
150	SD4	古墳	壷	完形	外面:にぶい黄橙10YR6/4,内面:橙7.5YR7/6,器肉:橙7.5YR7/6	礫:軽石,黒色粒,粗砂:角閃石,石英,白色粒,細砂:角閃石,石英,白色粒,赤色粒	4	外面:口唇部ヨコナデ,口縁部ナデ(／)(＼),胴部ナデ(＼)・ヨコナデ,内面:全面剥落のため調整不明	頸部:刻目突帯2条,胴部:刻目突帯2条貼付け,その間にハの字状に刻目突帯を施す.刻目に布目痕が残る.欠落が著しいため図上復元.口径19.2cm,推定器高43.6cm,底径6.0cm,胴部最大径33.0cm
151	SD4	古墳	壷	胴部～底部	外面:浅黄橙10YR8/4,内面:橙7.5YR7/6,器肉:褐灰10YR6/1	礫:石英,赤色粒,粗砂:石英,赤色粒,角閃石,黒色粒,細砂:石英,角閃石,白色粒.胴部最大径28.8cm.	4	外面:粗いハケ(／)(＼)→ナデ,ヨコナデ.内面:ハケ(?)→ナデ	貼付突帯1条,竹管文を施す(竹管径0.9cm,内径0.6cm),外面のほぼ全面にスス付着.底径6.0cm内面に補修用の素地貼り付け.

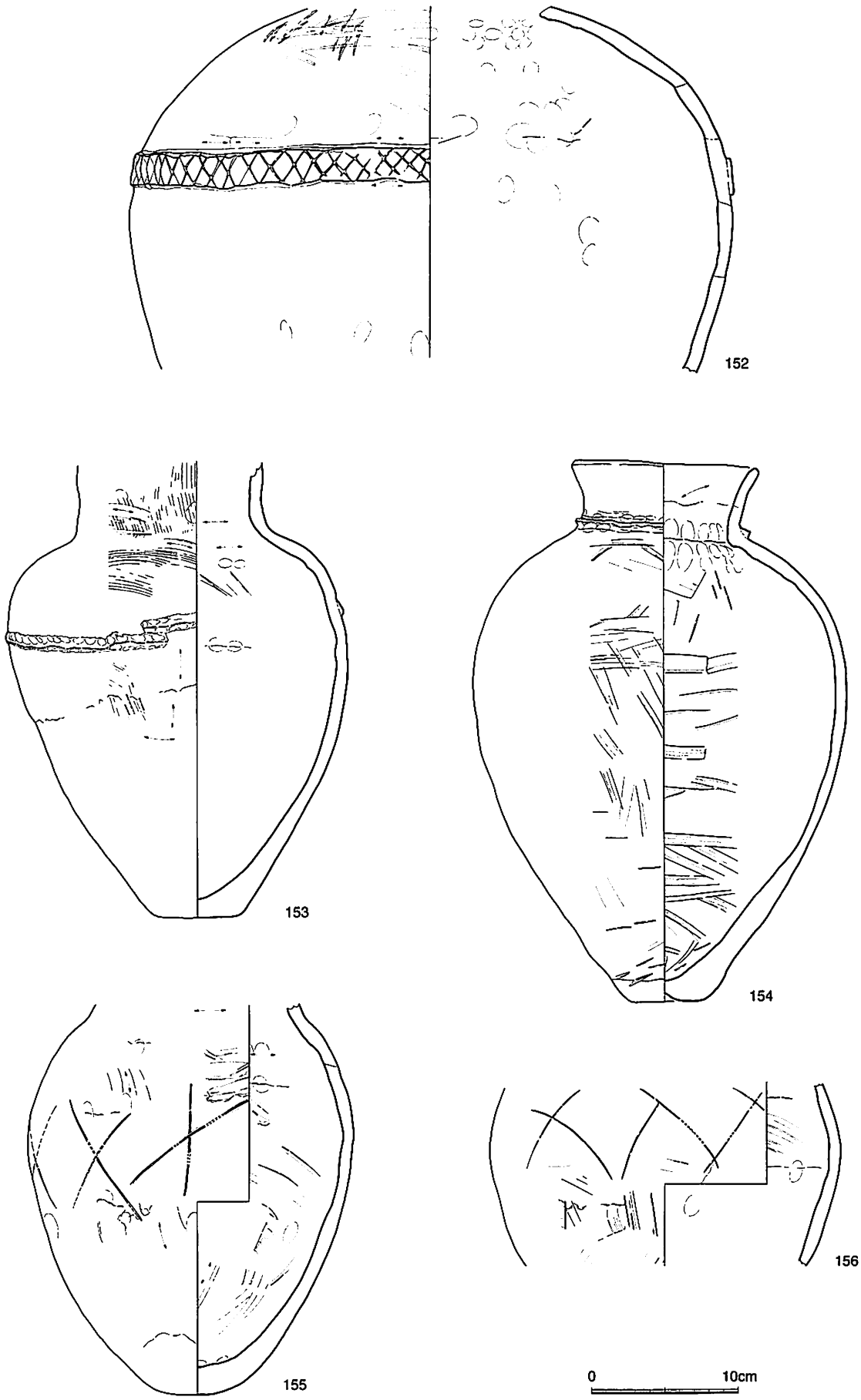
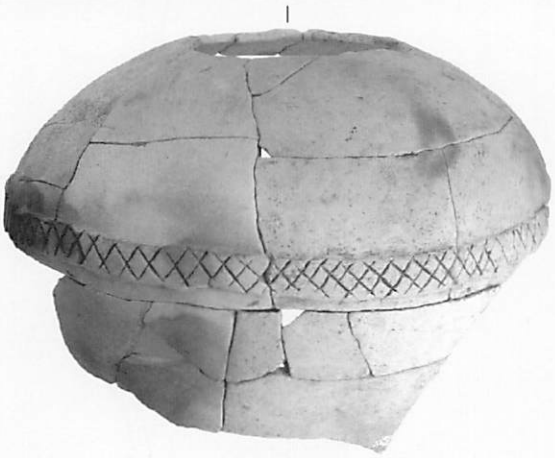


Fig.59　D地点SD4出土遺物(11)　古墳時代の壺　S=1/4

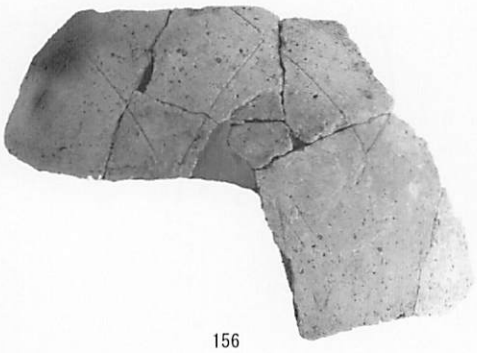


152

153

154

155



156

PL.41　D地点SD4出土遺物(13)　古墳時代の壺

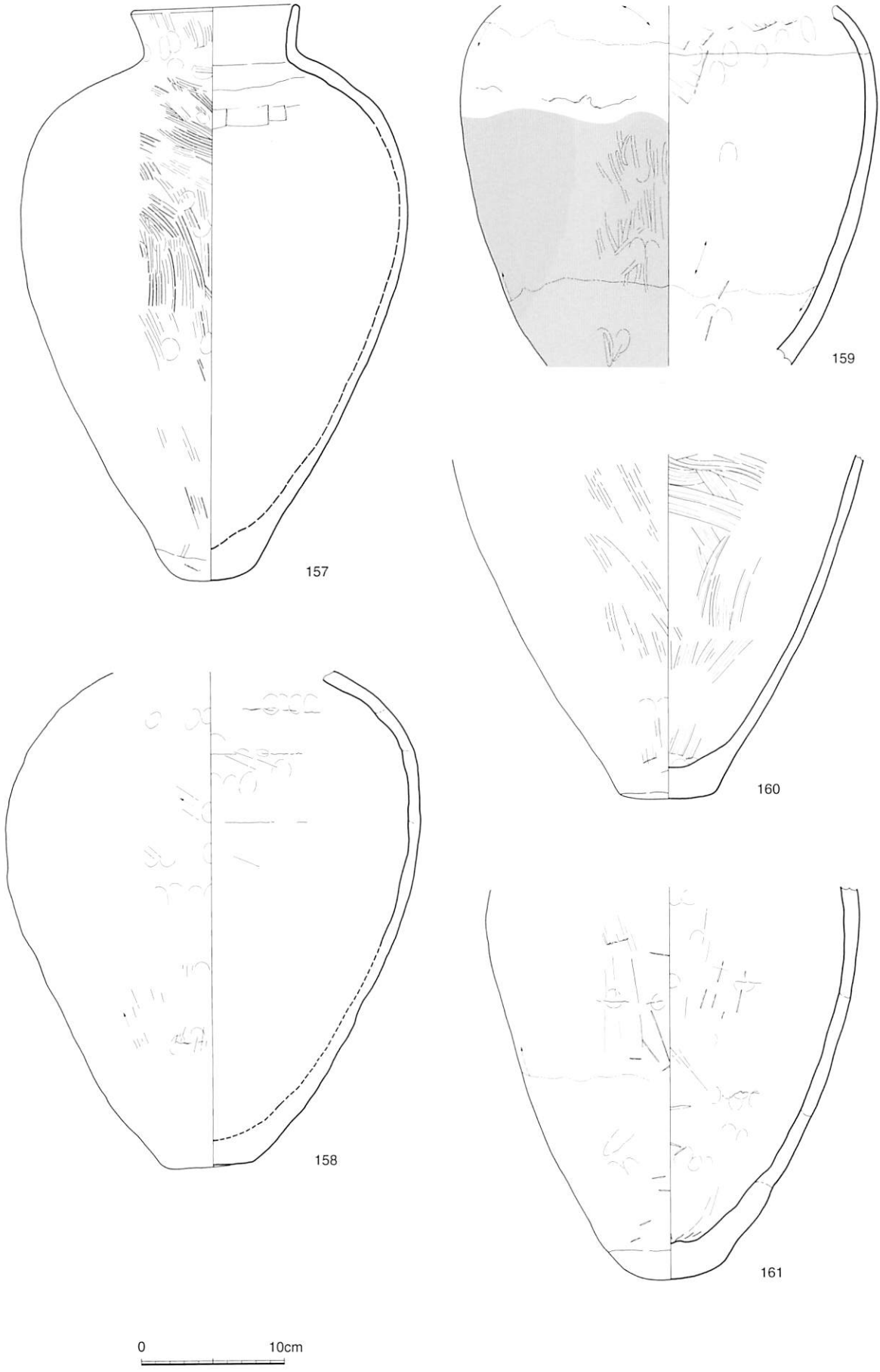
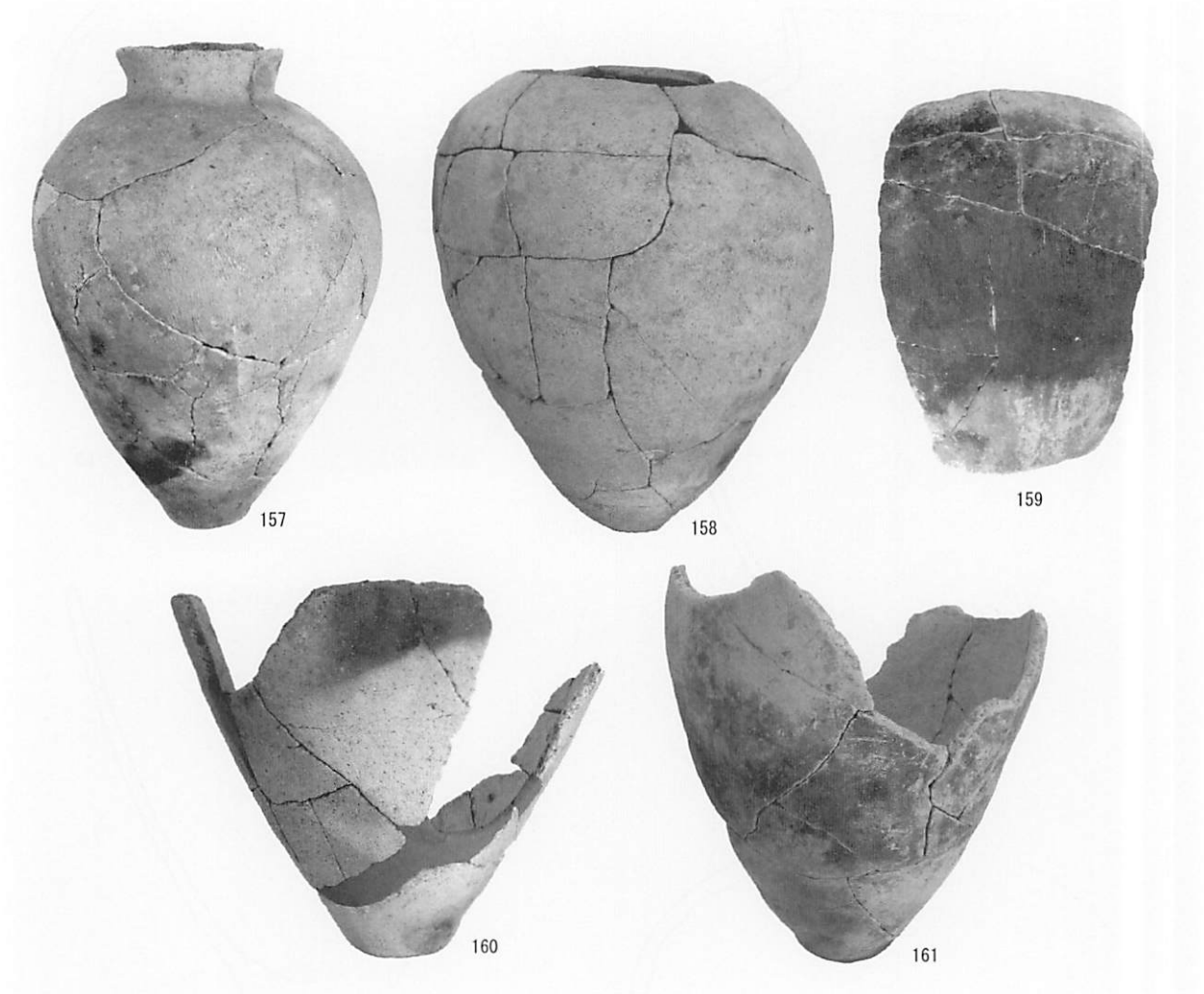


Fig.60　D地点SD4出土遺物(12)　古墳時代の壺　S=1/4



PL.42　D地点SD4出土遺物(14)　古墳時代の壺

Tab.16 D地点SD4出土遺物観察表(9)　古墳時代の壺

No.	層	種別	器種	部位	色調	胎土 混和材	胎土 砂粒の多さ	調整	備考
152	SD4	古墳	壺	頸部～胴部	外面:灰白10YR8/1,内面:浅黄橙7.5YR8/4,器肉:灰白10YR7/1	礫:赤色粒,粗砂:角閃石,石英,赤色粒,細砂:角閃石,赤色粒,石英	2	外面:ハケ(?)→ナデ・ヨコナデ.内面:ナデ	幅広突帯1条,斜め格子文を施す.胴部最大径40.8cm
153	SD4	古墳	壺	口縁部～底部	外面:にぶい褐7.5YR6/3に類似,内面:にぶい橙7.5YR7/4に類似,器肉:灰黄褐10YR6/2	礫:軽石,白色粒,黒色粒,粗砂:石英,角閃石,白色粒,赤色粒細砂:石英,角閃石,白色粒.	4	外面:ハケ(｜)(—)→ナデ(—)(｜),内面:全体ナデ,口縁部ヨコナデ.	絡縄突帯1条.表面剥落著しい.胴部最大径22.9cm.底径5.8cm.
154	SD4	古墳	壺	完形	外面:浅黄橙7.5YR8/6,内面:灰白10YR8/2,器肉:褐灰10YR6/1	礫:軽石,粗砂:石英,白色粒,細砂:石英,角閃石,白色粒,赤色粒	4	外面:口縁部ナデ(—),胴部ハケ→ナデ(＼)(／),内面:口縁部ナデ(—),胴部ハケ(—)(＼)→ナデ	頸部に三角突帯1条口径12.7cm,器高36.2cm.底径5.1cm.
155	SD4	古墳	壺	肩部～底部	外面:灰白10YR8/2,内面:浅黄橙7.5YR8/4,器肉:灰白10YR8/1	礫:白色粒,石英,粗砂:石英,角閃石,白色粒,黒色粒,赤色粒細砂:石英,角閃石,白色粒,赤色粒	5	外面:ハケ→ナデ(＼),内面:ハケ(＼)→ナデ(／)(—),ヨコナデ	胴部外面に×字状の細沈線文.胴部最大径22.1cm.底径4.2cm
156	SD4	古墳	壺	胴部	外面:灰白10YR8/2,内面:浅黄橙10YR8/3,器肉:褐灰:10YR6/1	礫:黒色粒,石英,灰色粒,白色粒,粗砂:石英,角閃石,赤色粒,砂:石英,角閃石,白色粒,細砂:黒色粒,透明粒	5	外面:ハケ(｜)(／)(＼)→ナデ.黒斑あり.内面:ハケ(＼)→ナデ.	外面に×字状の細沈線文.胴部最大径23.5cm.
157	SD4	古墳	壺	完形	外面:浅黄橙10YR8/4,内面:黄橙7.5YR8/8,器肉:浅黄橙7.5YR8/3	礫:石英,白色粒,粗砂:石英,白色粒,角閃石,細砂:白色粒,角閃石	3	外面:口縁部ハケ(｜)→ナデ,胴部ハケ(—)(＼)→ナデ,内面ハケ(—)→ナデ	内面,胴部上部から表面剥落.口径11.8cm,底径5.4cm,器高39.0cm,胴部最大径26.7cm.
158	SD4	古墳	壺	頸部～底部	外面:黄橙10YR8/6,内面:浅黄橙10YR8/3に類似.器肉:黄橙10YR8/6	礫:軽石,石英,粗砂:石英,角閃石,赤色粒,白色粒.細砂:石英,角閃石,赤色粒,白色粒	4	外面:ハケ(｜(＼))→ナデ,内面:ハケ→ナデ(＼)	口縁部のみ,整形時の接合箇所で欠損.底径6.0cm,胴部最大径28.7cm.
159	SD4	古墳	壺	肩部～胴下部	外面:にぶい黄橙10YR7/3,内面:浅黄橙10YR8/3,器肉:灰白10YR8/2	礫:赤色粒,粗砂:石英,白色粒砂:角閃石,石英,赤色粒,細砂:黒色粒,透明粒	2	外面:ミガキ(｜).内面:ユビオサエ・ハケ(＼)→ナデ.	外面:胴部以下赤色顔料塗布.肩部～胴部下半スス付着.　内面胴部下半以下スス付着.　胴部最大径:28.8cm.
160	SD4	古墳	壺	胴上部～底部	外面:灰白2.5Y8/1,内面:灰白10YR8/2,器肉:灰N6/	砂:角閃石,石英,細砂:黒色粒,透明粒	4	外面:胴部ハケ(＼).胴部下半～底部ナデ.内面:胴部ハケ(＼)(｜).胴部下半～底部ユビオサエ・ナデ.	底径:6.3cm,胴部最大径28.3cm.
161	SD4	古墳	壺	胴上部～底部	外面:浅黄橙10YR8/4に類似,内面:浅黄橙7.5YR8/4に類似,器肉:灰白10Yr8/2	礫:赤色粒,粗砂:赤色粒,白色粒,角閃石,石英,細砂:角閃石,石英	3	外面:ハケ(｜)→ナデ(＼),内面:ハケ(—)→丁寧なナデ ナデ	外面全体にスス付着.底部付近は火を受けて器面が赤変.胴部最大径25.8cm.

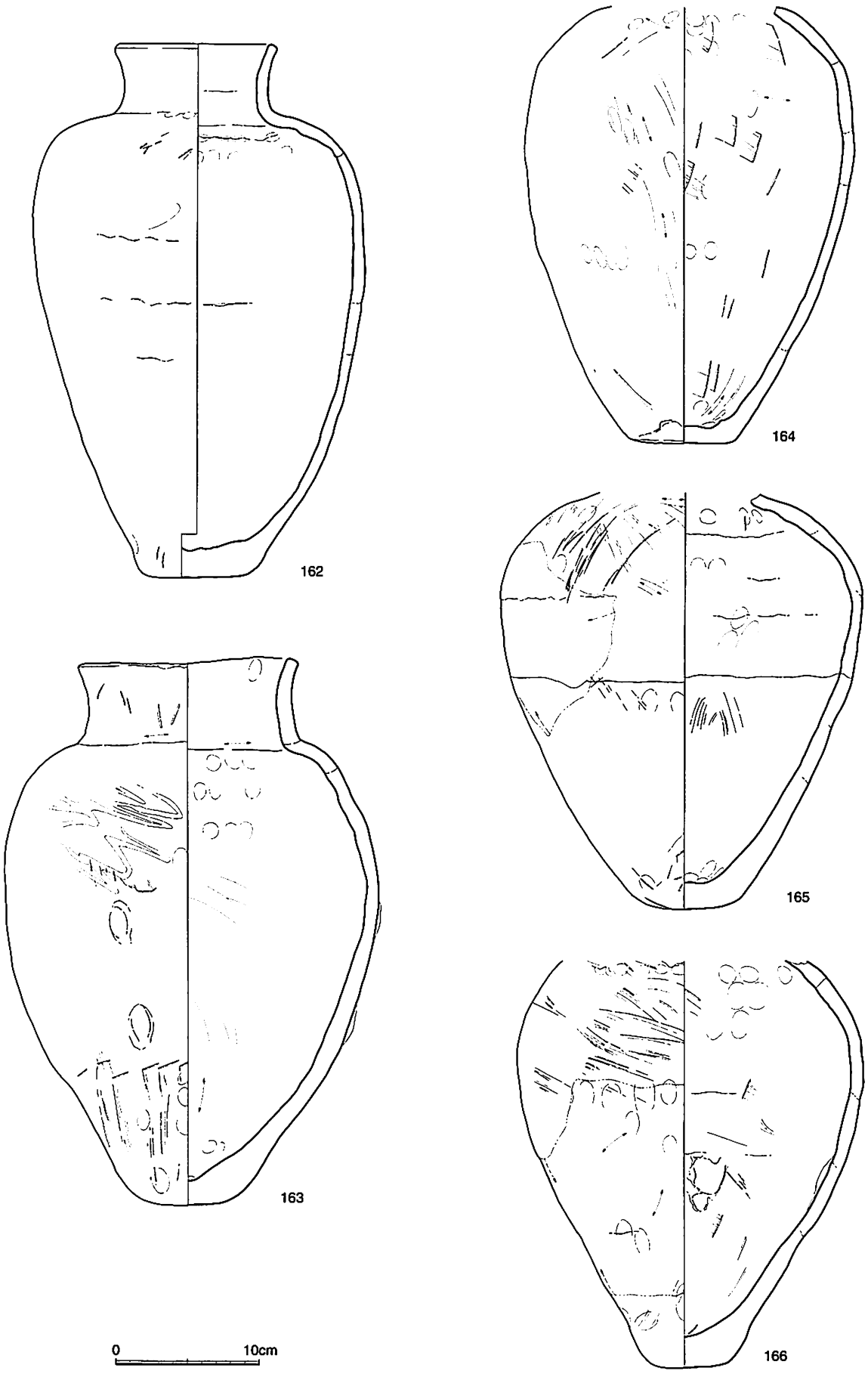
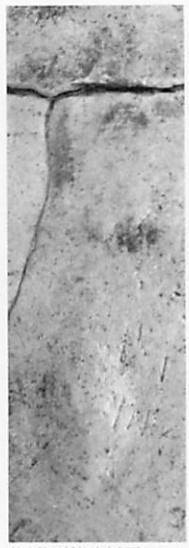


Fig.61　D地点SD4出土遺物(13)　古墳時代の壺　S=1/4

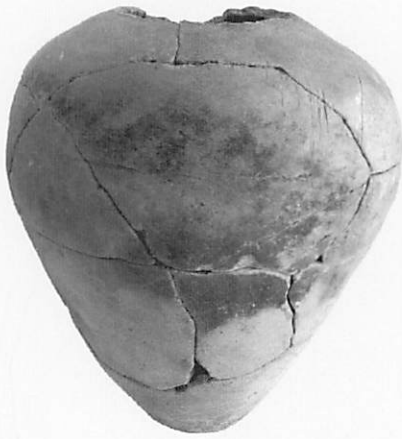
162

163



粘土貼付補修痕（外面）

164



165

166

粘土貼付補修痕（内面）

PL.43　D地点SD4出土遺物(15)　古墳時代の壺

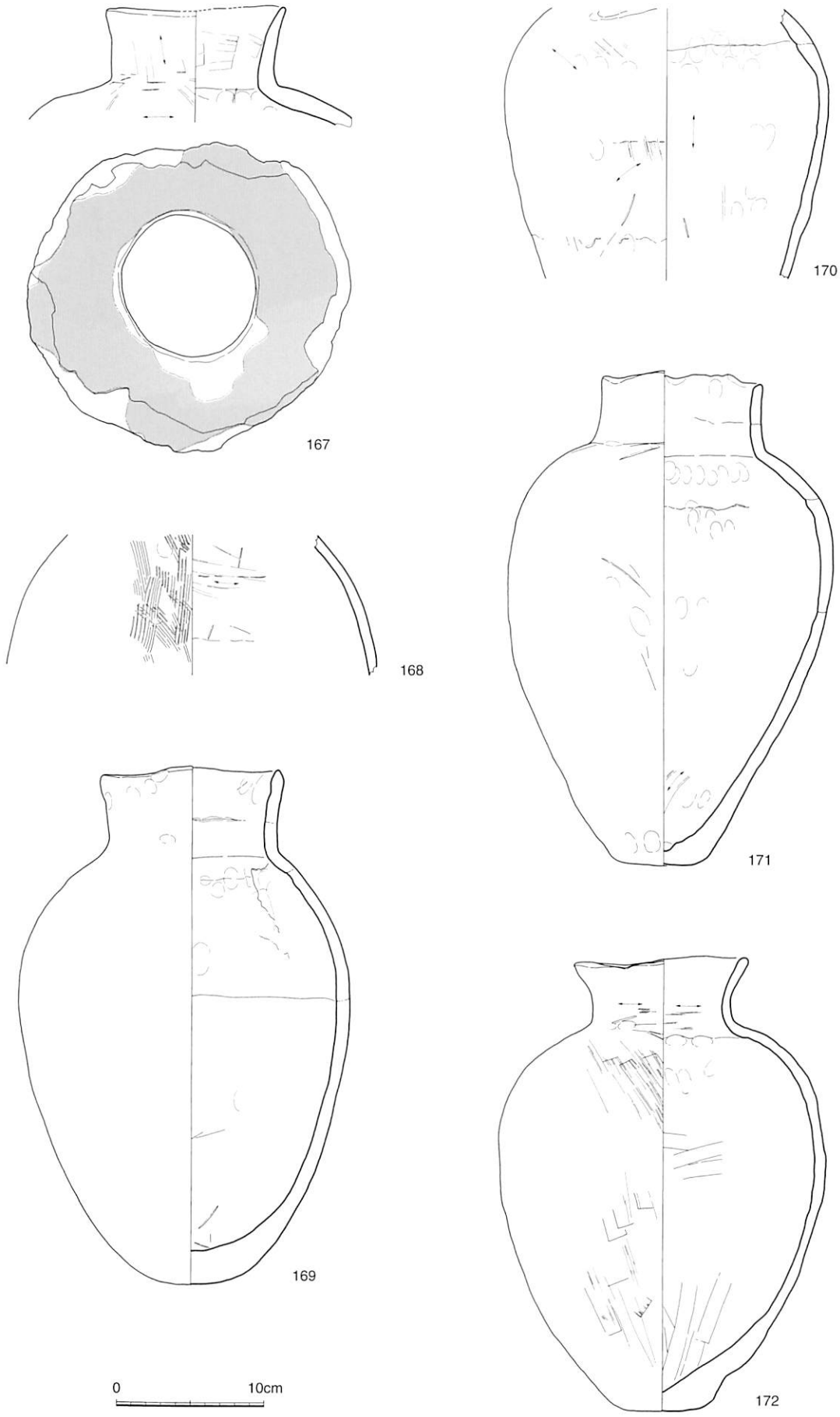
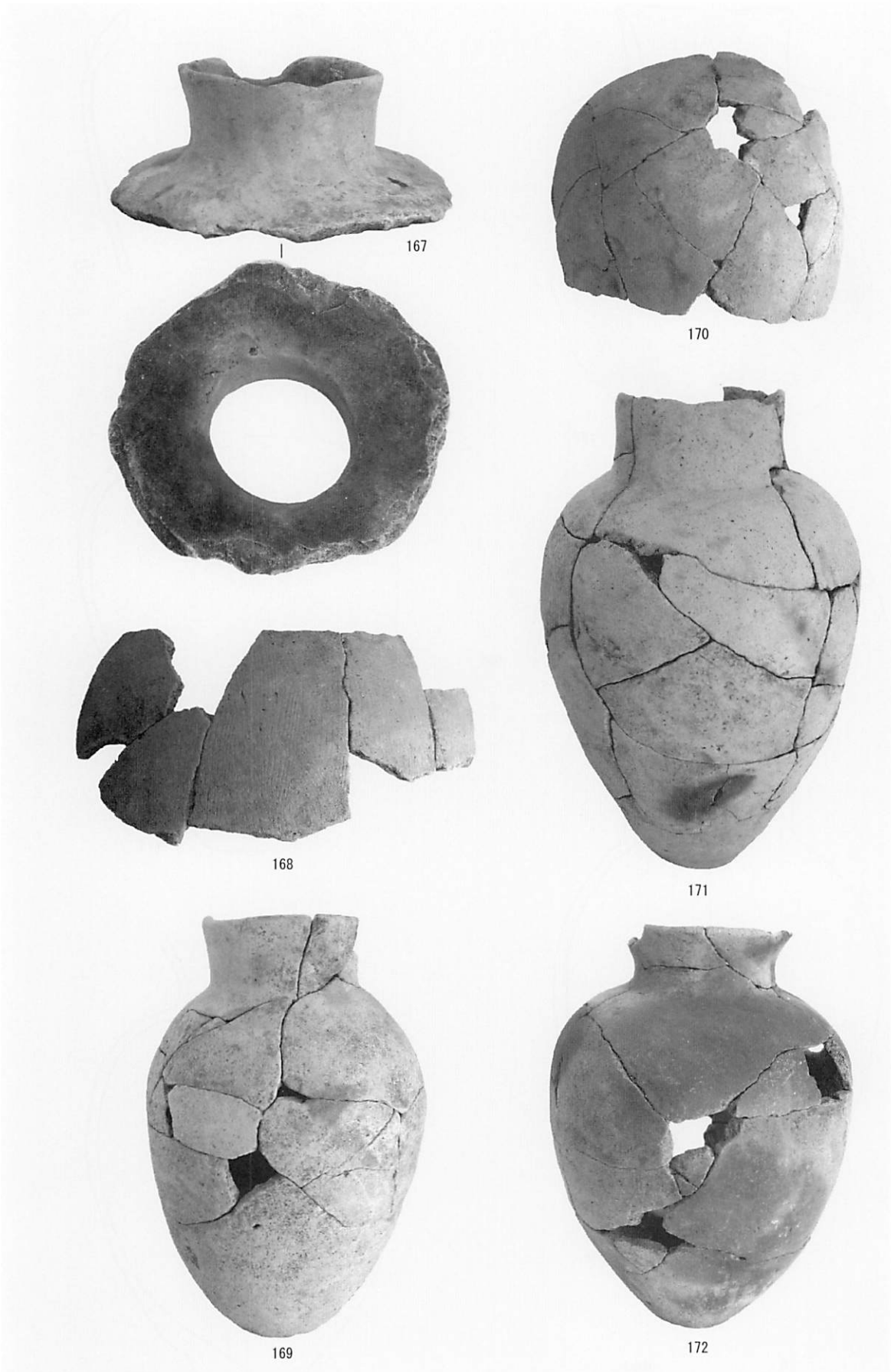


Fig.62　D地点SD4出土遺物(14)　古墳時代の壺　S=1/4



PL.44　D地点SD4出土遺物(16)　古墳時代の壺

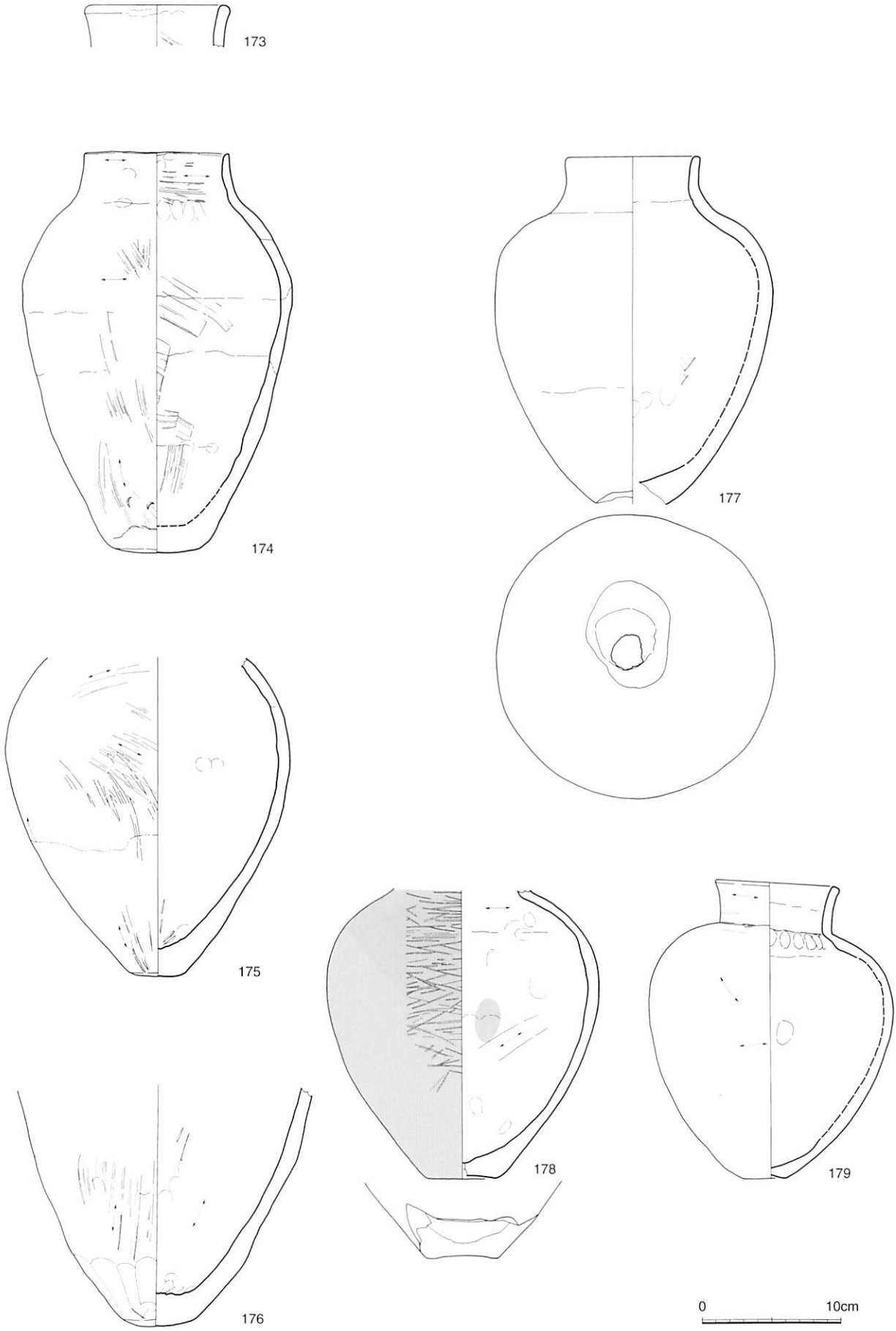
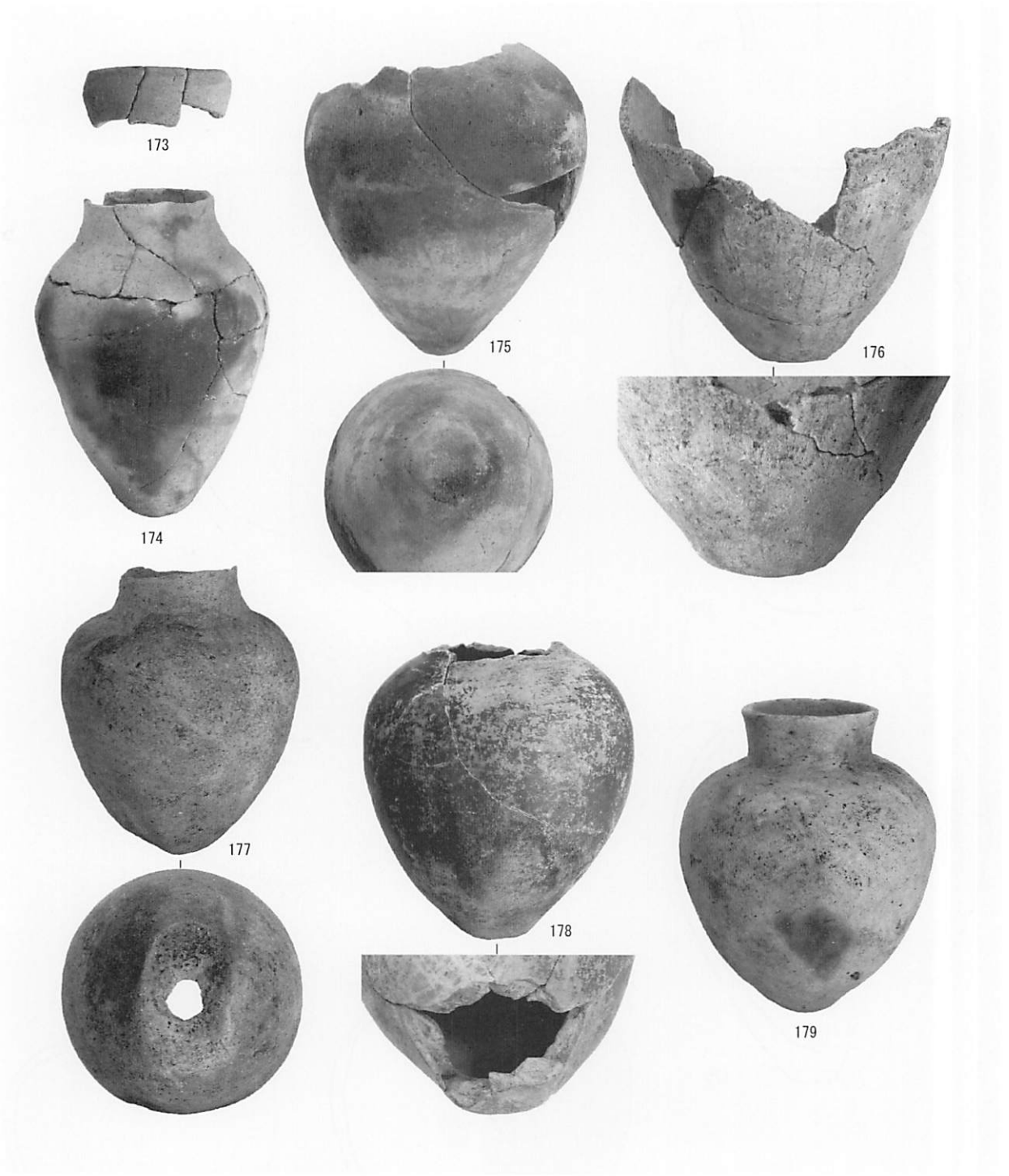


Fig.63　D地点SD4出土遺物(15)　古墳時代の壺　S=1/4



PL.45　D地点SD4出土遺物(17)　古墳時代の壺

Tab. 17　D地点SD4出土遺物観察表(9)　古墳時代の壺

No.	層	種別	器種	部位	色調	胎土 混和材	胎土 砂粒の多さ	調整	備考
162	SD4	古墳	壺	完形	外面:浅黄橙7.5YR8/3,内面:浅黄橙10YR8/3,器肉:褐灰10YR4/1	礫:軽石:黒色粒,赤色粒,粗砂:角閃石,石英,白色粒,赤色粒,黒色粒,細砂:角閃石,石英,白色粒,赤色粒,黒色粒	3	外面:ハケ→ナデ,内面:ナデ	口径11.4cm,器高36.3cm,底径7.8cm.　胴部最大径22.8cm.
163	SD4	古墳	壺	完形	外面:浅黄橙7.5YR8/6,内面:にぶい黄橙10YR7/4,器肉:黄橙10YR8/6	粗砂:石英,角閃石,赤色粒,細砂:石英,角閃石,白色粒,赤色粒	3	外面:口縁部ハケ(—)→ナデ(—),胴部ハケ(＼)→ナデ,底部ハケ(｜)→ナデ,胴上部に一部,ヘラ工具によるミガキ状の調整痕.内面:ハケ→ナデ	外面に補修用の素地貼り付けを2箇所に施す.口径15.3cm,底径4.8cm.器高36.9cm,胴部最大径25.8cm.
164	SD4	古墳	壺	頸部～底部	外面:灰白10YR8/2に類似,内面:浅黄橙10YR8/4に類似,器肉:灰白2.5Y7/1に類似	粗砂:角閃石,石英,黒色粒,白色粒,赤色粒,細砂:角閃石	4	外面:ハケ(＼)→ナデ(｜)(＼),内面:ハケ(＼)(—)→ナデ(｜)(＼)	口縁部のみ,整形時の接合箇所で欠損.底径7.2cm,胴部最大径22.7cm.
165	SD4	古墳	壺	頸部～底部	外面:浅橙5YR8/4に類似,内面:灰白5YR8/2に類似,器肉:にぶい黄橙10YR7/2	粗砂:石英,赤色粒,細砂:石英角閃石,白色粒	2	外面:ハケ(?)→ナデ(＼).肩部に工具?痕,内面:ハケ→ナデ	外面,胴下部が一部赤く変色.肩部～胴上部にかけて全体にスス付着.中央部で上下に2分割するように破損.底径6.5cm胴部最大径25.0cm.
166	SD4	古墳	壺	肩部～底部	外面:浅黄橙10YR8/3,内面:浅黄橙10YR8/4,器肉:灰5Y4/1	粗砂:角閃石,石英,白色粒,細砂:角閃石,石英,白色粒	4	外面:ハケ(＼)→ナデ(—),内面:ハケ(＼)(｜)→ナデ	外面にスス付着.内面に補修用の素地貼り付けあり.胴部最大径23.8cm.
167	SD4	古墳	壺	口縁部～肩部	外面:浅黄橙7.5YR8/6に類似,内面:にぶい黄橙10YR7/31に類似,器肉:灰白10YR8/1	礫:白色粒,粗砂:赤色粒,石英砂:石英,角閃石,赤色粒,白色粒,細砂:透明粒,黒色粒	4	外面:口縁部ハケ(｜)→ナデ(｜).頸部～肩部ハケ(｜)・打ち込み痕あり.内面:口縁部ハケ(—)→ナデ(—).肩部ユビオサエ・ナデ.	内面:口縁部以下スス付着(破断面にも付着).
168	SD4	古墳	壺	肩部～胴部	外面:浅黄橙10YR8/3,内面:浅黄橙10YR8/3,器肉:灰5Y6/1	粗砂:黒色粒,灰色粒,砂:石英,角閃石,細砂:黒色粒,透明粒	3	外面:ハケ(｜)(＼).内面:ハケ(—)・打ち込み痕あり・ナデ.	最大径(残存):24.7cm
169	SD4	古墳	壺	完形	外面:浅黄橙10YR8/4,内面:浅黄橙10YR8/4,器肉:浅黄橙10YR8/3	礫:赤色粒,黒色粒,軽石,粗砂:石英,角閃石,白色粒,赤色粒細砂:石英,角閃石,白色粒,赤色粒	3	外面:ナデ,内面:ハケ(／)→丁寧なナデ	整形時,補修のための素地貼り付けあり。口径12.2cm器高34.3cm,胴部最大径22.2cm.
170	SD4	古墳	壺	肩部～胴下部	外面:橙7.5YR6/6,内面:7.5YR7/6,器肉:灰白7.5YR8/1	礫:白色粒,粗砂:白色粒,灰色粒,角閃石,石英,砂:白色粒,角閃石,石英,細砂:白色粒,黒色粒,透明粒	3	外面:ハケ(｜)・ナデ(＼).内面:ハケ(／)・打ち込み痕あり・ナデ(｜)・ユビオサエ.	胴部最大径:21.6cm
171	SD4	古墳	壺	完形	外面:浅黄橙10YR8/3に類似,内面:浅黄橙10YR8/3に類似,器肉:褐灰10YR5/1	礫:白色粒,粗砂:石英,角閃石,白色粒,細砂:石英,角閃石,白色粒,赤色粒	3	外面:ハケ(?)→ナデ(＼),内面:丁寧なナデ(／)	口径10.8cm,底径:5.4cm,器高32.6cm,胴部最大径21.7cm.
172	SD4	古墳	壺	完形	外面:にぶい橙7.5YR7/4,内面:にぶい橙7.5YR6/4,器肉:褐灰10YR5/1	粗砂:角閃石,石英,黒色粒,細砂:角閃石,石英,白色粒,赤色粒	4	外面:口縁部ナデ(—),胴部ハケ(＼)→ナデ,内面:ナデ(—),胴部ハケ(／)→ナデ	口径11.7cm,底径5.4cm,器高30.0cm,胴部最大径21.7cm.
173	SD4	古墳	壺	口縁部	外面:にぶい黄橙10YR7/4,内面:浅黄橙10YR8/3,器肉:褐灰10YR6/1	粗砂:石英,細砂:石英,角閃石	2	外面:ナデ,内面:ハケ(?)→ナデ	推定口径10.4cm
174	SD4	古墳	壺	完形	外面:にぶい黄橙10YR7/2,内面:浅黄橙10YR8/2,器肉:褐灰10YR5/1	礫:白色粒,粗砂:白色粒,石英,赤色粒,角閃石,細砂:白色粒,石英,角閃石	3	外面:口縁部ナデ(—),胴部ハケ(｜)(＼)→ナデ,内面:口縁部ケズリ状のナデ(—),胴部ハケ(＼)→ナデ,底部(｜)→ナデ	口径(短径10.1cm,長径10.3cm)底径6.2cm,器高28.0cm,胴部最大径19.6cm.
175	SD4	古墳	壺	肩部～底部	外面:浅黄橙7.5YR8/4,内面:浅黄橙10YR8/3に類似,赤色顔料:赤10R5/8,器肉:浅黄橙10YR8/3	礫:白色粒,粗砂:石英,白色粒赤色粒,細砂:石英,角閃石,白色粒	3	外面:ハケ?(｜)→ナデ(＼)(—),一部ヘラ状工具によるナデ(＼),内面:ハケ→ナデ	外面上半部にスス付着.器面が火を受けて赤変.底径4.0cm,胴部最大径20.4cm.
176	SD4	古墳	壺	胴部～底部	外面:浅黄橙10YR8/3,内面:にぶい橙7.5YR7/4に類似,器肉:灰7.5Y5/1に類似	礫:紫色粒,灰色粒,赤色粒,粗砂:石英,灰色粒,砂:石英,角閃石,細砂:白色粒,黒色粒	3	外面:ハケ(｜)・ケズリ.内面:ユビオサエ・ハケ(／)・打ち込み痕あり→ナデ(—).	底径:5.4cm,推定胴部最大径21.0cm.
177	SD4	古墳	壺	完形	外面:にぶい橙7.5YR7/4,内面:にぶい黄橙10YR6/4,器肉:にぶい黄橙10YR7/3	礫:赤色粒,粗砂:赤色粒,石英,白色粒,砂:黒色粒,石英,角閃石,白色粒,細砂:白色粒,黒色粒,透明粒	5	外面:丁寧なナデ.　内面:ユビオサエ・ハケ(＼)・ナデ	内外面とも一部黒斑あり.　外面に接合痕あり.　底部を意図的に欠損させている可能性あり.口径9.2cm,底径24.4cm,器高@@cm,胴部最大径24.4cm.
178	SD4	古墳	壺	頸部～底部	外面:赤10YR4/6,内面:にぶい黄橙10YR7/3,器肉:灰黄2.5Y7/2	礫:白色粒,粗砂:赤色粒,細砂:白色粒,角閃石,赤色粒,石英	1	外面:ミガキ(—)(＼),内面ナデ(—)(／)	外面赤色顔料塗布,底部が欠落している,意図的に割ったものか.推定底径5.0cm,胴部最大径15.5cm.
179	SD4	古墳	壺	完形	外面:にぶい黄橙10YR7/4,内面:にぶい黄橙10YR7/4	礫:黒色粒,白色粒,角閃石,粗砂:角閃石,石英,白色粒,赤色粒,細砂:角閃石,石英,白色粒,赤色粒	3	外面:口縁部ナデ(—),頸部ハケ・打ち込み痕あり胴部ハケ(＼)(—)→ナデ,内面:ナデ(—)	口径9.0cm,底径3.0cm,器高21.0cm,胴部最大径17.4cm.

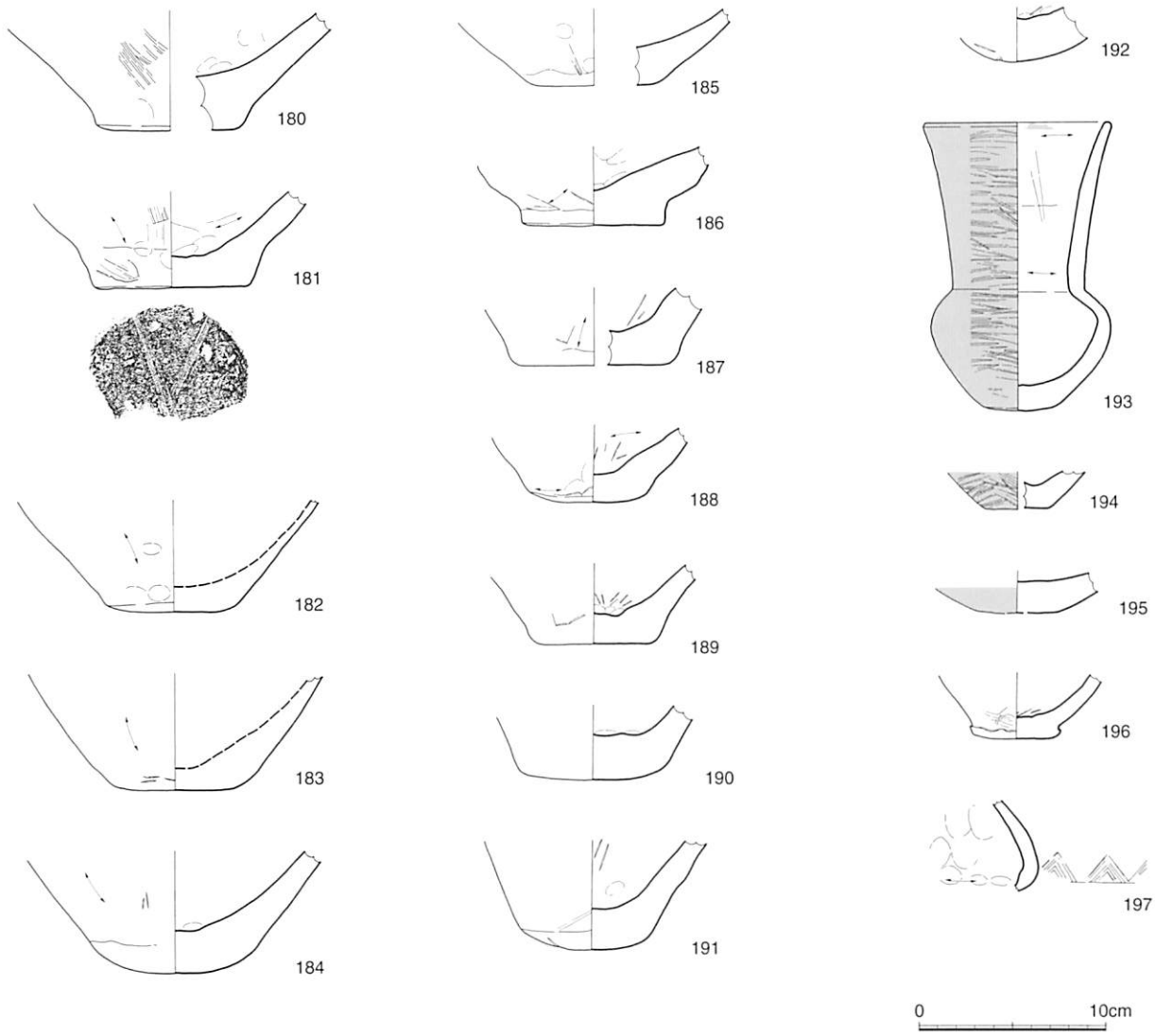
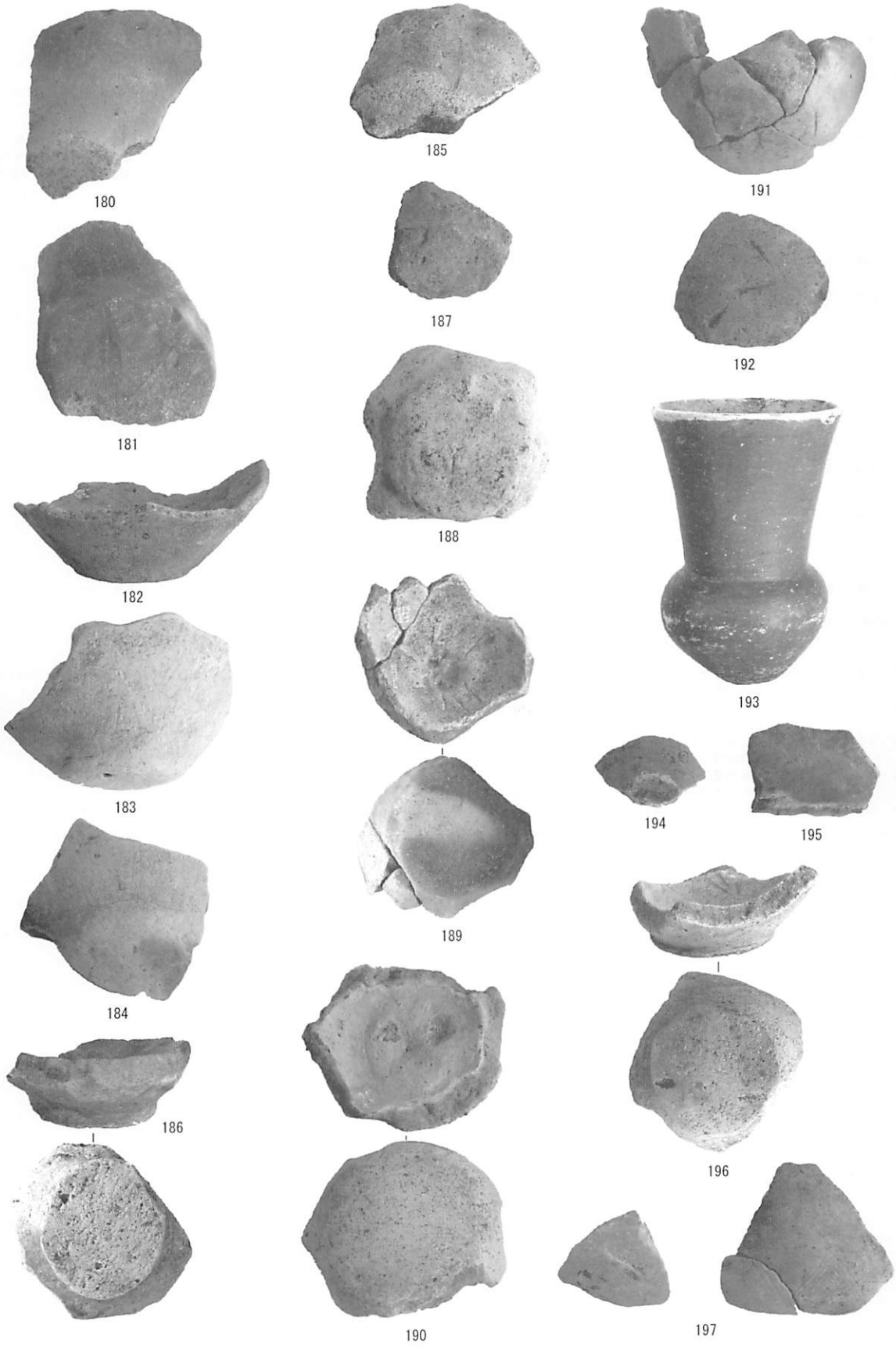


Fig.64　D地点SD4出土遺物(16)　古墳時代の壺　S=1/4



PL.46　D地点SD4出土遺物(18)　古墳時代の壺

Tab. 18　D地点SD4出土遺物観察表(10)　古墳時代の壺

No.	層	種別	器種	部位	色調	胎土 混和材	胎土 砂粒の多さ	調整	備考
180	SD4	古墳	壺	底部	外面:灰白10YR8/2,内面:灰白10YR8/2に類似 器肉:黄灰2.5Y5/1	礫:白色粒,粗砂:石英,角閃石,白色粒,赤色粒,砂:角閃石,石英,白色粒,細砂:黒色粒,白色粒,透明粒	4	外面:ハケ(＼).内面:ハケ(／)・ユビオサエ.	底径:6.8cm.
181	SD4	古墳	壺	底部	外面:黄灰2.5Y4/1,内面:灰白10YR8/2,器肉2.5Y5/1に類似	粗砂:石英,砂:石英,角閃石,細砂:黒色粒,透明粒,白色粒	4	外面:ハケ(｜)・打ち込み痕あり.内面:ケズリ・ユビオサエ.	底面にワラ痕(製作の際、下に敷いた?)あり.底径:8.0cm.
182	SD4	古墳	壺	底部	外面:橙5YR6/6,内面橙:5YR6/6,器肉:5YR6/6	礫:灰色粒,粗砂:白色粒,灰色粒,砂:角閃石,石英,細砂:黒色粒,白色粒,透明粒	3	外面:ユビオオサエ・ナデ(｜).	内面:剥落が著しい.底径:4.5cm.
183	SD4	古墳	壺	底部	外面:灰白:2.5Y8/2,内面:浅黄橙10YR8/3,器肉:灰5Y6/1	砂:石英,角閃石,細砂:黒色粒	2	外面:ハケ(｜)・打ち込み痕あり→ナデ(｜).	内面:剥落が著しい.底径:6.0cm.
184	SD4	古墳	壺	底部	外面:浅黄橙7.5YR8/4に類似,内面:淡黄2.5Y8/3に類似,器肉:黄灰2.5Y6/1	細砂:白色粒,黒色粒,透明粒	2	外面:ハケ(｜)→ナデ(｜).　内面:底部ユビオサエ.	底径:8.4cm.
185	SD4	古墳	壺	底部	外面:灰白2.5Y8/2,内面:灰白10YR8/2,器肉:灰N4/	礫:白色粒,粗砂:角閃石,石英,砂:角閃石,石英,赤色粒,細砂:黒色粒	5	外面:ユビオサエ・ハケ(｜).内面:剥落.	底径:6cm
186	SD4	古墳	壺	底部	外面:灰白2.5Y8/2,内面:黄灰2.5Y4/1,器肉黄灰2.5Y6/1	粗砂:石英,角閃石,砂:石英,角閃石,細砂:黒色粒	4	外面:ハケ?内面:ユビオサエ・ナデ.	底径:7.7cm.
187	SD4	古墳	壺	底部	外面:にぶい黄橙10YR6/4,内面:橙7.5YR6/6,器肉:橙7.5YR6/6	礫:灰色粒,白色粒,粗砂:白色粒,砂:黒色粒,白色粒,石英,細砂:黒色粒,透明粒	3	内面:ハケ(｜)・ユビオサエ,ハケの打ち込み痕あり.	底径:7.6cm
188	SD4	古墳	壺	底部	外面:灰白2.5Y8/2,内面:灰白2.5Y8/2,器肉:灰白2.5Y8/2	粗砂:角閃石,砂:角閃石,石英,白色粒,細砂:黒色粒,透明粒	5	内面:ハケ(/),打ち込み痕あり・ユビオサエ.	底径:5.7cm
189	SD4	古墳	壺	底部	外面:灰白2.5Y8/2,内面:10YR8/2,器肉:黄灰2.5Y6/1	粗砂:角閃石,石英,白色粒,砂:角閃石,石英,白色粒,細砂:黒色粒,透明粒,白色粒	3	外面:ケズリ.内面:ハケ(／)・ユビオサエ.	底径:6.0cm.
190	SD4	古墳	壺	底部	外面:灰白10YR8/2,内面:浅黄橙10YR8/3,器肉:灰5Y6/1	礫:灰色粒,黒色粒,赤色粒,粗砂:石英,角閃石,白色粒,灰色粒,砂:石英,角閃石,細砂:黒色粒,透明粒	4	外面:ナデ.内面:ナデ・ユビオサエ.	底径:7.1cm
191	SD4	古墳	壺	底部	外面:橙5YR6/6,内面:橙5YR6/6,器肉:黄灰2.5Y5/1に類似	細砂:黒色粒,白色粒,透明粒	2	外面:ハケ(—)→ナデ.内面:ハケ(／)→ナデ.	底径:6.3cm.
192	SD4	古墳?	壺	底部	外面:浅黄橙7.5YR8/4,内面:にぶい橙7.5YR7/4,器肉:灰黄褐10YR6/2,	礫:白色粒,粗砂:白色粒,石英,角閃石,細砂:白色粒,角閃石,石英,赤色粒	5	外面:ハケ→ナデ,内面:ナデ(—)	
193	SD4	古墳	坩	完形	外面:明赤褐2.5YR5/6,内面:浅黄橙10YR8/4,器肉:浅黄橙10YR8/4	礫:白色粒,粗砂:白色粒,赤色粒,細砂:石英,角閃石	2	外面:ミガキ(—),内面:ナデ(＼),ヨコナデ	外面赤色顔料塗布.口径9.9cm,底径3.6cm,器高15.0cm
194	SD4	古墳	坩	底部	外面:赤褐2.5YR4/8,内面:浅黄橙10YR8/4,器肉:灰白10YR7/1	粗砂:黒色粒,細砂:石英	1	外面:ミガキ(＼)(／),内面:ナデ	外面赤色顔料塗布 内底面が膨らむ.底径3.4cm
195	SD4	古墳	坩?	底部	外面:橙2.5YR6/6,内面:灰白10YR8/2,器肉:灰白10YR7/1	細砂:角閃石,石英,赤色粒	1	外面:ナデ,内面:ナデ	外面,熱を受けて赤変か? 推定口径4.2cm
196	SD4	古墳	壺?	胴下部～底部	外面:浅黄橙10YR8/3,内面:灰白10YR8/2,器肉:褐灰10YR5/1	粗砂:角閃石,石英,白色粒,細砂:角閃石,石英,赤色粒	4	外面:ナデ(＼),内面:ハケ(＼)→ナデ	底径4.7cm
197	SD4	古墳	坩	肩部～胴部	外面:にぶい橙7.5YR6/4,内面:にぶい橙7.5YR7/4,器肉:にぶい橙7.5YR6/4	細砂:白色粒,微砂粒:石英?	1	外面:ミガキ(—),内面:ナデ.ヨコナデ	線刻で鋸歯状の文様を施す.

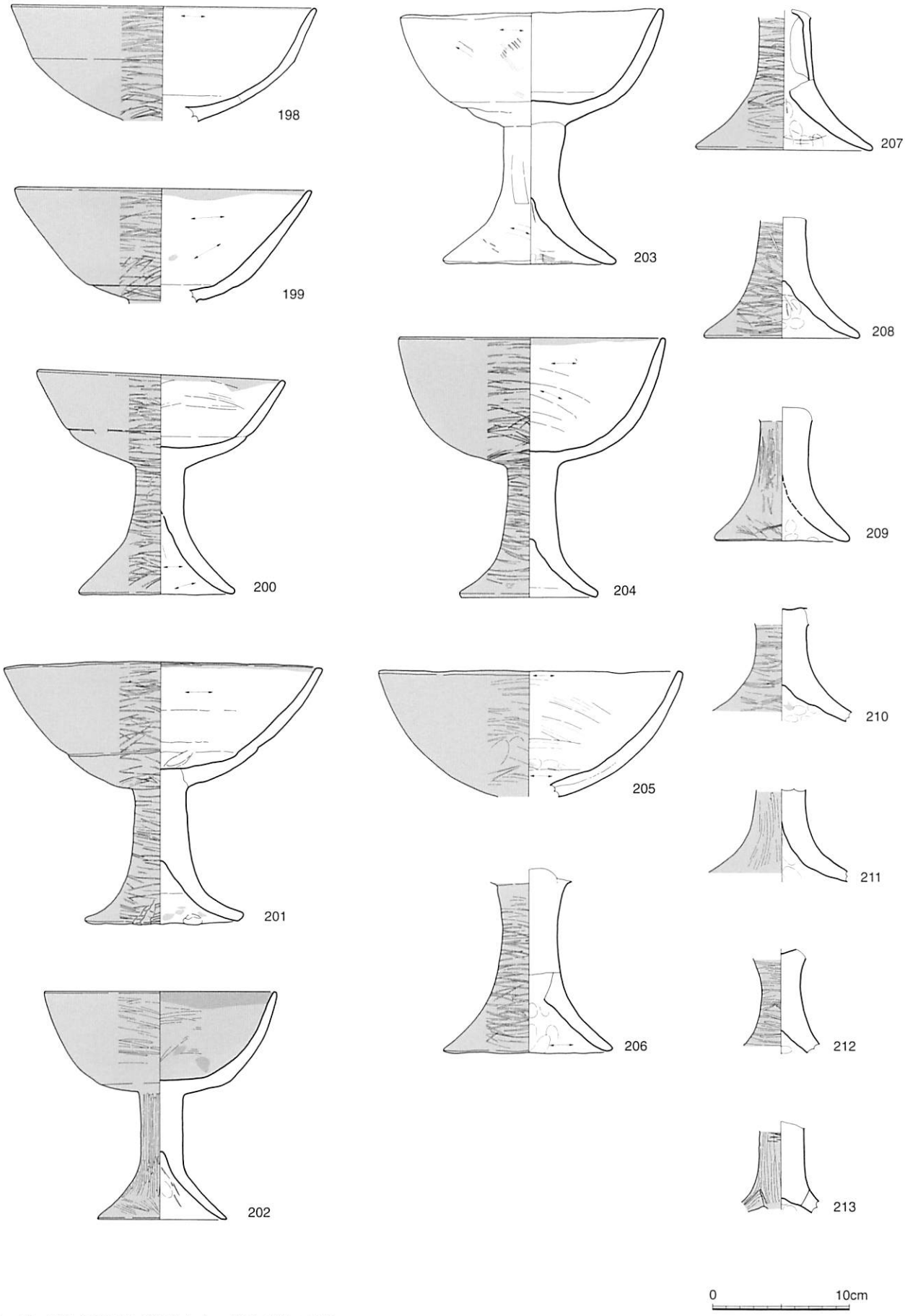
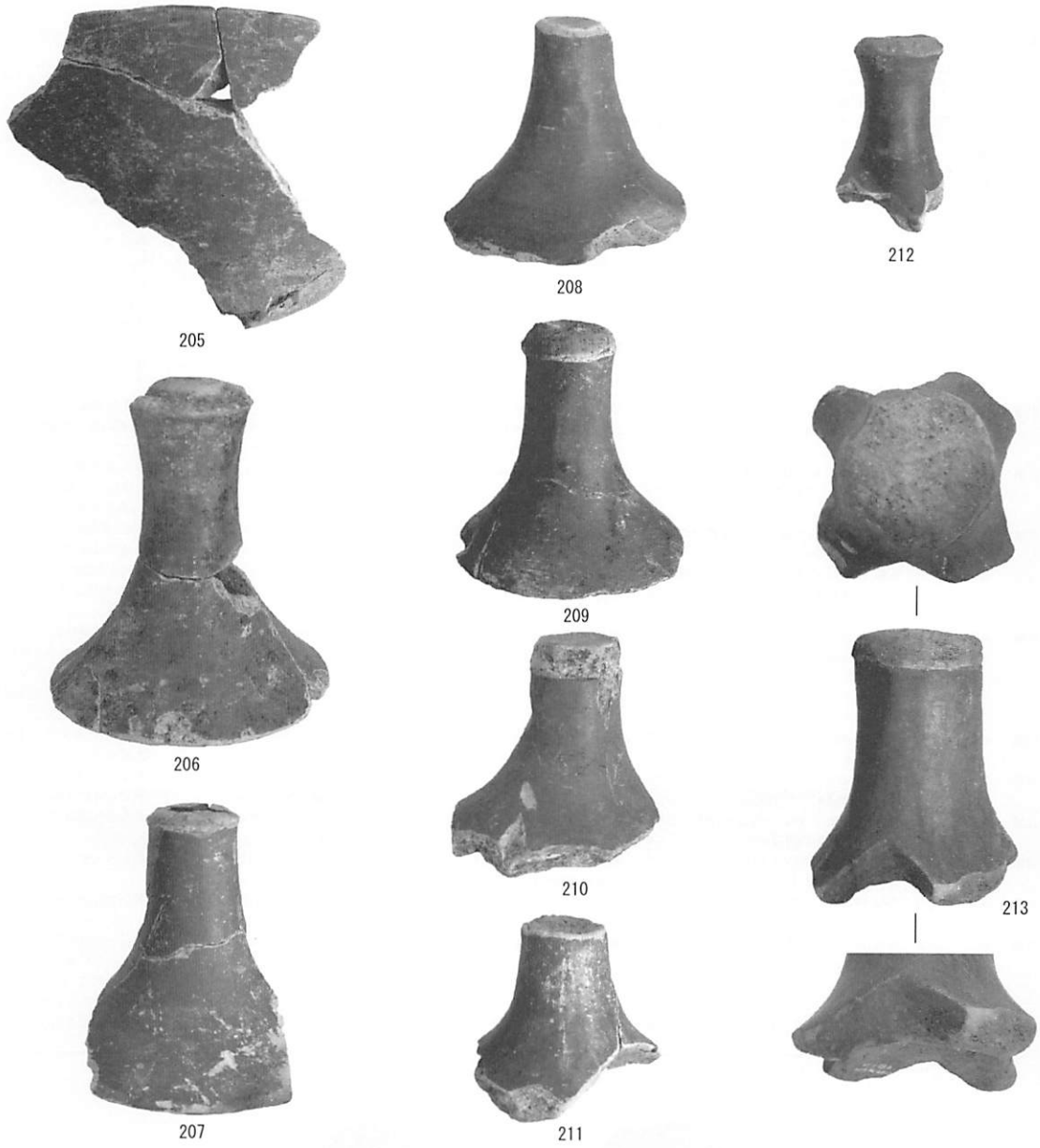


Fig.65　D地点SD4出土遺物(17)　古墳時代の高杯　S=1/4

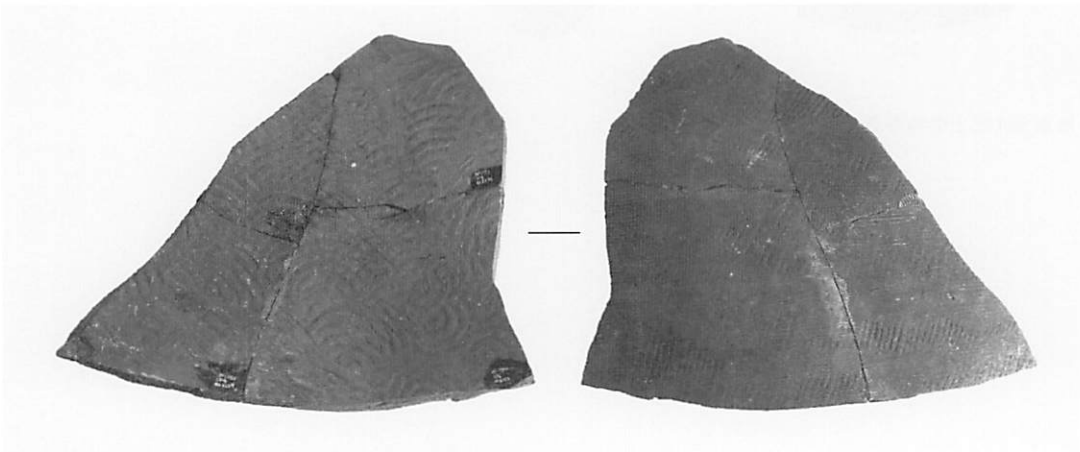
PL.47　D地点SD4出土遺物(19)　古墳時代の高杯



PL.48　D地点SD4出土遺物写真(20)　古墳時代の高杯

Tab.19　D地点SD4出土遺物観察表(11)　古墳時代の高杯

No.	層	種別	器種	部位	色調	胎土 混和材	胎土 砂粒の多さ	調整	備考
198	SD4	古墳	高坏	杯部	外面:赤褐2.5YR4/8,内面:にぶい橙7.5YR7/4,器肉:浅黄橙7.5YR8/4	細砂:石英,角閃石,白色粒,赤色粒	1	外面:ミガキ(—),下部は(—)(／)内面:丁寧なナデ(—)	口径22.2cm,杯部高8.4cm
199	SD4	古墳	高坏	杯部	外面:にぶい赤褐2.5YR4/4,内面:にぶい褐7.5YR6/3,器肉:浅黄橙7.5YR8/3	粗砂:白色粒,細砂:角閃石,石英	1	外面:ミガキ,上部は(—)のみ,下部は(—),(＼).内面:丁寧なナデ(／)	外面,赤色顔料塗布 脚台欠損.口径20.5cm,杯部器高8.2cm
200	SD4	古墳	高坏	完形	外面:赤10R5/6,内面:にぶい橙7.5YR7/4,器肉:にぶい橙7.5YR7/4	粗砂:石英,赤色粒,白色粒,細砂:石英,角閃石,赤色粒	2	外面:ミガキ(—),脚部下部は(／)(＼)内面:ハケ→ナデ(—)(／)	外面赤色顔料塗布.口径18.0cm,底径9.0cm,器高15.5cm,杯部高6.5cm
201	SD4	古墳	高坏	完形	外面:赤10R5/8,内面:浅黄橙7.5YR8/4,器肉:灰白10YR8/1	粗砂:赤,石英,細砂:赤,石英,角閃石	2	外面:ミガキ(—)(＼),内面:丁寧なナデ,口唇部のみミガキ(—)	外面,赤色顔料塗布.脚部外面および杯部内面に補修用の素地貼り付けあり.口径22.1cm,底径11.6cm,器高17.6cm,杯部器高7.8cm
202	SD4	古墳	高坏	完形	外面:明赤褐2.5YR5/6,内面:橙2.5YR6/6,器肉:灰5Y6/1	礫:灰色粒,粗砂:白色粒	1	外面:ミガキ:杯部は不明瞭,脚部下端(＼).　内面:粗いミガキ.　脚部内面:ハケ(—)・打ち込み痕あり.	外面口径:16.9cm.　底径:9.7cm,器高16.4cm,杯高7.4cm.
203	SD4	古墳	高坏	完形	外面:浅黄橙7.5YR7/6,内面:灰白:10YR8/2,器肉:浅黄橙10YR8/3	礫:黒色粒,粗砂:赤色粒,石英,白色粒,角閃石,細砂:赤色粒,石英,白色粒,角閃石	3	外面:杯部ケズリ(＼)(—)→ナデ,脚部ケズリ(＼)→ナデ,脚台内面:ハケ(—)→ナデ	口径18.0cm,底径11.6cm,器高16.9cm,杯部器高8.2cm
204	SD4	古墳	高坏	完形	外面:赤10R5/8に類似,内面:黄橙7.5YR8/8,器肉:浅黄橙7.5YR8/3	粗砂:赤色粒,石英,細砂:石英,角閃石,白色粒	2	外面:ミガキ(—)(＼),内面:丁寧なナデ(＼)	外面,赤色顔料塗布 口径18.2cm,底径8.2cm,器高17.5cm,杯部器高9.3cm
205	SD4	古墳	高坏	杯部	外面:赤10R5/8,内面:にぶい黄橙10YR7/2,器肉:褐灰10YR6/1	礫:黒色粒,粗砂:角閃石,細砂:角閃石,白色粒,赤色粒	2	外面:ナデ,ミガキ(—)(／),内面:ケズリ状のハケ(＼)(—)→ナデ(—)	外面,赤色顔料塗布 口径22.2cm,杯部高8.8cm
206	SD4	古墳	高坏	脚部	外面:赤10R4/8,内面:にぶい黄橙10YR7/3,器肉:浅黄橙10YR8/3	粗砂:白色粒,細砂:石英,角閃石	1	外面:ミガキ(—)(／),内面:ナデ(—)	外面赤色顔料塗布,接合箇所で破損.底径12.3cm 脚部高13.1cm
207	SD4	古墳	高坏	脚部	外面:赤10R4/6,内面:灰黄褐10YR6/2,器肉:浅黄橙10YR8/4	粗砂:白色粒,赤色粒,角閃石,細砂:石英,角閃石	2	外面:ミガキ(—),内面:ナデ(—)	外面赤色顔料塗布 上部は器厚約5mmで整形され,一部のみ1.5cm厚になる.接合箇所で破損.底径12.9cm,脚部高9.5cm
208	SD4	古墳	高坏	脚部	外面:赤10R5/8,内面:灰5Y4/1,器肉:浅黄橙7.5YR8/4	礫:赤色粒,粗砂:赤色粒,細砂:角閃石,石英	2	外面:ミガキ(—)(＼),内面:ハケ(?)→ナデ	外面,赤色顔料塗布.脚高8.5cm,底径11.4cm.
209	SD4	古墳	高坏	脚部	外面:赤10R5/6,内面:灰黄褐10YR6/2,器肉:灰白10YR8/1	細砂:角閃石,石英	1	外面:ミガキ,上部は(｜)のみ,下部は(／),内面:ナデ	外面,赤色顔料塗布 底径9.8cm,脚部高9.6cm
210	SD4	古墳	高坏	脚部	外面:明赤褐2.5YR5/6,内面:浅黄橙7.5YR8/4,器肉:浅黄橙7.5YR8/4	粗砂:白色粒,細砂:赤色粒,石英,角閃石	2	外面:ミガキ(—),内面:ハケ(?)→ナデ(—)	外面赤色顔料塗布
211	SD4	古墳	高坏	脚部	外面:明赤褐2.5YR5/6,内面:浅黄橙10YR8/3,器肉:褐灰10YR6/1	粗砂:石英,角閃石,黒色粒,白色粒,細砂:石英,角閃石	2	外面:ミガキ(｜),内面:ナデ	外面赤色顔料塗布
212	SD4	古墳	高坏	脚部	外面:暗赤褐2.5YR3/6,内面:にぶい黄橙10YR7/2,器肉:灰白10YR8/2	粗砂:赤色粒,細砂:石英,角閃石,白色粒	2	外面:ミガキ(—),内面:ナデ	外面赤色顔料塗布
213	SD4	古墳	高坏	脚部	外面:赤10R5/8,内面:橙2.5YR6/6,器肉:橙2.5YR6/6	細砂:白色粒,石英,角閃石	1	外面:ミガキ(｜),内面:ナデ	外面赤色顔料塗布 透かし(?)様の切込みが4箇所に施される.上面観は十字状.下半部欠損のため全形は不明.
214	SD4	古墳	須恵器	口縁部	外面:灰白10YR7/1,内面:灰白10YR7/1,器肉:灰白10YR8/2	粗砂:角閃石(?),細砂:白色粒	1	外面:回転ナデ,内面:回転ナデ	波状沈線文を施す.口径11.8cm



PL.49　D地点SD4出土遺物（21）　須恵器大甕胴部片

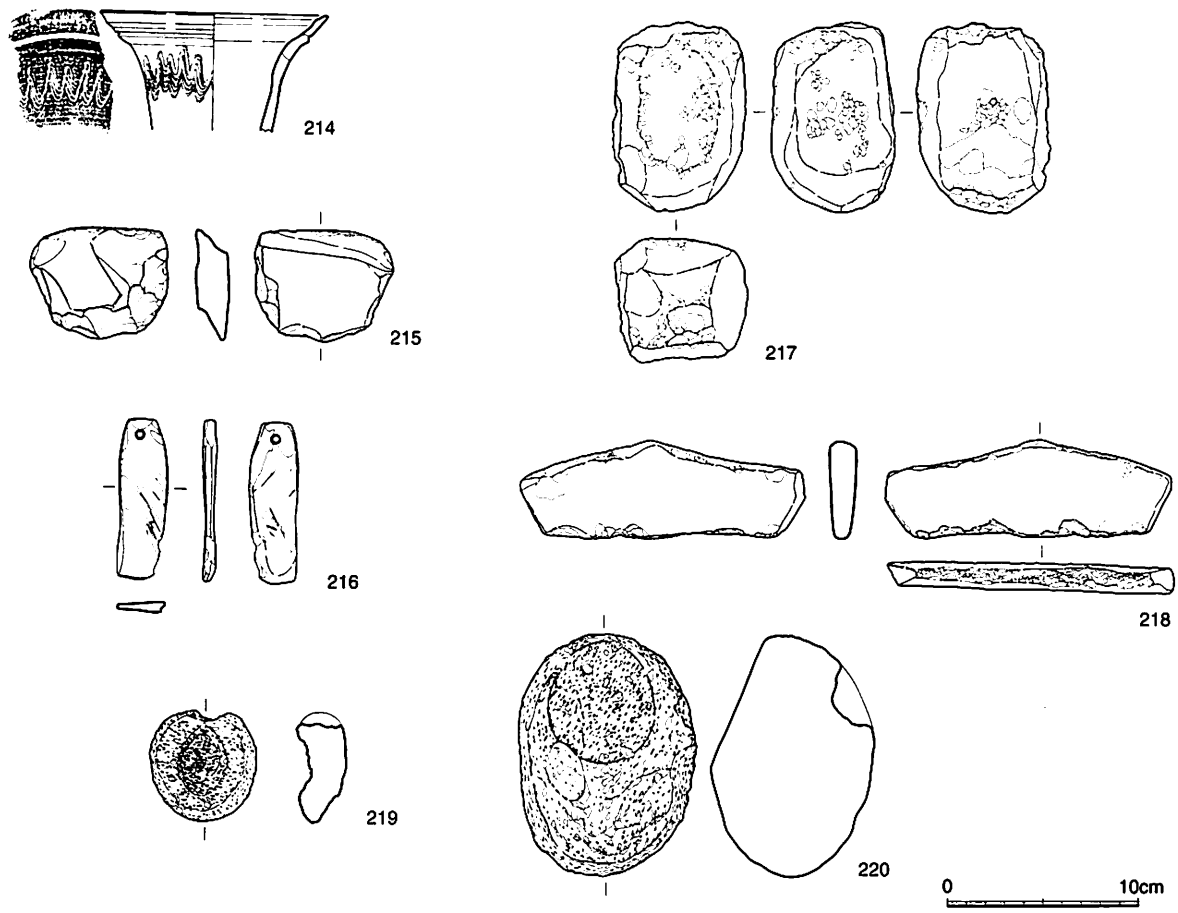


Fig.66　D地点SD4出土遺物（18）　須恵器と石器　S=1/4

Tab.20　D地点SD4出土遺物観察表（12）　石器

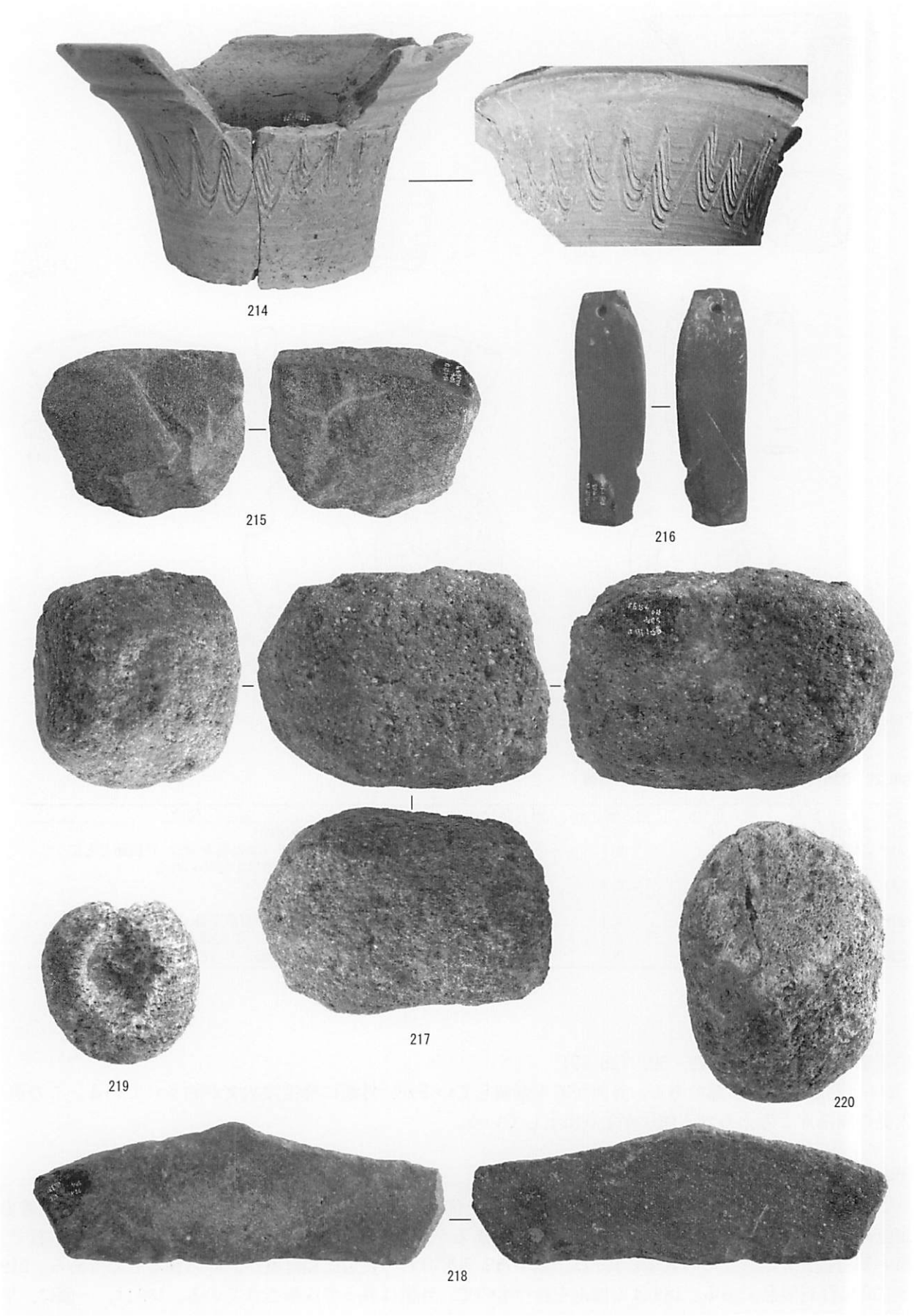
No.	層	材質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
215	SD4	ホルンフェルス	5.8	7.2	1.8	100.8	石鏃の刃部か.
216	SD4	ホルンフェルス	8.3	2.5	0.7	21.0	上部に径0.4cmの孔を穿つ. 表裏面ともに滑らかで, 擦痕が認められる.
217	SD4	溶結凝灰岩（下門火砕流堆積物）	9.5	6.8	6.2	566.0	磨石・敲石類か.
218	SD4	溶結凝灰岩	14.7	5.1	1.5	159.0	一側縁部に敲打痕が認められる.
219	SD4	軽石	5.7	5.4	2.5	20.0	平面観は円形. 中央部を加工？
220	SD4	軽石	12.4	9.3	8.4	250.0	上部に擦り面あり. 使用痕か.

⑦須恵器（Fig.66, PL.49・50, Tab.19）

214はハソウの口縁部である。外面が若干摩滅しているが，外面に櫛描波状文が施されている。この他，大甕の胴部片と考えられる破片が1点出土している。

⑧石器（Fig.66, PL.50, Tab.20）

215は，扁平打製石斧の欠損した端部を転用したものと考えられる。基部方向の破面にも細かい剥離痕が認められる。216は，砥石である。穿孔が1つあるが，磨面は明瞭で，非常に薄い。217は，敲き石で，粗い稿打痕が4面に認められる。191は，扁平な5角形の石の長辺に稿打痕が認められるものである。219と220は軽石製品である。188はくぼみを持つもので，外面は磨って成形されている。189は，一面に，平坦面を持つもので，その部分は平滑である。



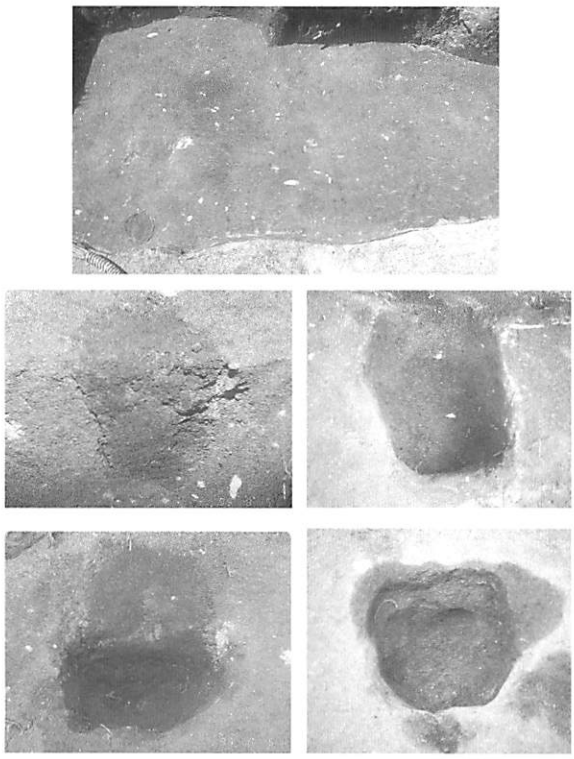
PL.50　SD4出土遺物（22）　須恵器と石器

3) ピット（Fig.7, PL.51, Tab.21）

ピットを21基と小ピットを検出した。ピットのほとんどはV層土を埋土としており，ピット壁と埋土との境界ははっきりしているものが多かったが，規則正しい配列は認められなかった。また，隣接するP20・21などは，トンネル状につながっており，樹痕などの可能性があるものもある。ただし，小ピットも含め，全体的に東側にピットがほとんどなく，分布に偏りは見られる。

Tab.21　D地点ピット一覧表

No.	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	埋土・備考
1	25	－	3	埋土はV層土
2	23	－	5	埋土はV層土
3	35	16	2	埋土はV層土
7	17	13	2	埋土はV層土
8	42	22	29	埋土はV層土
9	46	31	8	埋土はV層土
10	19	7	6	埋土はV層土
11	19	13	8	埋土はV層土
12	30	21	39	埋土はV層土
13	20	10	14	埋土はV層土
14	27	19	41	黒(7.5YR2/1)，シルト質
15	20	12	7	埋土はV層土
16	26	22	25	黒褐(10YR3/1)，シルト質
17	18	12	26	黒(7.5YR2/1)，シルト質
18	28	－	31	埋土はV層土
19	31	19	16	黒(7.5YR2/1)，シルト質
20	26	15	15	黒褐(10YR3/1)，シルト質
21	20	9	16	黒(7.5Y2/1)，シルト質
22	24	17	6	黒(7.5Y2/1)，シルト質
23	24	14	30	黒(7.5YR2/1)，シルト質



PL.51　D地点ピット
上段：ピット検出状況，中段左：P17　中段右：P19，下段右：P14，下段左：P16

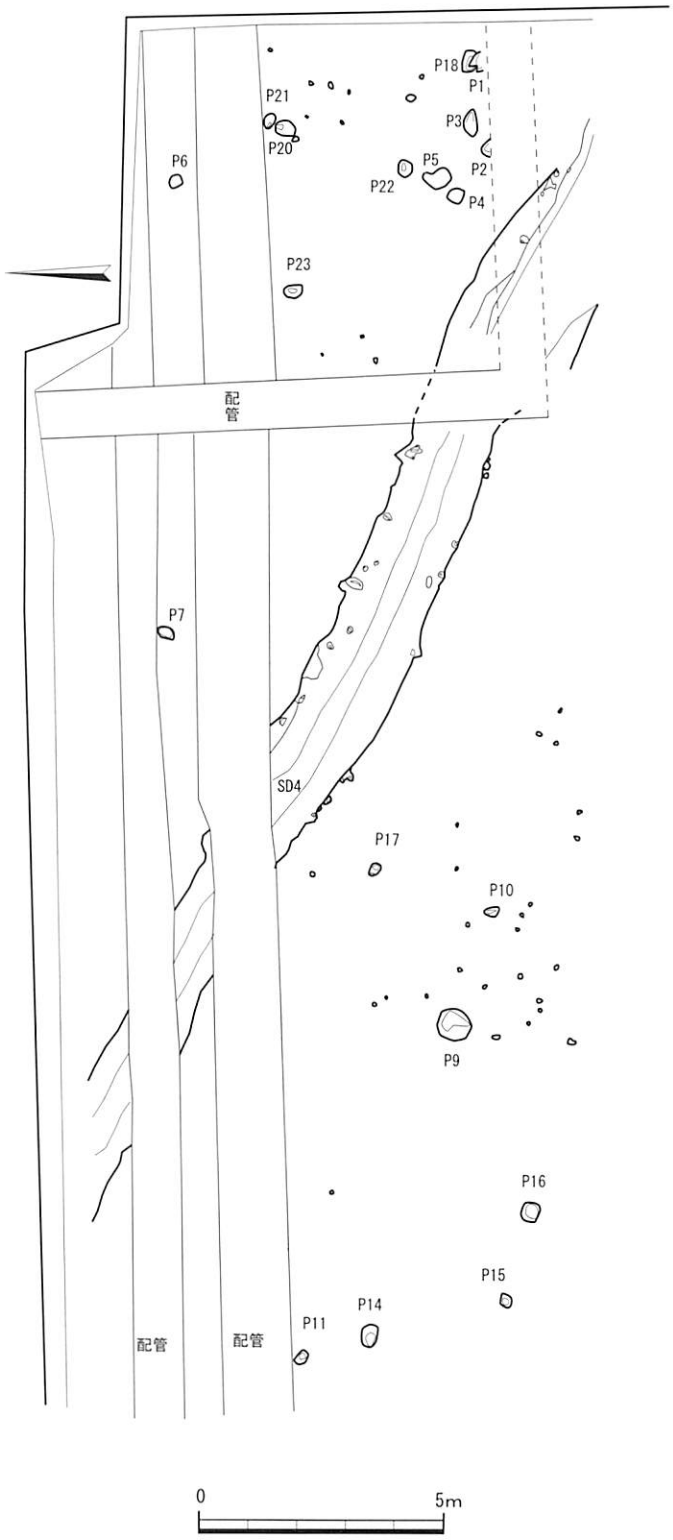


Fig.67　D地点ピット

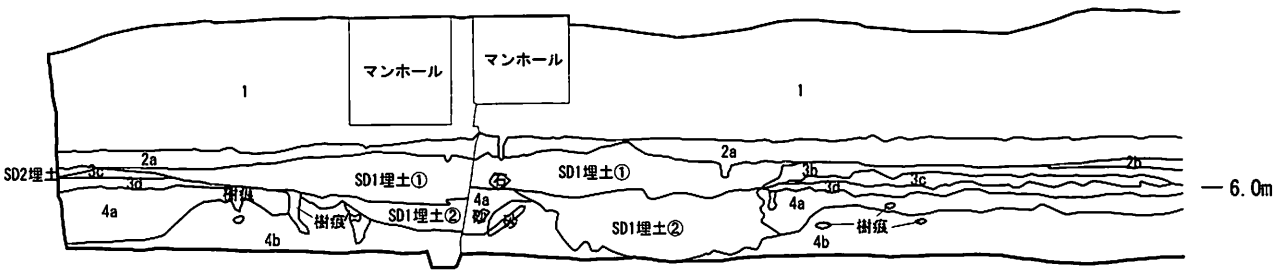
4 E地点

4.1　層位（Fig.68）

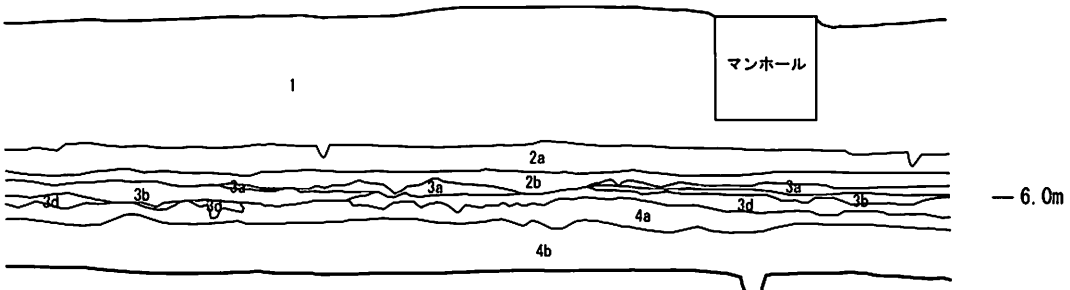
基本層位として，1～5層を確認した。遺物を包含しているのは1～4b層で，5層以下は無遺物層である。

1層　灰黄褐色10YR4/2細砂～シルト。粘性なし。3mm大以下のパミスを少量含む。

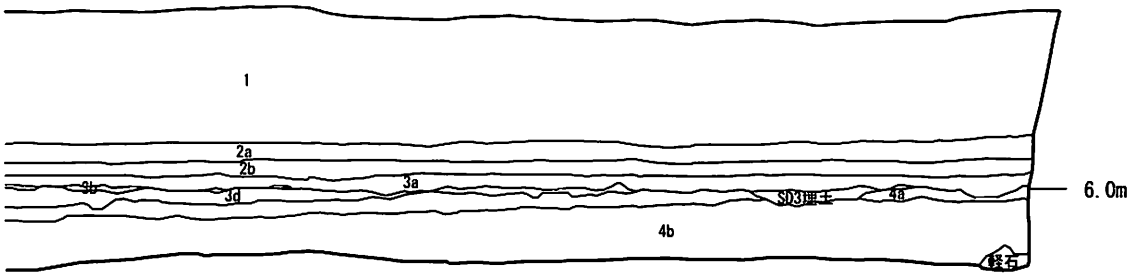
2a層　灰黄褐色10YR4/2シルト～細砂層。2～3cm大以下のパミスを含む。粘性をやや帯びており，鉄分の浸透がみられる。



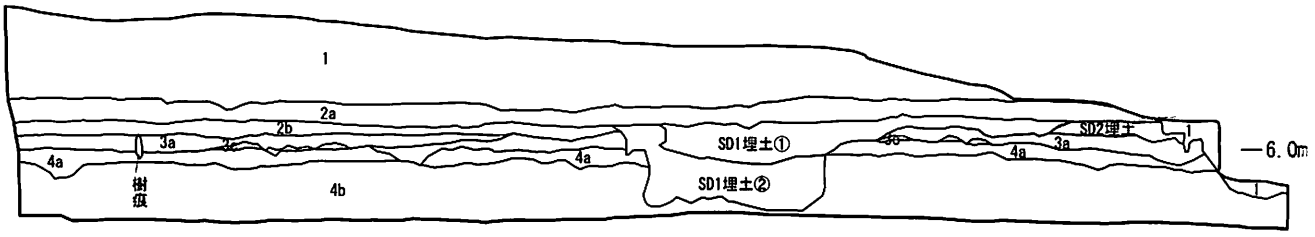
北壁（西側）



北壁（中央）



北壁（東側）



東壁

0　1m

Fig.68　E地点層位断面図　S=1/60

2b層　にぶい黄褐色10YR4/3シルト～細砂層。粘性ややあり。1 cm大以下のパミスを含む。水田層
3a層　にぶい褐色7.5YR5/4シルト～細砂層。暗褐色7.5YR3/4シルトをブロックで含む。粘性ややあり。3cm大以下のパミスを少し含む。
3b層　褐色7.5YR4/4シルト～細砂層。粘性ややあり。5 cm大以下のパミスを含む。
3c層　明褐色7.5YR5/8を基調とし，部分的ににぶい橙色7.5YR6/4のシルト。粘性あり。1cm大以下のパミスを含む。
3d層　にぶい黄褐色10YR4/3シルト質砂。粘性ややあり。2cm大以下のパミスを比較的多く含む。
4a層　暗褐色10YR3/4粘性あり。1cm大以下のパミスを少し含む。北壁は，黒褐色10YR3/2，暗赤褐色5YR3/3を呈するシルト層。粘性ややあり。非常に固くしまっている。1cm大以下のパミスを含む。
4b層　黒褐色10YR2/2シルト。粘性ややあり。

4.2　2b層上面遺構

2b層上面では，溝状遺構SD1と畝状遺構を検出した。畝状遺構がSD1を切っている。また，畝状遺構とSD1の軸方向が異なるので，この間に周辺の土地区画に関する方向が変更になったと考えられる。

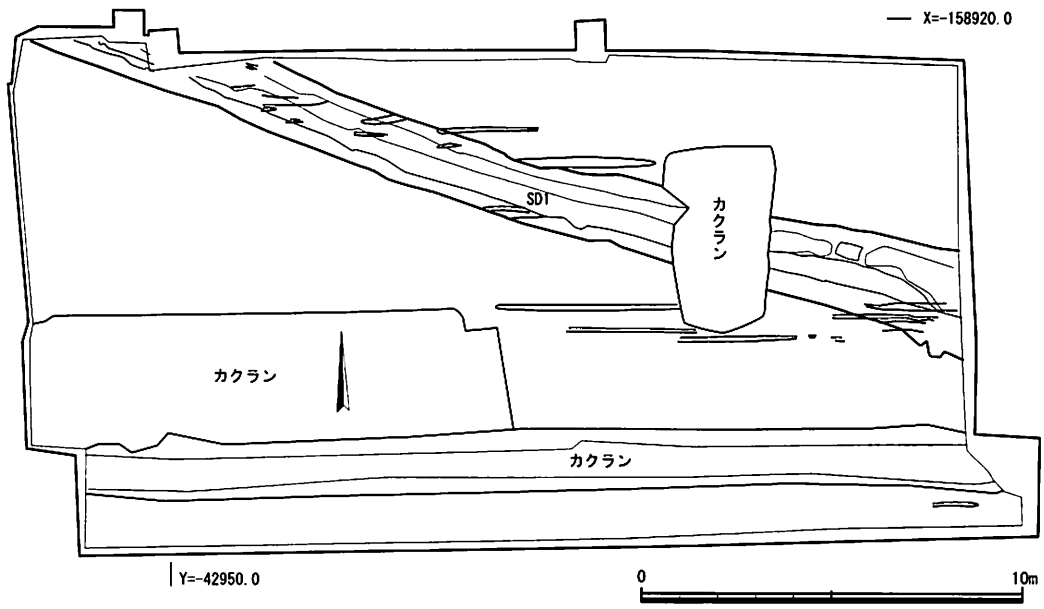


Fig.69　E地点2b層上面遺構検出状況　S=1/200

1) SD1（Fig.70）

調査区北側に位置する溝状遺構である。西北西から東南東にのびる。幅は約1.8mで，深さは70cmである。断面形は方形～台形状を呈する。埋土は，大きく上下二層（SD1-1，SD1-2）と，上層がさらに2層に分層できる。埋土は以下のとおりである。

SD1-1a：にぶい黄褐色（10YR5～6/3），灰褐色（10YR6/3）を呈する細砂～シルトと，明褐色（7.5YR5/6）・灰白色（10YR7/1）などを呈する粗砂層からなる。5cm大以下のパミスを含む。1.5cm大の礫を含む。

SD1-1b：にぶい黄橙色（10YR6/3）細砂～シルト。明褐色（7.5YR5/6），灰白色（10YR7/1）を呈する粗砂層。

SD1-2：灰黄褐色（10YR4/2）を呈するシルト層。下部はにぶい赤褐色（5YR4/3）を呈するシルト。粘性ややあり。水田層に類似。3cm大以下のパミスを少量含む。褐色（10YR4/6），にぶい黄褐色（10YR7/3）類似の細砂を含む。

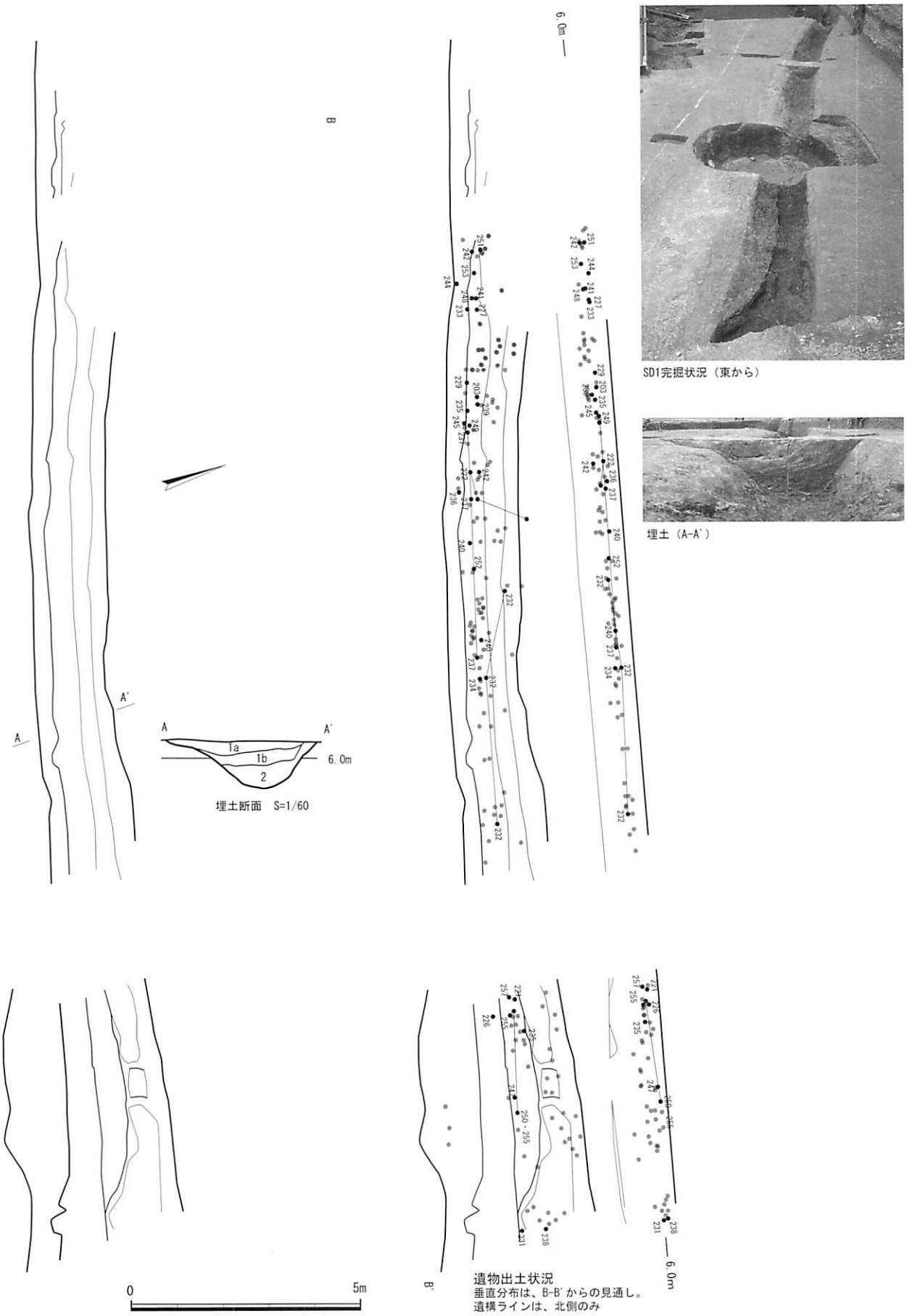


Fig.70　E地点SD1　S=1/120、断面のみ1/60

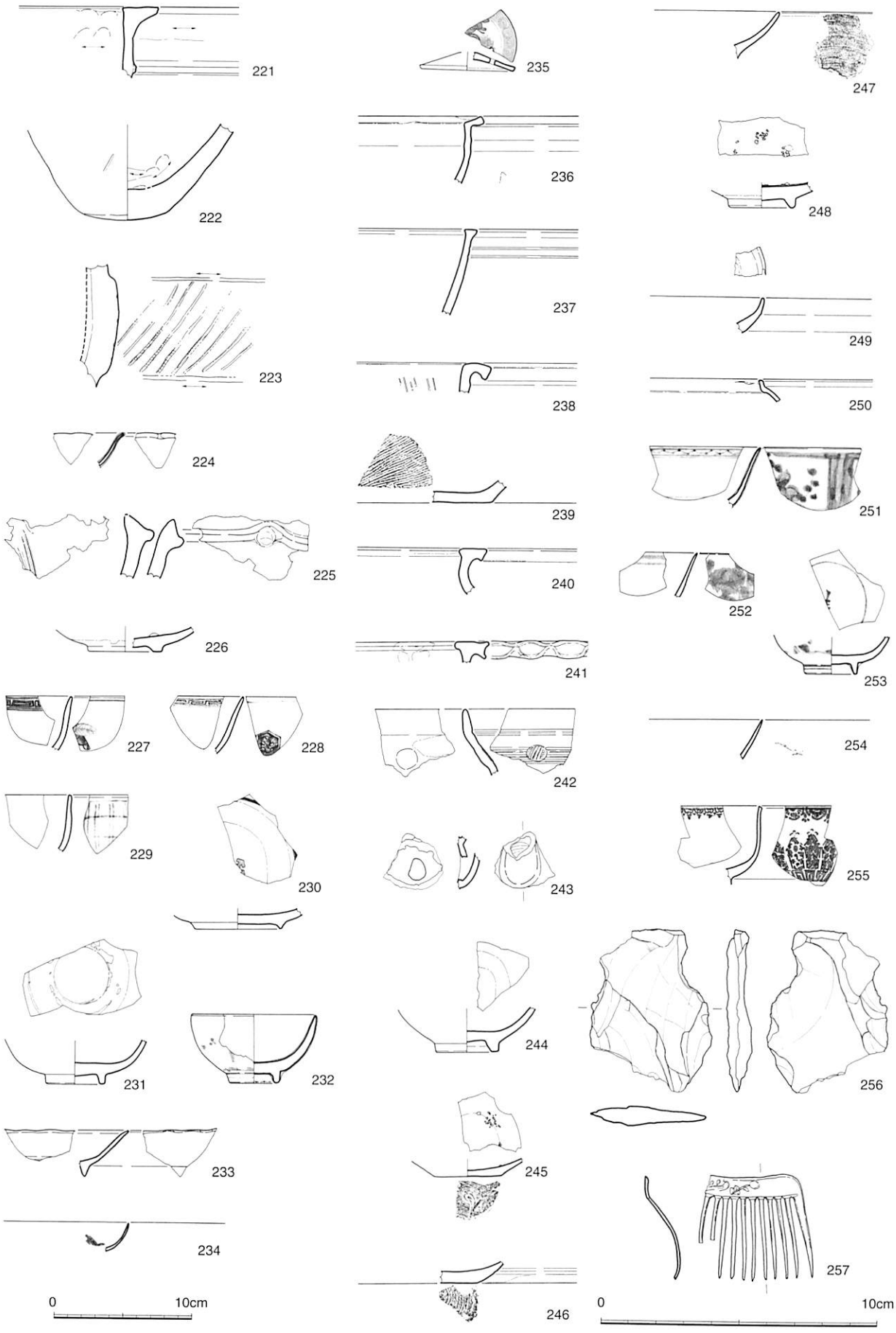
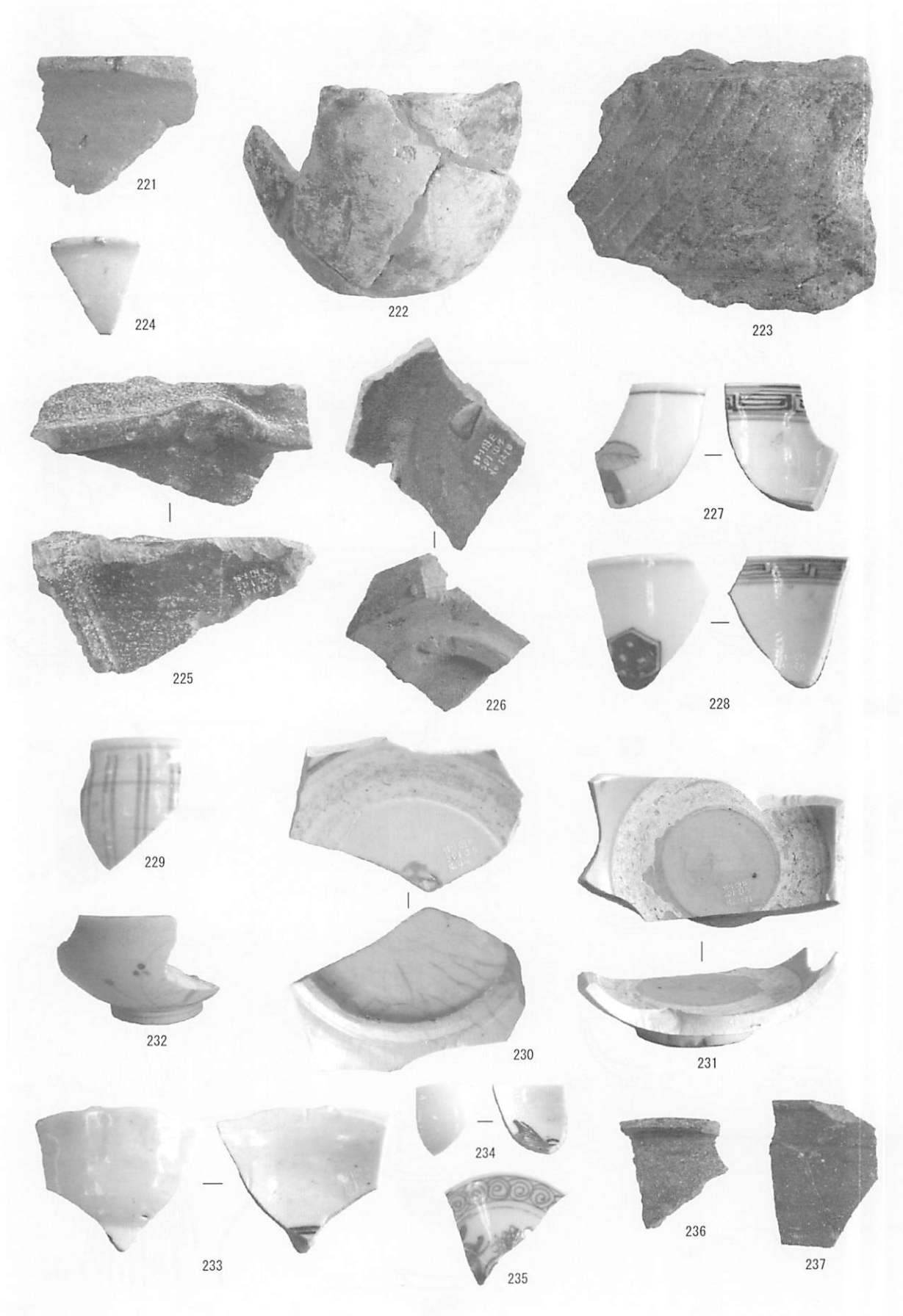
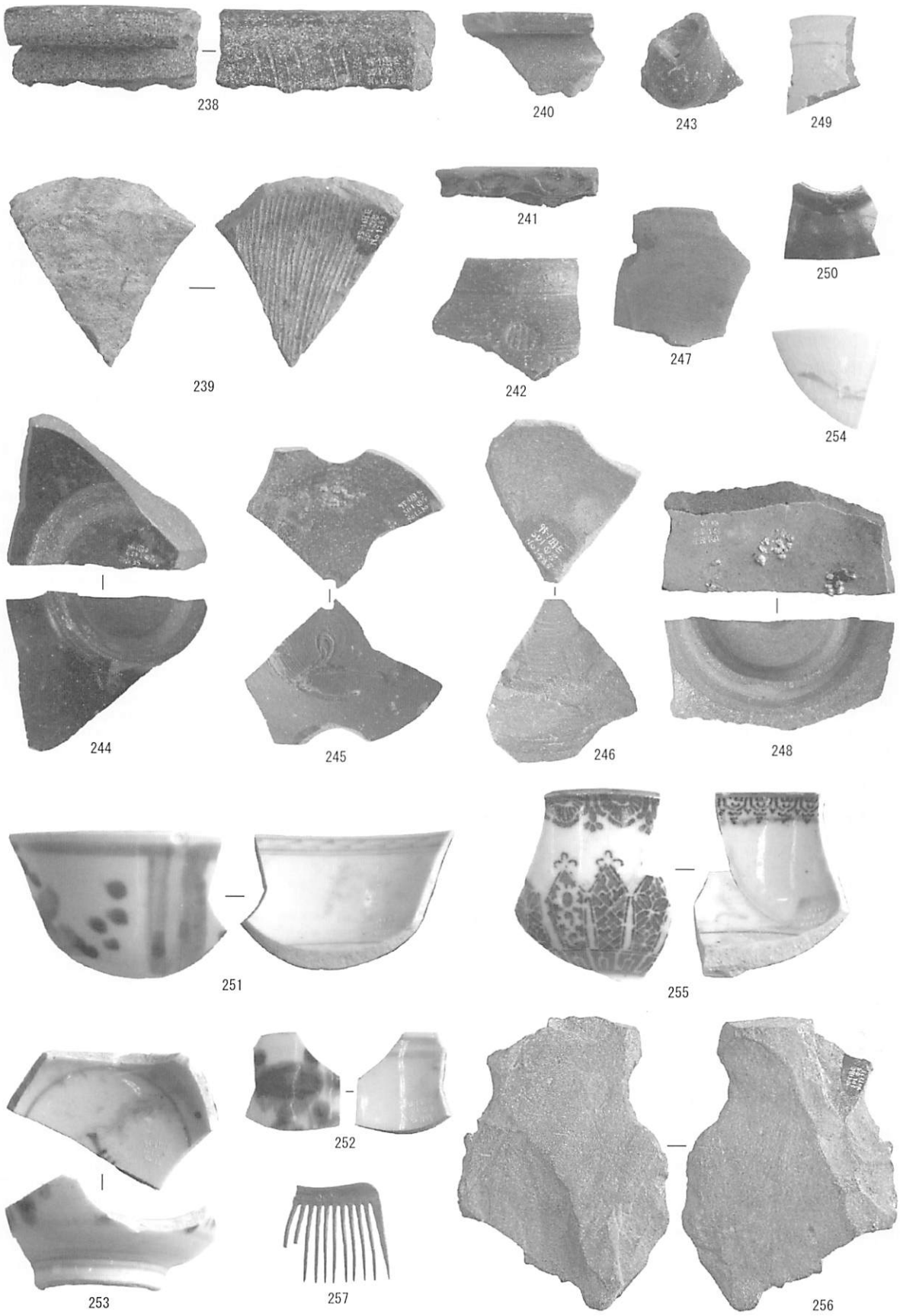


Fig.71　E地点SD1出土遺物　S=1/4，257のみ1/2



PL.52　E地点SD1出土遺物（1）



PL.53　E地点SD1出土遺物（2）

Tab.22　E地点SD1出土遺物観察表（1）

No.	層	種別	器種	部位	色調	胎土 混和材	胎土 砂粒の多さ	調整	備考
221	SD1	弥生	甕	口縁部	外面:にぶい橙7.5YR7/4,内面:にぶい黄橙10YR6/4,器肉:にぶい黄橙10YR7/3	粗砂:白色粒,雲母,石英,細砂:白色粒,雲母,石英,角閃石	4	外面:ナデ(一),内面:ハケ→ナデ(一)	胴部に貼付突帯1条
222	SD1	古墳	壺	底部	外面:にぶい黄橙10YR6/4,内面:橙7.5YR7/6,器肉:灰黄2.5Y7/2	礫:白色粒,粗砂:白色粒,角閃石,細砂:赤色粒,赤色粒,石英	2	外面:ハケ→ナデ,内面:ナデ	底径6.1cm
223	SD1	古墳	壺	胴部	外面:褐10YR4/6,内面:橙7.5YR6/6,器肉:7.5YR6/6	粗砂:石英,細砂:白色粒,石英,赤色粒,角閃石	4	外面:ナデ・ヨコナデ,内面:剥落のため不明	幅広突帯.ハケ工具により斜め平行文を施す.
224	SD1	白磁	皿	口縁部	釉薬:灰白5Y8/1に類似,素地:灰白5Y8/1		1	全面施釉	口縁部輪花状.中国産.
225	SD1	備前	擂鉢	口縁部	釉薬:暗灰黄2.5Y4/2,素地:灰褐7.5YR4/2	粗砂:白色粒,赤色粒,細砂:白色粒,赤色粒	4	口唇部のみ施釉か.	自然釉？ 注口部
226	SD1	肥前	皿？	底部	釉薬:灰オリーブ5Y6/2に類似,素地:灰黄2.5Y7/2	微砂粒	1	高台部露胎.全体的に貫入.	内底面に胎土目積みの痕跡. 底径5.4cm
227	SD1	肥前	碗	口縁部	釉薬:透明,素地:灰白7.5YR8/1		1	全面施釉.	外面:口縁直下に圏線1条,胴部に草花文を施す.内面:口縁直下に雷文を廻らせる.底部に圏線1条. 肥前系18c～19c
228	SD1	肥前	碗	口縁部	釉薬:透明,素地:灰白5Y8/1		1	全面施釉	外面:口縁直下に圏線1条.胴部に六角の不明文様.内面:口縁直下に雷文を廻らせる.肥前系18c～19c
229	SD1	肥前	碗	口縁部	釉薬:透明,素地:灰白5Y8/1		1	全面施釉	外面に格子文を施す. 肥前系18c～19c
230	SD1	肥前	碗	底部	釉薬:透明,素地:灰白10YR8/1		1	畳付のみ露胎.	見込みに蛇の目釉剥ぎ.底部に2条
231	SD1	肥前	碗	底部	釉薬:透明,素地:灰白5Y8/1		1	畳付のみ露胎.	見込みに蛇の目釉剥ぎ.釉剥ぎ部に
232	SD1	肥前	小碗	完形	釉薬:灰白5Y7/2,素地:灰白5Y8/1	微砂粒	1	全面施釉.	高台外面に茶褐色の圏線2条,胴部に線描の花文を施す.畳付に砂目積みの砂粒付着.口径9.0cm 底径3.6cm,器高4.9cm
233	SD1	肥前	碗	口縁部～底部	釉薬:透明,素地:灰白5Y8/1		1	全面施釉	口縁部は輪花状.見込みに圏線2条.器高3.2cm.肥前系18c～19c. 白濁したアルミナ付着.底径4.3cmの圏線.見込みに五弁花文と思われる印判を施す.肥前系18c～19c
234	SD1	肥前	薄手酒杯	口縁部	釉薬:透明,素地:灰白7.5YR8/1		1	全面施釉	内面に焼成後,上絵付け. 肥前系18c～19c
235	SD1	肥前	急須の蓋		釉薬:透明,素地:灰白2.5Y8/1		1	身受け部のみ露胎	蓋甲部に草花文,縁辺部に連続渦巻文を施す.径3.5mmの孔を一つ穿つ.径推定7.0cm.肥前系18～19c
236	SD1	薩摩焼	鉢	口縁部	釉薬:灰5Y4/1に類似,素地:灰黄褐10YR4/2	粗砂:赤色粒,白色粒,細砂:白色粒,透明粒	1	全面施釉,口唇上部のみ拭き取る.	苗代川系18ｃ～19ｃ
237	SD1	薩摩焼	鉢	口縁部	釉薬:黒褐2.5Y3/1に類似,素地:橙5YR6/6	粗砂:白色粒,黒色粒,細砂:白色粒,赤色粒	1	全面施釉,口唇上部のみ拭き取る.	口縁下部に2条の凹線. 苗代川系18ｃ～19ｃ
238	SD1	薩摩焼	擂鉢	口縁部	釉薬:灰オリーブ5Y5/2,素地:灰黄褐10YR4/2	細砂:白色粒,赤色粒	3	全面施釉,口唇上部のみ拭き取る.	苗代川系18ｃ～19ｃ
239	SD1	薩摩焼	擂鉢	底部	外面:灰黄2.5Y7/2,内面:灰オリーブ5Y6/2	粗砂:白色粒,細砂:透明粒,黒色粒	2	内面:全面擂り面.	苗代川系18ｃ～19ｃ
240	SD1	薩摩焼	壺？	口縁部	釉薬:灰オリーブ5Y4/2,素地:灰赤2.5YR5/2	粗砂:赤色粒,細砂:白色粒,透明粒	3	全面施釉,口唇上部のみ拭き取る.	苗代川系18ｃ～19ｃ
241	SD1	薩摩焼	鉢か甕	口縁部	釉薬:黒褐2.5Y3/1,素地:灰褐5YR4/2	細砂:透明粒,白色粒,黒色粒	3	全面施釉,口唇上部のみ拭き取る.内面に釉垂れ	外面口唇部に波状のひだ飾りを施す.苗代川系18ｃ～19ｃ
242	SD1	薩摩焼	土瓶	口縁部	釉薬:黒褐10YR3/1,素地:橙5YR7/6	粗砂:白色粒,赤色粒,細砂:白色粒,赤色粒	2	全面施釉.外面に刻印あり.	苗代川系18ｃ～19ｃ
243	SD1	薩摩焼	急須	注口	釉薬:オリーブ黒7.5Y3/1に類似,素地:にぶい橙5YR6/4	細砂:白色粒	2	全面施釉.	苗代川系18ｃ～19ｃ
244	SD1	薩摩焼	碗	底部	釉薬:黒褐7.5YR3/2,素地:明赤褐5YR5/6	細砂:赤色粒,白色粒	1	全面施釉.外面釉垂れ畳付～高台内露胎.	内底面は蛇の目釉剥ぎ 加治木・姶良系
245	SD1	薩摩焼	皿	底部	釉薬:暗褐10YR3/3,素地:オリーブ黒7.5YR3/2に類似	細砂:白色粒	1	外面底部は糸切り痕.内面のみ施釉.	内底面に砂目積みの砂粒が付着している.底径4.8cm 加治木・姶良系
246	SD1	薩摩焼	皿？	底部	釉薬:灰オリーブ5Y6/2,素地:にぶい橙5YR7/4	細砂:白色粒	1	全面施釉.外面釉垂れ	内底面に胎土目積みの痕跡. 加治木・姶良系
247	SD1	薩摩焼	小皿	口縁部	釉薬:灰黄褐10YR6/2,素地:浅黄橙10YR8/4	細砂:白色粒	1	内面および外面口唇部のみ施釉.	加治木・姶良系
248	SD1	薩摩焼	皿	底部	釉薬:(内面:灰白5Y7/2,外面:暗灰黄2.5Y5/2)素地:灰黄褐10YR5/2	細砂:白色粒	2	高台部露胎.	内底面に砂目積みの砂粒が付着している.底径4.8cm 龍門司系　18ｃ後半～19ｃ
249	SD1	薩摩焼	仏飯具	口縁部	釉薬:淡黄5Y8/3,素地:灰褐5YR5/2	細砂:白色粒	1	全面施釉	見込みに蛇の目釉剥ぎか. 龍門司系　18ｃ後半～19ｃ
250	SD1	薩摩焼	器種不明	口縁部	釉薬:暗赤褐5YR3/2に類似,素地:にぶい赤褐2.5YR5/3		1	内面上部～外面施釉.	口縁部部に白土付着.窯詰めの際の溶着か.龍門司系(近代)
251	SD1	薩摩焼	端反碗	口縁部	釉薬:透明,素地:灰白に類似7.5Y8/1		1	全面施釉	外面は呉須による草花文を施す.内面は口縁直下に網目文を帯状に廻らせる.見込みに圏線1条. 薩摩産磁器19ｃ中頃～幕末
252	SD1	薩摩焼	碗	口縁部	釉薬:透明,素地:灰白5Y8/1		1	全面施釉.	外面:呉須による絵付け.内面:口縁部に2条の圏線 薩摩産磁器19ｃ中頃～幕末
253	SD1	薩摩焼	碗	底部	釉薬:透明,素地:灰白5Y8/1		1	畳付のみ露胎.	外面:呉須による絵付け.高台に2条の圏線.中央に不明字文. 薩摩産磁器19ｃ中頃～幕末
254	SD1	薩摩焼	碗か杯	口縁部	釉薬:透明,素地:灰白7.5YR8/1		1	全面施釉	外面に呉須による絵付けを施す. 薩摩産磁器19ｃ中頃～幕末
255	SD1	磁器	碗	口縁部～胴下部	釉薬:透明釉,素地:灰白7.5YR8/1		1		印判染付.近～現代

出土遺物（Fig.71，PL.52・53，Tab.22）

SD1からは，弥生土器，古墳時代の土器，中近世（近代）の陶磁器，櫛，偏平打製石斧の他，鉄くず，ガラスなどが出土している。土器・陶磁器類は破片がほとんどである。実測できるものは36点であった。SD1からは，陶磁器が多く出土したが，これらについて，鹿児島大学法文学部の渡辺芳郎氏よりご教示いただいた。

221は弥生時代中期の甕である。山ノ口式の特徴を備えているが，口縁上面が立ち上がらず，水平であるのが異なる点である。

222～223は，古墳時代後半期の壺で，摩滅している。222はレンズ状に膨らむ底面で，223は胴部の幅広突帯部分である。223はヘラ描きによる斜め並行沈線文を施している。

224は白磁皿の口縁部である。口縁端部は輪花状を呈する。225は備前焼の擂鉢口縁部である。内面に平行沈線が認められる。

226～235は肥前系の磁器で18～19世紀のものである。ある。226は皿の底部だが，見込みに胎土目積みが認められる。230・231には蛇の目釉剥ぎが，232は砂目が見込みにある。227～229は碗の口縁部，230～231は碗の底部である。234は非常に薄手のもので，酒盃かと推察される。

236～254は薩摩焼である。このうち，236～243は苗代川系，244～247は姶良・加治木系，248～250は龍門司系で，ほとんどが18～19世紀のものである。また，251～254は薩摩焼系磁器の19世紀中ごろから幕末のものである。器種は，鉢・擂鉢・土瓶・碗・皿・小皿・仏飯具等である。

257は，櫛である。草花文を彫りによって施している。256は有肩打製石斧である。中ほどから欠損し，基部が残っている。基部も端部が一部欠損している。

Tab.23　E地点SD1出土遺物観察表（2）

No.	層	材質	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
256	SD1	ホルンフェルス	11.5	8.3	1.8	140.0	基部の一部，および刃部欠損.
257	SD1	不明				1.5	櫛. 草花文を彫りによって施す.

2)畝状遺構

幅20cm程の溝状の浅い落ち込みが，22条認められた。いずれも東西方向を軸とし，SD1周辺に多いが，南東隅にもあることから，本来はほぼ全面に広がっていたのが，削平されたものと思われる。SD1を切っていて，埋土は2a層土である。畑の畦状遺構であると考えられる。

4.3　3層上面遺構

3層上面では，SK1～3・10～17の土坑と溝状遺構SD2・3，畝状遺構を検出した（Fig.72）。SK1・3はSD2を切っている。溝状遺構とSK16・17，畝状遺構の軸方向は大体一致している。この方向は，2b層で検出されたSD1とも共通する。

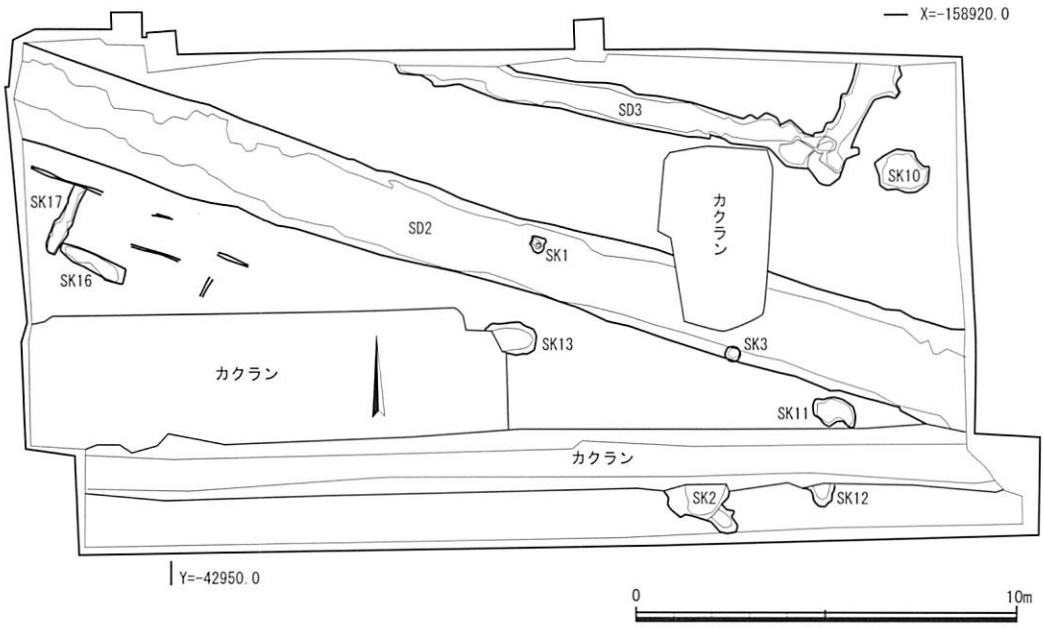


Fig.72　E地点3層上面遺構検出状況　S=1/200

1)　SK1（Fig.73，PL.54）

調査区ほぼ中央に位置する。平面形は北西側がやや飛び出した円形状で，直径約40cmを測る。埋土は，にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト～細砂層である。

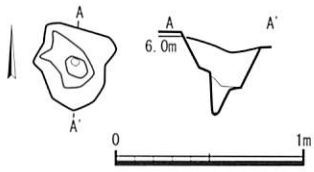
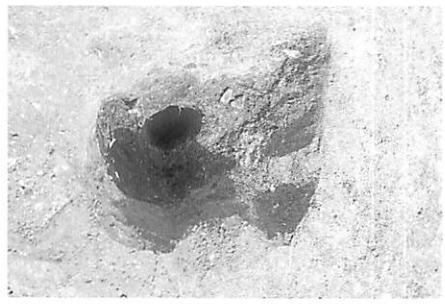


Fig.73　E地点SK1　S=1/40



PL.54　E地点SK1（北から）

2)　SK2（Fig.74）

調査区南側に位置する。遺構北側はカクランによって削平されている。南側に長いひょうたん型を呈する。掘削されているが，長さ・最大幅とも160cmほどである。南側飛び出し部分が高い。埋土は，にぶい黄褐色（10YR 4/3）シルトである。

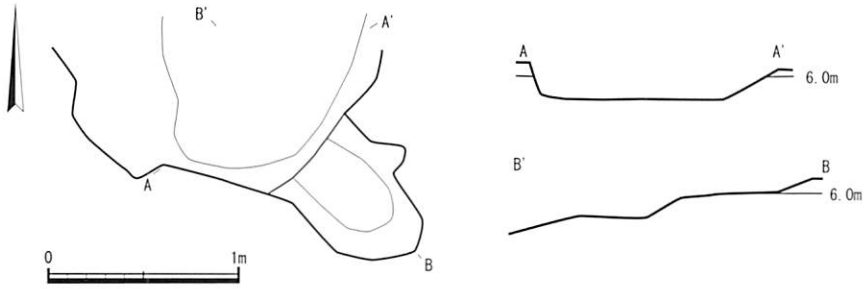


Fig.74　E地点SK2　S=1/40

3) SK3 (Fig.75)

調査区東側に位置する。SD2を切る。平面形は円形で，直径38cmを測る。深さは最深部で38cmである。埋土は，暗灰黄色（2.5Y4/2）の粗砂と細砂とシルトの混土で，やや粘性がある。

4) SK10 (Fig.76)

調査区東側に位置する。平面形は楕円形を呈する。長径144cm，短径112cmを測る。深さは20cmである。埋土は2層土に類似する。

5) SK11 (Fig.77)

調査区南東部に位置する。平面形は楕円状を呈する。長径115cm，短径66cmを測る。深さは24cmである。埋土は2層土に類似する。

6) SK12 (Fig.78)

調査区南東部に位置する。遺構北側はカクランによって削平されている。現状で，幅87cm，深さ8cmである。埋土は2層土に類似する。

7) SK13 (Fig.79)

調査区中央部に位置する。遺構西側はカクランによって削平されている。現状で，長径137cm，短径80cm，深さ9cmである。埋土は2層土に類似する。

8) SK16 (Fig.80)

調査区西側に位置する。平面形は細長い楕円形で，SD1・2とほぼ並行している。長さ186cm，幅44cm，深さ4cmを測る。埋土は2層土に類似する。

9) SK17 (Fig.80)

調査区西側に位置し，SK6と直交する。形状も類似した細長い楕円形で，北側は畝状遺構によって削平されているが，現状で長さ198cm，幅34cm，深さ8cmを測る。埋土は2層土に類似する。

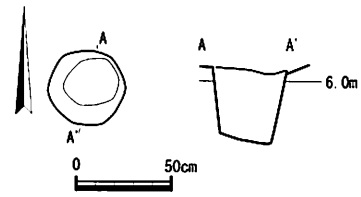


Fig.75　E地点SK3　S=1/40

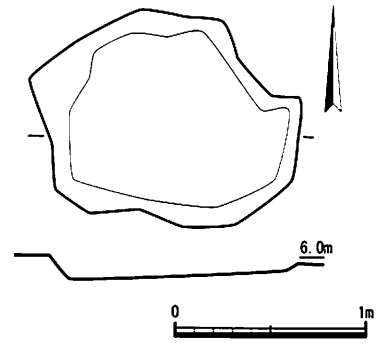


Fig.76　E地点SK10　S=1/40

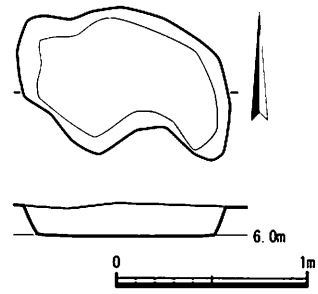


Fig.77　E地点SK11　S=1/40

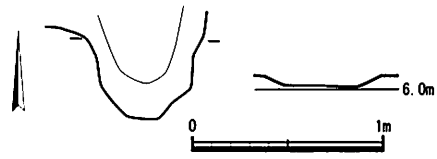


Fig.78　E地点SK12　S=1/40

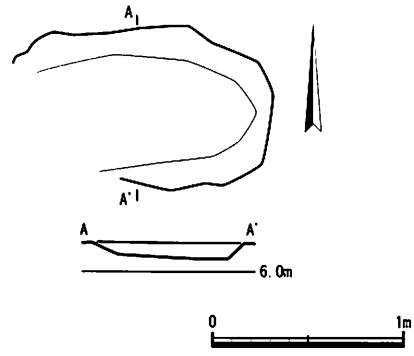


Fig.79　E地点SK13　S=1/40

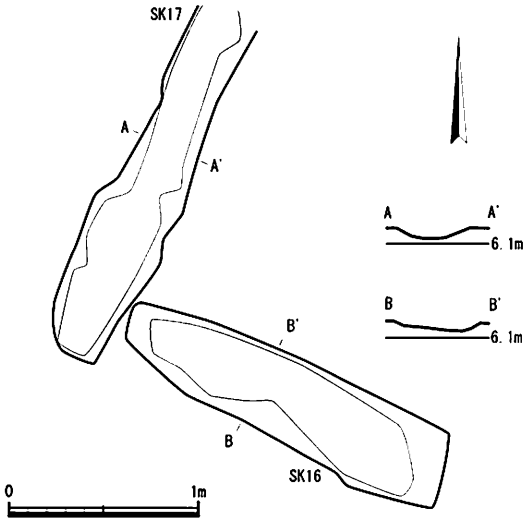


Fig.80　E地点SK16・SK17　S=1/40

10）SD2（Fig.8）

調査区北西隅から南東隅へ，斜めに横断するように位置する。調査区外に伸びているが，現状では，長さ26.2 m，幅3.4 m，深さ約5cmを測る。北側はSD1に接しているが，部分的にSD1によって削平を受けているようである。埋土は，灰黄褐色10YR4/2細砂～シルト。粘性なし。3mm大以下のパミス少量含む。

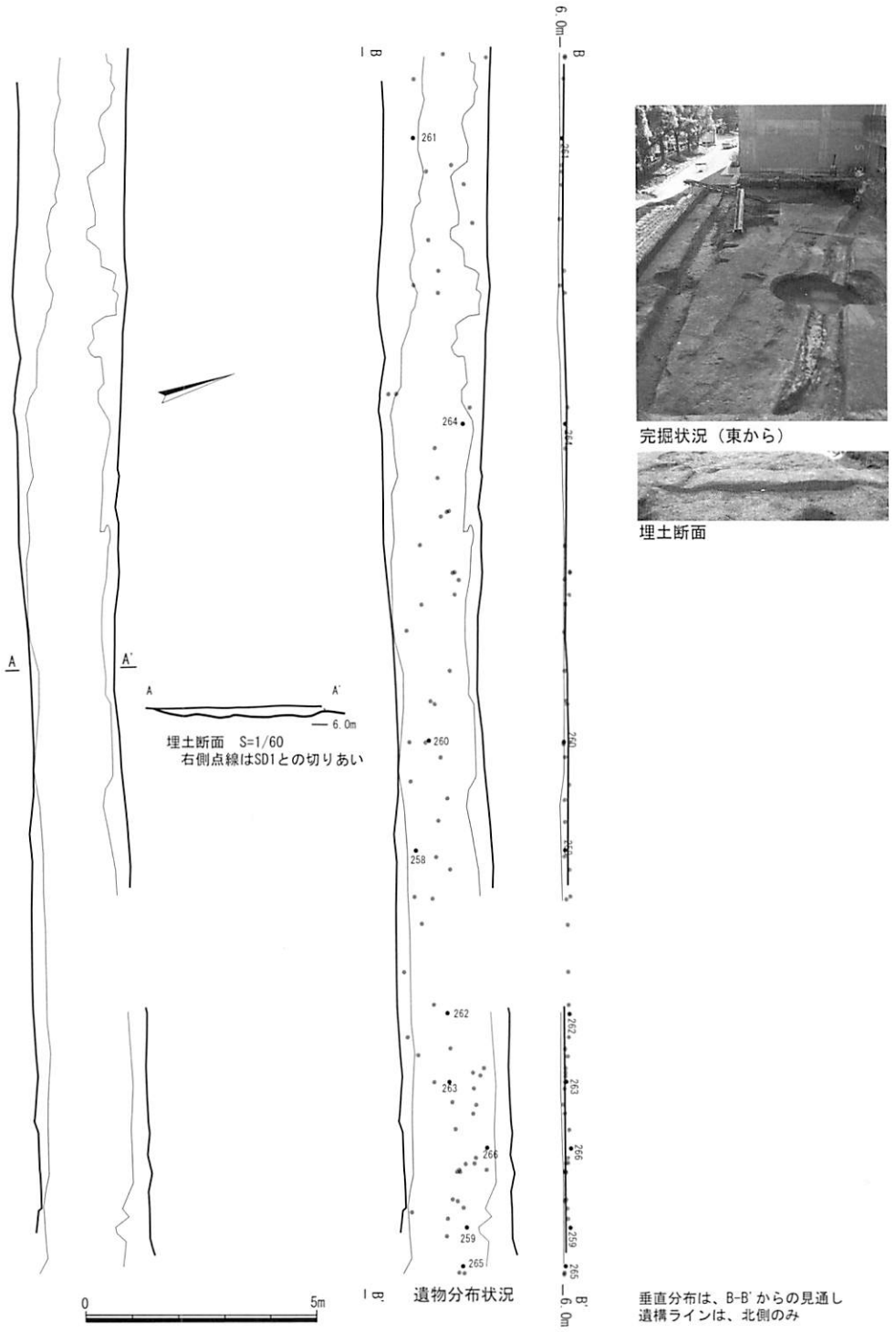


Fig.81　E地点SD2　S=1/150、断面のみ1/60

出土遺物（Fig.83，PL.56，Tab.24）

SD2からは，青磁，白磁，陶器，土師器，土錘などが出土している。小さな破片が多いが，おおむね中世の遺物で占められている。259～263は青磁・白磁で中国産である。264は陶器で，小壺の底部のようだが，産地・器種とも不明である。265・266は土錘で，二つともほぼ同じサイズである。

11）SD3（Fig.82，PL.55）

調査区北側に位置し，両端とも調査区外に伸びている。ほぼ直角に屈曲している。幅は90cm，深さ15cmを測る。埋土は，灰黄褐色（10YR5/2）シルト質砂。粘性ややあり。4a層土，4層土をブロックで含む。5mm以下のパミス含む。マンガンの浸透が縦方向に見られる。

出土遺物（Fig.83，PL.56，Tab.24）

SD3からは，小片の古墳時代の土器などが出土している。実測できたのは，1点のみであった。267は突帯だが，絡縄突帯で粗雑なつくりであることから，古墳時代の甕であると考えられる。

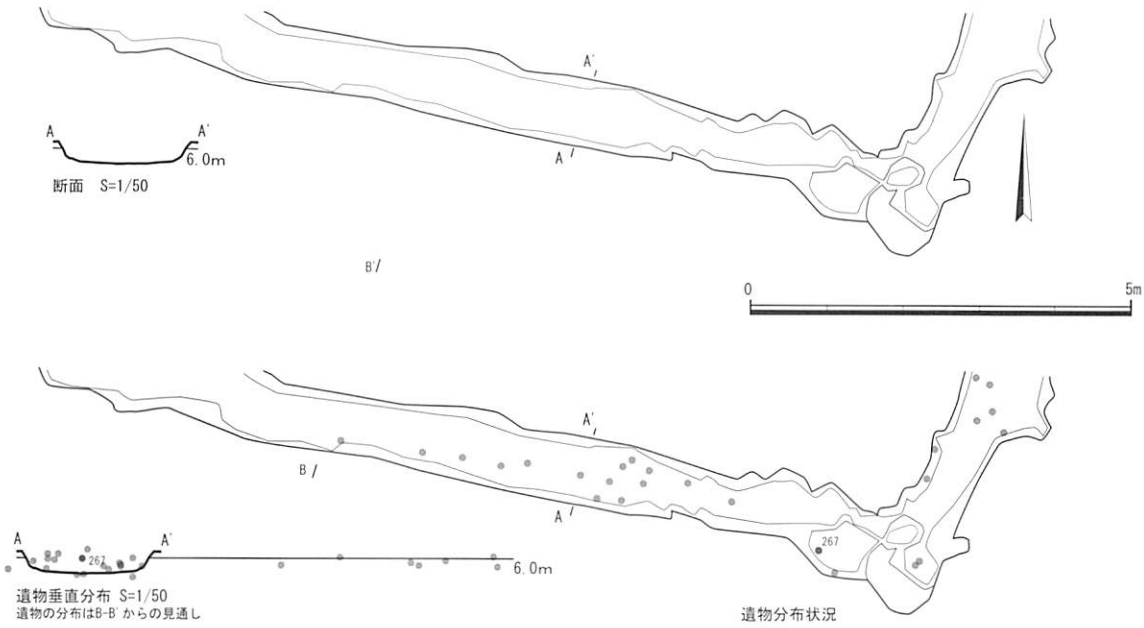
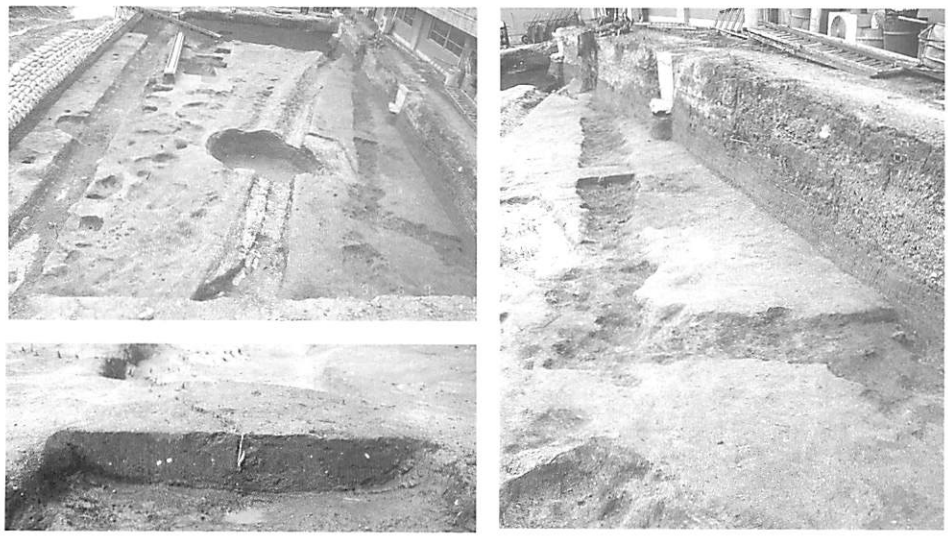


Fig.82　E地点SD3　S=1/100，断面のみS＝1/50



PL.55　E地点SD2・3

左上：2b層遺構完掘状況，左上：SD3埋土断面，右：SD3完掘状況

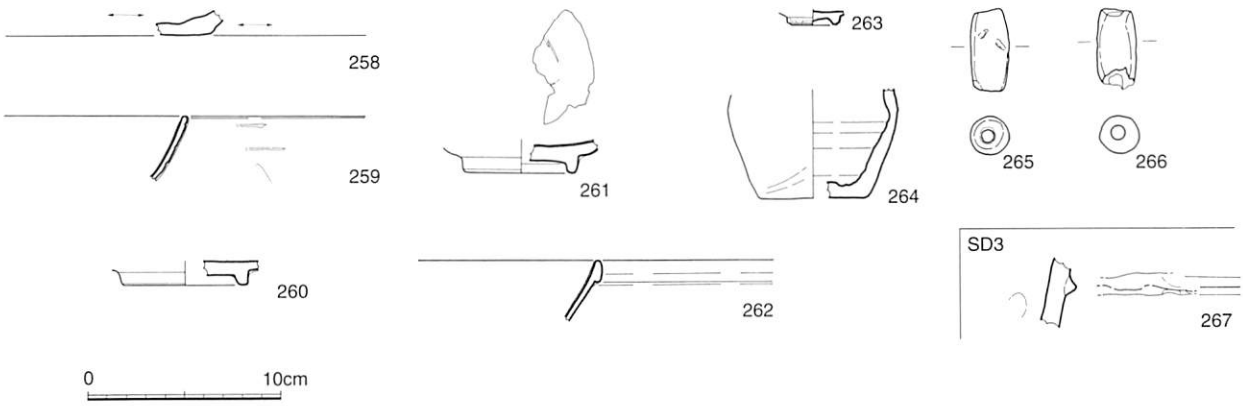
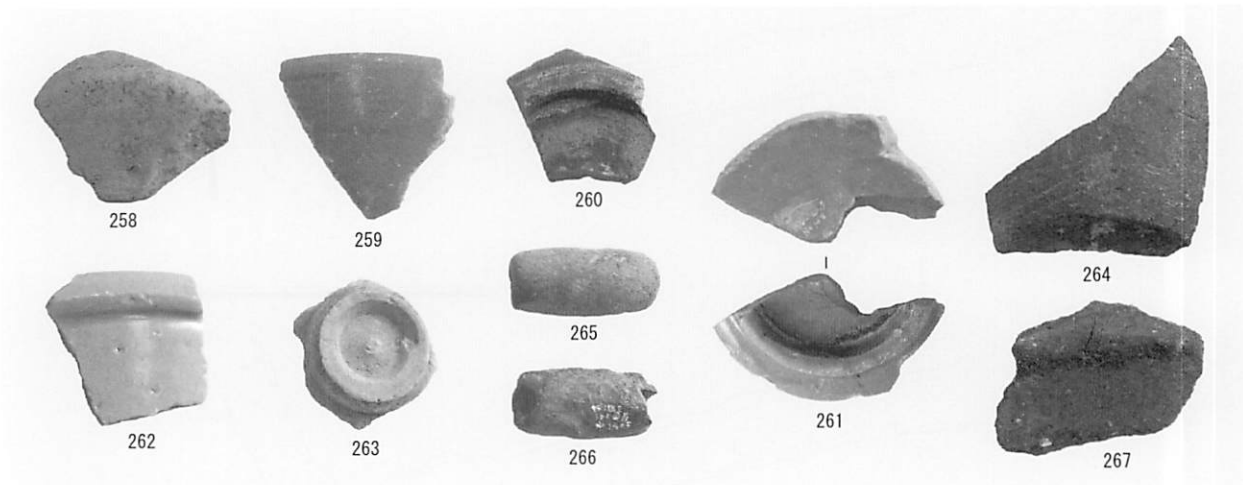


Fig.83　E地点SD2・3出土遺物　S=1/4



PL.56　E地点SD2・3出土遺物写真

Tab.24　E地点SD2・3出土遺物観察表

No.	層	種別	器種	部位	色調	胎土 混和材	胎土 砂粒の多さ	調整	備考
258	SD2	土師器		底部	外面:橙7.5YR7/6,内面:橙7.5YR7/6,器肉:橙7.5YR7/6	砂:白色粒,黒色粒,細砂:黒色粒	1		
259	SD2	青磁		口縁部	釉薬:緑灰7.5GY6/1,素地:灰白5Y8/1		1	外面:文様あり.	中国産
260	SD2	青磁		底部	釉薬:緑灰7.5GY6/1,素地:灰白2.5Y7/1に類似		1		中国産
261	SD2	青磁		底部	釉薬:オリーブ灰10Y6/2に類似,素地:灰白5Y7/1		1	内面:文様あり？	中国産
262	SD2	白磁		口縁部	釉薬:灰白7.5YR7/1,素地:灰白5Y8/1		1		中国産
263	SD2	白磁		底部	釉薬:灰白10Y7/1に類似,器肉:灰白5Y8/1		1		中国産
264	SD2			底部	内面:にぶい褐7.5YR5/3,外面:にぶい赤褐2.5YR4/3,器肉:灰白2.5Y7/1	砂:白色粒,細砂:白色粒	3		産地・器種不明
265	SD2		土錘		橙7.5YR7/6	粗砂:灰色粒,砂:白色粒,灰色粒,細砂:白色粒,黒色粒	2		最大長:4.2cm,最大幅2.0cm,孔径0.6cm,重量18.23g
266	SD2		土錘		外面:灰褐7.5YR4/2,器肉:褐7.5YR4/3	砂:石英,黒色粒,細砂:黒色粒	2	外面:紐ずれ痕あり.	最大長:4.05cm,最大幅2.0cm,孔径0.65cm,重量16.46g
267	SD3	古墳	甕	胴部	外面:灰黄褐10YR4/2,内面:にぶい黄橙10YR6/4,器肉:褐灰10YR5/1	礫:白色粒,粗砂:白色粒,砂:角閃石,石英,細砂:黒色粒,透明粒	3	内面:ナデ	絡縄突帯？1条

12)　畝状遺構（Fig.72）

調査区西側で，幅20cm，深さ約5cmの溝状の落ち込みが5条，平行もしくは直交して検出された。軸方向は西北西から東南東方向である。SD2・3やSK16・17と平行する。

4.4　4層上面遺構

4層上面からは，SK4・5・7～9とピット102基を検出した（Fig.84，PL.59）が，SK4は4a層上面検出，他は4b層上面検出である。なお，4a層掘削中に，調査区北側中央部で動物の足跡状の落ち込みを検出した。

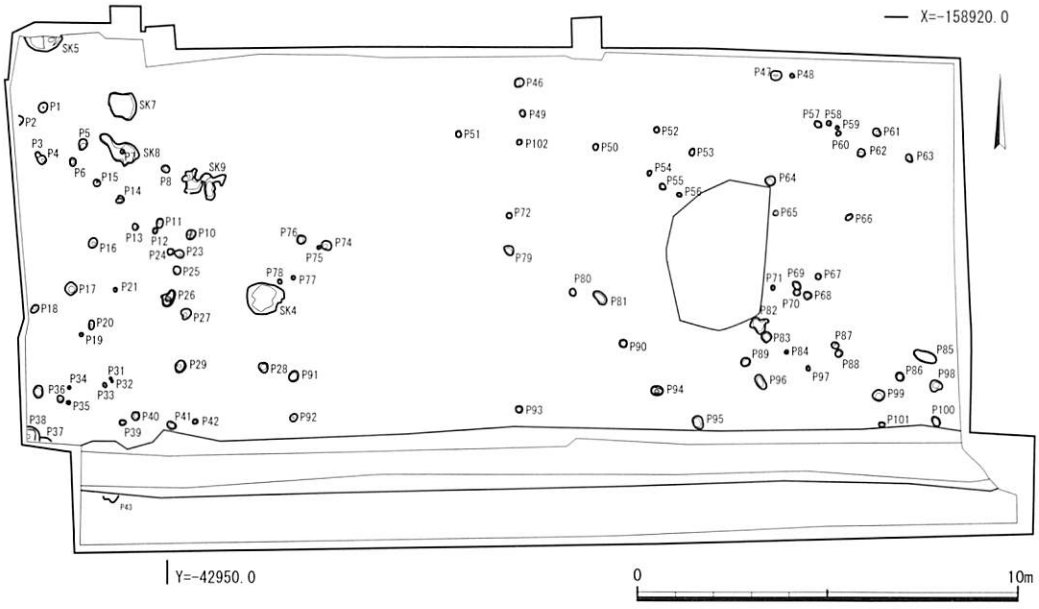


Fig.84　E地点4層上面検出遺構　S=1/200

1)　SK4（Fig.85，PL.57）

調査区西側に位置する。遺構南側はカクランによって削平を受けている。平面形はほぼ円形で，直径約90cm，深さ14cmである。埋土は，灰黄褐色（10YR 5/2）シルトを基調として，赤褐色（5YR4/6）シルトが混ざる。3cm大のパミスを含む。

出土遺物（Fig.86，PL.58，Tab.25）

埋土中より，弥生土器の破片が1点出土している。中期の壺の肩部で，突帯が4条認められる。非常に摩滅している。

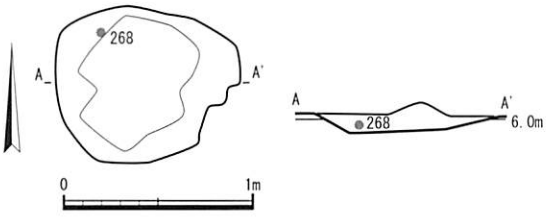


Fig.85　E地点SK4　S=1/40

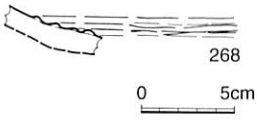
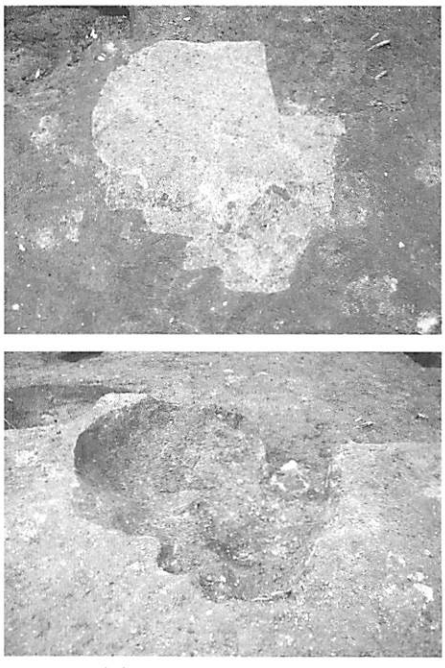


Fig.86　E地点SK4出土遺物　S=1/4

PL.58　E地点SK4出土遺物写真



PL.57　E地点SK4
上：検出状況（東から），下：完掘状況（東から）

Tab.25　E地点SK4出土遺物観察表

No.	層	種別	器種	部位	色調	胎土 混和材	胎土 砂粒の多さ	調整	備考
268	SK4	弥生	壺	肩部	内面:灰白10YR8/2,外面:にぶい橙7.5YR6/4に類似,器肉:灰白10YR8/2	礫:赤色粒,灰色粒,粗砂:赤色粒,白色粒,砂:白色粒,角閃石,石英,細砂:黒色粒	3	外面:ナデ(—),内面:剥落	三角突帯4条(現存)

2)　SK5（Fig.87）

調査区北西隅に位置する。北側は調査区外に広がっており，未検出である。現状で幅110cm，深さ34cmを測る。平面形は，楕円形である。埋土は，4a層土である。

3)　SK7（Fig.88）

調査区北西隅に位置する。平面形は円形状を呈する。直径は約75cm，深さ14cmを測る。埋土は，4a層土である。

4)　SK8（Fig.89）

調査区北西隅に位置する。平面形は一端が細い楕円状を呈する。底面は東側が深くなっている。埋土は，黒色（10YR7/1）シルトである。

5)　SK9（Fig.90）

調査区北西隅に位置する。平面形は，東西二つの飛び出しがあるもので，それぞれ底面が深い。東側が15cm，西側が10cmの深さである。いくつかの遺構が重なっている可能性もある。埋土は，4a層土である。

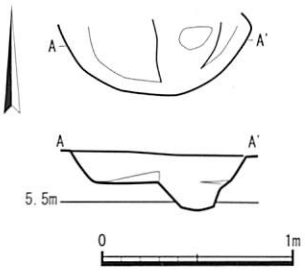


Fig.87　E地点SK5　S=1/40

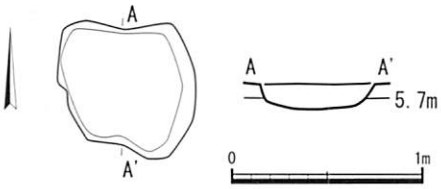


Fig.88　E地点SK7　S=1/40

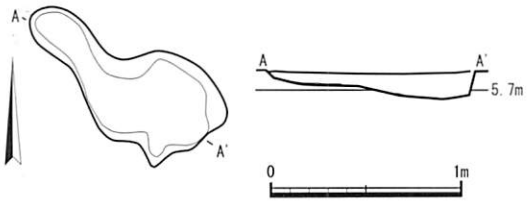


Fig.89　E地点SK8

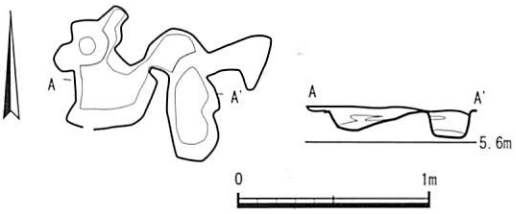


Fig.90　E地点SK9　S=1/40

PL.59　E地点4層上面検出状況

6）ピット群（Fig.84，Tab.26）

調査区ほぼ全面にピットが102基検出された。建物の柱跡と考えられる配列等は認められないが，全体的に北西－南東方向，もしくはその直交する方向に並んでいるようなものが多い。この方向は上層で検出された溝状遺構や畝状遺構の軸方向とも一致する。

Tab.26　E地点4b層上面検出ピット一覧

No.	大きさ(cm)	深さ(cm)	断面タイプ	埋土・備考
1	25-21	30	略円錐形	黒色(10YR 7/1)を呈するシルト質土．粘性ややあり．
2	26-22	30	円筒形	埋土は4a層
3	13	16	円筒形	埋土は4a層
4	24	55	円筒形	埋土は4a層
5	14-12	24	円錐形	埋土は4a層
6	22-20	18	筒形	埋土は4a層
7	24-20	12		埋土は4a層
8	14	11	筒形	埋土は4a層
9	17	23	円筒形	SK9内 埋土は4a層
10	25-24	22	円筒～円錐形	一部2段落ち 埋土は4a層
11	24-17	11	略円錐形	埋土は4a層
12	15-13	16	略円錐形	一部2段落ち 埋土は4a層
13	17-14	14	円錐形	埋土は4a層
14	17-15	8	略四角錐形	埋土は4a層
15	22-19	45	略円錐形	一部2段落ち 埋土は4a層
16	24	40	略円錐形	埋土は4a層
17	27	27	筒形	埋土は4a層
18	24-15	16	略円錐形	一部2段落ち 埋土は4a層
19	9	8	円筒形	埋土は4a層
20		24	筒形	埋土は4a層
21	10	17	円筒形	埋土は4a層
22	7	8	円筒形	埋土は4a層
23	19	21	円錐形	2段落ち 埋土は4a層
24	17	16	円筒形	埋土は4a層
25	21-17	32	円錐形	埋土は4a層
26	32-30	24	錐-円筒形	2段落ち 埋土は4a層
27	30-26	16	略錐形	埋土は4a層
28	25-23	32	円筒形	埋土は4a層
29	34-26	31	円筒形	2段落ち 埋土は4a層
30	7	8	円筒形	埋土は4a層
31	7	6	円筒形	埋土は4a層
32	6	9	略円錐形	埋土は4a層
33	9	10	円筒形	埋土は4a層
34	7	9	略円錐形	埋土は4a層
35	16	14	円筒形	埋土は4a層
36	27-22	29	円筒形	埋土は4a層
37	25～	20～	円錐形	埋土は4a層
38	64	13	球形	黒褐色(10YR 2/2, 2/3)のシルト質土．20cm大のパミス含む． 埋土は4a層
39	13	14	円筒形	埋土は4a層
40	21-18	21	円筒形	埋土は4a層
41	21-16	43	円筒形	埋土は4a層
42	17-15	10	円筒形	埋土は4a層
43	50-42?	21	円錐形	埋土は4a層
44	23	28	円錐形	埋土は4b層
45	18-17	17	円筒形	埋土は4b層
46	26-22	9		埋土は4a層
47	30-24	10		埋土は4a層
48	12-8	7		埋土は4a層
49	19-13	16		埋土は4a層
50	18-12	11		埋土は4a層
51	19-12	6		埋土は4a層
52	16	7		埋土は4a層
53	20-14	7		埋土は4a層
54	16-11	11		埋土は4a層
55	21-14	13		埋土は4a層
56	13-9	7		埋土は4a層
57	21-16	6		埋土は4a層
58	13-11	14		埋土は4a層
59	11-7	7		埋土は4a層
60	13-11	6		埋土は4a層
61	22-16	10		埋土は4a層
62	21-17	8		埋土は4a層
63	21-15	7		埋土は4a層
64	26-23	21		埋土は4a層
65	15-12	11		埋土は4a層
66	21-13	7		埋土は4a層
67	16-13	12		埋土は4a層
68	22-17	16		埋土は4a層
69	27-15	13		埋土は4a層
70	19-12	12		埋土は4a層
71	14-9	11		埋土は4a層
72	17-13	7		埋土は4a層
73	16-14	12		埋土は4a層
74	26-21	14		埋土は4a層
75	11-7	18		埋土は4a層
76	25-21	29		埋土は4a層
77	12-10	6		埋土は4a層
78	13-9	6		埋土は4a層
79	30-21	26		埋土は4a層
80	22-17	13		埋土は4a層
81	43-21	26		埋土は4a層
82	41-21	19		埋土は4a層
83	42-25	1		埋土は4a層
84	9	6		埋土は4a層
85	61-28	43		埋土は4a層
86	24-18	9		埋土は4a層
87	17-14	24		埋土は4a層
88	19-17	28		埋土は4a層
89	27-18	13		埋土は4a層
90	25-17	41		埋土は4a層
91	28-20	10		埋土は4a層
92	22-16	6		埋土は4a層
93	19-17	14		埋土は4a層
94	31-20	18		埋土は4a層
95	36-23	15		埋土は4a層
96	38-18	29		埋土は4a層
97	12-9	6		埋土は4a層
98	33-25	22		埋土は4a層
99	33-28	31		埋土は4a層
100	25-16	11		埋土は4a層
101	16-10	1		埋土は4a層
102	13	8		埋土は4a層

PL.60　E地点ピット完掘
左：P41，右：P26
埋土確認のため，手前は掘削済み

PL.61　E地点4層上面検出ピット完掘状況（東から）

7)　足跡状遺構（PL.62）

4a層掘削中に，調査区中央北側で足跡状遺構を検出した。形状は円形もしくは半円形のものが多かったが，中には蹄の跡が明瞭にわかるものもあった。大きさは，蹄形のものが長さ約16cm，幅約10cmで，円形のものは直径約10cmである。深さは，1～3cm程度であった。くぼみに入っている埋土は，明褐色～黄褐色（7.5～10YR5/8）粗砂で，2㎜大のパミスを含んでおり，3c層に類似する。

PL.62　E地点4a層中検出の足跡

4.5　5層上面検出遺構

1）ピット群（Fig.91，PL.63，Tab.27）

調査区ほぼ全面にピットが182基検出された。平均的な大きさは，直径約20cmである。特に配置されているものは認められない。埋土は，4a層のものが多い。P218より遺物が出土している。

出土遺物（Fig.92，PL.64，Tab.28）

ピットからは，1点のみ遺物が出土している。269は高杯の脚部である。上部は，杯部との接合部で欠損している。非常に摩滅している。

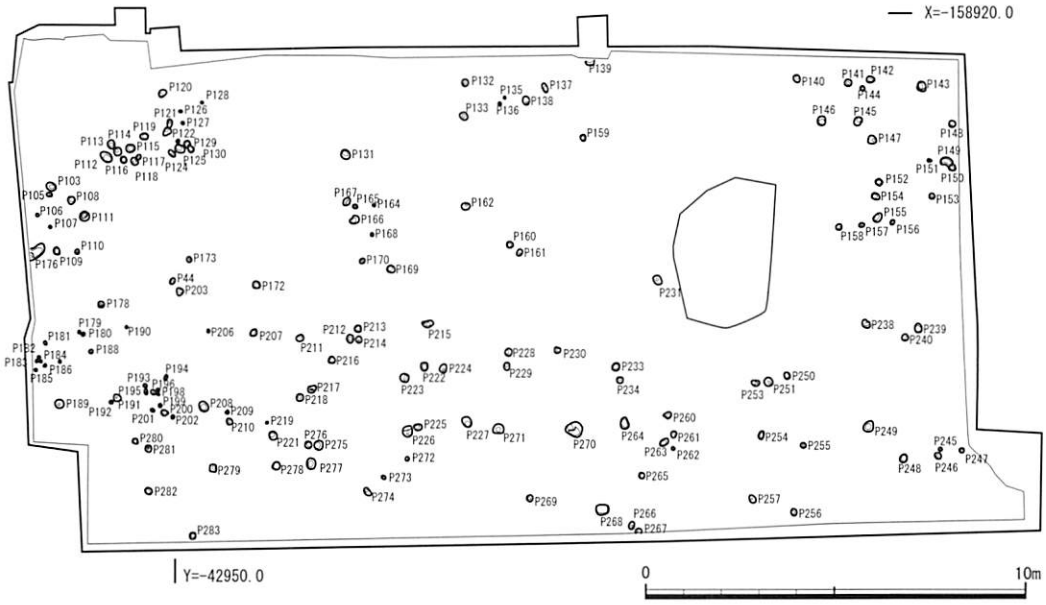


Fig.91　E地点5層上面遺構検出状況　S=1/200

Tab.27　E地点5層上面ピット一覧表

No.	大きさ(cm)	深さ(cm)	埋土・備考	No.	大きさ(cm)	深さ(cm)	埋土・備考	No.	大きさ(cm)	深さ(cm)	埋土・備考
103	27-20	21	黒褐色土	164	8-5	12	黒褐色土	225	21-13	13	黒褐色土
104	20-16	22	黒褐色土	165	14-8	4	黒褐色土	226	30-20	12	黒褐色土
105	14-9	7	黒褐色土	166	23-18	7	黒褐色土	227	29-24	22	灰色土
106	8-5	7	黒褐色土	167	22-15	7	黒褐色土	228	21-17	31	黒褐色土
107	8-5	9	黒褐色土	168	9-6	7	黒褐色土	229	21-14	28	黒褐色土
108	20-15	24	黒褐色土	169	21-17	39	黒褐色土	230	18-14	25	灰色土
109	18-14	13	黒褐色土	170	14-11	17	黒褐色土	231	29-19	19	灰色土
110	13-10	18	黒褐色土	171	25-17	12	黒褐色土	232	22-19	15	黒褐色土
111	28-21	31	黒褐色土	172	20-12	8	黒褐色土	233	23-19	12	黒褐色土
112	37-21	28	黒褐色土	173	15-12	12	黒褐色土	234	18-16	17	黒褐色土
113	22-21	15	黒褐色土	174	15-13	12	黒褐色土	235	11-10	14	黒褐色土
114	23-18	12	黒褐色土	175	19-15	14	黒褐色土	236	19-15	5	黒褐色土
115	24-18	9	黒褐色土	176	46～	8	黒褐色土	237	24-19	7	黒褐色土
116	19-15	14	黒褐色土	177			欠番	238	25-19	27	黒褐色土
117	14-10	10	黒褐色土	178	18-15	15	黒褐色土	239	24-17	22	灰色土
118	21-15	14	黒褐色土	179	8-6	5	黒褐色土	240	19-15	20	灰色土
119	21-15	31	灰色土	180	11-9	7	黒褐色土	241	16-11	7	黒褐色土
120	23-14	15	灰色土	181	11-7	3	黒褐色土	242	13-9	6	黒褐色土
121	20-10	10	黒褐色土	182	9-6	6	黒褐色土	243	18-15	15	黒褐色土
122	22-14	10	黒褐色土	183	7-5	4	黒褐色土	244	21-17	12	黒褐色土
123	11-7	3	黒褐色土	184	8-5	7	黒褐色土	245	10	11	黒褐色土
124	21-11	17	黒褐色土	185	8-6	8	黒褐色土	246	16-13	13	黒褐色土
125	27-18	17	黒褐色土	186	8-6	4	黒褐色土	247	13-10	6	黒褐色土
126	10-6	4	黒褐色土	187	8-5	5	黒褐色土	248	21-18	18	黒褐色土
127	8-7	3	黒褐色土	188	12-9	8	黒褐色土	249	29-23	25	黒褐色土
128	7-6	4	黒褐色土	189	10-9	10	黒褐色土	250	20-15	16	黒褐色土
129	20-16	5	黒褐色土	190	9-7	8	黒褐色土	251	23-19	19	黒褐色土
130	18-15	33	黒褐色土	191	22-17	28	黒褐色土	252	19-15	6	黒褐色土
131	25-18	33	黒褐色土	192	11-8	6	黒褐色土	253	22-15	18	黒褐色土
132	19-11	22	灰色土	193	11-5	3	黒褐色土	254	21-13	5	黒褐色土
133	24-16	12	黒褐色土	194	16-8	3	黒褐色土	255	14-12	22	黒褐色土
134	18-14	40	黒褐色土	195	14-7	4	黒褐色土	256	16-14	14	黒褐色土
135	10-4	6	黒褐色土	196	13-10	4	黒褐色土	257	21-15	14	黒褐色土
136	8-6	4	黒褐色土	197	8-7	5	黒褐色土	258	21-17	9	黒褐色土
137	26-13	19	黒褐色土	198	8-5	7	黒褐色土	259	19-16	13	黒褐色土
138	23-17	33	灰色土	199	11-8	7	黒褐色土	260	22-17	8	黒褐色土
139	22-	24	黒褐色土	200	20-13	9	黒褐色土	261	17-14	17	黒褐色土
140	19-17	16	黒褐色土	201	9-6	8	黒褐色土	262	10-7	11	黒褐色土
141	20-18	17	灰色土	202	10-7	9	黒褐色土	263	25-15	7	黒褐色土
142	21-16	29	灰色土	203	19-16	37	黒褐色土	264	30-19	11	黒褐色土
143	28-20	14	黒褐色土	204	29-20	12	黒褐色土	265	18-15	25	灰色土
144	13-12	12	黒褐色土	205	20-16	14	黒褐色土	266	23-15	10	黒褐色土
145	25-17	22	黒褐色土	206	10-7	9	黒褐色土	267	20-14	10	黒褐色土
146	25-21	32	黒褐色土	207	20-14	5	黒褐色土	268	34-20	16	黒褐色土
147	25-22	29	黒褐色土	208	26-21	40	黒褐色土	269	18-14	17	黒褐色土
148	20-17	26	黒褐色土	209	9-8	5	黒褐色土	270	45-36	13	灰色土
149	35-21	15	黒褐色土	210	19-15	8	黒褐色土	271	30-23	19	灰色土
150	19-15	15	黒褐色土	211	21-16	20	黒褐色土	272	11-8	6	黒褐色土
151	11-6	6	黒褐色土	212	21-17	10	黒褐色土	273	13-9	3	黒褐色土
152	16-14	19	黒褐色土	213	19-16	31	黒褐色土	274	26-14	28	黒褐色土
153	16-13	6	黒褐色土	214	17-14	22	黒褐色土	275	24-21	20	黒褐色土
154	22-16	10	黒褐色土	215	31-16	18	灰色土	276	20-16	23	黒褐色土
155	27-17	15	黒褐色土	216	18-15	6	黒褐色土	277	28-21	24	黒褐色土
156	14-9	5	黒褐色土	217	23-16	11	黒褐色土	278	23-21	25	黒褐色土
157	14-12	11	灰色土	218	19-16	13	黒褐色土	279	22-20	18	黒褐色土
158	16-14	18	灰色土	219	8-5	5	黒褐色土	280	17-12	17	黒褐色土
159	17-14	12	黒褐色土	220	9-8	4	黒褐色土	281	18-16	16	黒褐色土
160	19-15	17	黒褐色土	221	23-19	28	灰色土	282	20-14	12	黒褐色土
161	20-14	20	黒褐色土	222	23-17	10	黒褐色土	283	17-15	15	黒褐色土
162	24-15	10	黒褐色土	223	22-18	14	黒褐色土				
163	26-15	20	黒褐色土	224	23-15	17	黒褐色土				

PL.63　E地点5層上面検出ピット

上段左からP100、P112、P103、P108、二段目左からP130、P203、P119、P191、三段目左からP278、P274、P213、P228、四段目左からP169、P147、五段目左からP138、P152、最下段右：ピット完掘状況

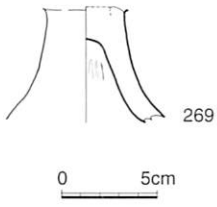


Fig.92　E地点P215出土遺物　S=1/4

PL.64　E地点P215出土遺物

Tab.28　E地点P215出土遺物観察表

No.	層	種別	器種	部位	色調	胎土 混和材	胎土 砂粒の多さ	調整		備考
269	P215	古墳	高坏	脚部	内面:にぶい黄橙10YR7/4,外面:にぶい黄橙10YR7/4,器肉:灰白2.5Y8/1	細砂:黒色粒,白色粒,透明粒		外面:非常に丁寧なナデ,(—)・しぼり痕あり	内面:ハケ	推定底径:8.1cm.

5　まとめ

本調査区では，近代～近世，中世，古墳時代のものを確認することができた。大きく3つの時期にわたる遺構が確認できた。

5.1　遺構について

近代～近世については，D地点Ⅲ1層上面検出遺構や，E地点2b層上面検出遺構がそれにあたり，溝状遺構や畝状遺構，または穂積み跡と考えられる遺構も検出していることから，田畑に利用していたと考えられる。この時期に，遺構の主軸が北西－南東方向から東西方向へ変化しており，土地区画の大規模な変化がうかがえる。

中世の遺構としては，E地点のSD3がある。本地点北東100m先に位置する1999年度に実施した総合研究棟（文系棟）の建設に伴う発掘調査で，中世の畑跡が検出されており，これに関連する遺構かもしれない。

古墳時代の遺構は，本地点の主要な遺構となっている。C～E地点に，住居跡2軒，溝状遺構2条を検出した。昨年度報告したAB地点を合わせると，住居跡3軒，溝状遺構5条となる。

いずれも北西－南東方向を軸としている。住居跡出土遺物は少ないが，古墳時代後半期のものと考えられる。郡元団地内には，古墳時代後半期の住居跡群が3ヵ所で確認されている（Fig.94　Ⅰ～Ⅲ）。本地点は，住居跡群Ⅰの南端にあたる。住居群Ⅰの中心部では，住居跡が密集して幾重にも切りあっている状況だが，周縁部である本地点での住居跡の切りあい関係は見られない。

住居跡は竪穴住居で，平面形は方形を呈すると考えられる。検出されたSK5・6とも貼床を持ち，床面中央付近に炉と考えられる炭の層があった。床面からは柱欠は認められず，竪穴の外側にピットが配置されていた。床面の壁際に，幅5cmの細い溝が確認でき，壁板溝であると考えられる。全形は不明だが，これまで郡元団地で検出されている古墳時代の住居跡と特徴が類似する。

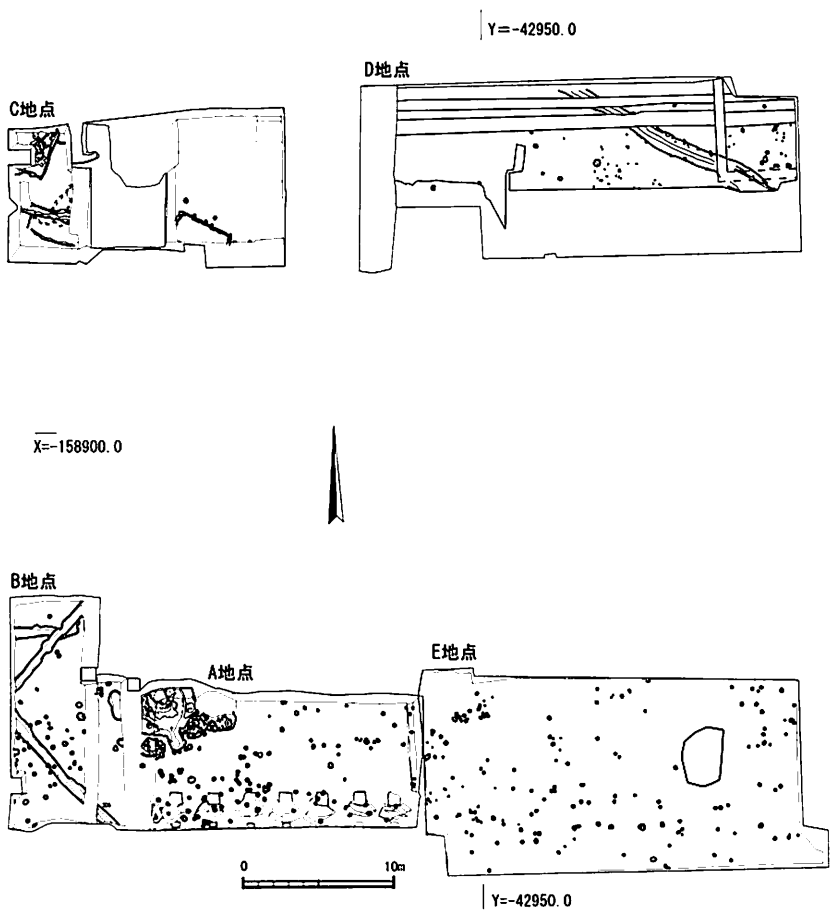


Fig.93　古墳時代遺構の配置

住居跡からの出土遺物は少ないが，D地点SD4からは，多量の土器を中心とする遺物群がかたまって出土した。溝の全域で出土するのではなく，遺物がかたまって出土しているのは，長さ3mの範囲のみである。昭和55年には中央図書館と法文学部講義棟との間の掘削工事中に，ある程度まとまった古墳時代の土器が出土したらしい。SD4の延長線上にあたるので，溝内にいくつかの遺物が集積していたのかもしれない。

遺物はSD4が途中まで埋まった後，堆積しており，SD4の北側から南側に傾斜している状況であった。SD4北側では，1975年と1999年の調査で100基を超える住居跡が確認されており，そこの住人が使用した道具を廃棄したものと考えられる。A・C地点で検出された住居跡との関係は不明である。

土器群の接合状況をみると（Fig.48），多くの同一個体が散乱していることがわかる。北側と南側の破片が接合するものが多く、南へ傾斜する全体的な出土状況から見ても、廃棄された時点かその後に、一部の破片が下方の南側へ転がり落ちたものと推定される。一方、中には横方向に広く接合しているものもあり、廃棄の時点で分けられて置かれた可能性も想定できる。土器群の接合状況や破片のまとまり方（Fig.46・47）で見ると、ポイント107-102ライン付近を境にして、東西に大きく2群に分かれる傾向も看取できる。東側は破片が比較的大きいのに対し、西側は破片が小さい傾向にある。しかし、これらに型式差などの差異を見出すことはできない。数個体を一度にまとめて廃棄したと考えられるまとまりもあることから、かなり短期間に廃棄した遺物群であると捉えてよいだろう。

5.2　古墳時代の遺物について

古墳時代の土器を中心とする遺物が多く出土した。特に，SD4出土遺物は，間層を挟まずにまとまって出土していることや，中には中子に重ねているものがあるなど，ある程度短期間に破棄されたものと考えら

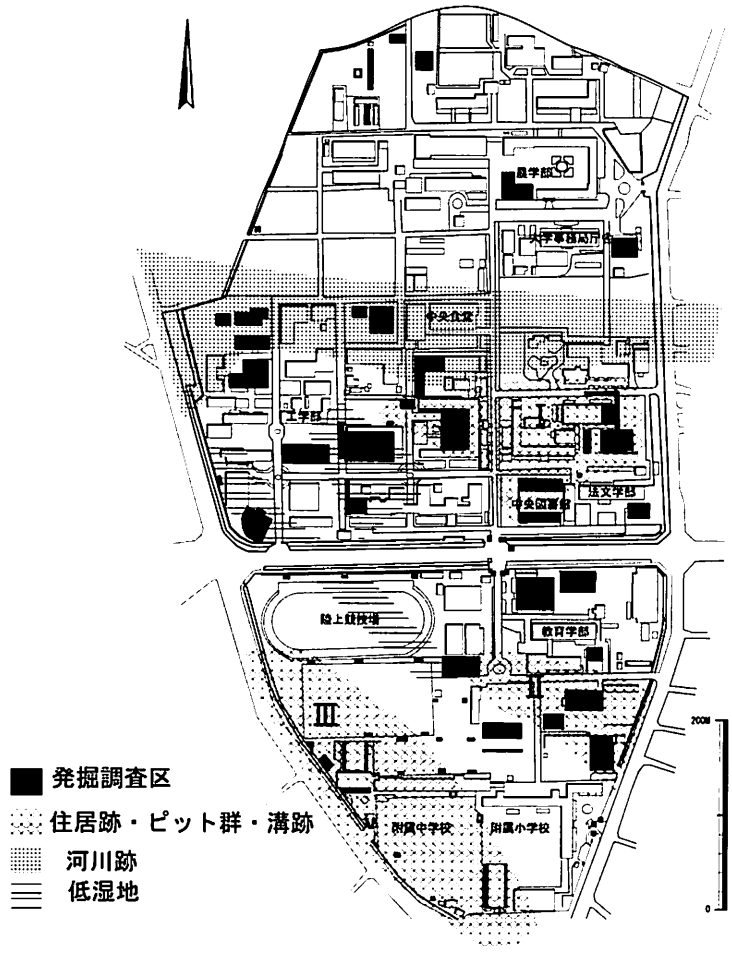


Fig.94　鹿児島大学構内遺跡郡元団地の古墳時代の遺構配置状況　S=1/8000

れる。土器の形態や特徴も類似するものが多く，そのことを示唆しているものと考える。

甕は，いわゆる笹貫式のバケツ型に開く広口の口縁部で，脚台を持つが，サイズ・脚台の低さにバリエーションが見られる。ゆがんでいる土器を省くと，口縁部はあまり内湾せず，直線的に開く傾向にあり，笹貫式の中でも古い型式に位置づけられる。脚台内面の天井部が，古い形態である平らかドーム状のものと新しい形態である下に飛び出すタイプの2種類が混在しているのもそのことを示唆している。なお，脚台内面の形態の差は，体部の底の作りを丸底にするか，平底にするかに左右されるようである。

突帯を施さず，その位置の器壁を肥厚させ，外面に粘土帯接合線を残すものについては，坪根（1986）が，突帯のルディメントとして捉え，新しい属性として位置づけたが，本地点の出土品をみると，小型のものにその属性が見られることが言える。サイズによる口縁部形態差と時期差を合わせて考慮する必要があるだろう。

鉢は，台付のもの，上げ底状のもの，平底のものなどがあるが，広口であるという特徴が共通している。なお，台付鉢の中には，火を受けたものもあり，小型の煮沸具として使用されている。

高杯は，杯部が直線的に外に開くタイプと，椀形のものがあるが，脚部はいずれも棒状の上部に，下部はスカート状に広がる形態である。古墳時代後半期の特徴を備えているが，杯部が直線的に開く形態は，古い形態が残っているとも言える。ほとんどのものに赤色顔料が塗布されている。

壺は，有文と無文があり，サイズでは大きく4つに分けることができる（Fig.96）。大型には有文が多い。幅広突帯を持つのもこのタイプである。幅広突帯には，斜平行沈線文が施されている。なお，幅広突帯によく見られる竹管文を，幅の狭い1条突帯をつけた大型品に施している。本地点独特な壺としては，150が突帯は布目圧痕を持つ細い刻み目突帯で，幅広突帯によく見られる鋸歯文のモチーフを作り出している。また，小型品だが，胴部に細沈線によって，直接×文を施しているものもみられる。

無文の壺は，口縁部が短いものが多い。胴部は，細長いタイプと球胴状のものがある。各タイプごとに，調整や色調も類似している。また細長いタイプは，粘土帯接合痕が明瞭に残るものが多く，その部分で破損しているものも目立った。

これらの遺物は，笹貫式土器の古い段階と考えられる。SD4からは，須恵器の甕の口縁部が出土している。摩滅していることもあるが，全体的に緩やかなつくりの印象を与える。須恵邑編年では，MT15に比定でき，これまでの南九州での笹貫式土器と須恵器との供伴関係に一致する。

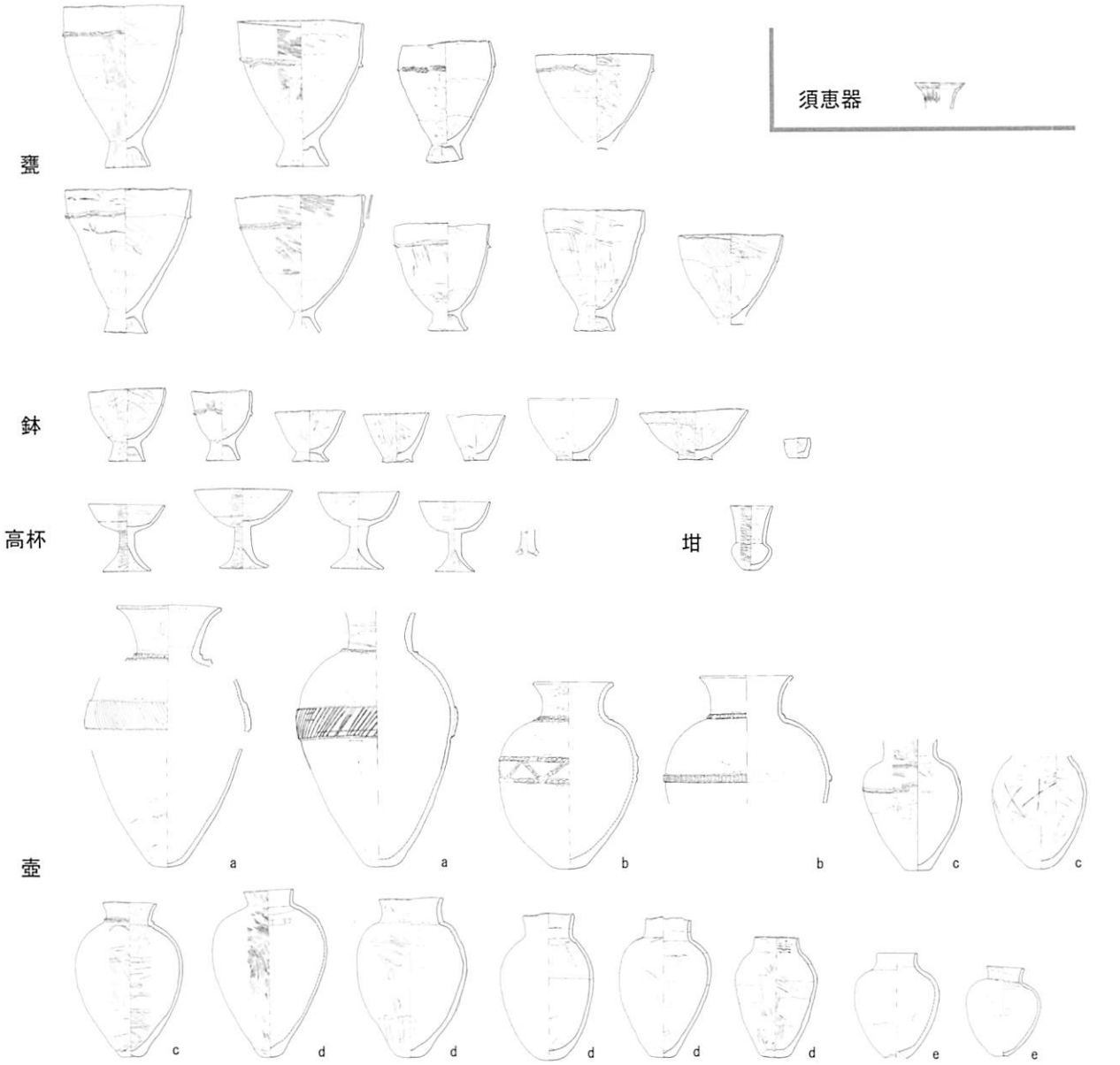
なお，ひび補修と考えられる跡が観察された。これは，ひびが入った場所に細長い粘土を上から貼り付け，その上からナデつけているもので，内面・外面に関わらず，甕，壺，高杯，鉢とほとんどの器種で見られた。おそらく，焼成前に入ったものだろう。笹貫式土器は，調整が粗雑で器壁も厚く，この様式を作る人々は土器作りがあまり上手ではないというイメージがあるが，それを裏付けるような資料となっている。

使用に関する特徴としては，煮沸に使用する甕の内面が少し摩滅しているものが見られることである。ちょうど外面突帯付近から下の器壁が摩滅しており，煮沸する内容物をこのあたりまで入れたのではないかと考えられる。なお，外面が火によって赤変している部分の内面は，黒く焦げ付いているものが多い。台付鉢や，壺にも煮沸の痕が見られたが，これらの外面が赤変したり，ススが付いている高さを観察すると，サイズに関係なく甕に付着している高さとほぼ同じである（Fig.97）。火にかける場所は，甕と変わらないことが推定される。

なお，SD4からは石器も出土している。砥石，石斧転用の剥片石器，たたき石，軽石製品である。石材は，溶結凝灰岩やホルンフェルス・軽石であり，いずれも近辺で入手できる石材を用いている。

文献

坪根伸也（1986）「成川式土器少考－甕形土器における一試論－」『鹿大史学』第34号，23-40.



壺a～eは、Fig.96a～eに一致

Fig.95　D地点SD4出土の主な土器

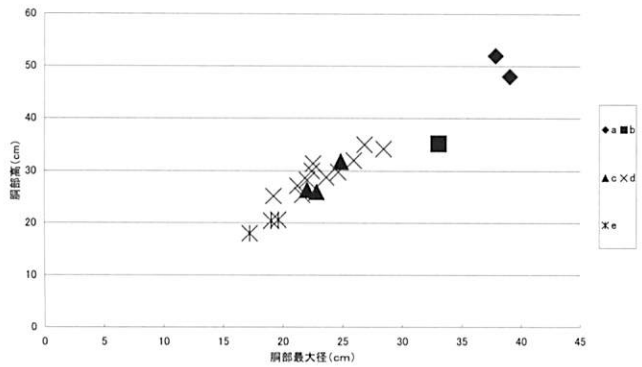


Fig.96　SD4出土壺のサイズ

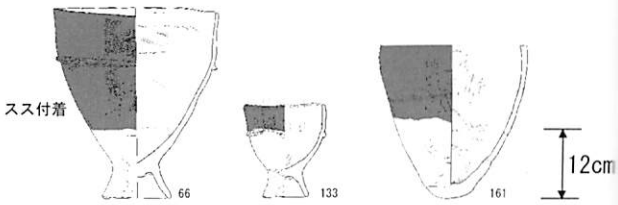


Fig.97　甕と壺と鉢に付着したススの位置

SUMMARY

This is the report of the archaeological excavations and surveys in Kagoshima University Korimoto Campus conducted by Kagoshima University Research Center for Archaeology in the fiscal year 2003 from April 2003 to March 2004. This volume also includes the report of the excavation from Area K・L-5・6 carried in 1993 and 1995 in Korimoto Campus.

Excavations in Korimoto Campus

The center made two rescue excavations in 2003. One is the excavation of the site in Area H-12・13 from March to August 2003 before the construction of Venture Business Laboratory(VBL). Eight ancient rivers were found. Rivers no.1 to 3 belonged to the Ancient to the medieval periods. Rivers no.4 to 8 are belonging to the late Yayoi to the late Kofun periods. We found about 40 wooden piles used as the irrigation facilities in Rivers no.4-7. A sample of the pile was dated cal AD 130 by C-14 dating. There found many shards, a stone reaping knife, arrow heads, and a whetstone.

The center also conducted a rescue excavation of the site in Area R-9 and 10 from June to July 2003 before the reconstruction of the gymnasium of Junior high school of Faculty of Education. Five houses that belonged to the late Kofun period (6-7 C) were found.

Surveys in Korimoto and Sakuragaoka Campuses

25 surveys were conducted by the center in two campuses. The survey at Area H-11・12 in Korimoto Campus revealed the same situation as that of Area H-12・13. This Area is so important to require the future wide excavation for the reconstruction of human activities in the Yayoi to Kofun period in this region.

Appendix : Excavation of Area K・L-5・6 in Korimoto Campus

The center excavated the site (Area K・L-5・6) of the central library before its extension from May to September 1993 and from May to August 1995. The excavation revealed cultural remains and artifacts in the second to the fifth layers there. Two houses, a ditch and many pits were excavated in the layer of the late Kofun period (6C). Many potteries and a few stone tools were found in the ditch. We think that these artifacts are thrown away from the north side of the ditch. Many houses of the late Kofun Period are concentrated in the north of the ditch. The villagers dumped many pots and a few stone tools in the ditch after using.

鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報19

2005年3月発行

編集・発行　鹿児島大学埋蔵文化財調査室
鹿児島市郡元一丁目21-24
TEL 099-285-7270

印刷　斯文堂株式会社
鹿児島市南栄二丁目12-6
TEL 099-268-8211

Kagoshima University Research Center for Archaeology Report Vol.19

CONTENTS

Chapter

1 Report of archaeological research in fiscal year 2003 · · · · · · · · · · · · · · 1

2 Report of rescue surveys · 6

Appendix

Report of the excavation at Area K·L-5·6 in Korimoto Campus · · · · · · · · · · 15

Published by

Kagoshima University Research Center for Archaeology

2005